

第七號

所有所		住所		氏名		住所		氏名		住所		氏名		住所		氏名		住所		氏名	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

第八號

第三權利者

字	番	號	地	目	面積	字	番	號	地	目	面積	字	番	號	地	目	面積	字	番	號	地	目	面積
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

第九號

換地説明書

從前ノ土地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地	換地
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

(雜形略ス) (三十四年農商務省告示第百五十三號ヲ以テ改正)

●耕地整理施行ノ認可アリキ
 ルトキ申告事項ノ件
 (明治三十三年六月)
 (農商務省令第十四號)

耕地整理法ニ依リ整理施行ノ認可アリタルトキハ
 整理委員ハ工事ニ着手スル前左ノ事項ヲ所轄稅務
 管理局長ニ申告スヘシ爾後其事項ニ變更ナシタ
 ルトキ亦同シ

一 整理地區ノ屬スル郡、市、町村及ヒ土地各筆
 ノ字、番號ハ段別
 二 整理施行又ハ設計變更認可ノ年月日
 三 工事著手及ヒ竣成ノ豫定時期

●耕地整理法ニ依リ國有地ヲ整理地區ニ編入ノ申請ヲ地方廳限リ許否ノ件 (明治三十三年六月内務省訓令)

府縣(神戶縣ヲ除ク) 明治三十二年法律第八十二號耕地整理法ニ依リ當省主管ニ屬スル國有地ヲ整理地區ニ編入ノ認許ヲ申請スル者アリタルトキハ其認許リ之方許否ヲ爲スヘシ

但本大臣ニ於テ改修工事ヲ施行スル河川又ハ河川法ヲ施行シタル河川若ハ流域ニ府縣以上ニ跨ル河川ニ關係アル土地水面、國道、縣道、社寺境内地、名勝地、舊蹟地、古墳墓地及官廳ノ所用地ハ此限ニ在ラス

●整理地登記規則 (明治三十三年勅令第二號)

朕整理地登記規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 耕地整理法ニ依リ整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除ク外ノ不動產登記法ノ規定ニ依ル
第二條 整理地施行シタル從前ノ土地既登記ナルトキハ整理委員ハ耕地整理法第四十八條ノ認可アリタルコトノ公告及通知ヲ爲シタル後連帶ナク登記ヲ申請スルコトヲ要ス從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ於テ其ノ數箇ノ土地中ニ既登記ノモノアルトキ又ハ從前ノ土地未登記ナルモ整理施行ノ後換地ノ上ニ既登記ノ地役權存続スルトキ亦同シ

第三條 前條ノ登記ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス
一 申請書
二 耕地整理法第四十八條ノ規定ニ依リ農商務大臣ノ認可證又ハ認許アル認可證ノ謄本
三 整理確定圖
四 代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面
第四條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ整理委員又ハ其ノ代理人之署名、捺印スルコトヲ要ス
一 從前ノ土地及換地ノ所在ノ郡、市、區、町村、字及土地ノ番號
二 從前ノ土地及換地ノ地目、段別又ハ坪數別又ハ坪數及其ノ部分ノ符號
三 從前ノ土地ニ割當テタル換地ノ部分、段別又ハ坪數及其ノ部分ノ符號
四 換地ノ交付ヲ受ケタル者ノ氏名及住所若シテ法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所
五 耕地整理ニ因リ登記ヲ申請スル旨
六 登記所ノ表示
七 年月日

第五條 從前ノ土地既登記ナルト未登記ナルトト間ハス換地ノ上ニ既登記ノ地役權存続スル場合ニ於テハ申請書ニ前條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス但シ地役權換地ノ一部ノみに存スルトキハ其ノ部分ヲ表示シタル圖面ヲ添附スルコトヲ要ス
一 整理施行前ニ於ケル換地ノ所在ノ郡、市、區、町村、字及土地ノ番號
二 整理施行前ニ於ケル換地ノ地目、段別又ハ坪數
三 整理施行前ニ於ケル換地ノ所有者ノ氏名

四 及住所若シテ法人ナルトキハ其名稱及事務所
地役權ノ存スル換地ノ部分及其ノ部分ノ符號
第六條 換地ノ一部所有權以外ノ權利地役權ノ目的タル場合ニ於テハ申請書ニ第四條ニ掲ケタル事項ノ外權利ノ目的タル換地ノ部分及其ノ符號ヲ記載スルコトヲ要ス
第七條 參加土地所有者從前ノ土地一箇ニ對シ一箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ登記官更ハ從前ノ土地ノ登記用紙中表不欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ前ノ表示及其ノ番號ヲ抹スルコトヲ要ス
所有權以外ノ權利地役權從前ノ土地ノ一部ニ存スル場合ニ於テハ登記官更ハ職權ヲ以テ從前ノ土地ノ登記用紙中相當事項欄ニ從前ノ土地市權利ノ目的タル部分ニ割當テタル換地ノ部分ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ變更シタル旨ヲ附記シ從前ノ土地中權利ノ目的タル部分ノ表示ヲ抹スルコトヲ要ス
從前ノ土地ニ關スル權利ニシテ他ノ土地ニ關スル權利ト共ニ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ耕地整理ニ因リテ他ノ土地ニ關スル權利ノ表示ニ變更ヲ生シタルトキハ登記官更ハ職權ヲ以テ從前ノ土地ノ登記用紙中相當事項欄ニ變更ヲ附記スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ不動產登記法第二百六條ノ規定ヲ準用ス
換地ニ地役權ニ關スル登記アルトキハ登記官更ハ職權ヲ以テ從前ノ土地ノ登記用紙中丙區事項欄ニ其ノ登記ヲ移シ其ノ登記ノ末尾ニ耕地整理ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス但シ耕地整理ニ因

除クニ關スル登記アルトキハ登記官更ハ職權ヲ以テ換地ノ登記用紙中相當事項欄ニ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ其權利ニ關スル從前ノ登記ヲ轉寫シ且從前ノ土地ニ割當テタル他ノ換地ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其權利ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨及其年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス
第十二條 第七條第二項乃至第五項ノ規定ハ參加土地所有者從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル從前ノ土地一箇ニ對シ數箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於ケル登記ニ之ヲ準用ス
第十三條 未登記ノ從前ノ土地ニ對スル換地ニ地役權ノ登記アル場合ニ於テハ登記官更ハ職權ヲ以テ登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ甲區事項欄ニ所有權存続ノ登記ヲ爲シ且丙區事項欄ニ地役權ニ關スル登記ヲ移スルコトヲ要ス
第十四條 登記官更登記ヲ完了シタルトキハ其ノ旨ヲ整理委員ニ通知スルコトヲ要ス
第十五條 登記官更第十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ換地及之ニ割當テタル從前ノ土地ノ表示、耕地整理ニ因リテ所有權及地役權ニ關スル登記ヲ爲シタル旨ヲ換地ノ所有者ニ通知スルコトヲ要ス
第十六條 從前ノ土地既登記簿ニ登記シタルモノナル場合ニ於テ第八條第二項ノ手續ヲ爲スヘキトキハ舊登記簿ニ其ノ登記ヲ爲スコトヲ得

其ノ登記中ニ記載シタル要役地若ハ承役地ノ表示、地役權ノ範圍又ハ地役權ノ存スル土地ノ部分ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ變更ヲ附記シ地役權ノ存スル部分ノ表示ヲ爲シ變更シタル事項ヲ抹スルコトヲ要ス
前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ登記官更ハ職權ヲ以テ地役權ニ關スル登記アル土地ノ登記用紙中丙區事項欄ニ耕地整理ニ因リテ地役權ニ關スル登記ヲ登記何號ニ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ前ノ登記ヲ抹スルコトヲ要ス
第八條 參加土地所有者從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ登記官更ハ從前ノ土地中其ノ一箇ノ登記用紙中表不欄ニ換地ノ換地ヲ從前ノ土地ニ割當テタル部分及整理施行前ニ於ケル從前ノ土地ノ表示ヲ爲シ他ノ登記用紙ニ登記シタル從前ノ土地ニ付テハ其ノ登記番號ヲ轉寫シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ其ノ登記用紙ニ於ケル前ノ表示及其ノ番號ヲ抹スルコトヲ要ス
前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ他ノ從前ノ土地ノ登記用紙中表不欄ニ耕地整理ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示、其番號及登記番號ヲ抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス
第九條 前條ノ場合ニ於テハ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中甲區事項欄ニ他ノ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ移シ其ノ登記ハ從前ノ土地ニ割當テタル換地ノ部分ノみに關スル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨、申請書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ登記官更捺印スルコトヲ要ス
換地ノ一部未登記ノ從前ノ土地ニ割當テタルモノアル場合ニ於テハ換地ノ表示ヲ爲シタル登記

用紙中甲區事項欄ニ其ノ換地ノ部分ニ付所有權存続ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
他ノ從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利地役權ニ關スル登記アルトキハ登記官更ハ職權ヲ以テ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中相當事項欄ニ其ノ權利ニ關スル從前ノ土地ノ表示及其年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス
第十條 參加土地所有者從前ノ土地一箇ニ對シ數箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ登記官更ハ從前ノ土地ノ登記用紙中表不欄ニ一箇ノ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ前ノ表示及其ノ番號ヲ抹スルコトヲ要ス
從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利地役權ニ關スル登記アルトキハ登記官更ハ職權ヲ以テ相當事項欄ニ他ノ換地ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其ノ權利ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨及其年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス
第十一條 前條ノ場合ニ於テハ登記官更ハ他ノ各換地ニ付登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス
換地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ轉寫シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨、申請書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ登記官更捺印スルコトヲ要ス
從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利地

除クニ關スル登記アルトキハ登記官更ハ職權ヲ以テ換地ノ登記用紙中相當事項欄ニ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ其權利ニ關スル從前ノ登記ヲ轉寫シ且從前ノ土地ニ割當テタル他ノ換地ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其權利ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨及其年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス
第十二條 第七條第二項乃至第五項ノ規定ハ參加土地所有者從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル從前ノ土地一箇ニ對シ數箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於ケル登記ニ之ヲ準用ス
第十三條 未登記ノ從前ノ土地ニ對スル換地ニ地役權ノ登記アル場合ニ於テハ登記官更ハ職權ヲ以テ登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ甲區事項欄ニ所有權存続ノ登記ヲ爲シ且丙區事項欄ニ地役權ニ關スル登記ヲ移スルコトヲ要ス
第十四條 登記官更登記ヲ完了シタルトキハ其ノ旨ヲ整理委員ニ通知スルコトヲ要ス
第十五條 登記官更第十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ換地及之ニ割當テタル從前ノ土地ノ表示、耕地整理ニ因リテ所有權及地役權ニ關スル登記ヲ爲シタル旨ヲ換地ノ所有者ニ通知スルコトヲ要ス
第十六條 從前ノ土地既登記簿ニ登記シタルモノナル場合ニ於テ第八條第二項ノ手續ヲ爲スヘキトキハ舊登記簿ニ其ノ登記ヲ爲スコトヲ得

第十七條 耕地整理法第二條ノ規定ニ依リ一人ニシテ其ノ所有地ノ整理ヲ施行シタル場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ整理施行ニ關スル農商務大臣ノ認可證又ハ認許アル認可證ノ原本ヲ添附スルコトヲ要ス

附則 本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 整理地登記取扱手續 (明治三十二年三月)

司法省令 第九號

整理地登記取扱手續左ノ通り定ム
第一條 整理地登記規則ニ依リ登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除外ス外不動産登記法施行細則ノ規定ニ依ル
第二條 整理地ノ登記ニ付テハ別ニ整理地登記見出帳ヲ備フヘシ
整理地登記見出帳ハ別記雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ
第三條 整理地登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部マテ之ヲ設ケ置キ整理地登記規則ニ依リ登記ヲ爲ス毎ニ換地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部十千ノ數ヲ冠スルモノハ換地ノ番號、從前ノ土地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ
前項ノ記入ヲ爲シタルトキハ土地登記見出帳又ハ土地分合登記見出帳ノ備考欄ニ從前ノ土地ニ對スル換地ノ番號ヲ記入シ其見出帳ヲ抹スヘシ
第四條 整理地登記規則第五條但書ニ依リ提出シタル圖面ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ登記番號ヲ記載スヘシ
前項ノ圖面ニハ番號ヲ附シ便宜之ヲ整理シ申請

書受附ノ日ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ (三十五年司法省令第十四號ヲ以テ本項改正)
第五條 整理地登記ノ番號ハ登記用紙中表示欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ之ヲ記載シ整理地登記規則第五條但書ニ依リ提出シタル圖面ノ番號ハ兩區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ
第六條 整理地登記規則第五條但書ニ依リ提出スヘキ圖面ニハ換地ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、方位及ヒ地役權ノ存スル換地ノ部分ノ段別又ハ坪數並ニ其部分ノ符號ヲ記載シテ整理委員署名捺印スヘシ
第七條 整理地登記規則第七條第三項、第十二條、第十四條及ヒ第十五條ノ通知事項、通知ヲ受クル者及ヒ通知ヲ發スル年月日ハ不動産登記法施行細則第十四條第五號ノ通知簿ニ之ヲ記入シ通知書ヲ契印スヘシ (三十五年司法省令第十四號ヲ以テ改正)
第八條 耕地整理法第六條ノ規定ニ依リ登記簿其地籍簿、地籍簿ノ謄寫ヲ求ムルトキハ登記官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ (別記)

整理地登記見出帳 區裁列所

Table with columns for '部' (Department) and '備考' (Remarks). It contains a grid for recording land registration details.

● 沖繩縣土地整理法 (明治三十二年三月)

法 第五十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル沖繩縣土地整理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
沖繩縣土地整理法
第一條 沖繩縣ニ於ケル土地ハ此ノ法律ノ定ムル所ニ依リ之ヲ整理ス
第二條 村ノ百姓地、地頭地、「オエカ」地、「ノロクモイ」地、上納田、「キナヤ」畑ニシテ其ノ村ニ於テ地割セル土地ハ地割ニ依リ其ノ配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス但シ其ノ配當ヲ受ケヘキ者多數ノ協議ニ依リ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ地割ヲ爲スコトヲ得
村ノ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ之ヲ地割シタル土地ニシテ第六條第一項但書ニ依リ村ノ所有トナルヘキモノ及同切ノ在明地ヲ同切内各村ニ分配地割シ又ハ村地在明地ヲ其ノ村ニ於テ地割シタル土地ニ付テモ亦前項ニ同シ
第三條 地割配當ノ統制ノ爲現ニ叶米若ハ之ニ代ハルヘキ報償ヲ受クヘキ者ニハ其叶米若ハ之ニ代ハルヘキ報償ヲ負擔スヘキ者ヨリ相當ノ土地ヲ交付シ又ハ代償ヲ爲スコトヲ要ス
村ノ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ之ヲ地割シタル土地ニシテ村ノ所有トナラサルモノノ配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ニハ其ノ村持地ノ配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ヨリ相當ノ土地ヲ交付シ又ハ代償ヲ爲スコトヲ要ス
第四條 村ノ百姓地、地頭地、「オエカ」地、「ノロクモイ」地ヲ其ノ村ニ於テ屋敷地トシテ配當シタル

ルモノハ其ノ配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス
村ノ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ之ヲ屋敷地トシテ配當シタル土地ニシテ第六條第一項但書ニ依リ村ノ所有トナルヘキモノニ付テモ亦前項ニ同シ
第五條 屋敷地配當ノ統制ノ爲現ニ叶米若ハ之ニ代ハルヘキ報償ヲ受ケル者及村ノ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ之ヲ屋敷地トシテ配當シタル土地ニシテ村ノ所有トナラサルモノノ配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ニ付テハ第三條ノ例ニ依ル
第六條 村ノ百姓地、地頭地、「オエカ」地、「ノロクモイ」地、「キナヤ」畑ニシテ村又ハ與ヨリ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタルモノハ其ノ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタル村又ハ與ニ於ケル地割ノ配當ヲ受クヘキ者ノ共有トス但シ叶米若ハ之ニ代ハルヘキ報償不納ノ場合ノ外取戻スコトヲ得サル浮掛又ハ叶掛ノ土地ハ村又ハ與ヨリ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ占有ヲ得タル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス
前項ニ依リ共有トナルヘキ土地ニ付此ノ法律施行前ニ成立セル浮掛又ハ叶掛ノ關係ハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍存續ス
第一項ニ於ケル共有者ノ持分ハ第二條ニ於ケル地割ノ率ニ依ル
第二項但書ニ依リ所有ヲ得タル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタル村又ハ與ニ對シ報償ヲ爲シ且第二十三條ニ依リ地租ヲ徵收セラルル迄從前ノ叶米又ハ之ニ代ハルヘキ報償ヲ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタル村又ハ與ニ交付スルコトヲ要ス
第七條 藩制ノトキ地頭ノ自作シ若ハ拾掛ヲ爲シ

タル地頭地ニシテ村持トナラサルモノハ其ノ自作者若ハ拾掛ニ依リ占有ヲ得タル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス
第八條 藩制ノトキ地頭ノ買入シタル地頭地ニシテ村持トナラサルモノハ買取主又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス
前項ニ依リ所有ヲ得タル者ハ買入主ニ對シ其ノ債權ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス
第九條 「ノロクモイ」地ニシテ村持トナラサルモノハ「ノロクモイ」トシテ占有ヲ得タル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス
第十條 墓地及其ノ附屬地ハ朱引等ヲ有スヘキ者ノ所有トス
第十一條 在明地、在明知行地、請地、拂地、拜領地及那新、百里兩區内ノ屋敷地ハ手形、差出等ヲ有スヘキ者ノ所有トス
第十二條 埋立地及濱山野ニシテ此ノ法律施行前埋立又ハ開墾ノ成功シタルモノハ其ノ埋立又ハ開墾ヲ爲シタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス
第十三條 間切山野、村山野、浮掛地、保管地、馬場、牧場及間切役場ノ敷地等ハ其ノ區、區ノ字、間切、村又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス
第十四條 村持地ニシテ村ヨリ讓渡シタル事實アルモノハ讓受人又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス
第十五條 期限ヲ定ムスシテ開墾ヲ許可シタル山林ハ第十八條ノ規定ニ拘ハラズ其ノ許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス
第十六條 永久ニ交換シタル土地ハ其ノ引渡シタル土地ノ名義ニ依リ前各條ヲ適用ス

第十七條 前各條ニ該當セザル土地ニシテ民有トシテ分ス

第十八條 前各條ニ該當セザル土地ニシテ民有トシテ分ス

第十九條 此ノ法律ニ依リ協議シタル事項ハ當該官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 此ノ法律ニ依リ民有トナリタル土地ハ便宜區畫シテ地盤ヲ丈量シ其ノ品位等級ヲ鑑定シ所得ヲ審査シ其ノ土地ノ情況ニ應ジテ地價ヲ定ム

第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

沖繩縣土地整理法中報償ニ關スル件 (明治三十二年六月)

沖繩縣土地整理法第六條第一項但書ニ依リ開始メテ地租課セラルル年ニ於テ之ヲ交付スヘシ但シ其ノ年ヨリ年賦ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ毎年ノ交付額ハ從來ノ叶米又ハ之ニ代ハルヘキ報償年額ヲ下ルコトヲ得ス

第二十二條 前條ノ申立ニ對スル處分ニ付不服アル者ハ處分ヲ受ケタル後九十日以内ニ當該官廳ニ申立ツルコトヲ得但シ第十九條ノ場合ハ此ノ限ニアラス

土地區劃改良ニ係ル地價ノ取手續 (明治三十三年三月)

土地及其ノ金額ヲ定ムルコトニ付協議一致セザルトキハ稅務署ヲシテ實地ノ狀況ヲ視察セシメ其ノ報告ヲ附シ稅務管理局長ニ於テ公平適宜ニ之ヲ定ムヘシ

土地及其ノ金額ヲ定ムルコトニ付協議一致セザルトキハ稅務署ヲシテ實地ノ狀況ヲ視察セシメ其ノ報告ヲ附シ稅務管理局長ニ於テ公平適宜ニ之ヲ定ムヘシ

土地區劃改良出願ニ關スル件

明治三十年法律第三十九號ニ依リ土地改良ノ爲メ區劃形狀變更ヲ爲サントスル者ハ事業著手ノ時期ヲ定メ設計書、現地圖及變更後地圖ヲ添付シ所轄稅務署長ニ願出ツヘシ但シ出願地中ニ官有地又ハ民有第二種地ヲ包含シ之レカ異動ニ付官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其ノ異動ニ付管轄ノ官廳ノ許可ヲ受ケ其指令書ヲ添付スヘシ(三十三年大藏省令第八號ヲ以テ本項中追加三十五年大藏省令第二十八號ヲ以テ本令中稅務管理局長ヲ稅務署長ニ改ム)

土地區劃改良ニ係ル地價ノ取手續 (明治三十三年三月)

土地及其ノ金額ヲ定ムルコトニ付協議一致セザルトキハ稅務署ヲシテ實地ノ狀況ヲ視察セシメ其ノ報告ヲ附シ稅務管理局長ニ於テ公平適宜ニ之ヲ定ムヘシ

土地及其ノ金額ヲ定ムルコトニ付協議一致セザルトキハ稅務署ヲシテ實地ノ狀況ヲ視察セシメ其ノ報告ヲ附シ稅務管理局長ニ於テ公平適宜ニ之ヲ定ムヘシ

テ帳簿ヲ調製シ取扱上ノ便ヲ謀ルヘシ
明治三十年法律第三十九號第三項第四號ニ依
リ一定ノ年期限負擔又ハ利益ヲ受クヘキ土地
ニ付第六項第八項ニ依リ土地帳簿ノ整理ヲ爲
シタル時及年期限満了ノ時ニ於テ右租地集計簿
ノ加除増減ヲ整理スヘシ

第十一款 土地收用

●土地收用法 (明治三十三年三月
法律第二十九號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ土地收用法ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム

土地收用法

- 第一章 總則
- 第二章 事業ノ準備
- 第三章 事業ノ認定
- 第四章 收用ノ手續
- 第五章 收用審査會
- 第六章 損失ノ補償
- 第七章 收用ノ效果
- 第八章 費用ノ負擔
- 第九章 監督、強制及罰則
- 第十章 訴訟及附則

土地收用法

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲ニ必要
ナル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其
ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用ス
ルコトヲ得

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲ニ必要
ナル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其
ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用ス
ルコトヲ得

一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業

二 官廳又ハ公署建設ニ關スル事業

三 教育、學藝又ハ慈善ニ關スル事業

四 鐵道、軌道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運
河、川、用水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、
下水、電氣機、瓦斯燈又ハ火葬場ニ關スル事
業

五 衛生、測候、疏路、標識、防風、防火、水害豫防

其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國府縣郡市町村其
ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業

第三條 本法又ハ本法ニ基テ發スル命令ニ規
定シタル起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承
繼人ニ移轉ス

第四條 本法又ハ本法ニ基テ發スル命令ノ規
定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者、
土地所有者又ハ關係人ノ承認人ニ對シテモ其ノ
效力ヲ有ス

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又
ハ使用スヘキ土地ノ所有者ヲ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘ
キ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土
地ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做
サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ
在ラス

第六條 本法又ハ本法ニ基テ發スル命令ニ規
定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送
達ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ
他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使
用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收
用ニ關シテハ之ヲ準用ス

用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲ニ必要アルトキハ起業者ハ
事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方
長官ノ許可ヲ得テ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ
爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ宮内省又ハ國
ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ之
ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタル
トキハ起業者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ
區域ヲ公告シ又ハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知ス
ヘシ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者
カ事業ノ準備ノ爲其ノ土地ニ立入り測量又ハ檢
査ヲ爲ス場合ニ於テハ本法條ノ許可又ハ通知ヲ要
セス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ
日ヨリ五日前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通
知スヘシ市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占
有者ニ通知スヘシ

郡内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占
有者ニ通知スヘシ

日出前日以後郡内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者
ハ特ニ行政廳ノ許可ヲ受ケヘシ

第十一條 第九條ノ規定ニ依リ測量又ハ検査ノ爲
ニ必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障
害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於
テハ起業者ハ三日前三其ノ所有者及占有者ニ通
知スヘシ

第十三條 事業ノ認定

第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事
業ハ内閣ノ承認スル軍機ニ關スル事業ハ此
ノ限ニ在ラス

第十三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスル
トキハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ
テ内務大臣ニ申請スヘシ内務大臣ハ之ヲ審査シ
内閣ニ提出スヘシ

宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ
主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ
協議ヲ爲シ之ヲ内閣ニ提出スヘシ

第十四條 内閣力認定ヲ爲シタルトキハ起業者及
事業ノ種類並起業地ヲ公告スヘシ

第十五條 天災事變ニ際シ急務ニ要スル事業ノ爲
ニ土地ヲ使用スルトキハ郡市長ハ其ノ事業ノ認定
ヲ爲スコトヲ得

前項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ越セムコトヲ得ス
軍事上臨時急務ニ要スル事業ノ爲土地ヲ使用ス
ルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ郡
市長ニ通知スヘシ

第十六條 起業者カ郡市長ノ認定ヲ受ケムトスル
トキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使
用ノ期間ヲ定メ郡市長ニ申請スヘシ

第十七條 郡市長力認定ヲ爲シタルトキハ起業
者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ
期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

郡市長力第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキ
ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者
ニ通知スヘシ

第十八條 起業者カ内閣ノ認定ノ公告ノ後三箇年
内ニ第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ認定
ハ效力ヲ失フ

第十九條 内閣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ

依リ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目
ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知ス
ヘシ

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官
ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方
長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十條 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ
起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スル
コトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ
三日前三其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通
知スヘシ

日出前日以後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ郡
内ニ立入ルコトヲ得ス

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知
ノ後起業者カ必要ト認ムルトキハ土地所有者又
ハ關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調査ヲ作ルコ
トヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調査
ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキハ起業者ハ市町村長
ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルコトヲ得但シ市町村長カ
起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二
項ニ掲ケタル關係ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラ
ズ

土地所有者又ハ關係人カ調査ノ必要ヲ認メタル
トキハ前二項ノ規定ヲ準用ス

起業者、土地所有者及關係人ハ本法條ノ規定ニ依
リ作リタル調査ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述ブ
ルコトヲ得ス

第二十二條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知
ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル
爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

第二十三條 收用審査會ノ裁決ヲ求ムトスル
トキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ
添ヘ地方長官ニ提出スヘシ但シ軍機ニ關スル事
業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要
セス

一 事業計畫書及圖面

二 市町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル
書類

收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目

收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土
地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件
カ分割ヲ來スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部
ノ面積並建坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額及内譯

收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

土地所有者及關係人ノ氏名、住所

收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同
時ニ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ地方長
官ハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ豫メ
公告ヲ爲シ一週間之ヲ公告ノ縱覽ニ供スヘシ

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縱覽期間
ノ初日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ提出
スコトヲ得

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル
後收用審査會ヲ開クヘシ

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内
ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムル
トキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命ジ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルコトヲ得

收用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ
第二十九條 收用審査會カ召集ニ應ゼス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急務ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條 收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ
第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲メ土地ヲ收用スルハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三十三條 郡市長カ認定シタルハ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ
第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審査會
第三十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス
一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域
二 損失ノ補償
三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間
起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

第三十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス
第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ諸事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス
第三十八條 委員ハ高等文官及府縣名譽職事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ
高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之命シ府縣名譽職事會員ニシテ委員タルヘキ者ハ其ノ五選トス

第三十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル
第四十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市參事會員、町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監査役其ノ他法人ノ理事及監事

ナ請求スルコトヲ得
第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得シテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス
第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ボシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ
第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス
第七章 收用ノ效果
第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ
左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得
一 補償金ヲ受ケヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ
二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受ケヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ
三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受ケヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ
四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受

ナルトキ亦前項ニ同シ
本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セザル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ
一 府縣名譽職事會員
二 府縣名譽職事會員ノ補充員
三 府縣會議員
第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス
第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス
第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

收用審査會ハ事實參考ノ爲メ必要ト認ムルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地以外ノ土地所有者ヲ呼出シ其ノ供進ヲ聽クコトヲ得
第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ
第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得
第四十六條 二府縣以上ニ涉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ收用審査會ヲ開クコトヲ得

第六章 損失ノ補償
第四十七條 土地所有者及關係人ノ受ケル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ
損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見積リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス
一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ
二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ
第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケズ

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス
第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ費ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス
第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受ケヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ
第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全

第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ
使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ
第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ
第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用非タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ヲ移轉スルニ因リテ從來用非タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有權者ハ其ノ全部ヲ移轉料ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用非タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有權者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ道路、溝渠、橋樑其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補償スヘシ
第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受ケヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ
第五十五條 土地ノ使用カ三箇年以上ニ亙ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用

ナ請求スルコトヲ得
第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得シテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス
第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ボシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ
第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ
第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス
第七章 收用ノ效果
第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ
左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得
一 補償金ヲ受ケヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ
二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受ケヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ
三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受ケヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ
四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス
一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ
二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ
第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケズ
第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス
第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ費ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス
第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受ケヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ
第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全

部又は一部カ不利用ニ歸シタルトキハ前所有者又ハ其ノ相繼人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル地ハ其ノ接續部分ノ不利用ニ歸シタル時ニ非サルハ之ヲ買受ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不利用ニ歸シタルモノト看做サス

第六十七條 前條ノ不利用ノ土地アルトキハ起業者ハ前所有者又ハ其ノ相繼人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ通知スルコト能ハサルトキハ少クトモ三回ノ公告ヲ爲スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月内又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月内ニ前所有者又ハ其ノ相繼人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第八章 費用ノ負擔

第六十八條 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基キテ發シタル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行為ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除クノ外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ

第七十二條ノ規定ニ依リテ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得ス

第七十三條 第一項ノ規定ニ依リテ地方

長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ら執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス

府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ヲ充ツルコトヲ得

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九章 監督、強制及罰則

第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スルコトヲ得

第七十三條 義務者カ本法又ハ本法ニ基キテ發シタル命令ノ規定ニ依リテ義務ヲ履行セズ又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了スル見込ナキトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者カ本法又ハ本法ニ基キテ發シタル命令ノ規定ニ依リテ義務ヲ履行セザル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得

第七十四條 前章ノ規定ニ依リテ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セザル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リテ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅二次キ先取特權ヲ有ス

第七十五條 收用審査會員人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ隱匿シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ賄賂ヲ贈與シ又ハ賄賂スルコトヲ約シタル者亦同シ

第七十六條 第十一條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得シテ賄賂物ヲ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得シテ土地ニ立入りタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者ハ詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ詐偽ノ鑑定ヲ爲シシメタル者亦同シ

第八十條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リテ呼出テ受ケタル者故ナク出頭セザルトキハ二十四圓以下ノ罰金ニ處ス

第十章 訴訟

第八十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リテ訴訟ハ裁決書原本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

本法ノ規定ニ依リテ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第八十二條 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書原本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ

三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條ノ規定ニ依リテ地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第八十三條 本法ノ規定ニ依リテ訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

附則

第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第八十五條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リテ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル手續其ノ他ノ行為ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リテ收用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

明治八年太政官達第三百三十二號公用土地買上規則ニ依リテ買上テ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リテ本法ノ規定ヲ準用ス

第八十六條 收用審査會ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テハ地方長官又ハ島司ヲ置キタル地ニ於テハ支廳長又ハ島司ヲ置キタル地ニ於テハ支廳長又ハ島司ヲ置キタル地ニ於テハ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員之ヲ置カサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

市長ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テ區長ヲ置キタル地ニ於テハ區長之ヲ行フ

町村長ノ爲スヘキ職務ハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ町村長

ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ郡長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

第八十七條 明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地建物處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五十四號土地收用協議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

●土地收用法施行令 (明治三十三年三月)

第九十九條

土地收用法施行令

第一條 土地收用法第十條第三項及第十一條第一項ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ市町村長之ヲ行フ

第二條 土地收用法第九條、第十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リテ起業者ノ爲ス土地ニ立入り又ハ障礙物ヲ除却スル者ハ其ノ證據ヲ攜帶スヘシ

日出前日没後日中ニ立入り又ハ障礙物ヲ除却スル者ハ行政廳ノ許可證ヲ攜帶スヘシ

第三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスル場合ニ於テ起業地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調査及圖面ヲ申請書ニ添付スヘシ

一 御陸墓地及御料地

二 國有地

三 現ニ公用ニ供スル土地

四 社寺境内地

五 名所、舊蹟及古墳墓

第四條 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ハ

官報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五條 内閣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第六條 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依リテ裁決ヲ作リタル者ハ之ニ署名又ハ捺印スヘシ

第七條 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リテ公告ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ縦密期間ノ始期ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第八條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リテ地方長官ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願スヘシ

一 工事ノ種類

二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目

三 其ノ必要ヲ生セシメタル事業トノ關係

本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス

第九條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リテ許可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十條 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十一條 收用審査會長及委員ニハ旅費ヲ支給ス

第十二條 收用審査會長及高等文官ニシテ委員

タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル
 高等文官ニ非サル委員ノ旅費額及其ノ支給方法ハ府縣制第九十四條ノ規定ニ從ヒ定ムル所ニ依ル

第十三條 鑑定人及事實參考人ノ旅費額ハ左ノ範圍ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル
 一 汽車賃一哩ニ付三錢以上六錢以下
 二 船賃一海里ニ付三錢以上六錢以下
 三 馬車賃一里ニ付十錢以上三十錢以下
 道路兩線以上アルトキハ最近ノ道路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

第十四條 鑑定人及事實參考人ノ手當ハ一日金一圓乃至五圓ノ範圍ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

第十五條 鑑定人及事實參考人ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ前項ノ手當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

第十六條 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ地方長官カ決定シタル場合ニ於テハ前二條ノ旅費額及手當ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第十七條 土地收用法第六十條ノ規定ニ依リ政廳ノ職權ハ地方長官ノ之ヲ行フ但シ物件ノ附加増置ニ關シテハ之ヲ郡市長ニ委任スルコトヲ得

第十八條 土地收用法第六十七條ノ規定ニ依ル公告知ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十九條 土地收用法第七十四條ノ規定ニ依リ政廳ノ職權ハ同法第七十一條ノ場合ニ於テハ市町村長ノ之ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ於テハ地方長官ノ之ヲ行フ

附則
 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 工事ノ爲メ買収、收用ノ土地貸付ノ件 (明治三十年三月) (勅令第十五號)

朕工事ノ爲メ買収又ハ收用シタル土地貸付ノ件ヲ裁可シ其ノ之ヲ公布セシム

國ノ起業ニ係ル工事ニ要スル土地ニシテ買収又ハ收用ノ後未タ其ノ土地ニ工事ヲ施行セサルモノハ其施行ニ至ル迄隨意契約ヲ以テ之ヲ其ノ舊所有者ニ貸付スルコトヲ得

● 土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令ノ件 (明治三十三年三月) (勅令第百號)

朕土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令ノ件ヲ裁可シ其ノ之ヲ公布セシム

第一條 本令ハ土地收用法又ハ土地收用法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテ之ヲ適用ス

第二條 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス

第三條 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ其ノ期間力午前零時ヨリ始マルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 期間ノ末日カ大祭日、日曜日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス但シ行政廳ニ對スル期間ハ其ノ末日カ行政廳ノ休日ニ當ルトキハ其ノ休日ノ終了シタル翌日ヲ以テ滿了ス

第五條 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス

又ハ年ノ始メヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了ス

第六條 土地收用法第十八條第二十五條及第三十條ノ期間ハ郵便ニ依リ書類ヲ差出シタル場合ニ於テハ其ノ送達ニ要スル日時ヲ算入セス

第七條 通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ内務大臣カ定メタル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八條 書類ノ送達ニシテ送達者自ラ送達セサル場合ニ於テハ使丁又ハ書留郵便ニ依ルコトヲ得

第九條 數人カ一人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人カ爲スヘキ送達ハ一通ノ書類ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

一人カ數人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十條 委任ニ因リ代理人アル場合ニ於テモ其ノ委任者ニ爲シタル送達ハ其ノ效力ヲ妨ケズ

第十一條 無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲スヘシ但シ委任ニ因リ代理人アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

法人又ハ組合ニ對スル送達ハ其ノ代表者又ハ業務執行者ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ代表者又ハ業務執行者數人アル場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

組合ニシテ業務執行者ヲ定メサル場合ニ於テハ送達ハ其ノ組合員ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 現役及召集中ノ預備、後備ノ軍籍ニ在

● 土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件 (明治三十三年三月) (勅令第百二號)

朕土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件ヲ裁可シ其ノ之ヲ公布セシム

第一條 收用審査會ノ費用中左ニ掲ケタルモノハ起業者ノ負擔トス

一 鑑定人及事實參考人ノ旅費及手當

二 裁決書謄本ノ調製費

三 郵便及電信料

四 簡人料

五 其ノ他内務大臣ノ指定シタルモノ

第二條 收用審査會ノ費用中收用審査會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第三條 土地收用法第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テハ前二條ノ規定ヲ適用ス

附則
 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件 (明治三十三年三月) (勅令第百三號)

朕土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件ヲ裁可シ其ノ之ヲ公布セシム

明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ引續キ國有ニ屬スル土地ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ヲ除クノ外土地收用法

ル下士以下ノ軍人ニ對スル送達ハ其ノ所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十三條 在監人ニ對スル送達ハ其ノ監獄ノ首長ニ之ヲ爲スヘシ

第十四條 送達ハ送達ヲ受クヘキ人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ送達ヲ受クヘキ人カ其ノ地ニ於テ住所、居所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テ其ノ受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ適用セズ

第十五條 送達ヲ受クヘキ人其ノ住所、居所又ハ事務所ニ在ラサルトキハ其ノ送達ハ現場ニ在ル成年ノ同居者又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十一條第二項ノ場合ニ於テ代表者又ハ業務執行者事務所ニ在ラサルトキハ送達ハ現場ニ在ル他ノ役員又ハ成年ノ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ送達ハ交付スヘキ書類ヲ其ノ地ノ市町村長ニ預ケ送達ノ告知書ヲ作リ之ヲ住所又ハ居所ノ門戶ニ貼付シ且近隣ニ住居スル者二人以上ニ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 法令上ノ理由ナクシテ送達書類ヲ受領セズ又ハ受領スルトコト能ハサルトキハ其ノ書類ヲ送達ノ場所ニ差置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ送達人ハ其ノ調査ヲ作ルヘシ

第十七條 書類ノ送達ヲ受領シタル者ハ其ノ場所及年月日時ヲ記載セル受領証ヲ交付スヘシ

前項ノ受領証ヲ交付セズ又ハ交付スルトコト能ハサルトキ又ハ第十五條第三項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲シタルトキハ送達人ハ其ノ調査ヲ作ルヘシ

第十八條 送達ヲ受クヘキ者ノ住所、居所又ハ事務所不明ナルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地所在ノ市町村長ニ於テ之ヲ公告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ公告ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタルトキハ送達ヲ爲シタルモノト看做ス

第十九條 書類ノ送達ニ關スル規定ハ通知ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 訴訟及訴訟提起期間ノ計算法ハ訴訟法行政裁判法及民事訴訟法ノ規定ヲ適用ス

第二十一條 書留郵便ニ依リテ爲ス送達ニ付テハ郵便ニ關スル法令ノ規定ヲ適用ス

附則
 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 土地收用法第四十六條ニ依リテ發スル命令ノ件 (明治三十三年三月) (勅令第百一號)

朕土地收用法第四十六條ニ依リテ發スル命令ノ件ヲ裁可シ其ノ之ヲ公布セシム

第一條 合同收用審査會ヲ開カムトスルトキハ關係地方長官協議ヲ爲シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二條 合同收用審査會長ハ開會地ノ地方長官ヲ以テ之ニ充テ其ノ委員ハ關係府縣收用審査會委員ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 土地收用法第二十六條乃至第二十九條ニ規定シタル地方長官ノ職權ハ合同收用審査會ヲ開キタル場合ニ於テハ開會地ノ地方長官ノ之ヲ行フ

第四條 合同收用審査會ノ費用ニシテ府縣ノ負擔スヘキモノハ中等文官ニ非サル委員ノ旅費ハ其ノ所屬府縣ノ負擔トシ其ノ他ハ關係府縣ノ分擔トス

● 土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件 (明治三十三年三月) (勅令第百二號)

朕土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件ヲ裁可シ其ノ之ヲ公布セシム

第一條 收用審査會ノ費用中左ニ掲ケタルモノハ起業者ノ負擔トス

一 鑑定人及事實參考人ノ旅費及手當

二 裁決書謄本ノ調製費

三 郵便及電信料

四 簡人料

五 其ノ他内務大臣ノ指定シタルモノ

第二條 收用審査會ノ費用中收用審査會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第三條 土地收用法第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テハ前二條ノ規定ヲ適用ス

附則
 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件 (明治三十三年三月) (勅令第百三號)

朕土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件ヲ裁可シ其ノ之ヲ公布セシム

明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ引續キ國有ニ屬スル土地ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ヲ除クノ外土地收用法

キ土地公告方 (明治二十二年)

内務省訓令 (第四十二號)

北海道廳各府縣 内閣ニ於テ土地收用法ニ依リ起業スル工事ヲ認定シ官報ヲ以テ起業地ヲ公告スルニ方リ收用スヘキ土地ノ細目ヲ示ササルモノハ各其管内ニ係ル郡市町村名及字號地目ヲ公告スヘシ

土地收用法ニ關スル稟伺處 分及報告等ノ件 (明治三十三年四月)

内務省訓令 (第九號)

北海道廳 府縣 第一條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ併可ヲ與フル場合ニ於テ其起業地内ニ土地收用法施行令第三條ニ掲ケタル土地アルトキハ木大臣ニ稟伺ノ上處分スヘシ

第二條 左ニ掲ケタル場合ニ於テハ關係書類ヲ添ヘ其郡度木大臣ニ報告スヘシ 一 土地收用法第九條第二項、第十九條、土地收用法施行令第五條第二項、第九條又ハ第十條第二項ニ依リ公告又ハ通知ヲ爲シタルトキ

二 起業者カ内閣ノ認定ノ公告ノ後三箇年内ニ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキ 三 收用審査會ノ裁決ノ報告ヲ受ケ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキ 四 起業者カ土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキ

五 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ決定ヲ爲シタルトキ

第三條 左ニ掲ケタル事項ニ付テハ其郡度郡市長官シテ地方長官ヲ經由シテ木大臣ニ報告セシムヘシ 一 土地收用法第十五條第一項ノ規定ニ依リ認定ヲ爲シタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間 二 土地收用法第十五條第三項ニ依リ通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域 第四條 土地收用法第十三條ニ依リ起業者ノ申請書ヲ通過スルトキハ起業地全部ノ市町村名圖書ヲ添付スヘシ

第二章 水利、水道

第一款 水利

水利組合條例 (明治廿三年六月)

法律第四十六號 朕水利組合條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 府縣稅又ハ郡費ノ支辨ニ關セル水利土功ニ關スル事業ニシテ其利害關係ノ區域市町村ノ區域ト符合セサルモノ又ハ符合スト雖ニ市町村以上ニ涉ルモノニシテ特別ノ事情ニ依リ市町村若ハ町村組合ノ事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ此法律ニ依リ水利組合ヲ設置スルコトヲ得 第二條 水利組合ハ分テ左ノ二種トス 一 普通水利組合 二 水害豫防組合 第三條 普通水利組合ハ川瀝水等事ヲ保護ニ關ス

第八十五條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

- 一 公川土地買上規則第四項但書又ハ第八項ノ規定ニ依ラスシテ買上ケタル土地 二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ土地收用法施行ノ際現ニ修理保存費ヲ負擔スル土地 三 明治三十二年勅令第三百三十三號第一條ノ規定ニ依リ帝國ノ國民又ハ法人ニ於テ所有權ヲ取得スルコトヲ得ヘキ土地 四 土地收用法施行前不用ニ歸シタル土地 五 土地收用法施行前第三者ニ讓渡スヘキ契約ヲ爲シタル土地

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

土地收用法ニ依リ起業者ヨリ事業認定ノ申請ヲ爲シタル場合ニ關スル件 (明治三十三年七月)

内務省訓令 (第十四號)

北海道廳 府縣 明治三十三年法律第二十九號土地收用法第十三條ニ依リ起業者ヨリ事業認定ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ其事業施行ノ爲メ御料地及國有林野ノ漬地ヲ要スルモノアルトキハ御料局支應若クハ御料局事務所所管ノ御料地ニ付テハ當該支應若クハ事務所長ニ其他ノ御料地ニ付テハ御料局長ニ又國有林野ニ付テハ大林區署長ニ其支障ノ有無ニ付協議ヲ遂ケ事業認定申請書通過ノ際該協議ノ請求ヲ具申スヘシ

土地收用法ニ依リ收用スヘシ

ル事業ノ爲設置スルモノトス 第四條 水害豫防組合ハ水害防禦ノ爲ニスル堤防浚渫防砂等ノ工事ニシテ普通水利組合ノ事業ニ屬セサルモノノ爲設置スルモノトス

第五條 水利組合ハ組合規約ヲ設ケ其組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ 第六條 二府縣以上ニ涉リテ水利組合ヲ設ケルノ必要アルトキ此法律中府縣知事ノ職權ニ屬スル事項ハ其關係ノ府縣知事協議ノ上之ヲ處分スヘシ若シ五ニ意見ヲ異ニスルトキハ内務大臣ニ具狀シ指撥ヲ請フヘシ

第二章 組合ノ設置及廢止 第七條 普通水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受ケル土地ヲ以テ區域トシ其土地所有者ヲ以テ組合員トシ但習慣アルモノハ其習慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得 第八條 普通水利組合ハ左ノ場合ニ於テ第十條乃至第十二條ノ手續ニ從ヒ之ヲ設置スルモノトス

一 組合員タルコトヲ得ル者五名以上ノ情願アリタルトキ 二 組合事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ具狀アリタルトキ

第九條 前條ノ情願ニハ市町村長ニ於テ意見ヲ付シ町村長ハ郡長ヲ經テ市長ハ直ニ之ヲ府縣知事ニ提出スヘシ 第十條 第八條ノ情願又ハ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ公益上設置スヘキモノト認ムルトキハ假ニ組合關係ノ區域ヲ指定シ其土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

第十一條 創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ關係者ノ總會ニ付スヘシ關係者百人以上ニ及ブトキ第十四期 第二章 水利、水道 第一款 水利

ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ便宜總代人ヲ選ハシシ其集會ヲ以テ總會議ニ充ルコトヲ得 前項ノ總會議ハ關係者ハ總代人ノ全員三分ノ二以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ過半數ニ依ル

第十二條 創立委員ハ關係者ノ總會議ニ於テ組合規約ノ議決ヲ經タルトキハ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ 第十三條 普通水利組合ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經テ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ其義務ヲ完了スルカ又ハ完了ノ方法ヲ確定スル迄廢止スルコトヲ得ス

第十四條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ第十六條第十七條ノ手續ニ從ヒ水害ヲ受ケヘキ地ニ就キ區域ヲ畫シテ之ヲ設置スルモノトス但習慣アルモノハ其習慣ニ依リ其區域ヲ畫スルコトヲ得 前項ノ區域内ニ土地家屋ヲ所有スル者ハ總テ其組合員トス

第十五條 水害ヲ受ケサル土地ト雖水害ヲ受ケヘキ地ニ接近シ組合事業ノ爲直接ノ利益ヲ受ケルモノハ之ヲ組合區域内ニ編入スルコトヲ得但此場合ニ於テハ其部分ニ限リ土地所有者ノミ組合員タルモノトス

第十六條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ畫セントスルトキハ關係アル郡市參事會ノ意見ヲ聞キ之ヲ決定スヘシ區域ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

第十七條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ定メタルトキハ其事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ 第十八條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ組合會ノ議決ニ付スヘシ其他ハ第十一條及第十二條ノ適用ス 第十九條 水害豫防組合ハ組合會ヲ設ケ 第二十條 組合會議員ハ其組合員ニ於テ之ヲ選舉スヘシ議員ノ數、資格、任期及選舉ノ方法ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル 第二十一條 組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 組合規約ヲ改正追加シ及普通水利組合區域ヲ變更スル事但其議決ハ議員三分二以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス 二 組合費ノ豫算ヲ定メ及決算報告ヲ認定スル事 三 組合費及夫役現品ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事 四 組合ニ屬スル財産ノ賣買、交換、讓渡、讓受、賃貸入、書入ヲ爲ス事 五 豫算ヲ以テ定ムルモノノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事 第二十二條 組合會ハ組合事業ニ關スル書類及計畫書ヲ檢閲シ管理者ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管

理議決ノ施行或収入支出ノ正否ヲ監査スルコトヲ得

第二十三條 議員選舉ノ效力若ハ議員ノ資格ニ關スル異議ハ組合會之決議スルニ依リて之ヲ裁決ス

第二十四條 組合會ハ管理事務ヲ以テ議長トシ管理事務者故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條 組合會ハ毎年一回若ハ二回通常會ヲ開キ其他臨時ノ必要アル毎ニ臨時會ヲ開ク但通常會ノ時期及度數ハ組合ノ規約ノ定ムル所ニ依ル

第二十六條 組合會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス

第二十七條 組合會ノ議決ハ過半数ニ依リ之ヲ定ム可同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十八條 組合員少數ノ組合ニ於テハ組合會ヲ設ケス組合規約ノ規定ニ依リ組合員總會ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得

第二十九條 水利組合ハ其組合ノ區域一市町村ニ止ルトキハ其市町村長之ヲ管理シ數市町村又ハ郡市若ハ數郡ニ止ルトキハ府縣知事ニ於テ便宜郡長又ハ市町村長ノ内一名ヲ指定シ之ヲ管理セシムヘシ

第三十條 水利組合ノ收入及會計ノ事務ハ郡長ニ於テ管理セラル場合ハ郡ノ會計吏ヲシテ兼掌セシメ市町村長ニ於テ管理セラル場合ハ其市町村收入役ヲシテ兼掌セシムヘシ

第三十一條 管理事務ヲ兼掌セシムル市町村長ハ其職務ニ關シ組合ノ爲テ必要スル費用ハ其組合ノ負擔トス組合ノ收入及會計事務ヲ兼掌スル市町村長ハ市町村收入役ニ於テ行フ職務ニ關スル費用亦同シ

第三十二條 管理事務ノ執行ニ關シ一 組合一切ノ事務ヲ管理スル事二 組合會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ理由ヲ示シテ議決ヲ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシムル事三 郡縣知事ニ於テ管理事務ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣知事會ノ決議ニ不服アル者ハ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣知事會ノ決議ニ不服アル者ハ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第三十三條 普通水利組合費ハ土地ニ賦課シ水害防禦組合費ハ土地及家屋ニ賦課スルモノトス但舊債アルモノハ專ラ土地ニ賦課スルコトヲ得又第十五條ノ組合員ニ對シテハ土地ニ賦課シ之ヲ賦課スヘシ

第三十四條 組合費ハ組合規約中ニ據メ連年據置ノ賦課額ヲ設ケ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十五條 組合費徵算額ノ剩餘ハ之ヲ積金トシ之ヲ方法ヲ設ケルコトヲ得其積立及支出ノ方法ハ組合會ノ議決スル所ニ依ル

第三十六條 組合ハ其事業ノ爲夫役現品ヲ組合員

第三十七條 普通水利組合費ノ賦課額ハ組合會ノ議決ニ依リ水害防禦組合費ノ賦課額ハ府縣知事ニ於テ其關係郡市會ノ意見ヲ聞キ其事業ヨリ受クル利益ノ厚薄ニ依リ區域ヲ限リ其割合ニ差等ヲ設ケルコトヲ得

第三十八條 組合費ノ徵收及滞納處分ハ市町村稅ノ例ニ依ル

第三十九條 組合ハ天災事變ノ爲止ムテ得サル支出若ハ組合永久ノ利益トナルヘキ事業ニ付通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ其組合員ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ負債ヲ起スコトヲ得

第四十條 組合員之起スルコトヲ得

第四十一條 組合員之起スルコトヲ得

第四十二條 組合員之起スルコトヲ得

第四十三條 歳入出豫算ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第四十四條 決算ハ第三十條ノ會計吏又ハ收入役ニ於テ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ終了シ證書ヲ併テ之ヲ管理事務ニ提出シ管理事務者ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ之ヲ次回ノ通常組合會ノ議決ニ付スヘシ

第四十五條 水利組合ハ第一次郡長第二次府縣知事第三次内務大臣ニ於テ監督ス

第四十六條 此法律中別段ノ規定アルモノノ外管理事務ノ處分ニ不服アル者ハ組合所在地ノ郡縣知事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域郡市又ハ數郡ニ涉ル場合ニ於テ管理事務ノ處分ニ不服アル者ハ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第四十七條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第四十八條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第四十九條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第五十條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第五十一條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第五十二條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第五十三條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第五十四條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第五十五條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第五十六條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第五十七條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第五十八條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第五十九條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第六十條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第六十一條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第六十二條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第六十三條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第六十四條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第六十五條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第六十六條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第六十七條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第六十八條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第六十九條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第七十條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第七十一條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第七十二條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第七十三條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第七十四條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第七十五條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第七十六條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第七十七條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第七十八條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第七十九條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第八十條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第八十一條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第八十二條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第八十三條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第八十四條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第八十五條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第八十六條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第八十七條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第八十八條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第八十九條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第九十條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第九十一條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第九十二條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第九十三條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第九十四條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第九十五條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第九十六條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第九十七條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第九十八條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第九十九條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

第一百條 依リ府縣知事會ニ訴願スルコトヲ得

不相當ト認ムルトキハ、原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第五十二條 水利組合關係者總會ニ於テ議決シタル組合規約法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ、府縣知事ハ其理由ヲ示シテ之ヲ再議セシメ、猶其議決ヲ改メサルトキハ、内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第五十三條 監督官廳ハ出水ノ爲危險アルトキ水利用組合ニ對シ防禦ニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ郡長市町村長又ハ警察官ハ組合區域内ニ住居スル一般ノ人民ヲ指揮シテ防禦ニ從事セシメ及必要ナル現品ヲ取用スルコトヲ得但現品ハ追テ組合ノ費用ヲ以テ相當ノ賠償ヲ爲サシムヘシ

第五十四條 水利組合管理者及其事務ニ服従スル者ニ對シ懲戒處分ヲ要スルトキハ、市町村制第二百十八條ヲ適用シ其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ起シタル爲組合ニ賠償スヘキコトアルトキハ、市町村制第二百二十九條ヲ適用ス

第七章 附則
第五十五條 府縣參事會、郡參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長府縣參事會ノ職務ハ府縣知事行政裁判所ノ職務ハ從來ノ慣行ニ依リ推斷スルニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十六條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ組合ノ議決スヘキ事項ハ其成立ニ至ル迄ノ間管理者ニ於テ之ヲ行フヘシ
第五十七條 此法律ニ依リ設置スル水利組合ニ於テ市町村會又ハ水利土功會ノ事業ヲ繼續スルトキハ其既成ノ工事及所屬ノ財産ハ總テ其組合ニ引繼クヘキモノトス

第五十八條 此法律ハ市町村制ヲ施行スル地方ニ於テ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ニ依リ之ヲ施行ス

第二款 水道

●水道條例 (明治二十三年二月法律第九號)

第一章 水道條例ノ施行ニ關スルニテ之ヲ公布セシム

第一條 水道ハ市町村ノ住民ノ需要ニ應ジ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地トハ水源池、貯水池、濾水池、唧水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ

第二條 水道ハ市町村其公費ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ布設スルコトヲ得ス

第三條 市町村ニ於テ水道ヲ布設セントスルトキハ其目録見書ニ左ノ事項ヲ詳記シ地方官ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一 水道事務所ノ所在地
第二 水源ノ位置 (河川池湖又ハ掘井ノ別其周圍ノ概況) 及其水量ノ概算但圖面及水質ノ分析表ヲ添フヘシ

第三 水道線路ニ沿フタル地名貯水池、濾水池、唧水場ノ位置但圖面ヲ添フヘシ

第四 給水ノ區域其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量

第五 人口増殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量増加ノ見込

第六 水壓ノ概算

第七 工事方法

第八 起工暨竣工期限

第九 工事ノ總額其收入支出ノ方法及其概算
第十 水料ノ等級、價格、水料徴收ノ方法及其

常收支ノ概算

第四條 内務大臣ハ前條ノ圖面書類ヲ審査シ不都合ナシト認ムルトキハ水道布設ノ認可狀ヲ與フヘシ

第五條 水道用地ハ國稅地方稅ヲ免除ス

第六條 官有ノ土地ニシテ水道用地ニ必要ナルモノハ之ヲ拂下ケ又ハ貸付スヘシ

第七條 水管ヲ官有地又ハ公道ノ地下ニ布設セントスルトキハ當該官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 地方官ハ隨時當該官吏又ハ技術官ヲ派遣シテ水道工事及水質水量ヲ検査セシメ其改築修理ヲ要シ又ハ水質不良水量不足ナリト認ムルトキハ地方衛生會ノ議定ヲ經相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之ヲ改良シ市町村ニ命スヘシ

第九條 市町村ハ工事落成又ハ改築修理了リタルトキハ地方官廳ニ届出監査ヲ受クヘシ

第十條 水道ノ給水ヲ受クル者ハ水質水量ノ検査ヲ市町村長ニ請求スルコトヲ得

第十一條 家屋内ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接続スル細管ハ市町村ノ所定ニ從ヒ之ヲ設置シ其費用ハ水道ノ給水ヲ受クル家主ノ負擔トス

第十二條 市町村ノ水道掛ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ内ニ於テ家屋内ノ給水用具ヲ検査スルコトヲ得但水道掛ハ其證明ヲ携帶スヘシ

第十三條 市町村長ハ水道掛ノ報告ニ依リ家屋内ノ給水用具不完全ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之ヲ修繕ヲ命スルコトヲ得

第十四條 家主ハ家屋内給水用具ノ設置又ハ其修繕了リタルトキハ市町村ノ水道掛ニ届出シシ水道掛ハ速ニ之ヲ検査スヘシ

第十五條 市町村ハ一家業用ノ給水用具ノ設置ケル能ハサルモノノ爲メニ共用給水器ヲ設ケヘシ
第十六條 市町村ハ消防用ノ爲メニ消火栓ヲ設置スヘシ消防用ニ消費シタル水ハ水料ヲ徴收スヘカラス

第三款 下水道

●下水道法 (明治三十三年三月法律第三十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ下水道法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

下水道法

第一條 本法ニ於テ下水道ト稱スルハ土地ノ清潔ヲ保持スル爲汚水雨水疏通ノ目的ヲ以テ布設スル排水管其ノ他ノ排水線路及其ノ附屬裝置ヲ謂フ

本法ニ於テ築造ト稱スルハ新築改築及増築ヲ包含ス

第二條 市ニ於テ下水道ヲ築造セムトスルトキハ其ノ設計工費ノ收支豫算及起工暨竣工ノ期限ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ定ムル種類ノ改築又ハ増築工事ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三條 下水道ヲ設ケタル地ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市又ハ土地ノ所有者使用者若ハ占有者ハ汚水雨水下水道ニ疏通スル爲必要ナル施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ
市ニ於テ前項ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スル場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ヨリ徴收スルコトヲ得

第四條 前條ノ場合ニ於テ甲地ノ汚水雨水ヲ疏通スル爲必要アルトキハ乙地ニ汚水雨水ヲ通過セ

シ又ハ乙地ノ汚水雨水ヲ通過セシムル爲設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但シ乙地ノ爲ニ損害最少キ場所及方法ヲ選ムヘシ

前項ニ依リ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其ノ利益ヲ受クル割合ニ應ジテ工作物ノ施設及管理ノ費用ヲ負擔スヘシ

第五條 下水道ヲ築造シ若ハ之ヲ管理シ又ハ第三條ノ施設ヲ爲シ若ハ之ヲ管理スル爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ之ヲ爲他人ノ受ケタル損害ニ對シ價金ヲ拂フコトヲ要ス

第六條 當該官吏ハ下水道又ハ第三條ノ施設ノ質況ヲ監視スル爲其ノ事ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

第七條 下水道ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ之ヲ市ニ讓與シ又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ得

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該官吏ニ於テ之ヲ履行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ警告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラ

第九條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市稅ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

第十條 市ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市町村ノ委託ヲ受ケ町村ノ全部又ハ一部ノ爲ニ其ノ下水道ヲ築造スルコトヲ得

第十一條 内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ下水道ノ築造ヲ市ニ命スルコトヲ得

第十二條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法ハ東京市區改正ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

第十四條 本法ノ規定ハ之ヲ區町村ニ準用ス

●下水道法施行規則 (明治三十一年七月二十一日號)

下水道法施行規則左ノ通定ム

第一條 土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ左ノ區分ニ依リ下水道法第三條ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ但シ本則第二條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一 建物アル土地ニアリテハ之ヲ築造及修繕ハ其ノ建物ノ所有者

二 建物ナキ土地ニアリテハ之ヲ築造及修繕ハ其ノ土地ノ所有者

三 建物ノ有無ニ拘ハラズ掃除及浚渫ハ土地ノ占有者

第二條 市ハ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道ニ屬スル部分ヲ築造シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ
市ハ土地ノ狀況ニ依リ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道以外ニ屬スル部分ヲ築造シ又ハ之ヲ管理スルコトヲ得

第三條 市ハ下水道ノ改築又ハ増築工事ニシテ工費壹萬圓未満ノモノニ關シテ下水道法第二條ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

第四條 當該吏員下水道法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ル場合ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 下水道法第八條第二項ノ戒告及第九條ノ費用徴收ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十三條及第十四條ノ規定ヲ準用ス

第六條 下水道ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第四條第三項及第七條ノ規定ヲ準用ス

下水道及下水道法第三條ノ施設ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十五條ノ規定ヲ準用ス

第七條 東京市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事ニ行フ

● 下水道築造ノ認可申請書ニ添付セシムヘキ圖面及書類調製方

(明治三十四年七月)

(内務省訓令第十一號)

下水道法第二條ニ依リ下水道築造ノ認可申請書ニ添付セシムヘキ圖面及書類ヲ調製シテ添付セシムヘシ

第一條 申請書ニ添付スヘキ圖面及書類ハ左ノ如シ

- 一 實測平面圖 縮尺二千五百分一以上
- 二 實測縱斷面圖 縮尺長二千五百分一以上 縮尺幅以上百分一以上
- 三 排水管及排水渠ノ斷面圖 縮尺五十
- 四 人孔、燈孔、通風管、防臭管、排水唧筒、沈澱池、濾過池ノ構造ニ關スル圖面其ノ他必要ナル細分圖 縮尺五十
- 五 一位代價表
- 六 工費計算書
- 七 計畫說明書

第八條 下水管理ニ關スル規程ニハ下水道ノ修繕、掃除及下水道ハ市ノ義務ニ關スル下水道

第三章 河川、砂防

第一款 河川

法第三條ノ施設ト土地ノ所有者使用者ノ義務ニ關スル施設トノ連結等ニ關スル必要ノ事項ヲ規定スヘシ

第九條 圖面ハ總テ蠟布ナリテ計畫線路、構造等ヲ識別スルニ容易ナラシムル爲メ彩色ヲ施シ設計者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

● 河川法 (明治二十九年四月)

(法律第七十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ河川法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第二章 河川ノ管理

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第五章 監督及強制手續

第六章 罰則及訴訟

第七章 附則

河川法

第一條 總則

此法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ

第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル

流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其河川ノ區域ヲ變更スヘシ

第三條 河川就其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス

第四條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲メ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第五條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章 河川ノ管理

第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲メ必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事を施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料徴收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨グス

第八條 河川ニ關スル工事もシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ラ其ノ工事を施行シ又ハ其ノ工事を因リテ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ

施行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第九條 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事を一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事を施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

他ノ工作物ニシテ兼テ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事を施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十一條 他ノ工事を因リ河川ニ關スル工事を必要トシタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事を施行者ヲシテ河川ニ關スル工事を施行セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事も因リ必要トシタル他ノ工事も又ハ河川ニ關スル工事を施行スル爲メ必要ナル他ノ工事も地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ河川ニ關スル工事を請負ナサスコトヲ得

第十三條 河川ニ關スル工事を請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ關スル河川ノ整頓ヲ圖シ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

整頓ノ圖、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經テ整頓ノ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但シ整頓圖製後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證明スルヲ妨グス

第十五條 地方行政廳ニ於テ河川ノ管理ノ爲メ特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手当、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第十六條 舟楫ノ通航及流水ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケヘシ

- 一 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲メ施設スル工作物
- 二 河川ニ注水スル爲メ施設スル工作物
- 三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケヘシ

第十九條 流水ノ方向、清潔、分岐、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ボスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行為ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲メ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 河川ノ状況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生ズルコトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生ズルコトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲ニ必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生ズル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命令ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生ズル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生ズル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、軍馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命ジ又ハ下級公共團體ニ命ジテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命ジテ豫メ洪水防禦ノ爲ニ必要ナル準備ヲサシムルコトヲ得

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生ズル收入等

第二十四條 河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トシ

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第二十五條 通航料徵收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ必要ナル費用ハ其ノ徵收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ必要ナル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地租額十分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以內ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地租額ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以內ヲ補助スルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生ズル工事ニ必要ナル費用ハ前項ニ依リテ限ニ在ラス

工事費用計算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ノ前條ノ規程ニ準ジテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額並不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣ニ決定ム

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ノ前條ノ規程ニ準ジテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理若ハ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理若ハ私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生ズルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生ズルモノアルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生ズル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生ズル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受ケルモノアルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生ズルモノアルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ必要ナル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第三十五條 依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ必要ナル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ原簿ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲ニ必要ナル土地ノ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲサシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲ニ必要ナル土地ノ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿岸土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲ニ必要ナル場合ニ限

前項ノ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以內ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ若シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命ジテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳ニ決定ム

第四十一條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生ズル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ改良工事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地

施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理若ハ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理若ハ私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生ズルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生ズルモノアルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生ズル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生ズル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受ケルモノアルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生ズルモノアルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證據アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命シタル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺損若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ボス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲ負擔スヘシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ土砂ヲ停止ノ設備ヲナス若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者若ハ其ノ義務ヲ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂ヲ停止ノ爲ニ必要ナル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外河川附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章 監督及強制手續

第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 第三十六條ニ規定シタル事項此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限シテ之ヲ行フコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ濠帳ノ更正ヲ命シ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ義務ヲ履行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ義務ヲ志ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若ハ期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ干圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

第五十五條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ關稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ關稅ニ付キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指擇シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏若シテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設ケルコトヲ得

第六章 訴訟及訴訟

第五十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政廳ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日より三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十二條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シテ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日より六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキトキハ其ノ期限經過後六箇月トス

第六十三條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シテ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日より六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキトキハ其ノ期限經過後六箇月トス

月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本條ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シテ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七章 附則

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 河川ノ濠帳ハ此ノ法律施行ノ日より二箇年以内ニ之ヲ調整スヘシ

第六十六條 災害土木費負擔ニ關スル慣例及外國人居留地内ニ於ケル河川ニ關スル慣例ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラス

●河川法施行規程 (明治二十九年勅令第二百三十六號)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法施行規程ヲ擬可シ茲ニ之ヲ公布セシム

河川法施行規程

第一條 內務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

內務大臣ニ於テ河川法ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ

第二條 府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ(三十二年勅令第二百八十六號ヲ以テ本條中追加)

第三條 沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ內務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第四條 河川法第八條ニ依リ內務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ利益ヲ受ケル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事ヲ施行スヘキ河川並ニ其ノ區域及起工年度ヲ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第五條 河川法第六條但書ニ依リ內務大臣ニ於テ河川ノ管理又ハ維持修繕ヲナストキハ內務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クとも五日以前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第七條 河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤土地ニ立入り又ハ之ヲ材料置場等ニ供セントスルトキハ少クとも五日以前ニ又之ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却セントスルトキハ少クとも十五日以前ニ其ノ場所若ハ建築物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第八條 河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲其ノ效力ヲ失ハス前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第九條 河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ荒地ニアラサルモノハ從前ノ所有者若ハ其相續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公

ル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政廳ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日より三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十二條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シテ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日より六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキトキハ其ノ期限經過後六箇月トス

第六十三條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シテ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日より六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキトキハ其ノ期限經過後六箇月トス

第十條 府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ古用ヲ許可セサルトキ又ハ之ヲ禁止スルトキハ府縣ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金額ヲ下付スヘシ

公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件トシテ其ノ執行者ヲシテ補償金額ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金額ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ

第十一條 河川法若ハ此ノ法律ニ規定シタル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受ケヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際ニ現在スルモノハ河川法若ハ此ノ法律ニ規定シタル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ施行ノ日より三箇月以内ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受ケヘキコトヲ命シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ此ノ法律ニ規定シタル命令ニ規定シタル程度ニ於テ效力ヲ有ス

第十二條 河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前ノ規程ニ依リ徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以内ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ

第十三條 內務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

府縣知事及警察總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十圓以内ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第十四條 河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、第十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條第二項ニ依リテ發シタル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得但東京府ニ在テハ第十六條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルコトヲ得

●河川ニ關スル行政監督ノ件

(明治二十九年六月 勅令第二百三十五號)

朕河川ニ關スル行政監督ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 河川法若ハ之ニ基キテ發シタル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政監督ニ於テ執行スル河川行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲ケル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス但河川ニ影響スルコト小ニシテ内務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此ノ限ニテアラス

一 河川ノ支川、派川及河川ノ附屬物ノ認定

六 河川法第三十七條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課
七 河川法第三十九條ニ依ル建設物其ノ他ノ障害物ノ除却
第三條 左ニ掲ケル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス
一 河川法第二十二條及第四十六條第一項ニ依ル下級行政監督ノ處分
二 河川法第三十七條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課
此ノ勅令ニ依リ府縣知事ノ第一次ニ監督スヘキ事項ニ關シテハ府縣知事ハ府縣令ヲ以テ其ノ認可ヲ受ケヘキモノヲ決定ムルコトヲ得

ルモノニ關スル件左ノ通之ヲ定ム
第一條 左ニ掲ケタル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要セス
一 河川ノ附屬物ノ新築、改築又ハ除却ノ許可
ニシテ著シク河身ニ影響シ及ボササルモノ
ノ施行並其ノ計畫及其ノ工費ノ豫算
二 堤防ノ設置又ハ腹付ノ施行並其ノ計畫及其ノ工費ノ豫算
三 河川法第十七條ニ掲ケタル工作物ニシテ一時ノ施設ニ係リ著シク河身ニ影響シ及ボササルモノノ新築、改築又ハ除却ノ許可
四 河川ノ敷地又ハ流水ノ一時占川及一旦認可ヲ受ケタルモノノ繼續占川ノ許可
五 河川法第三十九條ニ依ル障害物ノ除却ニシテ建築物以外ニ係ルモノ
第二條 堤防ニシテ其ノ對岸他府縣ニ屬スルモノ又ハ他府縣管内ニ連綴スルモノニ施行スル措置又ハ堤外ノ腹付ハ府縣知事ニ於テ土木監督署ニ協議ノ上處分スヘシ
第三條 第一條第一號乃至第三號及第四號繼續占川ノ許可ハ府縣知事ニ於テ處分ノ後直ニ土木監督署ヲ經由シ内務大臣ニ報告スヘシ
○内務省訓令(明治三十二年五月 府縣(河川)除却)

●河川法同施行規程等ニ係ル告示ノ方法

(明治三十二年五月 內務省令第十三號)

河川法第四十六條同施行規程第三條及明治三十年勅令第三百七十七號第二條ニ依ル告示ノ方法左

ノ通之ヲ定ム
第一條 府縣知事ニ於テ土地并止ノ爲ニ要スル土地、沿岸、沿堤若ハ河川附近ノ土地又ハ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ノ區域ヲ定メ之ヲ告示スルコトキハ其ノ地方ノ公布式ニ依ルヘシ
前項ノ場合ニ於テハ土木監督署ヲ經由シ内務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
第二條 前條ノ告示ニハ左ニ掲ケタルモノノ一又ハ一以上ニ依リ土地ノ區域ヲ明記スヘシ
一 市町村、大字、字又ハ小字
二 地番地目
三 一定ノ地物又ハ之ヲ去ル距離及方向
四 圖面
第三條 内務大臣ニ於テ第一條ノ土地又ハ區域ヲ定メタルトキハ前條ニ準ジ官報ヲ以テ之ヲ告示ス

●河川工事費用補助ノ手續

(明治三十二年五月 內務省令第二十一號)

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ニ對スル補助手續左ノ通之ヲ定ム
第一條 内務大臣ノ直接施行ニ係ル河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ニ對シ補助ヲ受ケントスルコトキハ其ノ工事ノ管理者ニ於テ工事計畫書、工費豫算書及圖面ヲ添ヘ府縣知事ヲ經由シ内務大臣ニ申請スヘシ但工事ノ管理者ニシテ行政監督ナルトキハ其ノ行政監督ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ議會ノ議決書ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條 府縣知事ニ於テ前條補助ノ申請ヲ受ケタルトキ又ハ明治三十二年勅令第二百二十二號第五號ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ受ケントスルコトキハ

●河川臺帳ニ關スル件

(明治二十年 勅令第三百三十一號)

補助申請者ノ行政監督ナル場合ニ於テハ其ノ行政監督ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ地租年額及戶數ヲ調査シ私人ナル場合ニ於テハ其ノ實力ヲ調査シ尙ホ工事ノ計畫及工費ノ豫算ヲ審査シ之ニ對スル意見ヲ付シ土木監督署ニ送付スヘシ
第一條 河川臺帳ハ帳簿及實測圖ヲ以テ組成ス
第二條 河川臺帳ニハ市町村毎ニ區別シテ左ノ事項ヲ記載スヘシ但河川ノ狀況ニ依リ内務大臣ハ其ノ記載事項ヲ省却セシムルコトヲ得
一 河川ノ敷地及堤外地ノ區域
二 河川ノ附屬物及河川ニ影響シ及ボスヘキ工作物ノ種類、數量、構造及位置形狀
三 河川ニ影響シ及ボスヘキ水流及水面ノ種類、數量及位置形狀
第三條 府縣知事ハ其ノ調査ニ係ル河川臺帳ニ付地元市議會及町村長ノ意見ヲ徵シ且之ヲ其ノ市役所及町村役場ニ於テ七日以上ノ期限ヲ定メテ公衆ノ覽覽ニ供スヘシ
前項ノ場合ニ於テ利害關係者ハ覽覽期限經過後十五日以内ニ河川臺帳ニ對シ意見ヲ申立ルコトヲ得但シ地元市町村ノ多數ナル場合ニ於テハ府縣知事ハ覽覽所ヲ指定シ其ノ所在市町村ニ隣接スル市町村ニ限リ併合覽覽セシムルコトヲ得

(三十二年勅令第六十七號ヲ以テ修正) 第四條 府縣知事ハ河川臺帳ノ認可ヲ請フニ際シ前條意見書類ヲ内務大臣ニ提出スヘシ

●河川臺帳ニ關スル細則

(明治二十九年十二月 內務省令第十三號)

第五條 府縣知事ハ河川臺帳ノ更正ヲナサントスルトキモ亦前二條ノ手續ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ
第六條 内務大臣ハ其ノ認可シタル河川臺帳ノ原本ヲ保管スヘシ
第七條 内務大臣ハ河川臺帳ノ原本ニ就テ正本ヲ調製シ府縣知事ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ
府縣知事ハ公衆ノ請求ニ依リ河川臺帳ノ正本ヲ覽覽ニ供スルノ方法ヲ設ケ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ其更正ヲ爲シタルトキ亦同シ(三十二年勅令第二百八十八號ヲ以テ修正)
第八條 府縣知事河川臺帳ノ認可ヲ得タルトキハ其ノ正本ニ就テ副本ヲ調製シ之ヲ所轄土木監督署長ニ交付スヘシ其ノ更正ニ付認可ヲ得タルトキ亦同シ
第九條 府縣知事河川臺帳ノ認可ヲ得タルトキハ七日以内ニ其ノ旨ヲ地元市議會及町村長ニ通知スヘシ其ノ更正ニ付認可ヲ得タルトキ亦同シ
第十條 市議會及町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ正本ニ就テ其ノ管内ニ係ル河川臺帳ノ副本ヲ調製シ又ハ更正スヘシ
市議會及町村長ハ河川臺帳ノ副本ヲ調製シ又ハ更正シタルトキハ其旨ヲ公告シ公衆ノ請求アルトキハ之ヲ覽覽ニ供スヘシ(三十二年勅令第二百八十八號ヲ以テ修正)
第十一條 土木監督署長、市議會及町村長ハ各其ノ管内ニ係ル河川臺帳ノ副本ヲ保管スヘシ
第十二條 第十條ノ爲ニ要スル費用ハ當該市町村ノ負擔トス

河川審帳ニ關スル細則左ノ通り定ム

ニ各横断面圖ヲ調製シ一定基線上ノ高、馬踏幅、敷幅等ヲ記入スヘシ

ノ規定ヲ變更シテ正本ノ調製ヲ爲スコトヲ得

第一條 河川審帳ニ關スル細則

一有堤部ニ於テハ堤外地及ロ堤防附近

河川審帳ニ關スル訓令

一無堤部ニ於テハ凡ソ洪水位ノ達スル區域内

物、水流及水面ハ其ノ位置形狀ヲ河川平面圖ニ

第一條 明治二十九年勅令第三百三十一號第三條

一河川審帳ノ河川平面圖ハ縮尺千二百分ノ

第一項但書(明治三十一年勅令第六十七號ヲ

第一條 明治三十一年勅令第六十七號ヲ

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

各種ノ水制、護岸、堰堤

第二條 河川審帳ノ原本ニ屬スル河川平面圖ハ原

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第二條 河川審帳ノ原本ニ屬スル河川平面圖ハ原

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第三條 河川審帳ハ其調製ヲ了シタル部分ヨリ漸

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第四條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第五條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第六條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第七條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第八條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第九條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第十條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第十一條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第十二條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第十三條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第十四條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第十五條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第十六條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第十七條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第十八條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第十九條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第二十條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第二十一條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第二十二條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第二十三條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第二十四條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第二十五條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第二十六條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第二十七條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第二十八條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第二十九條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第三十條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第三十一條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第三十二條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第三十三條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第三十四條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第三十五條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第三十六條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第三十七條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノノ外總

第一號書式ニ依ル

第三十八條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

一河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造

第一號書式ニ依ル

第三十九條 河川審帳ノ認可ヲ請フトキハ土木監督署

第一條 府縣知事ニ於テ河川法第四十條ニ依リ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ補償ヲ命ズルトキハ補償スヘキ物件ノ種類、員數及補償金額並ニ其ノ支拂期限ヲ定メ補償金ヲ受取ルヘキ者ノ氏名、住所ト共ニ之ヲ其ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ通知スヘシ

第二條 府縣知事ニ於テ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ同時ニ前條ニ依リ定メタル事項ヲ補償金ヲ受取ルヘキ者ニ通知スヘシ

●河川法第四十三條第二項ニ依レル命令ノ件 (明治三十三年五月)

河川法第四十三條第二項ニ依レル命令左ノ通之ヲ定ム

第一條 府縣知事ニ於テ河川法第四十三條ニ依リ通航料ノ徵收ヲ許可スルトキハ其ノ金額及徵收期間ヲ定ムヘシ

第二條 通航料ノ金額及其ノ徵收期間ハ原資及其ノ利子ノ償還ヲ標準トシテ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第三條 公益ノ爲メ必要アルトキハ府縣知事ハ通航料徵收ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得

第四條 通航料徵收ノ許可ヲ取消シタルトキハ其ノ許可ヲ取消シタル者ノ申請ニ依リ府縣知事ニ於テ補償金ヲ下付スルコトヲ得

第五條 通航料徵收ノ原資ノ未償還額ヲ超過スルコトヲ得

●河川法第四十四條ニ依リ河川敷地ノ公用ヲ廢シタル土地ノ處分ニ關スル件 (明治三十二年九月)

第一條 本令ニ於テ廢川敷地ト稱スルハ河川敷地ノ公用ヲ廢シタルモノヲ謂フ

第二條 廢川敷地ハ府縣知事ノ告示スヘシ

第三條 廢川敷地ノ處分ハ府縣知事ノ告示ニ依リテ之ヲ行フ

第四條 廢川敷地ニシテ御料地又ハ國有地ト爲スルモノハ其ノ處分ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布ス

ノ必要アルモノハ之ヲ御料地又ハ國有地ニ編入スヘシ

第五條 府縣以外ノ公共團體又ハ私人ニ於テ河川ニ關スル工事ヲ爲シタルニ因リ生シタル廢川敷地ハ之ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相繼人ニ下付スルコトヲ得

第六條 府縣以外ノ公共團體ニ於テ維持又ハ修繕ノ費用ヲ負擔シタル河川ノ廢川敷地ハ之ヲ其ノ公共團體ニ下付スルコトヲ得

第七條 河流ノ變更ニ因リ生シタル廢川敷地ハ之ヲ其ノ沿岸若ハ沿堤ノ土地所有者又ハ河川ノ區域ヲ其ノ所有地ニ移サレタル公共團體又ハ私人若ハ其ノ相繼人ニ下付スルコトヲ得

第八條 廢川敷地ニシテ公共團體又ハ私人ノ寄付ニ係ルモノハ之ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相繼人ニ下付スルコトヲ得

第九條 河川ニ關スル工事ノ爲シタル寄付シタル公共團體又ハ私人アルトキハ其ノ工事ニ因リ生シタル廢川敷地ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相繼人ニ下付スルコトヲ得

第十條 河川ニ關スル工事ノ爲シタル寄附シタル收用セラレタル公共團體又ハ私人アルトキハ其ノ工事ニ因リ生シタル廢川敷地ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相繼人ニ下付スルコトヲ得

第十一條 廢川敷地ニシテ御料地又ハ國有地ト爲スルモノハ必要アルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ第二條告示ノ日ヨリ三箇月以内ニ内務大臣ニ通知シ内務大臣ハ府縣知事ニ之ヲ編入セシムヘシ

知事ニ申請スヘシ

第十二條 府縣知事ニ於テ第五條乃至第十條ニ依リ受ケタル申請ニ對シテハ内務大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ處分スヘシ

第十三條 廢川敷地ニシテ編入又ハ下付ヲ爲ササルモノ及廢川敷地ノ償金ハ府縣ニ歸屬ス

第十四條 廢川敷地ニシテ現ニ他ノ公用ニ供スルモノハ内務大臣ノ認可ヲ經テ第四條乃至第十條及第十三條ノ規定ニ拘ハラズ其ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條 廢川敷地ヲ取得シタル者ハ公用ヲ廢シタル日ヨリ其ノ土地ノ所有權ヲ取得ス

●河川法第四十七條ニ依レル命令ノ件 (明治三十三年七月)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法第四十七條ニ依リ命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 河川附近ノ土地ノ形狀又ハ家屋其ノ他ノ工作物ニシテ河川ニ害ヲ及ボシ又ハ及ボス虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却シ又ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二條 河川附近ノ土地ニ在ル土砂、竹木等ニシテ河川ニ害ヲ及ボシ又ハ及ボス虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ除却セシムルコトヲ得

第三條 河川ニ關シ必要アルトキハ府縣知事ハ河川附近ノ土地ニ立入り又ハ之ニ標柱等ヲ設置スルコトヲ得

第四條 左ニ掲ケタル行爲ヲ爲サムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ

一 河川附近ノ土地ニ於ケル家屋以外ノ工作物

ノ新築、改築又ハ除却

二 河川附近ノ土地ノ掘鑿其ノ他土地ノ形狀ノ變更

三 堤外地ニ於ケル家屋ノ新築、改築若ハ除却又ハ竹木ノ栽植若ハ伐採

第五條 沿川土地ノ所有者ハ其ノ土地ヲ曳船道ニ供スヘシ

前項制限ノ範圍ハ各曳船道ニ付府縣知事ノ決定ニ依リテ之ヲ告示スヘシ

第六條 沿堤土地ノ所有者ハ堤防ヨリ雨水ノ自然ニ流レ來ルヲ妨ケ又ハ其ノ土地ノ水ヲ堤防ニ注流セシムル設備ヲ爲スコトヲ得

第七條 第一條、第二條、第三條又ハ第五條ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ府縣知事ハ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ

第八條 府縣知事ニ於テ第一條ニ依リ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却セムトスルトキハ少クモ十五日以前、第三條ニ依リ土地ニ立入り又ハ標柱等ヲ設置セムトスルトキハ少クモ五日以前ニ其ノ所有者及占有者ニ之ヲ通知スヘシ

第九條 左ニ掲ケタル事項及其ノ變更又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

一 第一條ニ依ル處分

二 第四條ニ掲ケタル行爲ニシテ重大ナルモノノ許可

第十條 第四條又ハ第六條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ重禁錮ニ處ス

河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 此ノ勅令ニ於テ河川トナルヘキ區域ト稱スル河川ニ關スルハ工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域ヲ謂フ

第二條 河川トナルヘキ區域並ニ其ノ附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事ニ於テ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リテ之ヲ告示スヘシ

第三條 河川トナルヘキ區域ニ於テ其ノ土地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ之ヲ沿ヒ若ハ之ヲ横過シ若ハ其ノ地下ニ於テ施設スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セントスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケヘシ

第四條 工事、營業其ノ他ノ行爲ニシテ河川トナルヘキ區域ノ現狀若ハ新ニ生スヘキ河川ニ影響ヲ及ボスノ虞アルモノハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第五條 此ノ勅令ニ依リ許可シタル事項ニ關シテハ府縣知事ハ左ノ場合ニ於テ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命ジ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

●河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件 (明治三十年十月)

四 河川法ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必
要ヲ生スルトキ
五 法律命令ニ違背シタルトキ
六 公益ノ爲ニ必要ナルトキ
第七條 此ノ命令ニ依リ與ヘタル許可ニ關シテハ
河川法第二十一條ヲ準用ス
第七條 河川ニ關スル工事ノ爲ニ必要ナルトキハ府
縣知事ハ河川トナルヘキ區域ニ立入り又ハ其ノ
土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得ザルトキ
ハ其ノ土地ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ
除却スルコトヲ得
河川トナルヘキ區域ニ沿ヒタル土地ニ關シテハ
其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲ニ必要ナル場合ニ
限リ前項ヲ適用スルコトヲ得
前二項ノ場合ニ關シテハ河川法第三十九條第三
項及第六十二條ヲ準用ス
第八條 前條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ明治
二十九年勅令第二百三十六號第七條ヲ準用ス
第九條 河川法第四十五條及第四十七條ニ基キ河
川附近ノ土地ニ關シテ發スル命令ニ規定シタル事
項ハ府縣知事ニ於テ府縣令ヲ以テ河川トナルヘ
キ區域附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得
第十條 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ
工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政總ニ命シテ工
事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ内務大臣ハ此ノ
勅令ニ依リテ府縣知事ノ有スル職權ヲ自ラ施行
スルコトヲ得
第十一條 左ノ場合ニ於テ府縣知事ハ此ノ勅令ニ
依リ有スル職權ノ施行ニ關シ内務大臣ノ認可ヲ
受クルコトヲ要ス
一 第七條ニ依リ建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却
セムトスルトキ

二 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工
事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政總ニ命シテ工
事ヲ施行セシムルトキ
●河川法第五十條ニ依レル命令
令ノ件 (明治三十二年六月)
河川法第五十條ニ依レル命令左ノ通之ヲ定ム
第一條 府縣知事ニ於テ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内
ノ公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ヲ負擔セシ
メントスルトキハ其ノ府縣知事ニ協議ノ上負擔
金額及納付期限ヲ定ムヘシ
第二條 前條ノ協議調ヒタルトキハ府縣知事ニ於
テ土木監督署ヲ經由シテ内務大臣ノ認可ヲ受ク
ヘシ
第三條 第一條ノ協議調ヒタルトキハ府縣知事ニ
於テ土木監督署ヲ經由シテ内務大臣ノ指揮ヲ受
クヘシ
第四條 府縣知事ハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公
共團體ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシム
ヘキ期限確定シタルトキハ之ヲ其ノ府縣知事ニ
通知スヘシ
前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ其ノ府縣内ノ
公共團體ヲシテ負擔セシムヘキ金額アル場合ニ
於テハ更ニ其ノ金額及納付期限ヲ其ノ公共團體
ヲ直接ニ管轄スル行政總ニ通知スヘシ
第五條 他ノ府縣ニ於テ期限內ニ其ノ負擔金額ヲ
納付セザルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ其ノ旨
ヲ具申スヘシ
他ノ府縣内ノ公共團體ニ於テ其ノ負擔金額ヲ期
限內ニ納付セザルトキハ府縣知事ハ其ノ公共團
體ヲ管轄スル府縣知事ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ河川法第五十

五條第三項ニ依リ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムヘ
シ
第六條 内務大臣ハ自ラ河川ニ關スル工事ヲ施行
シ又ハ府縣知事ニ代テ河川ノ管理ヲ爲シ若ハ其
ノ維持修繕ヲ爲ス場合ニ於テハ他ノ府縣又ハ他
ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ負擔セシムヘキ金額
及納付セシムヘキ期限ハ内務大臣之ヲ定ム
●河川法第五十八條ニ依レル
罰則ノ件 (明治三十三年四月)
朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法第五十八條ニ依
ル罰則ノ件ヲ裁可シ按ニ之ヲ公布セシム
第一條 許可ヲ受ケスシテ河川法第十七條ニ載
スル工事ヲ施行シ又ハ詐偽ノ手段ヲ以テ其ノ許
可ヲ受ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ一年以
下ノ重懲罰ニ處ス
第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下
ノ罰金又ハ三箇月以下ノ重懲罰ニ處ス
一 許可ヲ受ケスシテ河川ノ敷地若ハ流水ヲ占
用シ又ハ詐偽ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケ
タル者
二 河川法第二十三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由
ナクシテ地方行政總又ハ其ノ委任ヲ受ケタ
ル官吏ノ命ニ從ハサル者
三 許可ヲ受ケスシテ舟楫ヨリ通航料ヲ徵收シ
又ハ詐偽ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル
者
●河川法等ノ稟伺又ハ報告處
分ノ件 (明治三十二年五月)
土木監督署
河川法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ規程シタル事

項ニ關シ府縣知事ノ稟伺又ハ報告ヲ受領シタルト
キハ審査ヲ送ケ之ニ關スル意見ヲ付シ本大臣ニ進
達スヘシ但シ河川ノ附屬物ノ改築、通航料ノ徵收
期限ノ變更及他ノ事務ノ輕易ニシテ利害ノ關係
他府縣ニ著シク影響セシムルヘキ事項ニ關スル
稟伺ニシテ異見ナキモノハ直ニ依命通達シ以テ之
ヲ許可スルコトヲ得
●河川改修工事ニ就キ要スル
官有地受納方ノ件 (明治三十
三年六月)
内務省訓令
第十九號)
土木監督署
内務大臣ニ於テ河川改修工事ヲ施行スル爲メ官有
地ヲ要スルトキハ自今一般官有地ニ在テハ直ニ、
國有林野ニ在テハ大林區署へ協議シ地所受納ノ
上、其都度該地所所在ノ地方廳へ通知スヘシ
●河川改修工事ニ就キ要スル
官有地受納通知ノトキ地種
組替方等地方廳限處分報告
ノ件 (明治三十三年六月)
府縣(沖繩縣ヲ除ク)
内務大臣ニ於テ河川改修工事ヲ施行スル爲メ官有
地ヲ要スルトキハ自今一般官有地ニ在テハ直ニ、
國有林野ニ在テハ地所受納ノ上、其都度土木監督
署ヨリ通報スヘキニ付地種組替方等處テ其限
處分ノ上内務報告例ニ依リ報告スヘシ
但シ寺境内、名所、舊蹟及古墳等ハ此限ニ在ラズ
●河川法施行ノ場所指定
内務省告示明治三十九年六月
濠洲筋左岸
第十四類 第三章 河川、砂防 第一款 河川

滋賀縣東部郡湖田村右岸同縣滋賀郡石山村以下海
ニ至ルマテテ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川ト
認定シ該川ニ就キ明治三十九年六月十一日ヨリ明
治三十九年法律第七十一號河川法ヲ施行ス
●内務省告示明治三十九年六月
筑後川筋左
岸福岡縣浮羽郡春村右岸同縣朝倉郡把木村以下
海ニ至ルマテテ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川
ト認定シ該川ニ就キ明治三十九年六月十一日ヨリ
明治三十九年法律第七十一號河川法ヲ施行ス
●内務省告示明治三十九年九月
利根川筋左岸
群馬縣佐波郡宮村右岸同縣同郡芝根村以下海ニ
至ルマテテ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川ト認
定シ該川ニ就キ明治三十九年十月一日ヨリ明治二十
九年法律第七十一號河川法ヲ施行ス
●内務省告示明治三十九年九月
信濃川筋左岸
新潟縣北魚沼郡川口村右岸同縣同郡同村以下海ニ
至ルマテテ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川ト認
定シ該川ニ就キ明治三十九年十月一日ヨリ明治二十
九年法律第七十一號河川法ヲ施行ス
●内務省告示明治三十九年九月
木曾川筋左岸
愛知縣丹羽郡大山村右岸同縣同郡同村以下海ニ
至ルマテテ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川
ト認定シ該川ニ就キ明治三十九年十月一日ヨリ明治
二十九年法律第七十一號河川法ヲ施行ス
●内務省告示明治三十九年九月
榊野川筋左岸
岐阜縣揖斐郡北方村右岸同縣同郡小島村以下海ニ
至ルマテテ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川ト認
定シ該川ニ就キ明治三十九年十月一日ヨリ明治二十
九年法律第七十一號河川法ヲ施行ス
●内務省告示明治三十一年三月
富士川筋左

岸山梨縣北巨摩郡市野町右岸同縣同郡神山村以下
海ニ至ルマテテ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川
ト認定シ該川ニ就キ明治三十九年四月一日ヨリ明
治三十九年法律第七十一號河川法ヲ施行ス
●内務省告示明治三十一年二月
最上川筋左
岸山形縣北村山郡大高根村右岸同縣同郡大石田村
以下海ニ至ルマテテ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河
川ト認定シ該川ニ就キ明治三十九年四月一日ヨリ明
治三十九年法律第七十一號河川法ヲ施行ス
●内務省告示明治三十一年三月
吉野川筋左
岸德島縣阿波郡林村右岸同縣同郡同村以下海ニ
至ルマテテ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川ト認
定シ該川ニ就キ明治三十九年四月一日ヨリ明治二十
九年法律第七十一號河川法ヲ施行ス
●内務省告示明治三十一年三月
九頭龍川筋
左岸福井縣吉田郡下志比村右岸同縣同郡同村以下海
ニ至ルマテテ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川
ト認定シ該川ニ就キ明治三十九年四月一日ヨリ明
治三十九年法律第七十一號河川法ヲ施行ス(三十
三年内務省告示第十四號ヲ以テ本告示中改正)
●内務省告示明治三十一年三月
高梁川筋左
岸岡山縣賀陽郡淺尾村右岸同縣同郡同村以下海ニ
至ルマテテ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川ト認
定シ該川ニ就キ明治三十一年四月一日ヨリ明治二十
九年法律第七十一號河川法ヲ施行ス
●内務省告示明治三十一年五月
天龍川筋左
岸靜岡縣磐田郡二俣町右岸同縣同郡同村以下海ニ
至ルマテテ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川ト認定
シ該川ニ就キ明治三十三年四月一日ヨリ明治二十

九年法律第七十一號河川法ヲ施行ス
 ○内務省告示第十八號 庄川筋左岸
 富山縣東礪波郡東山見村右岸同縣同郡同村以下海
 二至ル迄テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川ト認
 定シ該川ニ就キ明治三十三年四月一日ヨリ明治二
 十九年法律第七十一號河川法ヲ施行ス
 ○内務省告示第二十四號 旭川筋左岸
 岡山縣赤松郡四高月村右岸同縣同郡同村以下海
 二至ル迄テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川ト
 認定シ該川ニ就キ明治三十四年四月一日ヨリ明治
 二十九法律第七十一號河川法ヲ施行ス
 ○内務省告示第七號 北上川筋左
 岸縣手縣盛岡市字茅野夕顏瀨橋右岸同縣盛岡市
 川村大字下野川字木伏夕顏瀨橋以下海ニ至ル迄テ
 公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川ト認定シ該川ニ
 就キ明治三十五年四月一日ヨリ明治三十九年法律
 第七十一號河川法ヲ施行ス
 ○内務省告示第八號 阿賀野川筋
 左岸新潟縣中蒲原郡川東村大字馬下橋右岸同
 縣東蒲原郡下條村大字小石取馬下橋以下海ニ至ル
 迄テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川ト認定シ該
 川ニ就キ明治三十五年四月一日ヨリ明治三十九年
 法律第七十一號河川法ヲ施行ス
 ○内務省告示第九號 阿武隈川筋
 左岸宮城縣伊具郡船岡村大字山田字沙田右岸同
 縣同郡丸森町字敷文以下海ニ至ル迄テ公共ノ利害
 ニ重大ノ關係アル河川ト認定シ該川ニ就キ明治三
 十五年四月一日ヨリ明治三十九年法律第七十一號
 河川法ヲ施行ス
 ○内務省告示第十號 雄物川筋左

岸秋田縣平鹿郡角間川町大字角間川字牛野右岸同
 縣平鹿郡角間川町大字角間川字平中島以下(左岸
 仙北郡小友村大字宮林新田字桶沼三角測點第百二
 十九號ヨリ右岸平鹿郡角間川町大字角間川字南小
 中島長二間ノ土橋中心ヲ見通シタル線)海ニ至ル
 迄テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アル河川ト認定シ該
 川ニ就キ明治三十五年十月一日ヨリ明治三十九年
 法律第七十一號河川法ヲ施行ス
 第二款 砂防
 ●砂防法 (明治三十年三月)
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ砂防法ヲ裁可シ茲ニ之
 チ公布セシム
 第一章 總則
 第一條 土地ノ制限及砂防設備
 第三條 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有
 者ノ權利義務並收入等
 第四章 警察、監督及強制手續
 第五章 罰則
 第六條 附則
 砂防法
 第一章 總則
 第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務
 大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲メ
 設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備
 ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ
 第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依
 リ治水上砂防ノ爲メ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限ス
 ヘキ土地ハ主務大臣ノ指定ス
 第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ム
 ル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外

ニ於テ治水上砂防ノ爲メ施設スルモノニ準用スル
 コトヲ得
 第二章 土地ノ制限及砂防設備
 第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地
 ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲メ一定ノ行
 爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得
 前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全
 スル爲メ必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止
 マラサルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行ス
 ルコトヲ得
 第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依
 リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管
 内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ
 其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス
 第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル
 爲メ必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラ
 サル場合ニ於テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其
 ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ
 因リ特ニ利益ヲ受ケル公共團體ノ行政廳ニ命ジ
 テ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナスシ
 ムルコトヲ得
 本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ
 地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ
 得
 第七條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシ
 テ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲ
 ナサシムルコトヲ得
 第八條 他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防
 工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政
 廳ハ其ノ行爲ヲナサシムル者ヲシテ其ノ工事ヲ施
 行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコト

第九條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得
 第十條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ
 定ム
 第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土
 地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他
 ノ公課ヲ減免スルコトヲ得
 第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所
 有者ノ權利義務並收入等
 第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土
 地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持並砂防工事ニ
 要スル費用ハ府縣ノ負擔トス
 第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國
 庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得
 前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過
 スルコトヲ得ス
 本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ
 超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサ
 ルコトヲ得
 災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費
 用ハ本條ニ依リ之ヲ在ラズ
 第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備
 ノ管理及維持ヲナシ又ハ砂防工事ヲ施行スル場
 合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス
 前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項
 費用ノ三分ノ一以テ負擔セシムルコトヲ得
 前項ニ依リ府縣ノ負擔スヘキ金額並其ノ年度割
 及納付期限等ハ主務大臣ノ指定ス
 第十五條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體
 ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムル
 コトヲ得

第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他
 ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ
 費用ハ砂防工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ
 原因タル工事、作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ
 負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但
 シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在
 ラズ
 第十七條 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内
 ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受ケルモノナル
 トキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシ
 テ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得
 第十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル
 命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲
 ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除
 クノ外其ノ他ノ受ケタル者ノ負擔トス
 主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行ス
 ヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三條ヲシテ執行セ
 シメタルカ爲メ必要ナル費用ハ其ノ義務者ヨリ
 之ヲ負擔スルコトヲ得
 第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル
 費用ノ爲メ寄附ヲナスコトヲ得
 第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私
 人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナス
 コトヲ得
 第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ
 利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ
 不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得
 第二十二條 砂防工事ノ爲メ必要ナルトキハ地方
 行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償
 金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ
 係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セ
 シムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサル

トキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明
 ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供
 託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得
 第二十三條 砂防ノ爲メ必要ナルトキハ行政廳ハ第
 二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ
 隣接スル土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場
 等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現
 在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得
 前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ
 除却ノ後三箇月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ
 得
 第二十四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル
 土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ
 受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行
 シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ
 得ス
 第二十五條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違
 背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損
 害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ
 第二十六條 此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付ス
 ヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管
 轄スル公共團體ノ負擔トス
 第二十七條 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸
 ス但地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務
 大臣ノ指定シタル土地若ハ其ノ土地ニ在ル森林
 ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スル
 コトヲ得
 第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公川ヲ廢シタル
 トキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在ス
 ル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得
 第四章 警察、監督及強制手續
 第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政

第三十條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命ニ依リ其ノ違背ニ因リテ生ズヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視員爲該砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限或ハ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス

第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシムル他此ノ法律ニ規定シタル

地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシムル他此ノ法律ニ規定シタル

地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ニ依リ其ノ違背ニ因リテ生ズヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視員爲該砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限或ハ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス

第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシムル他此ノ法律ニ規定シタル

地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜シ得サルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ

第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限内ニ示シ若シ期限内ニ履行セザルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保護金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

第三十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十九條 前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其

砂防法施行規程 (明治三十年)

砂防法施行規程

第一條 內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條 砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地方ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條及第十四條ニ規定シタル事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス

ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

第四十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第四十二條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政廳ノ提起シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタルトシテ私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方

シメントスルトキハ少クとも五日目前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條 砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長、市町會、町村長、町村組合長又ハ水利組合ノ管理若シテ內務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クとも五日目前ニ之ヲ現在スル障礙物ヲ除却セムトスルトキハ少クとも十五日目前ニ其ノ場所ハ障礙物ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第八條 行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クとも七日目前ニ之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條 砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依リ土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲メノ費用ヲ失ハス

第十條 砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依リ土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲メノ費用ヲ失ハス

第十條 砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依リ土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲メノ費用ヲ失ハス

砂防ニ關スル行政監督ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 砂防法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政監督ニ於テ執行スル砂防ニ關スル行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事ノ監督シ第二次ニ於テ内務大臣ノ之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲ケル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス但シ利害關係小ニシテ内務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此ノ限ニテラズ

一 砂防法第三條ニ依リ進用

二 砂防法第四條ニ依リ府縣知事ニ於テ禁止若ハ制限スヘキ一定ノ行為

三 砂防法第七條及第八條ニ依リ府縣知事ノ處分

四 砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受ケル砂防工事ノ計畫及其ノ工費豫算

五 砂防法第十五條乃至第十七條ニ依リ費用ノ負擔方法

六 砂防法第二十一條ニ依リ府縣ノ不均一ノ賦課

七 國庫ノ補助ヲ受ケテ施設シタル砂防設備ノ公用廢止

第三條 左ニ掲ケル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

一 砂防法第二十一條ニ依リ下級公共團體ノ不均一ノ賦課

二 砂防法第二十三條ニ依リ下級行政廳ノナスヘキ障害物ノ除却

三 砂防法第三十條ニ依リ下級行政廳ノ處分

第四條 砂防法第十九條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ寄附ナシタルモノハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

一 砂防ニ關スル事業ニシテ寄附ナシタルモノハ公共團體ノ利害ニ直接ノ關係アルコト

二 寄附ナシタルモノハ公共團體ニ於テ起價ノ方法ニ依リテ寄附ナシ得ヘキコト

第五條 砂防法第二十條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ補助ナシタルモノハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

一 砂防ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシ且其ノ補助ヲ受ケヘキモノニ於テ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト

二 補助ナシタルモノハ公共團體ニ於テ起價ノ方法ニ依リテ補助ナシ得ヘキコト

●認可ヲ要セサル砂防工事ニ關スル件 (明治三十二年四月) (内務省令第十一號)

明治三十一年勅令第十五號第二條但書ニ依リ認可ヲ要セサルモノニ關スル件左ノ通ニテ之ヲ定ム

第一條 左ニ掲ケル事項ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要セス

一 砂防工事ノ一設計内ニ於ケル工事ノ位置又ハ工種ノ變更ニシテ當利ノ計畫ト同一ノ效果ヲ收メ得ヘキモノ

二 砂防工事ノ一設計内ニ於ケル工事ノ伸縮増減ニシテ地質ノ硬軟又ハ地形ノ變遷ニ起因シ其ノ位置及工種ノ變更ナキモノ

第二條 前條第一號ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ土木監督署ニ協議ノ上處分スヘシ

第三條 此ノ省令ニ依リ府縣知事ニ於テ處分シタルモノハ直ニ土木監督署ヲ經由シ内務大臣ニ報告スヘシ

●砂防法第十一條ノ地租其他ノ公課減免ニ關スル件 (明治三十二年八月) (勅令第三百七十四號)

砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 砂防法ニ依リ一定ノ行為ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其ノ地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ナリテ地租以外ノ公課ヲ輕減ス

第三條 本令ニ依リ地租其ノ他ノ公課ノ免除又ハ輕減ノ期間ハ一定ノ行為ヲ禁止又ハ制限シタル月ヨリ其ノ禁止又ハ制限ヲ解キタル月迄トス

第四條 本令ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケルモノハ一定ノ行為ヲ禁止又ハ制限セラレタル日ヨリ三十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ (三十五年勅令第二百五十三號ヲ以テ條中改正)

第五條 本令施行前一定ノ行為ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ付テハ第三條ノ期間ハ此ノ勅令施行ノ月、第四條ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

●砂防法第三十三條ニ依レル命令 (明治三十二年七月) (内務省令第三十九號)

砂防法第三十三條ニ依レル命令左ノ通ニテ之ヲ定ム

第一條 府縣知事ニ於テ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内

ノ公共團體若ハ私人トシテ砂防ニ關スル費用ヲ負擔セシメントスルトキハ其ノ負擔者ハ府縣又ハ公共團體ナル場合ニ於テハ其ノ府縣知事ニ協議ノ上負擔金額及納付期限ヲ定メ私人ナル場合ニ於テハ府縣知事自ラ之ヲ定ムヘシ

第二條 前條ニ依リ負擔金額及納付期限ヲ定メタルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シ内務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

第三條 第一條ノ協議調ハサルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シ内務大臣ノ指揮ヲ受ケルコトヲ要ス

第四條 府縣知事ハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人トシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限確定シタルトキハ之ヲ其ノ府縣知事ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ其ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人トシテ負擔セシムヘキ金額アル場合ニ於テハ更ニ其ノ金額及納付期限ヲ其ノ公共團體ヲ直接ニ管轄スル行政廳又ハ私人ニ通知スヘシ

第五條 他ノ府縣ニ於テ期限内ニ其ノ負擔金額ヲ納付セザルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ其ノ旨ヲ具申スヘシ

他ノ府縣内ノ公共團體又ハ私人ニ於テ其ノ負擔金額ヲ期限内ニ納付セザルトキハ府縣知事ハ其ノ公共團體又ハ私人ヲ管轄スル府縣知事ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ砂防法第三十八條ニ依リ直ニ其ノ處分ヲ爲スヘシ

第六條 内務大臣ニ於テ自ラ砂防設備ノ管理ヲ爲シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲ爲ス場合ニ於テハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體

若ハ私人トシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限ハ内務大臣ノ之ヲ定ム

●國庫補助ノ砂防工事竣功ノ稟報ノ件 (明治三十三年) (内務省訓令) (第二十三號)

府縣知事ニ於テ

明治三十年法律第二十九號砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受ケテ施行スル砂防工事ハ竣功ノ程度功調書ヲ製シ土木監督署ヲ經由シ本大臣ニ稟報シ工事竣功ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

●道路掃除法 (明治三十五年十月) (第三百二十五號布告)

近來道路掃除ノ儀多クハ等閑ニ相成甚以不相濟事ニ候條各地方官ニ於テ厚ク注意シ道路掃除ノ制被相立候マテハ從前掃除請持之道路ハ勿論掃除無之場所ハ最寄町村ヘ公平ニ割渡左ノ條目ノ通掃除可爲致事

第一條 一總テ掃除請持丁場ハ風雨等ノ障リ有無ニ不拘必ス三ヶ月中一度ツツ掃除可致事

第二條 一風雨ノ後ハ必ス其持場ヲ掃除シ溜水ハ左右溝ヘ導キ水溜ノ場所相減シ候條可致事

第三條 一並木根返リ風折雪折等ハ道ヲ其總ヨリ所分有之ト雖モ不取致道路妨ケナキ取片付置可申事

第四條 一左右ニ溝渠無之道路ハ可成丈ケ路ノ兩縁ヲ低下ニシ雨水ノ捌方宜敷様可致事

●道路敷地新ニ貨渡ヲ許サス (明治八年十二月) (内務省乙第百六十五號達)

從來ノ因襲ヲ以テ是迄道路ノ敷地ヲ貨渡住居差許置候分モ有之候處自今往來障害ノ有無ニ拘ハラズ新タニ貨渡候難相成候條爲心得此旨相違候事

●國道道幅ノ件 (明治十八年一月) (太政官第一號布告)

今般國道ノ等級ヲ廢シ其幅員ハ道數四間以上並木敷幅數サ合セテ三間以上總テ七間ヨリ狭少ナラサルモノトス

但國道線路ハ内務卿ヨリ告示スヘシ

●國道表ヲ定ム (明治十八年二月) (内務省告示第六號)

本年一月太政官第壹號ヲ以テ國道ノ儀布達相成候ニ付該線路別表之通相定候條此旨告示候事

國道表 (別表)

凡 例

一線路中前號線路ト相通用スヘキ者 (例ヘハ第一號線(東京ヨリ大阪港ニ達スル路線)中其神奈川驛迄ハ第一號線(東京ヨリ橫濱港ニ達スル路線)ト同線ナル如キハ)之ヲ略シ其番號ヲ記ス

一路線甲ヨリ乙ニ進スル中間ニ位スル府縣廳及鎮...

鎮守府ニ達スル道路ヲ國道ニ編入ス

明治二十年七月 勅令第二十八號

東京ヨリ鎮守府ニ達スル道路及鎮守府下鎮守府...

道路等級ヲ廢シ國道縣道里

明治九年六月 太政官第六十號

明治六年八月大藏省ヨリ相違候道路ノ等級ヲ廢シ...

一等 各縣ヲ接續シ及各鎮守府ヨリ各分營ニ達ス...

二等 用水堤防牧畜坑山製造所ノタメ該區人民...

國縣道築造保存方法等取調

明治十九年八月 內務省勅令第十三號

國縣道ノ新設又ハ變換ニ係ルモノハ自左ニ掲ル...

第一條 國道縣道ヲ新築若クハ改築スルトキハ左...

三 實測断面圖 (縮尺適宜) 四 橋梁断面圖...

實測断面圖

第二條 實測断面圖ニハ田界、郡界、村界、地名、...

第三條 實測断面圖ニハ計畫路線中心地面ノ高...

第四條 實測断面圖ハ計畫路線長三丁毎ニ之ヲ...

其計算法ヲ明瞭ニスヘシ

第八條 一位代價表ハ掘削、盛土、溝渠、石垣等...

一尺以上タルヘシ

第十六條 割石敷設ノ方法ハ先ツローラル政ハ...

第二十五條 掘削若クハ盛土ノ傾斜面ハ植草工...

第二十五條 掘削若クハ盛土ノ傾斜面ハ植草工...

ハ道路ニ障害ナキ者ヲ採用スヘシ
 第三十七條 並木線ハ必ス路線ニ並行ナラシムヘシ
 第三十八條 並木ハ下水ノ上縁ヨリ二尺以上ノ距離ニ於テ植付ヘシ
 第七章 保存及修繕
 第三十九條 道路ハ平生注意シテ破損ヲ豫防シ若シ小破アルトキハ速ニ修繕ヲ加ヘ大破ニ至ラサルヲシムヘシ
 第四十條 割石道路ノ破損ハ路面ノ泥濘及粉細ノ土砂ヨリ生スルカ故ニ道路ヲ保存スルニハ主トシテ之ヲ掃除スヘシ
 第四十一條 路面ニ少シク凹所ヲ生シタルトキハ直チニ其凹所アル部分ヲ少シク掘起シ然ル後割石ト石屑若クハ軟質ナル砂利トヲ適宜ニ散布シローラル或ハ蟻木ヲ以テ之ヲ堅メ且其修繕ノ部分ト修繕ヲ加ヘサル部分トノ結合シ易キヲ務ムヘシ
 第四十二條 前條ノ修繕ハ一方ヨリ順次ニ著手モスシテ必ス凹所ノ最モ甚シキ部分ヨリ先ニスヘシ
 第四十三條 路面ノ一方ニ修繕ヲ加フルトキハ馬車ハ好テ他ノ一方ヲ通行スヘキカ故ニ之レカ爲メ其一方ノ破損ヲ來スノ患アリ又一時ニ路面ノ全幅ヲ修繕スルトキハ通行ノ馬車多クハ同轍ニ由ルヘキカ故ニ其修繕シタル部分ノ未ダ固結セサル前ニ於テ破損ヲ生スル患アリ故ニ一時ニ廢キ面積ノ修繕ニ著手スヘカラス且馬車ノ通行偏倚セサル修繕スヘキ箇所ヲ區分スヘシ
 第四十四條 修繕ハ路面ノ濕氣ヲ含ミタル時ニ於テ施工シ若シ降雨ナキトキハ適宜水ヲ注テ施工スヘシ

第四十五條 保存及修繕ヲシテ完全ナラシムルニハ第一守人ヲ置キ平素技術者ノ指揮ヲ受ケケレカ保存ニ從事セシム可シ第二保存及修繕ニ使川スヘキ器具藥品人夫等ヲ常ニ各所ニ配置シ使川ニ便ナラシムヘシ
 第四十六條 砂利道路修繕ノ方法ハ概テ割石道路ト異ナルコトナシ但其保存ニハ一層注意ヲ加フヘシ
 ●道路橋梁等通行錢徵收ノ件
 (明治四年十二月)
 (第六百四十八號布告)
 治水修路ノ儀ハ地方ノ要務ニシテ物產蕃盛庶民殷富ノ基本ニ付府縣管下ニ於テ有志ノ者共自費或ハ會社ヲ結ビ水行ヲ疏シ險路ヲ開キ橋梁ヲ架スル等諸般運輸ノ便利ヲ興シ候者ハ落成ノ上工費ノ多寡ニ應ジ年限ヲ定メ税金取立方被差許候間地方官ニ於テ此旨相心得有等ノ儀願出候者有之節ハ其地ノ民情ヲ詳察シ利害得失考ヘ入費税金ノ制限等篤ト取調大藏省ヘ可申出申
 但木文ノ趣旨内無洩可相違事
 ●私設道路、橋梁渡津ノ賃錢
 揭示ノ件 (明治八年七月)
 (內務省第十六號布告)
 諸道橋梁渡船賃ノ儀各種ノ賃額川場ハ勿論賃錢受取所ヘモ明瞭揭示可致且賃錢受取方ニ付テハ時間ヲ費シ通行人ノ迷惑不相成候様ク注意可致此旨布達候事
 ●私設道路橋梁渡津ニ於テ賃錢請求ヲ許ササル件
 (明治九年三月)
 (甲第四號內務省達)

道路橋梁渡津等ニテ公私ノ別無ク賃錢請求之儀許可致置候場所モ有之候處自今警部並巡查持區内巡視之節制服著用ノ者ニ限リ賃錢請求不相成候條此旨布達候事
 ○內務省達(明治十三年四月) 人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津又ハ新道自今軍隊隊伍ヲ組ミ行進之節ハ其賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船願人共ハ無漏可相違候事(同年乙第三十三號達ヲ以テ「波津」ノ下四字ヲ加フ)
 ○內務省達(明治十四年十二月) 人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及其私費開鑿ノ道路等憲兵巡行之節ハ單騎獨歩ト雖モ制服著用之節ニ限リ其賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船及開路願人共ハ無漏可相違候此旨相違候事
 ○內務省達(明治十六年六月) 人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送並郵便物遞送集配(特ニ配達人タルヲ證スル願人著シ運送スル時)ノ時ニ限リ賃錢請求不相成候節客年三月當省乙第拾八號ヲ以テ相違置候處自今郵便局ヨリ左ノ加キ印鑑相違置候條右所持ノ者ハ制服ノ著否ニ拘ハラズ賃錢請求不相成候ト可心得此旨免許人共ハ遺漏ナク達シ置ヘシ此旨相違候事(印鑑難形略ス)
 ○內務省訓令(明治二十一年十二月) 人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等制限ヲ著シタル電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治十五年乙第六十六號ヲ以テ相違置候左ノ難形ノ印鑑攜帶ノ者ハ制服ノ著否ニ拘ハラズ賃錢請求不相成ニ付此旨更ニ免許人ヘ示達ス可シ
 (印鑑難形略ス)

○內務省訓令(明治二十四年五月) 人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治二十一年十二月第二七號ヲ以テ訓令置候處左ノ難形ノ印鑑攜帶ノ者モ同様賃錢請求不相成ニ付此旨更ニ免許人ヘ示達スヘシ(印鑑難形略ス)
 ○內務省訓令(明治二十七年五月) 人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治二十四年(五月)第六號ヲ以テ及訓令置候處本年勅令第十五號消防規則ニ依リ設置シタル消防組員ニシテ水火災警消防演習等ニ際シ一定ノ服裝ヲ爲シタルトキニ限リ其賃錢請求不相成候條此旨免許人ヘ示達シ置クヘシ
 ●渡船ハ一人タリトモ出船セ
 シムル件 (明治六年五月)
 (大藏省第七十五號布告)
 諸道川々渡船場ノ儀ハ至當ノ賃錢ヲ取越立候儀ニ付替一人タリ共速ニ可越立ハ當然ニ候處多人數ニナロヒ候迄行旅ヲ留置候弊習有之趣相附以ノ外ノ儀ニ付以來一人タリ共早々出船候様川場ヘ揭示可致置候事

○內務省訓令(明治二十七年五月) 人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治二十四年(五月)第六號ヲ以テ及訓令置候處本年勅令第十五號消防規則ニ依リ設置シタル消防組員ニシテ水火災警消防演習等ニ際シ一定ノ服裝ヲ爲シタルトキニ限リ其賃錢請求不相成候條此旨免許人ヘ示達シ置クヘシ
 ●渡船ハ一人タリトモ出船セ
 シムル件 (明治六年五月)
 (大藏省第七十五號布告)
 諸道川々渡船場ノ儀ハ至當ノ賃錢ヲ取越立候儀ニ付替一人タリ共速ニ可越立ハ當然ニ候處多人數ニナロヒ候迄行旅ヲ留置候弊習有之趣相附以ノ外ノ儀ニ付以來一人タリ共早々出船候様川場ヘ揭示可致置候事

○內務省訓令(明治二十七年五月) 人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治二十四年(五月)第六號ヲ以テ及訓令置候處本年勅令第十五號消防規則ニ依リ設置シタル消防組員ニシテ水火災警消防演習等ニ際シ一定ノ服裝ヲ爲シタルトキニ限リ其賃錢請求不相成候條此旨免許人ヘ示達シ置クヘシ
 ●渡船ハ一人タリトモ出船セ
 シムル件 (明治六年五月)
 (大藏省第七十五號布告)
 諸道川々渡船場ノ儀ハ至當ノ賃錢ヲ取越立候儀ニ付替一人タリ共速ニ可越立ハ當然ニ候處多人數ニナロヒ候迄行旅ヲ留置候弊習有之趣相附以ノ外ノ儀ニ付以來一人タリ共早々出船候様川場ヘ揭示可致置候事

第十五類

警察 新聞

出版 附著作 權

第一章 警察

第一款 行政警察

行政警察規則……………一

行政執行法……………二

憲兵職掌中行政警察事務規程……………三

巡查配置及勤務概則……………四

巡查點檢規則……………四

第二款 管轄區域

都市ノ區域ニ依ラサル警察署管轄區域……………九

沖繩縣那覇、糸滿、首里、嘉手納警察署管轄區域……………一〇

警察署、同分署門牌ノ件……………一〇

警察官署ノ名稱ハ所在地名ヲ冠シ門標掲出ノ件……………一〇

第三款 巡邏

警察巡邏規則……………一〇

第四款 賞典

警察賞與規則……………一一

警察賞與規則施行細則……………一一

一般人民巡查同様ノ勸メナシ死傷セシ者吊祭扶助療治料支給方……………一二

第五款 警察費……………一二

第十五類 目次

銀行諸會社及人民等ヨリ巡査配置請願取附方……………一二

請願巡査經費ニ關スル件……………一二

第六款 保安

環戒令……………一二

治安警察法……………一三

官吏職務外ノ演説、被述ヲ許シ取締方ヲ定ム……………一五

第七款 遺失物

遺失物法……………一五

遺失物法施行細則……………一五

遺失物法ヲ濫用ニ施行スルノ件……………一六

東京大學ニ於テ介爐洞穴ヨリ採集シタル古物貯藏方……………一六

第八款 質屋

質屋取締法……………一七

質屋取締法細則……………一八

第九款 古物商

古物商取締法……………一八

古物商取締法細則……………一九

第十款 銃砲火藥

銃砲火藥類取締法……………二〇

銃砲火藥類取締法施行規則……………二一

銃砲火藥類取締法施行細則……………二二

銃砲火藥類商定員……………二三

火藥類制限外買入特許證及同買入證貯藏特許證ノ書替交付方……………二六

銃砲火藥類取締法第四條ニ據リ軍用銃砲ノ種類ヲ定ム……………二六

砲兵工廠軍用銃及火藥類拂下手……………二六

石油取締規則……………二六

明治十六年布告第十號……………二七

第十二款 電氣

電氣事業取締規則……………二七

電氣事業取締規則ニ依ル工程表……………二七

其他屆書等調製方……………三八

電氣事業取締規則ニ依ル標旗及標燈制式……………四〇

電氣事業取締規則ニ依ル電信電話線其他ノ金屬體ニ關シ承諾又ハ立會ヲ請求スル場合申請方……………四〇

官廳施設電氣事業取締規程……………四一

電氣ニ關スル心得ノ件……………四一

第十三款 狩獵

狩獵法……………四二

狩獵法施行規則……………四三

共同狩獵地出願書様式及圖面雛形……………四九

狩獵取締ニ關スル件……………五一

狩獵免許稅徵收ノ件……………五一

狩獵免許稅印紙ノ消印ニ關スル件……………五一

狩獵免許稅表調製ノ件……………五一

御獵場御料地御料牧場ニ於ケル有害鳥獸ノ驅除ニ關スル件……………五一

官林內有害鳥獸驅除ノ件……………五一

第十四款 流入紙製造取附規則……………五一

流入紙製造取附規則……………五一

流入紙製造取附規則……………五一

通貨及證券換取辦法	五二
第十五款 移民保護	五二
移民保護法	五二
移民保護法施行細則	五三
移民保護法ニ依リ保證人ヲ定ムル地方指定	五六
婦女ヲ誘惑シ海外渡航ノ途ヲ杜絶セシム	五七
清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法	五七
第十六款 北海道移住民	五七
北海道移住民渡航船舶取締規則	五七
北海道移住民搭船ノ船舶へ警察官吏附添派遣ノ件	五八
北海道移住民汽車貨及汽船貨ノ無賃、割引、取扱方	五八
明治三十二年內務省告示第二號	六〇
明治三十五年內務省告示第百三號	六〇
明治三十一年內務省訓令第一號	六〇
明治三十一年內務省訓令第十號	六〇
第十七款 水難救護	六〇
水難救護法	六〇
水難救護法施行ノ件	六三
水難救護法施行細則	六三
水難救護法取扱手續	六四
水難救護法ニ依リ取得ノ收入金對支出金等ノ取扱方地方長官ニ委任ノ件	六五

水難救護ニ關スル收入支出取扱順序	六五
海難其他ノ事實届出ノ件	六五
第十八款 行旅病人、死亡人	六六
行旅病人及行旅死亡人取扱法	六六
行旅病人死亡人等ノ引取及費用辨償ニ關スル件	六七
外國人タル行旅病人、行旅死亡人及同伴者ノ救護取扱ニ關スル特例	六七
行旅病人及行旅死亡人取扱法ヲ濶濶ニ施行スルノ件	六八
第十九款 検視	六八
検視上墮死者解剖ノ件	六八
官廳内、工場等ニテ墮死傷ノ者檢視處分ノ件	六八
工場ニ於テ入院治療ヲ要スル程ノ負傷者アルトキ警察官署へ届出ノ件	六八
第二十款 墓地及埋葬附刑死者	六九
墓地及埋葬取締規則	六九
墓地及埋葬取締規則ニ特別番號方	六九
墓地及埋葬規則細則標準	六九
死産ノ埋火葬認許證ニ特別番號ヲ附スル件	七〇
古墳ト見ユル地ノ掘ニ發掘ヲ禁スル件	七〇
刑死者ノ墓標、祭祀等ニ關スル件	七〇
第二十一款 消防組	七〇

消防組規則	七一
消防組點檢規則	七一
第二十二款 感化	七一
感化法	七一
感化法施行規則	七二
第二十三款 精神病者監護	七二
精神病者監護法	七三
精神病者監護法施行規則	七三
精神病者監護法第六條及第八條第三項ニ依レル監護ニ關スル件	七四
第二十四款 寄泊、外國人居住營業	七五
寄泊届其ノ他ノ件	七六
登錄事項通知及保存方	七六
條約、慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件	七七
外國人備入ニ關スル手續ヲ要セサル件	七七
外國人備入外務省ニ届出ヲ要セサル件	七七
第二十五款 雜	七七
帶刀禁止及違犯者處分方	七七
禁煙御用等ノ合符標札及酒御紋ヲ遊キタル提灯器物等ヲ禁スル件	七七
藥御紋章ヲ遊キタル寶品取締方	七七
皇室ニ關スル文字ヲ商標其他ノ物件ニ濫用取締ノ件	七七

第二章 新聞

形儀取締規則	七八
娼妓取締規則	七八
貸座敷免許地據置等ノ件	七九
富錢類其他取締ノ件	七九
營業浴場ノ風紀取締ノ件	七九
水上警察旗式	七九
新聞紙條例	八〇
公文ヲ新聞紙ニ掲載スルヲ禁ス	八一
新聞紙條例中傍聽ヲ禁シタル所ニ對シテ辯論記載方	八一
官報ニ掲載ノ件新聞紙ニ抄録ヲ許ス	八二
他ノ新聞紙ニ掲載スル論說轉載ニ關スル件	八二
新聞紙ニ關スル屆書式	八二

第三章 出版附著作權

第一款 出版	八三
出版法	八三
官廳出版物ニ係ル注意	八五
出版ニ關スル願書式	八五
第二款 著作權	八六
著作權法	八六
著作權法施行ノ件	八八
著作權者不明ノ著作物ニ關スル件	八八
著作權登錄ニ關スル規定	八九
著作權ニ關スル登錄證閱覽日	八九
著作權法ヲ濫用ニ施行スルノ件	八九

出版 著作

第一章

總則

第一條

本法自中華民國二十一年一月一日起施行。

本法所稱之著作，指文學、藝術、科學及技術之創作而言。

本法所稱之著作人，指創作著作之人而言。

本法所稱之著作財產權，指著作人或其繼承人、受遺贈人、或依本法規定取得著作財產權之人，得對於其著作物，享有之權利而言。

本法所稱之著作權，指著作財產權而言。

本法所稱之著作權人，指著作財產權人而言。

本法所稱之著作權人，指著作財產權人而言。

本法所稱之著作權人，指著作財產權人而言。

本法所稱之著作權人，指著作財產權人而言。

本法所稱之著作權人，指著作財產權人而言。

本法所稱之著作權人，指著作財產權人而言。

本法所稱之著作權人，指著作財產權人而言。

本法所稱之著作權人，指著作財產權人而言。

本法所稱之著作權人，指著作財產權人而言。

本法所稱之著作權人，指著作財產權人而言。

本法所稱之著作權人，指著作財產權人而言。

本法所稱之著作權人，指著作財產權人而言。

本法所稱之著作權人，指著作財產權人而言。

本法所稱之著作權人，指著作財產權人而言。

第二十五條 第一章 警察 第二次 行政警察

第十五類 警察、新聞、出版、附著作權

第一章 警察

第一款 行政警察

●行政警察規則 (明治八十九號)

太政官第二十九號

行政警察規則別冊ノ通相定候條本年四月一日ヨリ施行可致就テハ從前捕亡更取締組番人等ノ名稱ヲ廢シ巡査ト改稱可致此旨相違候事(八年太政官第百八十三號)以テ警察掛官員及掛官員ヲ警部ニ遷卒テ巡査ト改ム)

但捕亡更ヲ改テ警察費ト稱シ定額ハ先從前ノ通ニ候條出張所並更員配置ノ儀ハ適宜タルヘク尤差向規則ノ通施行難致事情有之向ハ其段内務省(別冊)

行政警察規則

第一章 警察職務之事

第一條 行政警察ノ趣意タル人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ
第二條 各府(東京ヲ除ク)縣長官其事務ヲ提掌シ警部ナシテ之ヲ分掌セシメ便宜各所ニ出張シ巡査シテ各都二分派シ巡査察セシム(八年太政官第百六號)以テ全條改正)
第三條 其職務ヲ大別シテ四件トス
第一 人民ノ妨害ヲ防衛スル事
第二 健康ヲ看護スル事

第三 放蕩淫逸ヲ制止スル事
第四 國法ヲ犯サントスル者ヲ隱密中ニ探察警防スル事

第四條 行政警察豫防ノ力及ハスシテ法律ニ背ク者アルトキ其犯人ヲ探察逮捕スルハ司法警察ノ職務トス之ヲ行政警察ノ官ニ於テ行フトキハ「檢事官並司法警察規則」ニ照スヘシ

第五條 警察官吏ハ公同一般ノ利益ヲ計リ一家隱微ノ小惡ヲ發ク可ラス且一己ノ功ヲ貪リ警察一般ノ目的ヲ損ル可ラス(八年太政官第百六號)以テ第五條第六條第七條ヲ刪除シ第八條ヲ第五條ト改ム)

第二章 警部勤務ノ事(同上本章ヲ增補ス)
第一條 各出張所ニ派出セル警部ハ時々本廳ニ會シ事務ヲ商議シ處分異同ヲキキ要スヘシ
第二條 凡ソ布告布達ハ其旨趣ヲ巡査ニ教示シ誤解スルモノナキヲ要スヘシ
第三條 時々區内ヲ巡視シ其景況並ニ巡査ノ勤怠正否ヲ察スヘシ區内ノ人員戶數職業等ハ成丈ク詳知スルヲ要スヘシ

第四條 區内ノ事故ハ月報ヲ以テ長官ニ報告スヘシ若シ非常急緊ノ事件アレハ速ニ報知スヘシ時機ニ因リ直ニ警部頭ニ報告スルヲ得ヘシ
第五條 凡ソ警察ノ事ニ付テハ直ニ他府縣ノ警察官ニ報知若クハ照會スルコトヲ得ヘシ
第六條 違又ハ訓問等ノコトアルニ付テハ勅發官及ヒ華族並有位ノ者ハ家令家扶執事ヲ呼出スヘシ列任官以下七族平民ハ直ニ本人ヲ呼出スコトヲ得ヘシ

第七條 違警犯人ハ其犯狀ヲ按シ違警條目ニヨリ處斷シテ後長官ニ具申シ其擬按アルモノハ長官ノ指揮ヲ受ケテ處分スヘシ

第三章 巡査勤務之事(同上第二章第三章トス)

第一條 第一章第三條ヲ以テ職務ノ大目的トナスヘキ事

第二條 持區内ノ居民並道路行人ヨリ困難出來シテ救護ヲ乞フトキハ何時ニテモ之ニ應ジ或ハ救護ヲ乞ハサルモ見聞次第力ヲ盡シテ防護スヘシ但街路其外ニテ人命ニ係ル危難有之節ハ隣連救護シ最寄ノ醫ヲ頼ミ治療ノ手續懇切ニ取付フヘシ

第三條 老幼癡疾婦人等ハ就中注意シテ保護スヘシ

第四條 持區内ノ大小往來筋及市街村落ノ位置區長月長ノ宅等盡ク詳知スヘシ
第五條 持區内ノ戶口男女老幼及其職業平生ノ人トナリニ至迄ヲ注意シ若シ無産體之者集合スルカ又ハ怪シキ者ト認ルトキハ常ニ注目シテ其舉動ヲ察スヘシ

第六條 持區内ヘ他ヨリ移リ來ル者アラハ前條ニ隨テ速ニ之ヲ探知スヘシ
但右等ノ事ニ付嫌疑ヲ以テ其人ヲ呼出ス等ノ儀ハ決シテ有之間敷勉メテ當人ノ覺知セサル様隱密ニ探偵スルヲ以テ警察ノ本意トス若シムヲ得サルコトアルトキハ白ラ行テ尋問スヘシ

第七條 布告布達等總テ新令ノ出ルニ付人心ノ信否ヲ考察シテ警部ニ報知スヘシ(同上「掛官員」トアルハ「警部」ト改ム以下皆同シ)

第八條 巡査中職務ニ關スル大小ノ事故ハ返一手帖ニ記シ警部ヘ報知スヘシ
第九條 非番タリトモ合圖アルカ又ハ臨時呼出ヲ受レハ早速其場ニ駆付ヘク平常其心掛アルヲ要

第十條 往來筋ノ妨害トナルヘキ物ヲ見ルトキハ速ニ之ヲ取除カシムヘシ

第十一條 道路ノ荒蕪汚濁ノ淤塞及不潔物アレハ之ヲ片長ニ告ケ掃除ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 官舎橋梁道路其他公有之建造物破損スルトキハ警部ニ報知スヘシ

第十三條 行人ニ道路或ハ其他ノ事ヲ尋問セラルルトキハ丁寧ニ教示スヘシ

第十四條 稚兒道ニ迷フアラハ之ヲ保護シ其居所不分明ナル者ハ之ヲ其地ノ片長ニ預ケ之ヲ警部ニ報知スヘシ若シ其居所分明ニシテ其区域内ナラハ直ニ之ヲ送致シ他ノ區ナラハ其地ノ區片長ニ掛合送致ノ手續ヲナスヘシ

第十五條 芝居其他群集ノ所ニハ出張シテ亂雜ヲ防制スヘシ

第十六條 故レ牛馬アレハ之ヲ便宜ノ所ニ留メ置キ其主分明ナル者ハ之ヲ附與シ然ラサルハ警部ノ指圖ヲ受ヘシ

第十七條 路上酒ニ酔ヒ失心スル者ハ之ヲ注意シ又ハ最寄人民ニ介抱セシメ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ片長ニ引渡スヘシ

第十八條 路上狂痴人アレハ穩ニ之ヲ介抱シ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ片長ニ引渡スヘシ

第十九條 路上ニ狂犬アレハ之ヲ打殺シ片長ニ告ケ之ヲ取除ル手續ヲナスヘシ

第二十條 道路河渠ニ死屍アルトキハ其模樣ヲ檢シ警部ニ報知シ指圖ヲ受ケルヘシ

第二十一條 獸畜ノ死骸アルトキハ速ニ片長ニ告ケ之ヲ取除ク手續ヲナスヘシ

第二十二條 鳥獸魚類其他飲食物販賣スル店ニ賣進賣取ノ品アルトキハ片長ニ檢査スヘシ

第二十三條 人家夜間戸締斷ノ者アレハ速ニ之ヲ其主ニ知ラスヘシ

第二十四條 怪キ者ヲ見ルトキハ取亂シテ機子ニ依リ持込内出張所ニ連行或ハ警部ニ密報シテ圖ヲ受ケヘシ倉卒ノ取計アル可ラス

第二十五條 失火ノ節ハ巡查失火ノ合圖ヲナシ一般ニ知ラシム且燭火ニ羅ル家ハ其家人ヲ助ケ消防ノ事モ勤ムヘシ消防人ハ其集ルニ至レハ勉テ亂雜及ヒ竊盜ヲ防ク事ニ注意スヘシ

第二十六條 同斷ノ節第一ニ其人ヲ救ヒ出シ次ニ書類金貨等ヲ出スヘシ又官廳其他區片長等ノ宅ハ交番第一ニ取出スヘシ

第四節 巡查心得ノ事(同上第三章第四節トス)

第一條 專ラ行儀作法ヲ正クシ威權ヲ固數儀ノクシテ區民ノ侮慢ヲ受ケサル様可心掛事

第二條 法度規則ヲ遵守シ上官ノ命令ヲ遵奉スヘシ決シテ職外ノ事ヲ議スヘカサル事

第三條 同勤中ハ一心全體ト心得常ニ謙遜温順ヲ旨トシ忠實ヲ以テ交誼ヲ盡シ職務ニ忠ラサル様五ニ獎勵スヘキ事

第四條 前儀ヲ守リ分限不相應ノ儀致間數事

第五條 職務上ニ付上官ニ申立ノ事ハ總テ實直チ旨トシ愛憎偏倚ノ儀決シテ有之間數午後二至リ前首ヲ驗收スル儀無之様可心掛事

第六條 巡邏中道路行人並ニ營業ノ者ノ妨ニ不相成様可心掛事

第七條 往來ノ者ヲ取扱ニハ柔和ヲ旨トシ辨ヘナキ者ハ殊更穩ニ取扱ヒ決シテ凌辱ヲ加ヘ手荒キ處置致間數事(八年太政官第四十七號通達ヲ以テ「往來」ノ上「市中」ノ字ヲ削除)

第八條 取調ノ爲メ人家ニ至ル節ハ接對筋總テ慈

第九條 巡邏中私ニ人家ニ立寄候儀ハ勿論徒リニ市店ヲ味メ職務ヲ怠ル間數事

第十條 持込内ニテ金銀等類入レ或ハ物ヲ買ヒ其價ヲ借ル等ノ儀決シテ有之間數事

第十一條 出勤中醉態ヲ露ハシ又ハ婦女ヘ對シ戲ケ間數儀等決シテ有之間數事

第十二條 機密ノ筋ハ勿論職務ニ係リタル事ハ總テ他官致間數事

第十三條 公事出入等ニハ一切關係致間數若シ強テ相頼候者アラハ警部(具申スヘキ事)

第十四條 官コリ相渡サレタル物ノ外兵器ヲ携ル儀ハ不相成且相渡サレタル品ハ大切ニ取扱フヘキ事

第十五條 得物ハ自身ヲ擁護スル具ト心得獲ニハナ打擲致間數候勿論兇暴人アリテ手ニ餘リ不得止節ハ格別ノ事

第十六條 巡邏中傍人ノ嘲哂スルコトアリト雖モ必ス恥辱ト思フヘカラス能ク忍耐シテ相當ノ處置ヲナシ決シテ憤怒ノ色ヲ顯シ争鬪ケ間數儀致間數事

第十七條 何様ノ事アリトモ職務上ニ付人民ヨリ贈物トシテ金銀物品ヲ受ルトコト有可ラサル事

第十八條 巡邏中ハ必ス役服ヲ着用シ能ク容姿ヲ正フシ他人ト同行シテ雜談スヘカサル事

第十九條 毎朝衣服冠履其他器械ヲ檢査シ常ニ見苦シカラサル様注意スヘキ事

第二十條 屯所ハ毎朝清潔ニ掃除スヘキ事

● 行政執行法 (明治三十三年六月 法律第八十四號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ行政執行法ヲ制定シ茲ニ公布スル

ニ之ヲ公布セシム

行政執行法

第一條 當該行政官廳ハ混雜者、瘋癲者自殺企ツル者其ノ他救護ヲ要スト認ムル者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加ヘ或器、兇器其ノ他危險ノ虞アル物件ノ假領置ヲ爲スコトヲ得禁行、開爭其ノ他公安ヲ害スルノ虞アル者ニ對シ之ヲ豫防スル爲必要ナルトキ亦同シ

前項ノ檢束ハ翌日ノ日没後ニ至ルコトヲ得又假領置ハ三十日以内ニ於テ其ノ期間ヲ定ムヘシ

第二條 當該行政官廳ハ日出前、日没後ニ於テハ生命身體又ハ財產ニ對シ危險切迫セリト認ムルトキ又ハ傳染、密賣淫、現行アリト認ムルトキトキ非サレハ現居住者ノ意ニ反シテ邸宅ニ入ルコトヲ得但シ旅店、娯樂店其ノ他夜間ト雖衆人ノ出入スル場所ニ於テ其ノ公開時間内ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 當該行政官廳ハ密賣淫ノ罪ヲ犯シタル者ニ對シ其ノ健康ヲ診斷シ必要ト認ムルトキハ本人若ハ媒合者ノ費用ヲ以テ病院ニ入ラシムルコトヲ得但シ本人又ハ媒合者ニ於テ費用ヲ負擔スルノ實力ナシト認ムルトキハ廳府警察費ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

風俗上ノ取締ヲ要スル業ヲ爲ス者ノ居住其ノ他ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 當該行政官廳ハ天災、事變ニ際シ又ハ勅令ノ規定アル場合ニ於テ危險豫防若ハ衛生ノ爲必要ト認ムルトキハ土地、物件ヲ使用、處分シ又ハ其ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第五條 當該行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基ツキテ爲ス處分ニ依リ命シタル行為又ハ不行爲ヲ強制スル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 自ラ義務者ノ爲スヘキ行為ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコト

二 強制スヘキ行為ニシテ他人ノ爲スコト能ハサルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ強制スヘキトキハ命令ノ規定ニ依リ二十五圓以下ノ過料ニ處スルコト

前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テ第一號ノ處分ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

行政官廳ハ第一項ノ處分ニ依リ行為又ハ不行爲ヲ強制スルコト能ハスト認ムルトキ又ハ急迫ノ事情アル場合ニ非サレハ直接強制ヲ爲スコトヲ得

第六條 第三條及第五條ノ費用及第五條ノ過料ハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ徵收金ニ付國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第一項ノ費用及過料ニ關スル帳簿支辨、收入ノ所屬其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 認可又ハ許可ヲ受ケルニ非サレハ所有スルコトヲ得サル物件行政官廳ノ保管ニ歸シタル場合ニ於テ其ノ所有ヲ認許スヘカサルコトハ其ノ所有權國庫ニ歸屬ス假領置ヲ爲シタル物件ニシテ一箇年以内ニ交付ヲ請求スル者ナキトキ亦同シ

● 行政執行法施行令 (明治三十三年六月 勅令第二百三十三號)

朕行政執行法施行令ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 廳府縣長官ハ行政執行法第三條ノ健康診斷ヲ行フカ爲必要ナル設備ヲ爲スヘシ

前項設備ニ要スル費用ハ廳府警察費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第二條 生命、身體若ハ財產ニ對シ危險切迫セリト認メ又ハ水陸ノ交通ニ危害ヲ及ホスノ虞アリト認メタルトキハ當該行政官廳ハ行政執行法第四條ニ依リ必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得

左ノ各號ニ掲ケル土地、物件ニ關シテハ法令ノ規定ニ違背シ因テ危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ

一 崩壞又ハ入ヲ陥落セシムルノ虞アル場所

二 家屋其ノ他ノ工作物

三 船軍其ノ他交通ノ用ニ供スル器具又ハ裝置

四 汽機、汽機及其ノ附屬裝置

五 前各號ニ掲ケタルモノノ外主務大臣ノ定メタル土地、物件

第三條 危險豫防ノ爲又ハ衛生上必要ト認ムル物品ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ必要ナル分量ヲ試驗ノ用ニ供スルコトヲ得

第四條 行政執行法第五條ノ過料ハ處分ヲ爲ス行政官廳ノ區別ニ從ヒ左ノ金額ヲ超ユルコトヲ得

一 各省大臣 二十五圓

二 廳府縣長官 十圓

三 其ノ他ノ行政官廳 四圓

第五條 行政執行法第五條ノ戒告ハ履行期間ヲ定メ且書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六條 行政執行法第五條ノ費用ノ徵收ハ現ニ要シタル費用及其ノ納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

過料ノ處分ハ其ノ金額及納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ
第七條 行政執行法第五條ノ費用ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ヨリ之ヲ支出シ其ノ徵收金及過料ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ニ收入スヘシ
前項ノ規定ハ行政執行法第三條ノ費用ニ付之ヲ準用ス但シ本人又ハ媒合者ヲシテ病院ニ辨償セシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則

第八條 他ノ法令ノ規定ニ依リ行政官廳ニ於テ行政處分ヲ強制スル爲メ戒告ヲ爲ストキ、自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ若ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルトキ又ハ行政處分ヲ強制スル爲メ過料ニ處スルトキハ第五條第六條及第七條第一項ノ規定ヲ準用ス

憲兵職掌中行政警察事務

規程 (明治十四年十月 內務省乙第五十二號達)

憲兵職掌中行政警察事務ノ備別紙ノ通及達示候條爲心得此旨相違候事 (別紙)
行政警察ニ關スル事務別紙規程ノ通相心得執行可致此旨相違候事 (別紙)
第一條 行政警察ハ人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニテ其事務ヲ大別シテ左ノ四項トス
一 人民ノ妨害ヲ防護スルコト
二 法律ノ遵奉ヲ視察スルコト
三 健康ヲ保護スルコト

第二條 行政警察事務執行ノ際司法警察事務ニ牽連スル事アリト雖モ其事務ヲ混同ス可ラス
第三條 行政警察ノ事務ヲ執行スルニ當リ他ノ警察事務官更其場ニ臨ミタルトキハ其處分ヲ事務官更ニ譲ルヘシ
● 巡查配置及勤務概則 (明治三十年 內務省訓令) 年七月十

巡查配置及勤務概則

巡查配置及勤務概則左ノ通相定ム
第一條 巡查ニ巡查部長並内勤外勤特務刑事及教習中ノ巡查ニ區別シ其ノ配置及勤務ノ方法ハ總務局長官之ヲ定ム但内勤ニハ便宜員ヲ用ユルコトヲ得
巡查部長ニ補セラレタル巡查ハ兼テ警部ノ職務ヲ補助ス (三十四年內務省訓令第九號ヲ以テ本項追加)
第二條 外勤巡查ニ關シテハ其ノ受持區域ヲ定メ二乃至六ノ受持區域ヲ以テ一組合區域ト爲ス
第三條 警察署警察分署所在地ニ於テハ組合毎ニ巡查派出所ヲ設ケ交代勤務セシムヘシ但土地ノ狀況ニ依リ巡查派出所ヲ設ケザルコトヲ得
第四條 警察署警察分署所在地ニアラサル地ニ於テハ受持巡查ヲシテ受持區域内ニ駐在セシメ其ノ宿所ヲ以テ在所トスヘシ但土地ノ狀況ニ依リ組合ノ區域内ニ於テ一駐在所ヲ設ケ二名以上ノ巡查ヲ駐在セシムルコトヲ得
第五條 水上警察ノ爲メ必要アルトキハ便宜ノ地ニ巡查派出所ヲ設ケルヘシ
第六條 諸願ニ依リ巡查ノ配置スルトキハ諸願者

費用ヲ以テ巡查派出所ヲ設ケヘシ
第七條 臨時必要アリテ受持巡查ニアラサル巡查ヲ派遣スルトキハ便宜ノ地ニ巡查出張所ヲ設ケルコトヲ得
第八條 警察署警察分署所在地ニアラサル地ニ於テ巡查駐在所ノ外巡查部長派出所ヲ設ケルコトキハ其ノ受持區域ハ駐在巡查組合ノ區域ニ依ル (三十四年內務省訓令第九號ヲ以テ追加以下順次繰下ク)
巡查部長派出所及巡查派出所ニ配置シタル巡查部長ハ組合巡查ニ對シ監督ノ責アルモノトス巡查出張所ニ配置シタル巡查部長ハ其ノ出張所ニ於ケル他ノ巡查ニ對シスルモ亦同シ
第九條 巡查ノ勤務時間ハ毎日勤務ノ巡查ニ在テハ八時間乃至十二時間隔日勤務ノ巡查ニ在テハ十四時間乃至十八時間トス
第十條 警察署警察分署駐在所ニ巡查及警察署警察分署所在地ニ在ル巡查ハ毎朝其ノ半數ニ對シ其ノ他ノ巡查ハ毎月召集シテ點檢ヲ行ヒ實務及法令ノ應用ニ關スル事項ヲ訓授又ハ應問スヘシ
第十一條 非常召集ノ方法ハ廳府縣長官之ヲ定ム
警察署長警察分署長ノ行フヘキ非常召集ハ毎年一回以上之ヲ行ヒ其ノ成績ヲ警部長ニ報告スヘシ
第十二條 本則施行ノ爲メ必要ナル條項ハ廳府縣長官之ヲ定メ內務大臣ニ報告スヘシ
第十三條 明治二十一年內務省訓令第六四〇號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

● 巡查點檢規則 (明治三十年 內務省訓令) 十五年五月
長ヲ以テ之ニ充ツ其ノ在リサルトキハ上席巡查ヲ以テ充ツ他ノ巡查部長ハ後列ヨリ二歩ノ處ニ位置ス之ヲ押伍トス
第十五條 警察ノ常歩ハ一歩ノ長サ四寸五釐ニ二尺五寸ニシテ一分時間二百十四歩トス
第十六條 號令ヲ別テ豫令、勅令トス豫令ハ明瞭ニ長ク勅令ハ快活ニ短ク其ノ間適當ナル時間ヲ存スヘシ (適當ナル時間トハ豫令ノ後勅令ニテ如何ニ動作スヘキヤノ判斷及準備ニ費ヤス時間ヲ云フ) 號令活潑ナルトキハ動作モ亦從テ活潑ニス所謂動作ハ號令ノ反響ト心得ヘシ
第十七條 點檢ヲ受ケヘキ人員寡少ナルトキハ第二章以下ノ規定ヲ參酌シ適宜之ヲ行フコトヲ得
第十八條 巡查教習所ニ在リテハ此ノ規則ニ依リ所長、教授、助教ニ於テ之ヲ行フヘシ
第二章 通常點檢
第十九條 通常點檢ハ警察署、警察分署所在地ニ於テ服務ノ巡查ニ對シ毎日之ヲ施行スルモノトス
駐在所其他遠隔ノ地ニ在動スル巡查ニ對シテハ毎月訓授ノ爲メ召集シタルトキ之ヲ行フモノトス
第二十條 指揮官ハ時刻ニ至レハ左ノ號令ヲ下シ巡查ヲ集合セシメ點檢ノ準備ヲ爲スヘシ
「集まれ」 (此令ノ後集まれヘキ隊形ヲ高聲ニ告知ス假令ハ一列橫隊又ハ片手間隔ノ橫隊等ノ如シ)
此ノ號令ニテ巡查ハ速ニ指揮官ノ許ニ集マリ之ニ面シ大凡五六歩ヲ隔テ番號ノ順序ニ從ヒ靜肅ニ集合ス
第二十一條 集合終レハ指揮官ハ順次左ノ號令ヲ下シ列員ヲ一線上ニ整頓セシム

府縣(東京府ヲ除ク)

巡查點檢規則左ノ通之ヲ定ム

巡查點檢規則

第一章 總則
第一條 點檢ハ巡查ノ人員、姿勢、服裝、官給品、官與品ヲ検査スルモノトス
第二條 點檢ヲ別テ通常點檢、臨時點檢トス
第三條 通常點檢ハ人員、姿勢、服裝、日常ノ携帶品及禮式ヲ検査スルモノニシテ其ノ順序左ノ如シ但シ刀身及禮式ノ検査ハ毎朝之ヲ爲ササルモ妨ケナシ
一 人員
二 姿勢、服裝
三 刀身
四 手帖、名刺
五 警笛
六 禮式
七 禮式
第四條 臨時點檢ハ官給品ノ保存及代料ヲ以テ給與スル物品ノ適否ヲ検査スルモノトス
第五條 點檢ハ所屬署長點檢官ト爲リ次席ノ署員指揮官ト爲ル
點檢官不在ノトキハ次席ノ署員之ヲ代理シ指揮官ハ順次次席者代理ス
第六條 點檢ノ時刻前ニハ巡查ノ所定ノ場所ニ集セシムヘシ
第七條 點檢ハ最モ嚴格ニ之ヲ執行シ就中刀身ノ手入、姿勢、服裝ノ正否ハ周到嚴密ニ検査スルモノトス
第八條 外套ヲ拂フトキハ兩肩ハ内ニ納メ之ヲ捲キ兩端ヲ結束シテ左肩ヨリ右腋下ヘ懸クヘシ

降雨ノトキハ外套ヲ著スルハ妨ケナシト雖モ各員一定ナラシムルヲ要ス

第九條 手帖ハ上衣ノ左上腰シニ警笛ハ同右腰シニ捕繩ヲ袴ノ右腰シニ納ム手袋ハ刀緒ニ挟ムモノトス
外套ヲ著スルトキハ手帖、警笛ハ其ノ右腰シニ之ヲ納ムヘシ
第十條 名刺ハ常ニ五枚以上ヲ携帯シ手帖ノ名刺入レニ納メ置クモノトス
第十一條 點檢ノ隊形ハ通常二列橫隊ニ作ルモノトス集合所ノ地形又ハ人員ノ多寡ニ依リ一列橫隊又ハ縱隊或ハ片手間隔ノ橫隊若ハ半圓形ニ作ルコトヲ得
第十二條 集合ハ「集まれ」ノ號令又ハ警笛ノ一長聲ヲ以テス
第十三條 指揮官ハ號令ノ際抜劍セザルモノトス
第十四條 點檢官ハ左ノ方法ニ依リ豫テ巡查ノ集合順序ヲ一定シ置クヲ要ス (第一圖參照)
身軀長短ノ順序ニ從ヒ約二尺四寸 (此距離ハ前者ノ背ヨリ後者ノ胸マテヲ量ル) ノ距離ヲ隔テテ二列ニ編成シ其前後ニ立テタル二人ヲ伍トシ各伍中長大ナル者ヲ第一列ニ置ク列員奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺ク之ヲ缺伍トス
後列員ハ正シク前列員ニ重ナリ同方向ニ位置ス
各列員ノ間隔ハ肘肘互ニ接觸スルコトナク行進ニ當リ手ヲ前後ニ振動スルヲ妨ケザルヲ要ス (此間隔ハ右手ヲ腹骨上ニ當テ肘ヲ側方ニ張りタルトキ輕ク右肩ノ左臂ニ觸ルルヲ度トス) 各伍ハ第一列正面ニ在テ右ヨリ左ニ番號ヲ附列ノ兩翼前列ニ二名ノ標導ヲ置ク標導ハ巡查部

一 氣ヲ付ケル
此ノ號令ニテ列員ハ不動ノ姿勢ヲ取ル其ノ法兩踵ヲ一線上ニ揃ヘ足尖ヲ矩形ヨリモ少シク狭ク(兩足尖ノ間隔ハ足裏ノ長サヲ以テ度トス)閉キ兩膝ハ力ヲ加ヘテ伸ハシ之ヲ接著シ上體ハ正シク腰ノ上ニ落テ付ケ兩肩ヲ後方ニ引キ兩臂ハ伸ハシテ之ヲ下ケ指ハ伸ハシテ之ヲ並ヘ小指ヲ對シ目ノ後ニ當テ頭ハ正シク眞直ニ保テ兩眼ハ遠ク前面ノ一點ヲ直視ス

二 番號
此ノ號令ニテ右翼首位ノ者ヨリ單簡明瞭最モ迅速ニ一ト發聲シツ頭ヲ左ニ廻ハシ次キノモノ即チ二番ニ唱ヘ送り直ニ頭ヲ正面ニ復ス斯ノ如クシテ順次末尾ニ至ル

三 進退
此ノ號令ニテ兩翼總務ヲ示サレタル步數ヲ前進ス指揮官ハ直ニ驅歩ヲ以テ右總務ノ右側ニ歩ノ處ニ立テ兩總務ヲ一線上ニ位置セシメ列員整頓ノ基準線ヲ作ルモノトス

四 準備
此ノ號令ニテ列員ハ三歩(二歩、四歩、五歩)前進シ最後ノ一歩ヲ少シク縮メ整頓線ノ後方五六寸ノ處ニ止マリ右手ヲ體骨ノ上ニ上ケ拇指ヲ後ニシ他ノ四指ヲ接シテ之上前ニシ肘ヲ側方ニ張り上體ヲ前後ニ出スコトナク頭ヲ右(左)ニ向ケ右眼(左眼)ヲ以テ己レヨリ三番目ノ列員ノ眼ノ部ヲ通視シ左眼(右眼)ヲ以テ全線ヲ通視シ得ルマテ小サキ歩ヲ以テ前後シ靜ニ整頓線ニ就テ押伍(若シ二列ナルトキハ後列員モ)ハ正シク前列員ニ重ナリテ距離ヲ取リ右方(左方)ニ整

頓ス
兩翼總務ハ己レニ近キ者ヨリ逐次進ニ何番後(何番前)ト呼ヒ整頓ヲ正スヘシ

五 直進
此ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復シ右手ヲ垂下ス後列ヲ六歩ノ距離ニ展開ス

六 前列ヲ六歩前ヘ一進メ
此ノ號令ニテ前列員ハ左足ヨリ六歩前進ス

第二十二條 前條ノ動作終レハ左ノ號令ヲ下シ列員ヲ休憩セシメ點檢官ノ處場ヲ待ツモノトス

此ノ號令ニテ列員ハ右足ハ其儘ニシテ左足ヲ足裏ノ長サ程其ノ方向ニ出シ姿勢ニ意ヲ止ムルコトナク休憩ス

若シ右足ヲ休メント欲セハ正シク左足ヲ舊位ニ復シ右足ヲ左足ヲ休メタル如クス如何ナル場合ト雖モ兩足同時ニ舊位ヲ離シ又ハ談話スルコトヲ得ス

第二十三條 點檢官處場スルトキハ指揮官ハ一氣ヲ付ケルノ號令ヲ下シ列員ニ不動ノ姿勢ヲ取ラシメ直ニ點檢官ノ許ニ至リ相當ノ敬禮ヲ行フタル後人員ノ報告ヲ爲スヘシ

第二十四條 點檢官ハ指揮官ヨリ人員ノ報告ヲ受ケ終レハ直ニ列ノ右翼前面ヨリ左翼ヲ通過シ背後ニ回ハリ(若シ二列ナレハ後列モ前列ノ如クス)服裝、刀鞘、靴、手袋、下襪、姿勢ヲ檢査シ終リテ定位ニ就クヘシ但シ指揮官ハ點檢官ニ隨行スルモノトス

第二十五條 前條ノ檢査終リ刀身ノ檢査ヲ爲ス場合ハ左ノ號令ヲ下シ各人ノ距離間隔ヲ取ラシム但シ人員少數ナルトキハ適宜ノ號令ヲ以テ間隔

ヲ取ラシムルモ妨ケナシ

奇數員(偶數員)三歩前ヘ一進メ
次ニ左ノ號令ヲ下シ拔劍セシム

一 此ノ號令ニテ列員ハ左ノ分解動作ヲ爲ス
拔ケリノ豫令ニテ左手ヲ以テ鞘ノ第一環上部ヲ握リ右手ヲ以テ劍柄ヲ握リ約半釐口一寸餘ヲ緩ム

二 劍ノ助令ニテ活潑ニ劍ヲ抜き右足尖ノ方向ニ伸ハシ劍背ヲ上ニシ劍先ヲ眼ノ高サニシ兩眼ヲ切先ニ注ク

三 劍柄ヲ右手ノ拇指ト食指ト中指ト間ニ把持シ他ノ二指ヲ劍柄ノ後ニ當テツツ之ヲ下ケ右腕骨ノ稍下方ニ接著シ肘ヲ成ルヘク後ニ引キ劍身ヲ眞直ニシ劍背ヲ肩ノ縫目ニ接スルト同時ニ頭ヲ正面ニ復シ左手ヲ垂下ス

第二十六條 拔劍動作終レハ點檢官ハ第一列右翼ヨリ劍ノ把持法特ニ刀身ヲ檢査シ荷モ手入ノ粗澗アルトキハ嚴戒ヲ加フヘシ此ノ場合ニ於テ指揮官ハ點檢官ニ隨行スルモノトス

第二十七條 刀身ノ檢査終レハ指揮官ハ左ノ號令ヲ以テ劍ヲ納メシムヘシ

一 此號令ニテ列員ハ左ノ分解動作ヲ爲ス
納メリノ豫令ニテ左手ヲ以テ鞘ノ第一環上部ヲ握ル

二 劍ノ助令ニテ右手ノ無名指ト小指ヲ他ノ二指ニ併セ劍柄ヲ握リツツ之ヲ上ケ劍ヲ腹ノ前方ヨリ約半四寸ノ處ニ持來リ劍身ヲ眞直ニシ又チ左方ニ向ク

三 劍身ヲ左方ニ倒シ右手ヲ高ク上ケ眼ヲ釐口ニ注キ劍身ヲ確實ニ納メ速ニ兩手ヲ垂下シ

頭ヲ正面ニ復ス
次ニ指揮官ハ左ノ號令ヲ下シ舊形ニ復サシムヘシ

偶數員(奇數員)三歩前ヘ一進メ
此ノ號令ニテ偶數員(奇數員)ハ左足ヨリ三歩前進シ元ノ位置ニ入ル

第二十八條 人員、姿勢、服裝、刀身ノ檢査ヲ終ラハ指揮官ハ左ノ順序ニ依リ號令ヲ下スヘシ
點檢官ハ指揮官ヲ隨ヘ一品毎ニ第一列右翼ヨリ異狀ノ有無ヲ檢査スヘシ

一 手帖名刺ノ前
此ノ號令ニテ列員ハ左ノ動作ヲ爲ス
一 手帖ノ豫令ニテ右手ヲ以テ隱シヨリ手帖ヲ半ハ程出ス(以下之レニ做フ)

二 前ヘノ動令ニテ手帖ヲ全ク出シ左手ヲ添ヘテ印章名刺ノ部ヲ開キ右掌上ニ置キ拇指ヲ以テ之ヲ支ヘ肘ヲ體ニ接シ前臂ヲ體ト直角ニ出シ左手ハ垂下ス(以下之レニ做フ)

二 收メ
此ノ號令ニテ速ニ左手ヲ添テ手帖ヲ閉チ右手ヲ以テ隱シニ之ヲ納ム

三 捕繩ノ前
此ノ號令ニテ右手ヲ以テ捕繩ヲ出シ之ヲ掌上ニ收セ解キ口ヲ前方上部ニ向ケ之ヲ持ツ

四 解繩
此ノ號令ニテ左手ヲ添テ一齊迅速ニ解繩シ了テ左手ヲ垂下ス

但シ此ノ號令ハ時宜ニ依リ省略スルコトヲ得

五 收メ
此ノ號令ニテ解繩シアルトキハ左手ヲ添ヘ

假ニ三樣ノ禮節之ヲ結メ解繩シアラサルトキハ右手ノミヲ以テ速ニ之ヲ納ム

五 警備ノ前
此ノ號令ニテ右手ヲ以テ警笛ヲ出シ橫穴ヲ下方ニ向ケ之ヲ持ツ

六 發聲
此ノ號令ニテ右翼ヨリ順次吹笛ス但シ發聲ハ時宜ニ依リ省略スルコトヲ得

七 收メ
此ノ號令ニテ之ヲ納ム

第二十九條 前條ノ檢査了リ禮式點檢ヲ行フトキハ左ノ順序ニ依ル

一 室外ノ最敬禮
二 室外ノ敬禮
三 室外同僚間ノ禮
四 兩手物品攜帶ノ敬禮
五 室内ノ最敬禮
六 室内ノ敬禮
七 辭令書物品等授受ノ禮

第三十條 前條第一乃至第四ノ禮式點檢ヲ行フトキハ左ノ號令ヲ下スヘシ

一 前列何歩前ヘ一進メ
此ノ號令ニテ場所ノ許ス程度ニ於テ成ルヘク廣ク展開セシム

二 前列同ハレ 右
此ノ號令ニテ左ノ分解動作ヲ爲ス

一 右足ヲ其ノ方向ニ於テ後ロニ引キ右足尖ヲ左踵ニ接ス

二 兩脚ニ力ヲ加ヘテ伸ハシ兩踵ヲ心トシ兩足尖ヲ輕ク上ケ腰ト離ニテ迅速ニ余ク後ロニ向キ同ハレ

三 右足ヲ左足ニ引著ケテ左方ニ整頓ス

第三十一條 前條ノ如ク前條檢査ノ距離間隔ヲ對向スレハ點檢官及指揮官ハ列ノ右側方適當ノ位置ニ就キ第二十九條ノ順序ヲ追フテ禮式ノ種類ヲ指示シ前列(後列)ヲ受禮者トシ後列(前列)ヲ行禮者トス但シ人員多數ナルトキハ一列員ニハ最敬禮他ノ一列員ニハ同僚間ノ敬禮ヲ行ハシメ順次行ヒ終レハ次ニ一列員ニハ室外ノ敬禮他ノ一列員ニハ物品攜帶(手帖ヲ物品ト見做シ攜帶セシム)ノ禮ヲ行ハシムル等便宜ニ從フコトヲ得(第二圖參照)

指揮官禮式ノ種類ヲ指示シ了レハ左ノ號令ヲ下スヘシ

始メ
此ノ號令ニテ前列(後列)ノ一番及後列(前列)ノ終番員ハ左足ヨリ五ニ前進シテ前後列員行進ヒ五ニ五歩ノ處ニ至リ指示セラレタル禮式ヲ行ヒ了テ前進シ列ノ後ロニ至リ正面ニ位置ス

右禮式了レハ他ノ列員ハ指揮官ノ指示ヲ待タズ逐次前進シテ末尾ニ至ルヘシ若シ末尾奇數ナルトキハ指揮官ヲ受禮者ト見做スヘシ

第三十二條 禮式點檢ニ於テ規定ノ禮式ニ違ヒ又ハ動作不充ナルトキハ點檢官又ハ指揮官ハ式ニ適合スルマテ反覆之ヲ行ハシムヘシ

第三十三條 第二十九條第五乃至第七ノ禮式點檢ヲ行フトキハ列ノ右翼ヨリ順次指揮官ハ一々之レニ答マテ進ミ禮式ヲ爲サシメ指揮官ハ一々之レニ答禮スヘシ辭令書物品等授受ノ禮ハ便宜手帖ヲ辭令書又ハ物品ト見做シ指揮官ハ奇數員ヲ以テ捧呈者トシ偶數員ヲ以テ拜受者トシ順次末尾ニ至ラシムヘシ(第三圖參照)

禮式宜シキヲ得ヌ又ハ動作不充ナルトキハ答

視テ爲サス又ハ辭令書若ハ物品ヲ授受セズ之ヲ
矯正シテ後ニ答禮又ハ授受スヘシ

第三十四條 全員ノ點檢了レハ指揮官ハ二列ニ在
リタルモノハ元ノ二列橫隊ニ復サシムル爲メ左
ノ號令ヲ下スヘシ

前列何歩前ヘ一進メ
此ノ號令ニテ前列ハ左足ヨリ進ミテ元ノ線
上ニ就ク

同ハレ一右
此號令ニテ前列ハ余ク元ノ二列橫隊ニ復ス
第三十五條 指揮官ハ列ヲ解散セシムル爲メ一解
列一進メ一號令ヲ下シ列員ハ點檢官及指揮
官ニ對シ一齊ニ敬禮ヲ爲シ解散スヘシ

第三章 臨時點檢
第三十六條 臨時點檢ハ毎月一回以上之ヲ行フモ
ノトス

駐在所其ノ他遠隔ノ地ニ在動スル巡査ニ對シテ
ハ監督巡視ノ際之ヲ行フモノトス

第三十七條 物品點檢ハ帽、被服、外套、肌着、
長短靴、履草、提燈等ノ使用保存ノ當否及代料
渡品ノ適否破綻ノ手入レ銀其ノ他徽章ノ正否手
帖ノ記載事項等嚴密詳細ニ檢査スルモノトス其
ノ不都合ト認ムルモノハ期間ヲ定メ修繕セシム
ルヲ要ス

第三十八條 物品配置ノ場所ハ豫メ一定シ置キ一
見檢査ニ差支ナキ様配列シ受檢者ハ其ノ前ニ整
列スヘシ

第三十九條 物品ノ點檢了レハ點檢官ハ指揮官ヲ
隨ヘ列ノ右翼(左翼)ヨリ檢査ヲ爲シ終テ指揮官
ハ物品ヲ收メシメ「解列」進メ一號令ヲ下シ
第三十五條ノ如ク敬禮ヲ行ヒ解散スヘシ但シ人
員少數ナルトキハ此ノ號令ヲ略スルコトヲ得

第二款 管轄區域

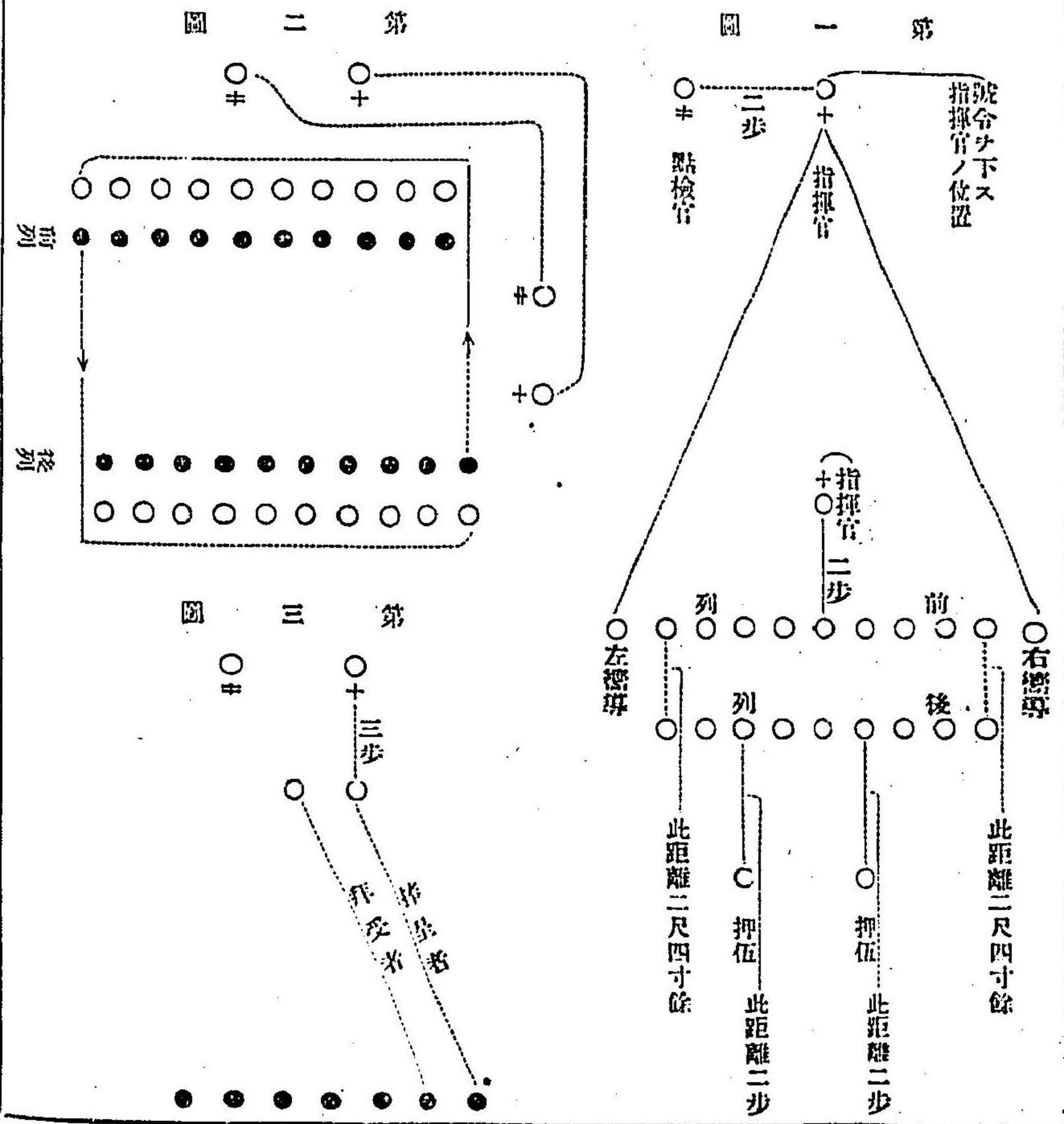
● 郡市ノ區域ニ依ラサル警
察署管轄區域 (明治二十六
年十一月
勅令第二
百十四號)

朕郡市ノ區域ニ依ラサル警察署管轄區域ノ件ヲ裁
可シ茲ニ之ヲ公布セシム
郡市ノ區域ニ依ラサル警察署管轄區域別表ノ通之
ヲ定ム

附則

本令ハ明治二十六年十二月一日ヨリ施行ス
(別表略ス)

- 二十七年勅令第四十五號 京都府、岩手縣、鳥
取縣、福岡縣ノ部改正追加
- 二十九年勅令第五十五號 各府縣ノ部改正追加
○二十九年勅令第五十五號 兵庫縣、山口縣
ノ部改正
- 二十九年勅令第七十號 鳥取縣ノ部改正
○二十九年勅令第七十二號 神奈川縣ノ部
改正
- 三十年內務省告示第五號 佐賀縣ノ部改正
○三十年內務省告示第六號 千葉縣、島根縣、愛
媛縣ノ部改正
- 三十年內務省告示第二十號 大阪府、奈良縣、
岐阜縣、岩手縣、鹿兒島縣ノ部改正削除
- 三十年內務省告示第二十七號 石川縣ノ部改正
○三十年內務省告示第二十八號 長野縣ノ部追加
○三十年內務省告示第三十二號 三重縣ノ部改正
○三十年內務省告示第三十三號 大分縣ノ部削除
○三十年內務省告示第四十九號 大阪府ノ部追加
○三十年內務省告示第五十三號 長崎縣ノ部改正



- 三十年內務省告示第五十四號 三重縣ノ部追加
○三十一年內務省告示第八號 奈良縣ノ部追加
○三十一年內務省告示第十四號 石川縣ノ部改正
○三十一年內務省告示第十七號 大阪府ノ部改正
○三十一年內務省告示第二十七號 廣島縣ノ部改
正
- 三十一年內務省告示第二十八號 青森縣ノ部改
正
- 三十一年內務省告示第四十三號 德島縣ノ部改
正
- 三十一年內務省告示第九十六號 廣島縣ノ部改
正
- 三十一年內務省告示第九十七號 滋賀縣ノ部追
加
- 三十二年內務省告示第二十七號 和歌山縣ノ部
追加
- 三十二年內務省告示第三十一號 愛媛縣ノ部刪
除
- 三十二年內務省告示第三十二號 新潟縣ノ部追
加
- 三十二年內務省告示第三十三號 兵庫縣ノ部改
正
- 三十二年內務省告示第三十五號 香川縣ノ部改
正
- 三十二年內務省告示第三十八號 茨城縣ノ部改
正
- 三十二年內務省告示第五十號 宮城縣ノ部追加
○三十二年內務省告示第六十八號 高知縣ノ部追
加
- 三十二年內務省告示第七十二號 神奈川縣ノ部
追加
- 三十二年內務省告示第九十五號 愛知縣ノ部改正
- 三十三年內務省告示第二十四號 神奈川縣、廣
島縣ノ部改正
- 三十三年內務省告示第五十八號 福岡縣ノ部改
正
- 三十三年內務省告示第七十七號 群馬縣ノ部改
正
- 三十四年內務省告示第十三號 德島縣ノ部改正
○三十四年內務省告示第十五號 靜岡縣ノ部追加
○三十四年內務省告示第十八號 福岡縣ノ部追加
○三十四年內務省告示第二十二號 神奈川縣ノ部
改正
- 三十四年內務省告示第四十九號 山口縣ノ部改
正
- 三十四年內務省告示第六十八號 香川縣ノ部改
正追加
- 三十四年內務省告示第七十二號 岡山縣ノ部追
加
- 三十四年內務省告示第九十六號 京都府ノ部改
正追加
- 三十五年內務省告示第四號 愛知縣ノ部追加
○三十五年內務省告示第二十號 富山縣ノ部追加
○三十五年內務省告示第三十三號 三重縣ノ部刪
除追加
- 三十五年內務省告示第三十五號 長崎縣ノ部改
正
- 三十五年內務省告示第三十六號 新潟縣ノ部刪
除追加
- 三十五年內務省告示第四十二號 埼玉縣ノ部改
正
- 三十五年內務省告示第五十一號 福島縣ノ部改
正

- 三十五年內務省告示第七十號 茨城縣ノ部改正 删除追加
- 三十五年內務省告示第七十一號 宮城縣ノ部追加 删除
- 三十五年內務省告示第七十四號 廣島縣ノ部改正
- 三十五年內務省告示第七十五號 和歌山縣ノ部改正 删除
- 三十五年內務省告示第七十六號 岩手縣ノ部改正 删除
- 三十五年內務省告示第七十七號 大阪府ノ部改正 追加

●沖繩縣那覇、糸滿、首里、嘉手納警察署管轄區域
(內務省告示第四十三號)

署名	管轄區域
那覇警察署	那覇區一四 島尻郡ノ内 小笠原町切 豐見城町切 宜和志町切 仲志志町切 古波敷町切 安里村切 天久村切 渡敷町切 座間味町切 仲里町切 伊平屋島切
嘉手納警察署	安牧國場 附志儀村 村切

沖繩縣那覇警察署糸滿警察署首里警察署及嘉手納警察署管轄區域ノ通り定メ明治三十三年六月一日ヨリ施行ス

署名	管轄區域
糸滿警察署	島尻郡ノ内 高城町切 高城町切 喜屋武町切 東風平町切 東風平町切
首里警察署	首里區一四 島尻郡ノ内 宜和志町切 上間村切 大里村切 南風原町切 佐敷町切 王城町切 中頭町切 浦添町切 宜野郡切 中城町切
嘉手納警察署	中頭郡ノ内 北谷町切 讀谷山切 越來町切 具志川町切 勝運町切

各地方ニ於テ從來取敢有之候警察出張所並屯所等ノ名義ヲ廢シ更ニ出張所ヲ警察署屯所ヲ分署ト改稱シ各設置スル所ノ地名ヲ冠唱可致云々(以下略之)

但警察署門牌左ノ通稱示可致尤モ改正ノ上ハ其地名詳細可届出事
(門牌形略之)

●警察官署ノ名稱ハ所在地名ヲ冠シ門標掲出ノ件
(明治三十五年六月)
(內務省訓令第十三號)

●警察巡因規則 (明治二十年六月)
(內務省訓令第三十六號)

警察巡因規則左ノ通り定ム

警察巡因規則
第一條 本則ハ警察各部ニ於ケル犯罪ノ根拠、職務ノ勤惰、處務ノ整否、其他法律命令實施ノ狀況ヲ視察シ警察ノ實効ヲ取メシムルカ爲メニ設ケルモノトス

第二條 巡因ハ毎年一回東京ニ在テハ警察本署長其他ノ府縣ニ在テハ警察局長ヲ以テ之ヲ施行セシムヘシ(二十六年內務省訓令第八號改正ニ依ル)

第三條 巡因官ハ左ノ項目ニ就キ其方法ノ如何ヲ

●警察賞與規則 (明治三十年十月)
(勅令第四號)

- 一 執行事務及其報告ノ方法
- 二 執行官更ノ配置及警備
- 三 執行事務ノ監督及警備ノ監督
- 四 非常召集ノ方法
- 五 司法警察官ノ被告人ノ捜査、逮捕、訊問及檢察官ヘ送付ノ手續等
- 六 留置人取扱及送傳護送
- 七 諸顧問等ニ關スル諸文書ノ取扱
- 八 遠警押及諸規則違反者處分
- 九 月口調査及監視人ノ取扱
- 十 文書統計記録ノ整理
- 十一 服裝姿勢及禮式
- 十二 教習及訓授
- 十三 會計經理及被服給與
- 十四 警察署分署派出所及留置場ノ構造設置
- 十五 火災消防及器具ノ使用
- 十六 警察上緊要ノ器具
- 十七 集會ニ關スル取締
- 十八 衛生警察ニ傳染病撲滅ノ方法及衛生ニ關スル諸般ノ取締
- 十九 交通取締即チ道路及舟車ノ狀況等
- 二十 衛生風俗及公安ニ關スル營業取締等
- 第二條 衛生風俗及公安ニ關スル營業取締等
- 第三條 衛生風俗及公安ニ關スル營業取締等
- 第四條 衛生風俗及公安ニ關スル營業取締等
- 第五條 衛生風俗及公安ニ關スル營業取締等
- 第六條 衛生風俗及公安ニ關スル營業取締等

●警察賞與規則施行細則
(明治三十二年十月)
(內務省令第五十二號)

- 第一條 警察賞與規則施行細則左ノ通り定ム
- 第二條 警察賞與規則施行細則
- 第三條 警察賞與規則施行細則
- 第四條 警察賞與規則施行細則
- 第五條 警察賞與規則施行細則
- 第六條 警察賞與規則施行細則
- 第七條 警察賞與規則施行細則
- 第八條 警察賞與規則施行細則
- 第九條 警察賞與規則施行細則
- 第十條 警察賞與規則施行細則
- 第十一條 警察賞與規則施行細則
- 第十二條 警察賞與規則施行細則
- 第十三條 警察賞與規則施行細則
- 第十四條 警察賞與規則施行細則
- 第十五條 警察賞與規則施行細則
- 第十六條 警察賞與規則施行細則
- 第十七條 警察賞與規則施行細則
- 第十八條 警察賞與規則施行細則
- 第十九條 警察賞與規則施行細則
- 第二十條 警察賞與規則施行細則

●救済

- 一 急遽際ノ警察官ノ請求ニ應ジテ爲シタル補助
- 二 金拾五圓以上五十圓以下ノ特別賞與
- 三 賞與
- 第四條 第一條第一號ニ依ル賞與ハ確定判決ニ至ラズト雖犯罪ノ事實明白ナリト認ムヘキトキハ之ヲ行フコトヲ得
- 第五條 功勞者賞與前ニ死亡シタルトキハ賞與ノ金額ハ左ノ順序ニ從ヒ最近親族ニ給ス但同順位ノ者數人アルトキハ年長者ニ給ス
- 第六條 賞與ハ警察官ノ他警察事務ニ從事スル者ニ對シテハ其ノ功勞特ニ顯著ナルトキニ限リ賞與ヲ行フモノトス
- 第七條 功勞者賞與前ニ死亡シタルトキハ賞與ノ金額ハ左ノ順序ニ從ヒ最近親族ニ給ス但同順位ノ者數人アルトキハ年長者ニ給ス
- 第八條 賞與ハ警察官ノ他警察事務ニ從事スル者ニ對シテハ其ノ功勞特ニ顯著ナルトキニ限リ賞與ヲ行フモノトス
- 第九條 功勞者賞與前ニ死亡シタルトキハ賞與ノ金額ハ左ノ順序ニ從ヒ最近親族ニ給ス但同順位ノ者數人アルトキハ年長者ニ給ス
- 第十條 賞與ハ警察官ノ他警察事務ニ從事スル者ニ對シテハ其ノ功勞特ニ顯著ナルトキニ限リ賞與ヲ行フモノトス
- 第十一條 功勞者賞與前ニ死亡シタルトキハ賞與ノ金額ハ左ノ順序ニ從ヒ最近親族ニ給ス但同順位ノ者數人アルトキハ年長者ニ給ス
- 第十二條 賞與ハ警察官ノ他警察事務ニ從事スル者ニ對シテハ其ノ功勞特ニ顯著ナルトキニ限リ賞與ヲ行フモノトス
- 第十三條 功勞者賞與前ニ死亡シタルトキハ賞與ノ金額ハ左ノ順序ニ從ヒ最近親族ニ給ス但同順位ノ者數人アルトキハ年長者ニ給ス
- 第十四條 賞與ハ警察官ノ他警察事務ニ從事スル者ニ對シテハ其ノ功勞特ニ顯著ナルトキニ限リ賞與ヲ行フモノトス
- 第十五條 功勞者賞與前ニ死亡シタルトキハ賞與ノ金額ハ左ノ順序ニ從ヒ最近親族ニ給ス但同順位ノ者數人アルトキハ年長者ニ給ス
- 第十六條 賞與ハ警察官ノ他警察事務ニ從事スル者ニ對シテハ其ノ功勞特ニ顯著ナルトキニ限リ賞與ヲ行フモノトス
- 第十七條 功勞者賞與前ニ死亡シタルトキハ賞與ノ金額ハ左ノ順序ニ從ヒ最近親族ニ給ス但同順位ノ者數人アルトキハ年長者ニ給ス
- 第十八條 賞與ハ警察官ノ他警察事務ニ從事スル者ニ對シテハ其ノ功勞特ニ顯著ナルトキニ限リ賞與ヲ行フモノトス
- 第十九條 功勞者賞與前ニ死亡シタルトキハ賞與ノ金額ハ左ノ順序ニ從ヒ最近親族ニ給ス但同順位ノ者數人アルトキハ年長者ニ給ス
- 第二十條 賞與ハ警察官ノ他警察事務ニ從事スル者ニ對シテハ其ノ功勞特ニ顯著ナルトキニ限リ賞與ヲ行フモノトス

為地所轄廳府縣
三 第一條第四號ノ場合ニ在リテハ補助ヲ請求
シタル警察官所屬廳府縣

● 一般人民巡查同様ノ働ヲ
ナシ死傷セシ者吊祭扶助
療治料支給方 (明治十五
年十二月
十七號達)

一般人民ニシテ巡查同様ノ働ヲナシ死傷セシ者吊
祭扶助療治料支給方左ノ通相定候條此旨相違候事
吊祭扶助療治料

一 吊祭料
重傷死ニ至ル者へ金三拾圓ヲ給ス親族故舊ナ
キモハ月長役場ニ付シ便宜處分セシム
一 遺族扶助料
父母妻子若クハ死者ニ依リ從來生計ヲナセシ
モノハ金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラ
サル額ヲ給ス

一 傷病扶助料
一 傷病(終身不具トナリ自用ヲ辨スル能ハサ
ル者)へ金六拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多
カラサル額ヲ給ス
二 等傷終身不具トナルモ自用ヲ辨シ得ル者
へ金拾圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサ
ル額ヲ給ス

一 療治料
傷病ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

● 府縣警察費ニ對シ國庫下

渡金ノ割合 (明治二十二年八月)
勅令第六十一號
朕地方稅中警察費ニ對スル國庫下渡金改正ノ件ヲ
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治十四年(二月)第十六號布告府縣警察費ニ對ス
ル國庫下渡金ノ割合左ノ通相定ス

第一條 地方稅中警察費及警察廳舍建築修繕費ニ
對スル國庫下渡金ノ割合ハ東京府ハ其總高ノ拾
分ノ四トシ其他ノ府縣(沖繩縣ヲ除ク)ハ六分ノ
一トス

第二條 前條割合ノ外警察官並ニ之ニ準スヘキ
備内外國人ノ賄給與警視廳ノ經費ハ從前ノ通國
庫ヨリ支給ス

● 銀行諸會社及人民等ヨリ
巡查配置請願取計方 (明治十四
年四月
二十二號達)

銀行及諸會社又ハ町村協議會ハ人民一己ヨリ其
費用ヲ納メ巡查ノ配置ヲ請願スル者ハ自今開屆請
願ノ場所へ配置不著條條該費收支方ハ國庫下渡金
地方稅等ニ運帶セズ別ニ其帳簿ヲ調製シ毎年地方
稅收出納算書ト同時ニ報告スヘシ此旨相違候事
但木文配置ノ巡查ハ一般ノ成規ニ從ヒ異同無之
樣取計フヘシ

● 請願巡查經費ニ關スル件
(明治二十三年十月
內務省勅令第三十八號)
警視廳 府縣(沖繩縣ヲ除ク)
明治十四年(四月)內務省乙第二十二號達銀行及
諸會社其他ヨリ請願ニ依リ配置スル巡查ハ地方稅

支辨ニ關スル巡查ヲ以テ之ニ充テ其請願者ヨリ納
ムヘキ費用ハ府縣會ノ決議ヲ經テ其額ヲ定メテ徵收
シ地方稅雜收入ニ編入警察費ニ支出スヘシ

第六款 保安
● 豫戒令 (明治二十五年一月)
勅令第十一號

朕公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ極密顧問ノ諮詢
ヲ經テ豫戒令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 警視廳北北海道廳長官府縣知事ハ公共ノ
安寧秩序ヲ保持スル爲メ左ノ事項ニ該當スル者
ト認ムルトキハ豫戒命令ヲ爲スコトヲ得
一 一定ノ生業ヲ有セス平常粗糲ノ言論行爲ヲ
事トスル者
二 總テ他人ノ開設スル集會ヲ妨害シ又ハ妨害
セントシタル者
三 公私仲間ノ他人ノ業務行爲ニ干渉シテ其
自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者
四 第二號又ハ第三號ニ揭グル妨害行爲スル目
的ヲ以テ第一號ヨリ第三號マテニ記載シタル
者ヲ使用シタル者

第二條 豫戒命令ハ左ノ如シ
一 一定ノ期限内ニ違法ノ生業ヲ求メテ之ニ從
事スヘキコトヲ命ス
二 總テ他人ノ開設スル集會ニ立入り妨害ヲ爲
スヘカワサルコトヲ命ス
三 如何ナル口實ニ拘ハラズ財物ヲ強請シ不當
ノ要求ヲ爲シ強テ面會ヲ求メ脅迫ニ涉ル書面
ヲ用ヒ勸告書ヲ送り又ハ如何ナル方法タルヲ
問ハス暴威ヲ示シテ他人ノ進退意見ヲ變更セ
シメントシ其他他人ノ業務行爲ヲ妨害シ又ハ

妨害セントスルノ所行ヲ爲スヘカワサルコト
ヲ命ス
四 人ヲ使用シテ他人ノ開設スル集會ヲ
妨害シ又ハ妨害セントシタル他人ノ業務行爲
ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントス
ルノ所行ヲ爲サシメタルコト及ヒ豫戒命令ヲ
受ケタル者ヲ扶助シ又ハ使用スヘカワサルコ
トヲ命ス但シ親族ノ故ヲ以テ之ヲ扶助スル場
合ハ此ノ限ニ在ラス

妨害セントスルノ所行ヲ爲スヘカワサルコト
ヲ命ス
四 人ヲ使用シテ他人ノ開設スル集會ヲ
妨害シ又ハ妨害セントシタル他人ノ業務行爲
ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントス
ルノ所行ヲ爲サシメタルコト及ヒ豫戒命令ヲ
受ケタル者ヲ扶助シ又ハ使用スヘカワサルコ
トヲ命ス但シ親族ノ故ヲ以テ之ヲ扶助スル場
合ハ此ノ限ニ在ラス

前條第一號ニ該當スル者ニ對シテハ第一號第二
號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第二號第三
號ニ該當スル者ニ對シテハ第二號第三號ノ事項
ヲ併セテ命令シ前條第四號ニ該當スル者ニ對シ
テハ第四號ノ事項ヲ命令ス

第三條 豫戒命令ヲ受ケタル者其現住居ヲ轉スル
トキハ轉居ノ前二十四時間内ニ其旨ヲ當住居ノ
所轄警察署ニ届出テ轉居ノ後二十四時間内ニ其
旨ヲ新住居ノ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第四條 豫戒命令ヲ受ケタル者三年以内ニ其命
令又ハ第三條ノ規程ニ違犯シタル者ハ左ノ區別
ニ從ヒ之ヲ處罰ス
第二條第一號ノ違犯者ハ三日以上十日以下ノ
拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ
科料ニ處ス

第二條第二號ノ違犯者ハ十一日以上二月以下
ノ重禁錮ニ處ス
第二條第三號ノ違犯者ハ一月以上四月以下ノ
重禁錮ニ處ス其所犯官吏又ハ公吏ノ職務ニ對
スルトキハ一等ヲ加フ

第二條第四號ノ違犯者ハ二月以上六月以下ノ
重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處
ス

第三條ノ違犯者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金
ニ處ス
第五條 豫戒命令ヲ爲スニハ命令書ヲ作リ其命令
ヲ受ケル者ノ氏名年齢身分職業本籍住所第一條
第四號ニ該當スル者タルコト第二條ニ記載シタル
命令第三條ノ全文第四條ニ記載シタル違犯者
ノ開列並ニ命令ヲ爲シタル年月日警視廳長官
道廳長官府縣知事官氏名ヲ記載シテ本人ニ下付
シ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第六條 豫戒命令ヲ受ケタル者一年以上ヲ經過シ
後改メ情狀著シキトキハ警視廳長官北海道廳長官
府縣知事ニ於テ其命令ヲ解除スルコトヲ得此場
合ニ於テハ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第七條 豫戒命令ヲ受ケタル者止宿又ハ同居セ
シムル者ハ二十四時間内ニ其旨ヲ所轄警察署ニ
届出テ又所轄警察署ノ要求アルトキハ本令ノ施
行ニ關スル事項ニ付事實ノ申立ヲ爲スヘシ若シ
其届出ヲ怠リ又ハ不實ノ申立ヲ爲シタルトキハ
三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 豫戒命令違犯ノ刑ハ其本住所ノ地ノ所屬
監獄ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得
第九條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

● 治安警察法 (明治三十三年三月)
法律第三十六號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ治安警察法ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム

治安警察法
第一條 政事ニ關スル結社ノ主幹者(支社ニ在リ
テハ支社ノ主幹者)ハ結社組織ノ日ヨリ三日以
内ニ姓名、社則、事務所及其ノ主幹者ノ姓名ヲ
其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ツベシ
其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第二條 政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ヲ開カム
トスル者ハ發起人ヲ定ムヘシ
發起人ハ到達スヘキ時間ヲ除キ開會三時間以前
ニ集會ノ場所、年月日時ヲ會場所在地ノ管轄警
察官署ニ届出ツベシ

第三條 公事ニ關スル結社又ハ集會ニシテ政事ニ
關セサルモノハ治安警察法ヲ保持スル爲メ届出ヲ
必要トスルモノトシテ其旨ヲ命令書ヲ以テ第一條又
ハ第二條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第四條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セ
ムトスルトキハ發起人ヨリ十二時間以前ニ會同
スヘキ場所、年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ
管轄警察官署ニ届出ツベシ但シ祭葬、講社、學
生、生徒ノ體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ル
モノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 左ニ掲グル者ハ政事上ノ結社ニ加入スル
コトヲ得ス
一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人
二 警察官
三 警官神職僧侶其他諸宗教師
四 官立公立私立學校ノ教員學生生徒
五 女子
六 未成年者

七 公權剝奪及停止中ノ者
女子及未成年者ハ公衆ヲ會同スル政談集會ニ會
同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス

公權剝奪及停止中ノ者ハ公衆ヲ合同スル政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

第六條 日本臣民ニ非サル者ハ政事上ノ結社ニ加入シ又ハ公衆ヲ合同スル政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

第七條 結社ハ法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設ケルコトヲ得ス

第八條 安寧秩序ヲ保持スル爲必要ナル場合ニ於テハ警察官ハ屋外ノ集會又ハ多衆ノ運動若ハ群集ヲ制限、禁止若ハ解散シ又ハ屋內ノ集會ヲ解散スルコトヲ得

結社ニシテ前項ニ該當スルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ該法處分ニ由リ權利ヲ侵害セラレタルトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 集會ニ於テハ重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ヲ公判ニ付セサル以前ニ該談論シ又ハ傍聽ヲ禁ズタル所限ニ關スル事項ヲ該談論スルコトヲ得

集會ニ於テハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ犯罪人若ハ刑罰被罰者ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑罰被罰者ヲ該當スルノ譏諷論議ヲ爲スコトヲ得

第十條 集會ニ於ケル開談論議ニシテ前條ノ規定ニ違背シ其ノ他安寧秩序ヲ害シ若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル場合ニ於テハ警察官ハ其ノ人ノ開談論議ヲ中止スルコトヲ得

第十一條 結社、集會又ハ多衆運動ニ關シ警察官ノ尋問アリタルトキハ主幹者、會長、發起人ニ於テ又ハ警察官ノ主ナル社員若ハ主ナル合同者ト認ムル者ニ於テ之ヲ答フヘシ

警察官等ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政事

ニ關シ公衆ヲ合同スル集會ニ臨監セシムルコトヲ得其ノ集會ニシテ政事ニ關セサルモノト雖安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキ亦同シ此ノ場合ニハ發起人ニ於テ又ハ警察官ノ主ナル合同者ト認ムル者ニ於テ警察官ノ求ムル席ヲ供スヘシ

第十二條 集會又ハ多衆運動ノ場合ニ於テ故ラニ喧擾シ又ハ狂暴ニ涉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ現場ヨリ退去セシムルコトヲ得

第十三條 集會及多衆ノ運動ニ於テハ武器又ハ兇器ヲ携帯スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ武器ヲ携帯スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 秘密ノ結社ハ之ヲ禁ズ

第十五條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員職務準備ノ爲ニ相團結スルモノニ對シテハ第一條及第五條ニ適用ス

第十六條 街頭其ノ他公衆ノ自由ニ交通スルコトヲ得ル場所ニ於テ文書、圖畫、詩歌ノ揭示、頒布、朗讀若ハ放吟又ハ言語形容其ノ他ノ作爲ヲ爲シ其ノ狀況安寧秩序ヲ害シ若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ警察官ニ於テ禁止ヲ命スルコトヲ得

第十七條 左ノ各號ノ目的ヲ以テ他人ニ對シテ暴行、脅迫シ若ハ公然誹毀シ又ハ第二號ノ目的ヲ以テ他人ヲ誘惑若ハ煽動スルコトヲ得

一 勞務ノ條件又ハ報酬ニ關シ協同ノ行動ヲ爲スヘキ團結ニ加入セシメ又ハ其ノ加入ヲ妨クルコト

二 同盟罷業若ハ同盟罷業ヲ遂行スルカ爲便用者ヲシテ勞務者ヲ解雇セシメ若ハ勞務者ニ從事スルノ申込ヲ拒絕セシメ又ハ勞務者ヲシ

テ勞務者ヲ停職セシメ若ハ勞務者トシテ雇傭スルノ申込ヲ拒絕セシムルコト

三 勞務ノ條件又ハ報酬ニ關シ相手方ノ承諾ヲ強コト

耕作ノ目的ニ出ツル土地貸借ノ條件ニ關シ承諾ヲ強コトカ爲相手方ニ對シ暴行、脅迫シ若ハ公然誹毀スルコトヲ得

第十八條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要ト認ムルトキハ武器、爆發物又ハ武器ヲ仕込ミタル物件ノ携帯ヲ禁ズルコトヲ得

第十九條 第一條ニ違背シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第二條第一項又ハ第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二項ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第四條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第五條又ハ第六條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス第五條又ハ第六條ニ違背シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第八條第一項ノ制限若ハ禁止ノ命ニ違背シ又ハ解散ヲ命セラレタル後仍舊散セサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第九條ニ違背シ又ハ第十條ノ中止ノ命ニ違背シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十一條第一項ノ尋問ニ答ヘス若ハ答フルモ實ヲ以テセス又ハ第二項ノ場合ニ於テ警察官ノ臨監ヲ拒ミ若ハ其ノ求ムル席ヲ供セサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第十二條ニ依リ退去ヲ命セラレタル後仍舊去セサル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第十三條ニ違背シタル者ハ三月以下ノ輕禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 秘密ノ結社ヲ組織シ又ハ秘密ノ結社ニ加入シタル者ハ六月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二十九條 第十六條ノ禁止ノ命ニ違背シタル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第十七條ニ違背シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス使用者ノ同盟罷業又ハ勞務者ノ同盟罷業ニ加入セサル者ニ對シテ暴行、脅迫シ若ハ公然誹毀スル者亦同シ

第三十一條 第十八條ノ禁ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三十二條 本法ニ關スル公訴ノ時効ハ六箇月トス

第三十三條 集會及政談法ハ之ヲ廢止ス

官吏職務外ノ演説、叙述
ヲ許シ取締方ヲ定ム (明治二十年內閣訓令)

凡ソ官吏タル者ハ自今其職務外ト雖モ公衆ニ對シ政事又ハ學術上ノ意見ヲ演説シ又ハ之ヲ叙述ス

第十五類 第一章 警察 第七款 遺失物

ルコトヲ得但各長官ノ監督ニ從屬スヘシ
法律規則ヲ以テ特ニ制限セラレタル官吏ハ前項ノ限ニ在ラス

第七款 遺失物
(明治三十二年三月法律第八十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル遺失物法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遺失物法

第一條 他人ノ遺失シタル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ遺失者又ハ所有者其ノ他物件回復ノ請求權ヲ有スル者ニ其ノ物件ヲ返還シ又ハ警察官署ニ之ヲ差出スヘシ但シ法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁ズタル物件ハ返還スルノ限ニ在ラス

物件ヲ警察官署ニ差出シタルトキハ警察官署ハ物件ヲ返還シ受クヘキ者ニ之ヲ返還スヘシ若シ返還ヲ受クヘキ者ノ氏名又ハ居所ヲ知ルコト能ハサルトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲スヘシ

第二條 警察官署ハ其ノ保管ノ物件滅失又ハ毀損ノ虞アルトキ又ハ其ノ保管ニ不相當ノ費用若ハ手数ヲ要スルトキハ命令ノ定ムル方法ニ從ヒ之ヲ賣却スルコトヲ得

賣却ノ費用ハ賣却代金ヨリ支辨ス

賣却費用ヲ控除シタル賣却代金ノ殘額ハ拾得物ト對シテ之ヲ保管ス

第三條 拾得物ノ保管費公告費其ノ他必要ナル費用川ハ物件ノ返還ヲ受ケル者又ハ物件ノ所有權ヲ取得シ之ヲ引取ル者ノ負擔トシ民法第二百九十九條ノ規定ニ從ヒ之ヲ引取ル者ノ負擔トシ民法第二百九十九條ノ規定ニ從ヒ之ヲ引取ル者ノ負擔トシ

五條乃至三百圓ノ規定ヲ適用ス

第四條 物件ノ返還ヲ受ケル者ハ物件ノ價格百分ノ五ヨリ少カラズ二十ヨリ多カラサル報勞金ヲ拾得者ニ給スヘシ但シ國庫其ノ他公ノ法人ハ報勞金ヲ請求スルコトヲ得

第五條 第二條ニ依リ賣却シタル物件ニ付テハ賣却代金ノ額ヲ以テ物件ノ價格トス

第六條 第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ハ物件ヲ返還シタル後一箇月ヲ過クルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得

第七條 拾得者ハ豫メ申告シテ拾得物ニ關スル一切ノ權利ヲ放棄シ義務ヲ免ルルコトヲ得

第八條 物件ノ返還ヲ受クヘキ者ハ其ノ權利ヲ放棄シテ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金辨償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

物件ノ返還ヲ受クヘキ各權利者其權利ヲ放棄シタルトキハ拾得者其ノ物件ノ所有權ヲ取得ス但シ拾得者其ノ取得權ヲ放棄シ第一項ノ例ニ依ルコトヲ得

法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁ズタル物件ヲ拾得シタル者ハ所有權ヲ取得スルノ限ニアラス

第九條 第十六條ニ依リ處罰セラレタル者及拾得ノ日ヨリ七日內ニ第一條第一項又ハ第十一條第一項ノ手續ヲ爲ササル者ハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ受ケルノ權利立ニ拾得物ノ所有權ヲ取得スルノ權利ヲ失フ

第十條 管守者アル船隻建築物其ノ他公衆ノ通行ヲ禁ズタル構内ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタル者ハ其ノ物件ヲ管守者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ船隻建築物等ノ占有者若ハ拾得者トス自己ノ管守スル場所ニ於テ他人ノ

物件ヲ拾得シタル者亦同シ
 本條ノ場合ニ於テ報勞金ハ前項ノ占有者ト現ニ
 物件ヲ拾得シタル者ト折半スヘシ
 第十一條 犯罪者ノ隠去リタルモノト認ムル物件
 ナ拾得シタル者ハ速ニ其ノ物件ヲ警察官署ニ差
 出スヘシ
 前項ノ物件ニ關シテハ法律ノ規定ニ依リ没收ス
 ルモノヲ除ク外本法及民法第二百四十條ノ規定
 ナ適用ス但シ公債消滅ノ日ヨリ一箇年間還付
 ナ受クル者ナキトキニ限り拾得者ニ於テ所有權
 ナ取得ス
 犯罪捜査ノ爲必要ナルトキハ警察官ニ於テ公訴
 權消滅ノ日マテ公告ヲ爲ササルコトヲ得
 第十二條 眼ヲ占有シタル物件他人ノ隠去リタル
 物件又ハ逃走ノ嫌疑ニ關シテハ本法及民法第二
 百四十條ノ規定ヲ適用ス但シ眼ヲ占有シタル物
 件ニ關シテハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ
 請求スルコトヲ得ス
 第十三條 埋藏物ニ關シテハ第十條ヲ除クノ外本
 法ノ規定ヲ適用ス
 藝術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキ埋藏物ニシ
 テ其ノ所有者知レサルトキハ其ノ所有權ハ國庫
 ニ歸屬ス此ノ場合ニ於テハ國庫ハ埋藏物ノ發見
 者及埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ニ通知シ
 其ノ價格ニ相當スル金額ヲ給スヘシ
 埋藏物ノ發見者ト埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所
 有者ト異ルトキハ前項ノ金額ハ折半シテ之ヲ給
 スヘシ
 本條ノ金額ニ不服アル者ハ第二項ノ通知ノ日ヨ
 リ六箇月内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第十四條 本法及民法第二百四十條第二百四十一
 條ノ規定ニ依リ物件ノ所有權ヲ取得シタル者取

得ノ日ヨリ一箇年内ニ物件ヲ警察官署ヨリ引取
 ラサルトキハ所有權ヲ喪失ス
 第十五條 本法ノ規定ニ依リ警察官署ニ保管スル
 物件ニシテ交付ヲ受クル者ナキトキハ其ノ所有
 權國庫ニ歸屬ス
 第十六條 拾得物其ノ他本法ノ規定ヲ適用スル物
 件ヲ隠匿シ若ハ不正ニ處分シタル者ハ三月以下
 ノ重罰罰又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 前項ノ罪ハ刑法第三百七十七條ニ掲ケタル親屬
 ニ係ルトキハ之ヲ論セス
 第十七條 明治九年第五十六號布告遺失物取扱規
 則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス
 第十八條 遺失物法施行細則
 第十九條 遺失物法施行細則
 第二十條 遺失物法施行細則
 第二十一條 遺失物法施行細則
 第二十二條 遺失物法施行細則
 第二十三條 遺失物法施行細則
 第二十四條 遺失物法施行細則
 第二十五條 遺失物法施行細則
 第二十六條 遺失物法施行細則
 第二十七條 遺失物法施行細則
 第二十八條 遺失物法施行細則
 第二十九條 遺失物法施行細則
 第三十條 遺失物法施行細則
 第三十一條 遺失物法施行細則
 第三十二條 遺失物法施行細則
 第三十三條 遺失物法施行細則
 第三十四條 遺失物法施行細則
 第三十五條 遺失物法施行細則
 第三十六條 遺失物法施行細則
 第三十七條 遺失物法施行細則
 第三十八條 遺失物法施行細則
 第三十九條 遺失物法施行細則
 第四十條 遺失物法施行細則
 第四十一條 遺失物法施行細則
 第四十二條 遺失物法施行細則
 第四十三條 遺失物法施行細則
 第四十四條 遺失物法施行細則
 第四十五條 遺失物法施行細則
 第四十六條 遺失物法施行細則
 第四十七條 遺失物法施行細則
 第四十八條 遺失物法施行細則
 第四十九條 遺失物法施行細則
 第五十條 遺失物法施行細則
 第五十一條 遺失物法施行細則
 第五十二條 遺失物法施行細則
 第五十三條 遺失物法施行細則
 第五十四條 遺失物法施行細則
 第五十五條 遺失物法施行細則
 第五十六條 遺失物法施行細則
 第五十七條 遺失物法施行細則
 第五十八條 遺失物法施行細則
 第五十九條 遺失物法施行細則
 第六十條 遺失物法施行細則
 第六十一條 遺失物法施行細則
 第六十二條 遺失物法施行細則
 第六十三條 遺失物法施行細則
 第六十四條 遺失物法施行細則
 第六十五條 遺失物法施行細則
 第六十六條 遺失物法施行細則
 第六十七條 遺失物法施行細則
 第六十八條 遺失物法施行細則
 第六十九條 遺失物法施行細則
 第七十條 遺失物法施行細則
 第七十一條 遺失物法施行細則
 第七十二條 遺失物法施行細則
 第七十三條 遺失物法施行細則
 第七十四條 遺失物法施行細則
 第七十五條 遺失物法施行細則
 第七十六條 遺失物法施行細則
 第七十七條 遺失物法施行細則
 第七十八條 遺失物法施行細則
 第七十九條 遺失物法施行細則
 第八十條 遺失物法施行細則
 第八十一條 遺失物法施行細則
 第八十二條 遺失物法施行細則
 第八十三條 遺失物法施行細則
 第八十四條 遺失物法施行細則
 第八十五條 遺失物法施行細則
 第八十六條 遺失物法施行細則
 第八十七條 遺失物法施行細則
 第八十八條 遺失物法施行細則
 第八十九條 遺失物法施行細則
 第九十條 遺失物法施行細則
 第九十一條 遺失物法施行細則
 第九十二條 遺失物法施行細則
 第九十三條 遺失物法施行細則
 第九十四條 遺失物法施行細則
 第九十五條 遺失物法施行細則
 第九十六條 遺失物法施行細則
 第九十七條 遺失物法施行細則
 第九十八條 遺失物法施行細則
 第九十九條 遺失物法施行細則
 第一百條 遺失物法施行細則

ニシテ高價ナリト認ムルモノハ公告シテ競賣ニ
 付スヘシ但シ即時ニ没收セザレバ滅失又ハ毀損
 ノ虞アル物件又ハ公告ノ后競買人ナキ物件ハ此
 ノ限ニ在ラス
 公告ハ其ノ地方慣行ノ方式ニ從ヒ之ヲ爲シ且公
 告ニハ競賣ニ付スル物件ノ名稱、種類、數量、
 擔任官吏ノ氏名、執行ノ場所、日時ヲ記スルヲ
 要ス
 第四條 競買物件ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス
 競買ノ場合ニ於テ最高價競買人競賣當日ニ代金
 ノ支拂ヲ爲シテ物件ノ引渡ヲ求メザルトキハ更
 ニ其ノ物件ヲ競賣スヘシ此ノ場合ニ於テハ前
 最高價競買人ハ競賣ニ加ハルコトヲ得ス
 第五條 拾得ノ物件國庫ノ所有ニ歸シタルトキハ
 遺失物法第三條ニ依リ警察官ヨリ支辨シタル保
 管費公告費其ノ他必要ナル費用ハ國庫ヨリ之ヲ
 支辨ス
 第六條 遺失物法ヲ臺灣ニ施行ス
 ルノ件 (勅令第三百二號)
 第七條 遺失物法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之
 ナ公布セシム
 明治三十二年法律第八十七號遺失物法ヲ臺灣ニ施
 行ス
 ●東京大學ニ於テ介城洞穴
 ヲ採集シタル古物貯藏
 方 (明治十五年十月)
 (太政官第五十七號達)
 文部省所轄東京大學ニ於テ考古學研究ノ爲メ教員
 學生等チ各地方ヘ派遣シ介城洞穴ヲ採出シ地方官

又ハ所有主ヘ協議ノ上埋没ノ古物ヲ採集スルトキ
 ハ直ニ同學ニ時限爲致條條爲心得此旨相達候事
 ●質屋取締法 (明治二十八年三月)
 法律第十四號
 朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ質屋取締法ヲ裁可シ茲
 ニ之ヲ公布セシム
 質屋取締法
 第一條 質屋營業ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ免
 許ヲ受クヘシ支店ヲ設ケルトキ亦同シ
 應業シタルトキハ行政廳ニ届出ヘシ
 第二條 質屋ハ店舗ノ外ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ
 得ス
 第三條 質屋物品ヲ質ニ取ラムトスルトキハ質屋
 主ニ於テ其ノ物品ヲ質入シ得ヘキ權利ヲ有スル
 コトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若シ不正品ノ疑
 アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ
 第四條 住所、氏名ノ詳カナラザル者ヨリ物品ヲ
 質ニ取ルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ詳カナラ
 者其ノ誰人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタ
 ルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第五條 質屋ハ質契約及質物處分ニ關スル事項ヲ
 帳簿ニ記載スヘシ
 質屋ハ質契約ノ證トシテ質札又ハ通帳ヲ質屋主
 ニ交付スヘシ
 帳簿、質札及通帳ノ製方及様式ハ命令ヲ以テ之
 ヲ定ムルコトヲ得
 第六條 質屋ハ左ノ事項ヲ見易キ場所ニ掲示スヘ
 シ
 一 利率割合
 一 施賃期限

一 質物ノ種類ニ關シタルトキノ處辨方
 一 質物出入時間
 第七條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムル
 モノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ質ニ取ルコ
 トヲ得ス
 前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セザル
 モノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施シメ命ニ
 從ハサレハ之ヲ官沒ス
 第八條 質屋ハ質物ヲ使用シ若ハ貸付スルコトヲ
 得ス
 質屋ハ必要ノ場合ニ限り命令ヲ以テ制限シ若ハ
 禁止スルコトヲ得
 第九條 質屋ハ左ニ掲ケル制限内ノ利率ノ外何等
 ノ名義ヲ以テスルモ金銀ヲ領收スルコトヲ得
 ス
 貸金二十五圓以下ハ一箇月一錢、一圓以下ハ一
 箇月百分ノ四、五圓以下ハ一箇月百分ノ三、十
 圓以下ハ一箇月百分ノ二半
 本條ニ違反シタル質契約ハ其ノ違反セル部分ニ
 限リ無効トス
 第十條 質屋主ハ施賃期限前ハ何時タリトモ元利
 金ヲ納付シテ其ノ質物ヲ受戻スコトヲ得
 第十一條 質屋ハ施賃期限經過ノ後何時タリトモ
 其ノ質物ヲ處分スルコトヲ得
 第十二條 質屋ハ何人ニ拘ラス質札又ハ通帳ヲ所
 持スル者ニ其ノ質物ヲ返還スルコトヲ得
 第十三條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限
 リ警察官ニ於テ必要アリト認ムルモノハ品隔ヲ
 設スルコトヲ得
 第十四條 贓物ノ品隔アルトキハ到達シタル年月
 日ヲ其ノ品隔寫書ニ附記スヘシ品隔到達以後六
 箇月内ニ品隔ニ相當スル物品ヲ質ニ取リ若ハ質

物トシテ占有スルコトヲ得知スルトキハ直ニ警
 察官ニ届出ヘシ
 第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失
 物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ
 何時タリトモ質物及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依
 リ十日以内ヲ限リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ
 差出サシムルコトヲ得
 警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書
 ナ交付スヘシ
 第十六條 質物ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキ
 ハ警察官ニ之ヲ没收シ被質者ニ還付スルコトヲ得
 若シ被質者知レサルトキハ没收シタル日ヨリ二箇
 年ノ後被質者ヲ還付スヘシ(三十三年法律第
 六十一號ヲ以テ修正)
 第十七條 營業ニ關スル帳簿ヲ廢棄セムトスルト
 キハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ
 第十八條 質屋法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必
 要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止又ハ停止スル
 コトヲ得
 禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及ブ
 第十九條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義
 ナリテ質屋營業ヲ爲シ又ハ質屋營業者ノ代理人
 タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期
 間亦同シ
 第二十條 質屋廢業シ若ハ營業ヲ禁止セラレタル
 トキト雖其ノ以前ニ成立シタル質契約及其ノ質
 物ニ付テハ尙ホ此ノ法律ヲ適用ス停止ノ處分ヲ
 受ケタル者其ノ期間亦同シ
 第二十一條 行政廳ハ何時タリトモ營業ノ禁止チ
 解クコトヲ得
 第二十二條 左ニ掲ケル諸項ノ一ニ該當スル者ハ
 二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十五條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品ノ帳簿ヲ毀損シ失シタル者
 二 第一條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者
 三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者
 四 第八條第一項及第十九條ニ違反シタル者
 第二十三條 第一條第二項、第二條、第三條、第四條、第五條第一項及第二項、第六條、第七條第一項、第十四條及第十七條ニ違反シタル者ハ二箇以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十四條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪併罰ノ例ヲ用ニス
 第二十五條 實業營業上ニ就テハ宗廟又ハ巫人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス
 第二十六條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 附則
 第二十七條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セズ
 第二十八條 此ノ法律施行以前ニ係ル買賣契約ニ付テハ契約當時ノ法令ヲ適用ス
 第二十九條 明治十七年第九號布告實業取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ
 警察總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク以下之ニ依リ)知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長島司、地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解除クノ處分ハ此ノ限ニ在ラス
 第二條 支店ヲ設ケルコトキハ管理人ヲ定メ行政廳ニ届出ヘシ
 第三條 店舗ノ移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變更及後見ノ終了ハ行政廳ニ届出ヘシ支店ヲ閉鎖スルコトキ亦同シ
 後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相繼人ヨリ行政廳ニ届出ヘシ但シ死亡者非月主ナルトキハ其死亡ハ月主ヨリ届出ヘシ
 後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ願出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添付スヘシ
 第四條 前二條ノ届出及廢業ノ届出ハ事實ノ生ジタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ相繼人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届出ルハ相繼ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ
 第五條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ
 第六條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事由ヲ説明シ行政廳ニ届出ヘシ
 第七條 質札及通帳ニハ適當ノ箇所ニ質置主ノ氏名ヲ記載シ營業者又ハ支店管理人署名捺印シ質契約ヲ爲ス毎ニ貸金額、質物ノ種類、員數、番號、年月日ヲ記載スヘシ其ノ製及格式ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ定ム
 第八條 第二條第三項第一項第二項第六條及第七

條ニ違背シタル者ハ二箇以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第九條 此細則ニ規定シタルモノノ外警察總監、北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得
第九款 古物商
古物商取締法 (明治二十八年三月十三號)
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ古物商取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 古物商取締法
 第一條 古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタルモノヲ買賣交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ
 第二條 古物商ノ營業ヲ爲サントスル者ハ其ノ物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受ケヘシ
 第三條 古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルトキハ其ノ旨行政廳ニ届出ツヘシ
 第四條 免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケタルトキハ更ニ其ノ地行政廳ノ免許ヲ受ケヘシ
 其ノ地行政廳ノ免許ヲ受ケヘシ
 管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケタルニ非スシテ買賣交換シタルトキハ古物商ニ非サル者ヨリ買受ケ若ハ讓受ケタル場合ニ限リ其ノ品目ヲ其ノ地ノ行政廳ニ届出ヘシ但シ官衙公署ノ公賣品及質業者ヨリ買受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第五條 左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

質屋取締法細則 (明治二十年七月)

明治二十八年法律第十四號質屋取締法細則左ノ通り之ヲ定ム
 質屋取締法細則
 第一條 質屋取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警察總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ

第十條 質屋ノ種類及質屋ノ種類ニ依リテ質屋ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受ケヘシ
 第十一條 質屋ノ種類ニ依リテ質屋ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受ケヘシ
 第十二條 質屋ノ種類ニ依リテ質屋ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受ケヘシ

第十三條 質屋ノ種類ニ依リテ質屋ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受ケヘシ
 第十四條 質屋ノ種類ニ依リテ質屋ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受ケヘシ
 第十五條 質屋ノ種類ニ依リテ質屋ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受ケヘシ

一 古物ノ市場、行商、露店及販賣
 二 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具其ノ他危險ノ虞アル物品ノ買賣交換
 第六條 古物商物品ヲ買受ケ若ハ交換セムトスルトキハ賣主、讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ
 第七條 住所、氏名ノ詳ナラザル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコトヲ得ズ但シ住所、氏名ノ詳ナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第八條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ買受ケ又ハ讓受ケルコトヲ得ズ
 前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未タ消毒セザルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施シシム其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス
 第九條 屍物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品類ヲ檢スルコトヲ得
 第十條 屍物ノ品類アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品類高書ニ附記スヘシ品類到達以後六箇月内ニ品類ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄附シ受ケ若ハ其ノ以前ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ
 第十一條 古物商物品ヲ買賣シ若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主、讓渡主ノ帳簿ニ記載シ又ハ買主、讓渡主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ
 其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
 第十二條 物品ノ買賣交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢

棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受ケヘシ
 第十三條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得
 警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ
 第十四條 古物商法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得
 禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及ブ
 第十五條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ズ停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限内亦同シ
 第十六條 行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解除クコトヲ得
 第十七條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ屍物ニ係ルトキハ警察官ヨリシタルト否トナ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被徵者ニ還付スルコトヲ得若被徵者知レサルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ(三十三年法律第六十號)以テ條中改正

第十八條 他ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ買賣交換シ特ニ此ノ法律ヲ適用スルノ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十九條 左ニ掲グル事項ノ一ニ該當スル者ハ二箇以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第十三條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品ノ帳簿ヲ毀損シ失シタル者
 二 第二條ノ免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者
 三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者
 四 第十五條ニ違反シタル者
 第二十條 第三條、第四條、第六條、第七條、第八條、第十條、第十一條及第十二條ニ違反シタル者ハ二箇以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十一條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪併罰ノ例ヲ用ニス
 第二十二條 營業上ニ付テハ宗廟又ハ巫人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス
 第二十三條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 附則
 第二十四條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス但シ沖繩縣ニ施行セズ
 第二十五條 明治十六年第五十號布告古物商取締條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス
古物商取締法細則 (明治二十年七月)
 古物商取締法細則
 第一條 古物商取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ東京府ニ於テハ警察總監北海道ニ於テハ北海道廳長官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ
 警察總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク以下之ニ依リ)知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長島司、地役人若クハ名主ニ委任スル

コトヲ得但シ營業ヲ禁止若ハ停止シ又ハ營業ノ禁止若クハ停止ヲ解除クハ此ノ限ニ在ラス

第三條 二箇以上ノ營業所又ハ店舖ヲ設ケルコトキハ營業主自ラ之ヲ管理スルモノノ外ハ管理人ヲ定メ其ノ地行政廳ニ届出ヘシ

第四條 營業ノ廢止營業所又ハ店舖ノ閉鎖、移轉營業者及後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理

第五條 古物商取締法第三條第四條第二項及前二條ノ届出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第六條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

以內ニ其ノ事由ヲ説明シ行政廳ニ届出ヘシ

第九條 古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添ヘ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 行商、露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要スルトキハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十一條 古物ノ購買ヲ爲サントスル者ハ豫メ其ノ日時賣場所ヲ行政廳ニ届出ヘシ

第十五條 此規則ニ規定シタルモノノ外警察廳、北海道廳長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十款 銃砲火藥

銃砲火藥類取締法 (明治三十一年八月)

朕帝國國會ノ協賛ヲ經タル銃砲火藥類取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本法ニ於テ銃砲ト稱スルハ軍用銃砲及非軍用銃砲ヲ指シ火藥類ト稱スルハ火藥、雷管、炸藥其ノ他爆發物ヲ指ス

第三條 新奇發明ニ係ル軍用銃砲又ハ火藥類ヲ試驗ノ爲製造セムトスル者ハ陸軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 銃砲製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ廳府縣長官ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 銃砲商及火藥商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ廳府縣長官ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第七條 銃砲火藥類取締法第六條ニ依リ火藥商ニ與フル許可ヲ分テ甲乙ノ二種トス

第九條 銃砲製造營業者ニ非サル者非軍用銃砲ヲ製造シタルトキハ製造ヲ竣リタル日ヨリ十日以内ニ其ノ銃砲ノ說明書及圖案ヲ具シ製造シタル銃砲ノ數ヲ廳府縣長官ニ届出其ノ検査ヲ受クヘシ

第十條 銃砲商ニ非サル者ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ軍用銃砲ノ製造(製造交換附與以下之)ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 火藥類ニ非サル者ハ開發火藥(縮火藥、ナイトログリセリン、ダイナマイト、雷汞、其ノ他製發物)及左ノ數種ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ所持スルコトヲ得ス

第十二條 銃砲火藥類取締法第三條第一項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ附置說明書、圖案其ノ他必要ナル事項ヲ具シ製造地廳府縣長官ヲ經由シ主務省ニ届出ヘシ

第七條 火藥商及銃砲商ノ廳府縣ニ於ケル定員ハ内務大臣ニテ定ム

第八條 第五條及第六條ノ營業許可ヲ受ケタル者其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ開業セシメ又ハ開業後一箇月間休業シタルトキハ廳府縣長官ハ其ノ許可ヲ取消スルコトヲ得

第十六條 第五條又ハ第六條ノ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第十條及第十一條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 銃砲製造營業者ハ其ノ製造製造ニ係ル銃砲ヲ銃砲商以外ノ者ニ製造シ讓渡シ交換シ又ハ贈與スルコトヲ得ス但シ官廳又ハ特ニ官廳ノ許可ヲ得タル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 銃砲、火藥類ハ行商シ又ハ露店市場其ノ他屋外ニ於テ販賣スルコトヲ得ス

第十五條 警察官憲兵ハ必要ト認ムルトキハ何人ノ所有ヲ開ハス火藥類ノ検査ヲ爲スルコトヲ得

第十六條 銃砲火藥類取締法施行規則

一專火線 百間
第六條 火藥商ニ非サル者ハ第八條ノ許可ヲ受ケル場合ト同一ノ條件ヲ有スルニ非サレハ火藥類ノ輸入ノ許可ヲ受ケルコトヲ得ス

第七條 火藥商ニ非サル者ハ火藥類ヲ讓受ケントスルトキハ種類數及用途ノ目的ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケヘシ但シ特種免許者ハ火藥類ヲ要スル工業ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 鑛業用土工用船内銃砲用漁業用煙火製造用及火藥類ヲ要スル工業用ノ爲メ創設火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ讓受ケントスル者ハ種類數及用途ノ目的ヲ具シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケヘシ但シ特種免許者ハ火藥類ノ定マラサル場合ニ於テハ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケヘシ

第九條 火藥庫及假貯藏所ノ境界ハ皇居離宮ノ區域ヨリ十町以上ノ距離ヲ保スヘシ
火藥庫及假貯藏所ノ境界ハ皇陵、社寺境内、公園、火ヲ取扱フ場所、發火貨物品ヲ蓄積スル場所、瓦斯ノ傳導管、空地、公道、鐵道、電線、汽船ノ航路其ノ他内務大臣ノ指定シタル箇所ヨリ五十間以上又蓄積セル燃貨物ヨリ四十間以上ノ距離ヲ保スヘシ但シ火藥庫ト火藥庫ト其ノ境界ヲ接スルハ此ノ限ニ在ラス

第十條 假貯藏所ニ付テハ所轄警察官署ニ認ムルトキハ前二項ノ距離以上ニ於テ特ニ其ノ距離ヲ指定スルコトアルヘシ
第十九條 第十三條第一項ニ依リ倉庫ニ貯藏シ得ル數量ヲ超過スル火藥類ヲ運搬セントスルトキハ其ノ種類、數量、運搬ノ日時、通路及運搬先ヲ記シ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ其ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第二十條 創設火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ハ警察官署ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ日出前日没後ニ於テ授受荷造等ヲ爲スコトヲ得ス
第二十二條 警察官憲兵ハ危害ノ豫防ノ爲メ必要ト認ムルトキハ本令ニ規定スルモノノ外軍用銃砲及火藥類ノ貯藏運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ相當ノ

チ受ケタル火藥類ハ其ノ許可ヲ與ヘタル官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス
第十條 警察官憲兵ニ於テ必要ト認ムルトキハ銃砲製造營業者、銃砲商及火藥商ノ帳簿ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 火藥類ハ左ノ規定ニ從ヒ之ヲ貯藏スヘシ
一 火藥及導火線ハ木器、亞鉛器、銅器ニ收納スルヲ要ス但シ少量ノ火藥ニ限リ白鐵藥器ニ收納スルコトヲ得
二 雷管信管類及小銃實包ハ木器、亞鉛器、銅器、白鐵藥器、厚紙製匣ニ收納スルヲ要ス
三 雷管信管類、厚紙製匣ニ含有セザル紙又ハ布(防濕ノ爲メ)ニ包ヒテ箱ニ封入スルコトヲ得(防濕ノ爲メ)ニ包ヒテ木器、亞鉛器ニ收納スルヲ要ス

四 給火藥及ダイナマイトノ類ハ青色試驗紙ト共ニ容器ニ收納シ時時之ヲ検査スヘシ試驗紙赤色ニ變スルノ候アルトキハ即時火藥ヲ水中ニ投棄スルコトヲ要ス
五 火藥類ハ容器ト直接ニ相接セザル爲紙、澱紙若ハ布ヲ以テ隔絶スヘシ但シ少量ノ火藥チ白鐵藥器ニ收納スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
雷管信管類ハ火藥並創設火藥ト同所ニ置ケコトヲ得ス
火藥及創設火藥ハ各之ヲ離隔スヘシ
火藥類ハ普通ノ油紙ヲ以テ包被スルコトヲ得ス

第十二條 創設火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ハ火藥庫若ハ警察官ノ検査ヲ受ケタル倉庫ニ非サレハ貯藏スルコトヲ得ス

第十三條 火藥庫及假貯藏所ニハ他ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス
第十四條 火藥庫及假貯藏所ニハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル火藥類ヲ貯藏シタル倉庫ニハ發火ノ虞アル他ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス
第十五條 火藥庫又ハ假貯藏所ハ其ノ位置或建設ノ方法ヲ具シ且假貯藏所ニ在テハ貯藏スヘキ火藥類ノ種類數量ヲ記シ所轄警察官署ニ差出シ其ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ假貯藏所ニ於テ貯藏スルコトヲ得ス
火藥庫又ハ假貯藏所ノ建築修繕又ハ換機等ノ工事を終リタルトキハ警察官ノ検査ヲ受ケヘシ
第十六條 火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ屋根ハ輕量ノ不燃貨物ヲ用井内部ニハ鐵筋石瓦ヲ露ハサス憲ニハ透明ノ硝子ヲ用井ルコトヲ得ス
火藥庫ニハ適當計ヲ設ケヘシ適當計ハ其ノ尖頭ヨリ居端ノ最モ遠隔セル點ニ至ル思儀的直線ト四十五度以内ノ角度ヲ有セシムヘシ

處分ヲ爲スコトヲ得
第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十間以下ノ罰金ニ處ス
一 第一條第二項所轄警察官ノ指揮命令ニ違背シタル者
二 第二條第三項ニ違背シタル者
三 第八條ノ許可ヲ受ケタル者ニ創設火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ讓渡シタル者
四 第九條ニ違背シタル者
五 第十條ニ依リ警察官憲兵ノ検査ヲ拒ミタル者
六 第十二條乃至第十六條及第十八條第一項第二項ニ違背シ若ハ第十八條第三項ニ依リ命令ニ違背シテ火藥類ヲ貯藏シタル者
七 第十七條ノ検査ヲ拒ミ又ハ命令ヲ受ケテ修繕ヲ爲サス又ハ貯藏ノ禁止若ハ停止ノ命令ニ從ハサル者
第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第四條ノ許可ヲ受ケタル者ニ軍用銃砲ヲ讓渡シタル者
二 第七條ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ但書ニ該當セザル者ニ火藥類ヲ讓渡シタル者
三 第八條ノ許可ヲ受ケタル者ニ創設火藥若ハ第五條ニ掲ケタル數量ヲ超過スル他ノ火藥類ヲ讓渡ケタル者
四 第十一條ニ違背シテ火藥類ヲ貯藏シタル者
五 第十九條第二十條及第二十一條ニ違背シタル者
第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

但シ鑛業土工ニ要スル火藥類ハ其ノ事業中假貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得
第十三條 火藥庫倉庫及假貯藏所ニ貯藏スル火藥類ハ左ノ數量ヲ超過スルコトヲ得ス

Table with 2 columns: 火藥類ノ種類 (Firearm types) and 假貯藏所ノ容量 (Capacity of temporary storage). Rows include 雷管信管 (Detonators), 小銃實包 (Cartridge), 火藥 (Gunpowder), 導火線 (Fuse), 雷管 (Detonator), 火藥 (Gunpowder), 小銃實包 (Cartridge), 火藥 (Gunpowder), 導火線 (Fuse).

一 第一條第三項第三條ニ違背シタル者ハ第一條第三項若ハ第三條ノ検査ヲ受ケタル火藥類若ハ銃砲ヲ使用若ハ讓渡シタル者
二 第七條ニ違背シテ火藥類ヲ讓受ケタル者
第二十六條 從來ノ火藥庫又ハ假貯藏所ニシテ其ノ位置若ハ構造本令ノ規定ニ抵觸スルモノハ所轄警察官ノ指定シタル期間ニ於テ之ヲ改メヘシ
第二十七條 汽車若ハ船舶ニ依リ火藥類ヲ運搬、運搬ニ關スル一時ノ保管及船舶ニ於ケル火藥類ノ貯藏ニ關スル規程ハ逕信大臣ノ指定スル
●銃砲火藥類取締法施行細則
(明治三十二年八月)
(內務省令第四十三號)

銃砲火藥類取締法施行細則左ノ通之ヲ定ム
第一條 銃砲火藥類取締法施行規則第四條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ軍用銃砲ノ種類數量ヲ具シ所轄警察官署ニ願出ヘシ
第二條 銃砲火藥類取締法施行規則第八條ノ許可出願ニ際シ火藥類ノ數量ヲ申出ルハ一年ヨリ長カワサル一定ノ期間ニ於ケル備用ノ數量ヲ以テスルコトヲ得
第三條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第四條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第五條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第六條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第七條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第八條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第九條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第十條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第十一條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第十二條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第十三條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第十四條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第十五條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第十六條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第十七條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第十八條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第十九條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第二十條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第二十一條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第二十二條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第二十三條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第二十四條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第二十五條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第二十六條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第二十七條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第二十八條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第二十九條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第三十條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第三十一條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第三十二條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第三十三條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第三十四條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第三十五條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第三十六條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第三十七條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第三十八條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第三十九條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第四十條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第四十一條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第四十二條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第四十三條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第四十四條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第四十五條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第四十六條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第四十七條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第四十八條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第四十九條 所轄警察官署ニ願出ヘシ
第五十條 所轄警察官署ニ願出ヘシ

一 第一條第三項第三條ニ違背シタル者ハ第一條第三項若ハ第三條ノ検査ヲ受ケタル火藥類若ハ銃砲ヲ使用若ハ讓渡シタル者
二 第七條ニ違背シテ火藥類ヲ讓受ケタル者
第二十六條 從來ノ火藥庫又ハ假貯藏所ニシテ其ノ位置若ハ構造本令ノ規定ニ抵觸スルモノハ所轄警察官ノ指定シタル期間ニ於テ之ヲ改メヘシ
第二十七條 汽車若ハ船舶ニ依リ火藥類ヲ運搬、運搬ニ關スル一時ノ保管及船舶ニ於ケル火藥類ノ貯藏ニ關スル規程ハ逕信大臣ノ指定スル
●銃砲火藥類取締法施行細則
(明治三十二年八月)
(內務省令第四十三號)

第五條 銃砲火藥類取締法施行規則第四條及第七條ノ許可證ハ軍用銃砲又ハ火藥類讓受ノ際之ヲ讓渡人ニ交付スヘシ

第六條 狩獵免許若ハ火藥類ヲ要スル工業ノ許可ヲ受ケタル者火藥類ヲ買入ルトキハ免狀若ハ許可證ヲ讓渡人ニ示スヘシ

第七條 第三條ノ許可證ハ火藥類讓受ノ際讓渡人ニ示シテ第十條ノ記入及署名捺印ヲ受クヘシ

第八條 銃砲又ハ火藥類ニ非サル者相續又ハ遺贈ニ因リ軍用銃砲又ハ劇發火藥若ハ銃砲火藥類取締法施行規則第五條ニ掲ケタル數額ヲ超過シタル他ノ火藥類ノ所有權ヲ取得シタルトキハ取得ノ日ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第九條 銃砲類ニ非サル者軍用銃砲ヲ廢棄シ又ハ他人ニ讓渡シ又ハ火藥類ニ非サル者火藥類ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ讓渡ノ場合ニ於テ第五條ニ依リ交付ヲ受ケタル許可證ハ届出ト共ニ警察官署ニ差出スヘシ

前項ノ届出ハ強制競賣ニ於テハ競買人之ヲ爲スヘシ

第十條 第三條ノ許可證ニ依リ火藥類ヲ讓渡ス者ハ火藥類ノ種類數額及讓渡ノ年月日ヲ許可證ニ記入シ署名捺印スヘシ

第十一條 第三條ノ許可證ハ火藥類ヲ要スル事業ノ終了廢止又ハ許可ヲ取消ニ依リ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ返納スヘシ

第十二條 軍用銃砲火藥類又ハ第三條若ハ銃砲火藥類取締法施行規則第四條第七條及第十九條ノ許可證ヲ遺失喪失又ハ盜取セラレタル者ハ其ノ事實ヲ知リタル時ヨリ二十四時以内ニ軍用銃砲

ノ種類數額又ハ火藥類ノ種類數額又ハ許可證ノ種類之ヲ下付シタル官署名及遺失若ハ喪失又ハ盜難ノ狀況ニ關シ知リ得タル事實ヲ最寄警察官署又ハ巡査派出所巡査駐在所若ハ巡回中ノ警察官署ニ届出ヘシ

第十三條 前條ノ届出ヲ爲シタル者ハ許可證ヲ爲シタル官署ニ事由ヲ説明シテ許可證ノ再下付ヲ申請スルコトヲ得

第十四條 火藥類及銃砲火藥類取締法施行規則第六條ノ許可證ヲ受ケタル者火藥類ヲ輸入シタルトキハ二十四時以内ニ其ノ種類數額及陸揚シタル年月日ヲ陸揚場所警察官署ニ届出ヘシ

第十五條 銃砲製造營業者銃砲及火藥類ハ其ノ取引シタル銃砲及火藥類ノ種類數額取引ノ年月日及讓渡人註文人讓受人ノ住所氏名其ノ他必要ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

狩獵免許若ハ火藥類ヲ要スル工業ノ許可證又ハ銃砲火藥類取締法第八條ノ許可證ヲ受ケタル者ニ火藥類ヲ讓渡シタルトキハ前項ニ掲ケタル事項ノ外讓受人ノ使用ノ目的ヲ記載スヘシ

第十六條 銃砲製造營業者銃砲及火藥類ハ一箇月間取引シタル銃砲及火藥類ノ種類數額各種類ノ月末ノ現在高ヲ翌月十日迄ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

銃砲商又ハ火藥商ハ第五條ニ依リ交付ヲ受ケタル許可證ヲ一箇月分取纏メ前項届出ト同時ニ所轄警察官署ニ差出スヘシ

第十七條 火藥庫倉庫又ハ假貯藏所ニハ安全ノ装置ヲ爲ササル燈火ヲ挑ヘ又ハ燐燧吹煙具其ノ他發火ノ虞アル器具ヲ帶ヒ又ハ靴若ハ土足ノ儘入ルトコトヲ得ス

火藥庫倉庫又ハ假貯藏所ニ入ラントスル者ハ月

外ニ於テ先ツ腰袋ヲ拂ヒ且上草履ヲ穿ツヘシ

第十八條 火藥類ヲ運搬スルニハ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗(陸路ニハ曲尺縱二尺横二尺五寸水路ノ小船ニハ曲尺縱三尺五寸横五尺)ヲ建テ看守人ヲ附シ猶火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ選ブヘシ

第十九條 第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十條第十一條第十二條第十四條第十五條第十六條第十七條及第十八條ニ違背シタル者第六條ニ定メタル許可證ノ交付ヲ受ケス又ハ第六條ノ免狀若ハ許可證ヲ査問セシメ軍用銃砲又ハ火藥類ヲ讓渡シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

甲號(第三條)用紙美濃四ツ折冊子

讓渡人記入之欄

種類	數量	讓渡年月日	署名捺印

讓受期間トハ第二條ノ期間ヲ云フ例ハ一年以内ニ終了スル工事等ニシテ一年以内ノ需用高ヲ數算トスルモノナルトキハ自明治何年何月何日自明治何年何月ト記シ數年繼續ノモノニシテ一箇年間ノ讓受高ヲ數算トスルモノハ自何月何日自何月何日ト記スルノ類

乙號(銃砲火藥類取締法)用紙美濃半切

施行規則第四條

第 號

軍用銃砲讓受許可證

明治 年 月 日

警察官署名

火藥類讓受許可證

第 號

明治 年 月 日

讓受許可證者

住所 氏 名

種類數量

讓受期間

自明治 年 月 日

至明治 年 月 日

使用目的

丁號(銃砲火藥類取締法)用紙美濃半切

施行規則第十九條

警察官署名

火藥類運搬許可證

第 號

明治 年 月 日

讓受許可證者

住所 氏 名

種類數量

運搬先

運搬路

運搬時

運搬先

警察官署名

甲種火藥商定員ハ東京府京都府大阪府長崎縣各二十人北海道關東縣各二十五人兵庫縣三十八人其ノ他ノ縣各十二人

乙種火藥商定員ハ東京府京都府大阪府長崎縣各二十人北海道關東縣各二十五人兵庫縣三十八人其ノ他ノ縣各十二人

丙種火藥商定員ハ東京府京都府大阪府長崎縣各二十人北海道關東縣各二十五人兵庫縣三十八人其ノ他ノ縣各十二人

●銃砲商火藥商定員 (明治三十一年八月)

丙種火藥商定員

丙種火藥商定員

丙種火藥商定員

縣各十八人
乙種火藥商ハ神奈川縣十八人兵庫縣二十五人長崎縣五人

●火藥類制限外買入特許證
及同買入並貯藏特許證ノ
書替交付方 (明治三十
二年十月
內務省訓令
第三十四號)

府縣東京府

明治三十二年法律第六號銃砲火藥類取締法施行
前內務大臣ニ於テ特許シタル火藥類制限外買入特
許證及同買入並貯藏特許證ノ書替ヲ申請スル者ア
ルトキハ廳府廳長官ニ於テ銃砲火藥類取締法施行
細則第四條ニ定メタル様式ニ依リ書替交付スヘシ

●銃砲火藥類取締法第四條
ニ據リ軍用銃砲ノ種類ヲ
定ム (明治三十二年八月
陸軍省軍令第二十三號)

●砲兵工廠軍用銃及火藥類
拂下手續 (明治三十二年八月
陸軍省軍令第二十三號)

銃砲火藥類取締法第四條ニ據リ軍用銃砲ノ種類ヲ
左ノ通定ム
軍用銃砲トハ口径五密米突以上ニシテ膛綫ヲ施シ
且ツ干米突以上ノ距離ニ達スヘキ照尺ノ裝置アル
銃砲ヲ謂フ但シ特ニ軍用若クハ射的ノ用ノ爲メ製作
シタルモノ及軍用銃砲ト雖モ陸海軍官衙ニ於テ
廢品ノ處分ヲ爲シタルモノハ此限リニアラス
砲兵工廠軍用銃及火藥類拂下手續左ノ通定ム

第一條 砲兵工廠ハ本年勅令第三百六十六號及本
年內務省令第四十三號ニ依リ廳府廳長官又ハ警
察官署ノ免許若クハ許可ヲ得タル者火藥類ノ拂
下ヲ願出ルトキハ左ニ列記スルモノニ限リ許可
スルコトヲ得
一 火藥商
一 現役、豫備役、後備役將校及同相當官
一 私立中學校以上及之同等ノ資格アル私立學
校

一 火藥十貫目、雷管信管類千箇、割發火藥一貫
目、小銃實包千發以上ノ拂下ヲ願出スル者
第二條 砲兵工廠ハ官廳公署、官公立中學校以上
若クハ之同等ノ資格アル官公立學校ヨリ火藥
類拂渡ノ請求ヲ受クルトキハ之ニ應スルコトヲ
得
第三條 砲兵工廠ハ官廳公署、官公立中學校以上
若クハ之同等ノ資格アル官公立學校其他本年
勅令第三百六十六號及本年內務省令第四十三號
ニ依リ廳府廳長官又ハ警察官署ノ免許若クハ許
可ヲ得タル者ヨリ軍用銃ノ拂下ヲ願出ルトキハ
之ニ應スルコトヲ得
第四條 砲兵工廠ニ於テ軍用銃及火藥類ノ拂下ヲ
爲シタルトキハ左ノ手續ヲナスヘシ
一 本年內務省令第四十三號銃砲火藥類取締法
施行細則第三條ノ許可證ニ依リ火藥類ヲ拂下
ケタルトキハ火藥類ノ種類數量及願渡ノ年月
日ヲ許可證ニ記入シ主任官署名捺印ス
二 本年內務省令第四十三號銃砲火藥類取締法
施行細則第五條ニ依リ交付ヲ受ケタル許可證
ハ一箇月分ヲ取極メ最寄警察官署へ送附ス
三 本手續ニ依リ一箇月間拂下ケタル軍用銃及
火藥類ノ種類數量ハ火藥商ニ拂下ケタルモノ

ト其他ノモノトナ區別シ翌月十日迄ニ最寄警
察官署へ通報ス
附則
第五條 本手續ハ銃砲火藥類取締法施行ノ日ヨリ
實施ス
第六條 明治十八年陸軍省達第十號及同二十三
年陸軍省訓令第九號拂下火藥取扱ノ件ハ本
手續實施ノ日ヨリ廢止ス

●石油取締規則 (明治十六年二月
第六號布告)

明治十四年(八月)第四十號及同年(九月)第五十
號布告石油取締規則左ノ通改定ス
但施行日限ハ明治十五年(八月)第四十四
號布告ニ通タルヘシ(十六年第十號布告參看)
第一條 石油ヲ分テテ二種トシ閉塞發熱試驗ヲ
用ヒ攝氏溫度三十度(華氏八十六度)以上ノ溫
度ニ達セザレハ發熱セザルモノヲ第一種トシ三
十度ニ達セズシテ發熱スルモノヲ第二種トス
第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第
二種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化學工藝
上ニ於テ藥用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス
第三條 石油營業者ヲ分テ販賣者精製者問屋及ヒ
小賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ管轄廳(東京
府下ハ警視廳)ノ許可ヲ受ケヘシ但二類以上兼
業アルトキハ別ニ其許可ヲ受ケヘシ
第四條 石油ノ種類ハ內務省ノ必要トスル地方ニ
於テ檢査員ヲシテ之ヲ檢査セシムヘシ
石油ハ調査済ノ證アルモノニアラザレハ之ヲ販
賣スルヲ許サズ但販賣者ヨリ精製者ニ販賣スル
ハ此限ニアラス

第五條 檢査済ノ石油ヲ家庭内ニ貯藏スルヲ得ル
ハ第一種ノ石油五斗以内第二種ノ石油五斗以内
トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ
第六條 石油營業者前條制限外ノ石油並ニ檢査未
済ノ石油ヲ貯藏スル場所建築物及精製所ノ構造方
ハ都テ管轄廳(東京府下ハ警視廳)ノ認可ヲ受ケ
ヘシ
第七條 第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用
者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣ス
ルヲ得ルモノトス
第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ
北數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シ
タル書付ヲ取り置キ一年間保存スヘシ但販賣時
限ハ日出ヨリ日没マテトス
第九條 石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルコトヲ
表記スヘシ但積卸ニ必要ナル時間ノ外物揚場
又ハ路傍ニ置クヘカラス
第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳百圓以
下ノ罰金ニ處ス
右奉 勅旨布告候事
○布告明治十六年三月 明治十五年(八月)第四十
四號及本年(二月)第六號布告石油取締規則施行日
限ノ續ハ追テ布告候マテ延期ス
右奉 勅旨布告候事

●電氣事業取締規則 (明治三十
三年六月
逓信省令第
三十六號)

明治三十年(六月)逓信省令第十四號電氣事業取締
規則左ノ通改正ス

電氣事業取締規則

第一章 總則
第一條 許可證可申請及届出
第二章 工事ノ著手、落成、檢査及使用認可證
第三章 主任技術者
第四章 工事施設、送電及配線
第五章 通則
第六章 電燈及電力
第七章 電氣鐵道
第八章 罰則
第九章 總則
第一條 此ノ規則ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ
掲グルモノヲ謂フ
一 一般ノ需用ニ應ジ又ハ營業ノ目的ヲ以テ電
線路ヲ施設シテ電氣ヲ供給スルモノ
二 軌道條例ニ依リ電氣鐵道ノ動力ノ爲電線路
ヲ施設シテ電氣ヲ使用スルモノ
三 前各號ニ掲グルモノノ外電氣ヲ供給又ハ使
用スルモノ但シ他ヨリ電氣ノ供給ヲ受ケルモ
ノニシテ其ノ使用上ノ責任ヲ供給者ニ於テ負
擔スルモノハ之ヲ除ク
第二條 此ノ規則ハ左ニ掲グルモノニ之ヲ適用セ
ス
一 電信線、電話線及電氣信號線ニ電氣ヲ使用
スルモノ
二 私設鐵道法ニ依リ鐵道ノ動力及其ノ車輛内
ニ電氣ヲ使用スルモノ

三 電線路ヲ施設セズシテ車輛及船舶ニ電氣ヲ
使用スルモノ
四 電壓「ヴォルト」以下ノ電氣ヲ使用スルモ
ニ用ワル金屬體ヲ謂フ
第三條 此ノ規則ニ於テ電線ト稱スルハ電氣傳送
ノ他ノ機械、器具、電線、大地等電流ノ通スル
一全路ヲ謂フ
第四條 此ノ規則ニ於テ電線路ト稱スルハ屋外ニ
施設スル電線及之ヲ支持シ若ハ保護スル工作物
ヲ謂フ
第五條 此ノ規則ニ於テ電線路ト稱スルハ屋外ニ
施設スル電線及之ヲ支持シ若ハ保護スル工作物
ヲ謂フ
第六條 此ノ規則ニ於テ引込線ト稱スルハ幹線ヨ
リ分岐シ使用場所ノ構外ニ於ケル支持物ヲ經過
セズ使用ノ場所ニ達スル屋外電線ヲ謂フ
第七條 此ノ規則ニ於テ電壓ト稱スルハ電線ト電
線若ハ電線ト大地トノ電位ノ差ヲ謂フ
第八條 此ノ規則ニ於テ交流式ノ電壓ヲ表示スル
ニハ實効電壓ヲ以テス
第九條 此ノ規則ニ於テ低壓ト稱スルハ直流式ニ
在リテハ六百「ヴォルト」交流式ニ在リテハ三百
「ヴォルト」ヲ超過セザル電壓ヲ謂フ
「ヴォルト」ヲ超過セザル電壓ヲ謂フ
高壓ト稱スルハ低壓ノ制限ヲ超過シ三千五百
「ヴォルト」ヲ超過セザル電壓ヲ謂フ
特別高壓ト稱スルハ高壓ノ制限ヲ超過セル電壓
ヲ謂フ
第二章 許可證可申請及届出
第十條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業ヲ經
營セムトスル者ハ左ノ書類ヲ具シ逓信大臣ニ許
可ヲ申請スヘシ
一 起業白論見書
二 工事設計書

前項ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ具備シタル書類ヲ添付スヘシ

- 一 電氣事業者ノ商號又ハ名稱
- 二 資本金、工事費及事業上ノ收支概算書
- 三 原動力ノ種類(水力、火力、電動力其ノ他ノ區別)
- 四 水力ヲ原動力ニ使用セムトスルモノハ水利使用許可證若ハ承諾書類ノ添付
- 五 他ヨリ電氣ノ供給ヲ受ケ其ノ電氣ニ依リ更ニ電氣事業ヲ經營セムトスルモノハ其ノ供給者トシテ送電上ノ責任ニ關スル協定書ノ添付
- 六 電氣鐵道事業ニ在リテハ軌道敷設許狀及命令書ノ添付

第十一條 前條ノ起業日論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 事業ノ目的
- 二 供給區域又ハ軌道ノ經過地名
- 三 發電所、變壓所、配電所ノ位置其ノ位置ヨリ供給區域又ハ軌道ニ通スル電線路ノ經過地名

前項第二號ノ供給區域及第三號ノ事項ハ別ニ縮尺及電線路直長ノ概數ヲ記載セル圖面、第二號ノ軌道ノ經過地ハ縮尺凡五千分ノ一ノ圖面(軌道ノ位置、近傍ノ市町村名、他ノ鐵道若ハ軌道ト交叉スル所アルハ其ノ交叉點ノ前後二町以内ニ在リ鐵道若ハ軌道ノ位置、軌道ノ位置ヨリ凡一町以内ニ在リ架空ノ電線、電線、電氣信號線、電燈、電力、電氣鐵道用電線ノ位置、單線式其ノ他電線ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ電氣鐵道ニ在リテハ軌道ノ位置ヨリ凡十町以内ニ在リ地中施設ノ金屬線、金屬管其ノ他ノ金屬體ノ位置ヲ記載シタルモノ)ヲ以テ表示スヘシ

前條ノ工事設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 電氣方式(特別高壓、高壓、低壓ノ區別、直流式、交流式ノ區別、相ノ區別、二線式、三線式其ノ他方式ノ區別)
- 二 「アット」數(蓄電池ヲ使用スル場合ニ在リテハ其ノ放電容量ヲ併記スルコトヲ要ス)及最大電壓(多線式ニ在リテハ最大ノ電壓ヲ與フル兩線間ノ電壓)
- 三 電線路ノ種類(架空線、地中線其ノ他ノ區別)
- 四 電氣鐵道事業ニ在リテハ電氣鐵道方式(架空線、地中線、複線式、暗渠單線式、暗渠複線式其ノ他ノ方式ノ區別)

第十二條 第十條ニ依リ許可ヲ得タル後起業日論見書又ハ工事設計書中ノ各事項ヲ變更セムトスルトキハ關係ノ書類圖面ヲ具シ選信大臣ニ許可ヲ申請スヘシ但シ第十三條ニ依リ工事施行ノ認可ヲ得タル後事業ノ目的ヲ變更スルコトヲシテ單ニ工事設計書中ノ各事項ヲ變更セムトスルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 第十條ニ依リ許可ヲ得タル者ハ特ニ指定シタル期間内ニ第十四條若ハ第十五條ニ依リ選信大臣ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ

第十四條 前項ノ申請書ハ第十條ノ申請書ト同時ニ之ヲ提出スルコトヲ得

第十五條 第十二條ニ依リ變更ノ許可ヲ得タル事項ニシテ電氣工事施行スルニ必要トスルモノハ前二項ノ規定ヲ準用ス

選信大臣ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ

電氣事業者ノ申請ニ依リ第一項ノ期間ヲ伸長スルコトアルヘシ

第十四條 第一條第一號ノ電氣事業ニ關スル工事施行認可申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ具備スヘシ

- 一 工事設計明細書
- 一 發電所、變壓所及配電所内機械、器具ノ設置法(原動機、發電機、電動機、變壓器、電流變式機、電動發電機、勵磁機、蓄電池、調整器、電壓計、電流計、電力計、檢相器、同期檢定器、繼留器、檢漏器、閉器、可變遮斷器及電磁遮斷器其ノ他ノ機械、器具ノ設置及其ノ圖面並電線接續圖)
- 二 發電機、電流變式機、電動發電機ノ種類、箇數及其ノ「アット」數並蓄電池ノ種類、箇數及其ノ放電容量(電流ノ種類(交流式ニ在リテハ周波數、相ノ區別、多相式ニ在リテハ結線法ヲモ)、勵磁法(直流式ニ在リテハ直列巻、分巻、復巻ノ區別又交流式ニ在リテハ單一勵磁、合成勵磁等ノ區別ヲモ)、最大電壓(多線式ニ在リテハ最大ノ電壓ヲ與フル兩線間ノ電壓又電流變式機及電動發電機ニ在リテハ一次及二次回線ノ最大電壓)、「アット」數及箇數)
- 三 變壓器ノ種類(一次及二次回線ノ電壓、相ノ區別(多相式ニ在リテハ結線法ヲモ)及構造ノ大要)
- 四 電氣方式(第十一條第三項第一號ニ準ス)
- 五 電線路ノ種類及其ノ構造法(架空線、地中線ノ區別、裸線、被覆線ノ區別、電線對被覆線物ノ種類及電線路構造ノ大要)

第六 保安裝置法(發電機、變壓所及配電所ノ内外ニ於ケル閉閉器、自動遮斷器、檢漏器ノ種類及設置法、他ノ電線路ノ檢漏器ノ種類及設置法、高壓及低壓電線相互ノ接觸ヨリ生スル危險豫防裝置、電線ノ墜落ヨリ生スル危險豫防裝置、危險豫防ノ爲メ機械器具ニ設備シタル接地裝置其ノ他ノ保安裝置)

- 一 電線路圖(縮尺凡二千分ノ一トシ發電所、變壓所、配電所及電線路ノ位置其ノ近傍ノ市町村名但シ引込線、共同引込線使用者構内、發電所、變壓所及配電所構内ノ電線路ハ記載スルコトヲ要セス)
- 三 落成期限書(工事ヲ數部ニ區分シ各部ノ落成毎ニ第三十五條ノ檢査ヲ受ケムトスルトキハ其ノ各部ノ落成期限)

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 原動機明細書(汽機、瓦斯發動機又ハ石油發動機等ノ種類、箇數、馬力數及速度調節器ノ種類、汽機ノ種類及馬力數(又ハ加熱面積、火爐面積)、常用汽壓及筒數、水車ノ種類、馬力數、筒數、一分時間ノ流量、落差及速度調節器ノ種類、電動機ノ種類(發電機ノ種類ニ依リ)、馬力數、常用電壓、筒數及調整器ノ種類其ノ他原動機ニ附屬スル機械器具ノ種類及箇數)
- 二 工費概算書

第十五條 第一條第二號ノ電氣事業ニ關スル工事施行認可申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ具備スヘシ

- 一 工事設計明細書
- 一 發電所、變壓所及配電所内機械、器具ノ設置法(第十四條第一項第一號第一ニ準ス)

- 二 發電機、電流變式機、電動發電機ノ種類、箇數及其ノ「アット」數並蓄電池ノ種類、箇數及放電容量(第十四條第一項第一號第一ニ準ス)
- 三 變壓器ノ種類(第十四條第一項第一號第三ニ準ス)
- 四 電氣方式(第十一條第三項第一號ニ準ス)
- 五 電線路圖(縮尺凡二千分ノ一トシ發電所、變壓所、配電所及電線路ノ位置其ノ近傍ノ市町村名但シ引込線、共同引込線使用者構内、發電所、變壓所及配電所構内ノ電線路ハ記載スルコトヲ要セス)
- 六 電氣方式(第十一條第三項第一號ニ準ス)
- 七 電氣鐵道方式(第十一條第三項第四號ニ準ス)
- 八 軌道ノ構造法(軌道ノ種類、重量、軌道間、軌道斷面圖(單線式其ノ他電線路ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ電氣鐵道ニ在リテハ尚「ボンド」線及補助線ノ種類、太サ及其ノ他軌道ノ接續法ヲモ又暗渠式及鋪式等ニ在リテハ其ノ構造及電線施設法ヲモ)
- 九 電線路ノ種類及構造法(裸線、被覆線ノ區別、架空線、地中線ノ區別、電線對被覆線物ノ種類、電線路ノ品質、形狀及太サ、胸金式及串線式ノ區別並電線路構造ノ大要)
- 十 保安裝置法(電氣事業ニ關スル檢査器、遮斷器及遮斷器ノ種類、信號法、軌道ト他ノ鐵道若ハ軌道ト交叉スル場合ニ於ケル衝突豫防法其ノ他第十四條第一項第一號第六ニ準ス)

突豫防法其ノ他第十四條第一項第一號第六ニ準ス)

- 一 軌道實測圖(縮尺凡五千分ノ一トシ軌道ノ位置及直長、近傍ノ市町村名、軌道及道路ノ幅員、他ノ鐵道若ハ軌道ト交叉スル所アルハ其ノ位置及前後二町以内ニ在リ部分、電線路、電話線又ハ電氣信號線ノ架設シタルトキハ軌道ノ位置ヨリ一町以内ノ區域ニ在リ部分、單線式其ノ他電線路ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ電氣鐵道ニ在リテハ軌道ノ位置ヨリ凡十町以内ノ區域ニ在リ地中施設ノ金屬線、金屬管其ノ他ノ金屬體ノ位置、發電機又ハ電流變式機ノ一極ヲ接地シタル點ノ位置)
- 三 電線路圖(第十四條第一項第二號ニ準ス)
- 四 落成期限書(第十四條第一項第三號ニ準ス)

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 軌道實測圖(縮尺凡五千分ノ一トシ中心線、地面ノ高低、築堤、切取、墜道、橋梁ノ位置、道路及他ノ鐵道若ハ軌道ト交叉スル場合ニ在リテハ其ノ位置、軌道ノ勾配及經過地名)
- 二 原動機明細書(第十四條第二項第一號ニ準ス)
- 三 車輛ノ構造、重量及運轉車輛數ヲ記載セル書類
- 四 工費概算書

第十六條 第一條第三號ノ電氣事業ヲ經營セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書類及圖面ヲ具シ選信大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

- 一 事業ノ目的

二 使用區域又ハ軌道ノ經過地名
 三 發電所、燃燈所及配電所ノ位置及其ノ位置
 ヲリ使用區域又ハ軌道ニ送スル電線路ノ經過
 地名
 四 工事設計明細書(電氣事業ニ在リテハ
 第十五條第一項第一號其ノ他ノ電氣事業ニ在
 リテハ第十四條第一項第一號ニ準ス)
 五 電線路圖(第十四條第一項第二號ニ準ス)
 六 電氣事業ニ在リテハ軌道實測平面圖
 (第十五條第一項第二號ニ準ス)
 前項第二號及第三號ノ事項ハ別ニ第十一條第二
 項ニ準シ圖面ヲ添付スヘシ
 本條ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
 一 落成期限書(第十四條第一項第三號ニ準
 ス)
 二 第十條第二項第四號及第五號ノ書類
 三 電氣事業ニ在リテハ第十五條第二項第
 一號乃至第三號ノ書類其ノ他ノ電氣事業ニ在
 リテハ第十四條第二項第一號ノ書類
 四 電氣事業ニ在リテハ軌道敷設ニ關スル
 許可書類ノ謄本
 五 使用區域内ニ第四項各號ニ掲グル場所又ハ
 病院敷設ノ存在スル場合ニ於テハ其ノ場所ノ
 性質狀況ヲ詳記シタル書類
 左ニ掲グルモノヲ除ク外二千「ワット」ヲ超過
 セサル低壓電氣ヲ供給又ハ使用セムトスルモノ
 ハ本條規定ノ限ニ在ラズ但シ施設シタルトキハ
 運滞ナク前各項ニ準シ地方長官(東京府ハ警視
 總監以下之ニ依リ)ニ届出ツヘシ其ノ届出ノ事
 項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ
 一 火災又ハ石油ノ貯藏場、紡績又ハ打綿工場
 其ノ他爆発性、燃焼性若ハ發火性ノ物質ヲ製

造シ若ハ設置スル場所ニ電氣ヲ使用スルモノ
 二 爆発性、燃焼性若ハ發火性ノ瓦斯其ノ他ノ
 物質ヲ發生スルノ虞アル場所ニ電氣ヲ使用ス
 ルモノ
 第十七條 第十四條第一項各號、第十五條第一項
 各號又ハ第十六條第一項各號ノ事項ヲ變更セム
 トスルトキハ關係ノ書類圖面ヲ具シ選信大臣ニ
 認可ヲ申請スヘシ但シ第三十五條ニ依リ選信大
 臣ヨリ使用認可證ヲ得タル後ニ於テ第十四條第
 一項第二號、第十五條第一項第三號又ハ第十六
 條第一項第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ
 此ノ限ニ在ラズ
 第十四條第二項各號、第十五條第二項各號又ハ
 第十六條第三項各號ノ事項ニ變更ヲ生シタルト
 キハ運滞ナク關係ノ書類圖面ヲ具シ選信大臣ニ
 届出ツヘシ
 發電所、燃燈所又ハ配電所ノ電氣工作物ノ撤去
 ニ因リ工事設計明細書中ノ事項ニ變更ヲ生スル
 モ他ノ電氣工作物ノ狀態ニ變更ヲ生セサル場合
 三限リ直ニ關係ノ書類圖面ヲ具シ選信大臣ニ届
 出ツヘシ第一項ノ手續ニ依ラサルコトヲ得
 第十八條 電氣事業者第三十五條ニ依リ選信大臣
 ヲリ使用認可證ヲ得タル後ニ於テ電線路ヲ新
 設、延長若ハ其ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ
 左ノ書類及圖面ヲ具シ地方長官ニ工事施行ノ認
 可ヲ申請スヘシ本項第二號ノ落成期限ヲ變更セ
 ムトスルトキ亦同シ但シ電線路ヲ撤去スル場合
 並引込線、共同引込線、使用者構内、發電所、
 燃燈所及配電所構内ノ電線路ニ關シテハ此ノ限
 ニ在ラズ
 一 落成期限書(第十四條第一項第三號ニ準
 ス)
 二 第十條第二項第四號及第五號ノ書類

第十九條 同一支持物又ハ同一暗渠内ニ於テ電線
 ナ増設若ハ撤去シ又ハ電線路ヲ撤去シタルトキ
 ハ運滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ但シ引込線、
 共同引込線、使用者構内、發電所、燃燈所及配
 電所構内ノ電線路ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ
 第二十條 火災其ノ他ノ原因ニ因リ前ニ認可ヲ得
 テ施設シタル電氣工作物ヲ滅失損壞シタルカ爲
 復舊工事ヲ施サントスルトキハ電線路ニ關シテハ
 ハ第十八條ノ規定ヲ準用シ其ノ他ノ電氣工作物
 ニ關シテハ第十七條第一項ノ規定ヲ準用ス
 特ニ前項ノ工事ヲ急遽スルノ必要アルトキハ其
 ノ滅失若ハ損壞シタル電氣工作物ノ原狀ヲ變更
 セサル場合ニ限リ工事施行前ニ於テ前ニ第三十
 五條ニ依リ使用認可證ヲ與ヘタル官廳ニ届出チ
 爲シ前項ノ手續ニ依ラサルコトヲ得
 第二十一條 第一條第一號及第二號ノ電氣事業者
 其ノ事業ヲ讓渡サントスルトキハ當事者ヨリ選
 信大臣ニ認可ヲ申請スヘシ
 前項ノ讓渡ヲ終了シタルトキハ運滞ナク當事者
 ヲリ選信大臣ニ届出ツヘシ
 第二十二條 電氣事業者其ノ事業ヲ讓渡シタル
 第一項第三號ノ電氣事業者第十六條ニ依リ認可
 ルトキハ前項ノ規定ニ準シ第六條ニ依リ認可
 又ハ届出ノ區別ニ從ヒ當該官廳ニ届出ツヘシ
 電氣事業ヲ相續シタル者ハ前各項ノ規定ニ準シ
 届出ツヘシ
 第二十三條 電氣事業ヲ讓渡又ハ相續シタル者ハ
 讓渡人又ハ被相續人カ此ノ規則ニ依リ有スル權
 利義務ヲ承継ス
 第二十四條 第一條第一號ノ電氣事業者第十六條
 第四項各號ニ掲グル場所ニ電氣ヲ供給セムトス
 ルトキハ左ノ書類及圖面ヲ具シ地方長官ニ工事

施行ノ認可ヲ申請スヘシ本項各號ノ事項ヲ變更
 セムトスルトキ亦同シ
 一 工事方法書
 二 使用場所内電線施設圖
 三 落成期限書(第十四條第一項第三號ニ準
 ス)
 第一條第一號ノ電氣事業者敷設又ハ病院ニ電氣
 ヲ供給セムトスルトキハ工事施行前ニ於テ前項
 ニ準シ地方長官ニ届出ツヘシ其ノ届出ノ事項ヲ
 變更セムトスルトキ亦同シ
 前二項ノ工事落成ノ後ハ毎年一月、五月及九月
 各一回試驗成績書ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
 第十六條ニ依リ認可ヲ得タル後其ノ使用區域内
 ニ於テ同條第四項各號ニ掲グル場所ヲ設ケ之ニ
 電氣ヲ供給又ハ使用セムトスル場合ハ本條ノ規
 定ヲ準用ス
 第十六條ニ依リ認可ヲ得又ハ届出チ爲シタル後
 其ノ使用區域内ニ於テ劇場又ハ病院ヲ設ケ之ニ
 電氣ヲ供給又ハ使用セムトスルトキハ第二項及
 第三項ノ規定ヲ準用ス
 第二十四條 第一條第一號ノ電氣事業者引込線、
 共同引込線ヲ新設、延長、變更又ハ撤去シタル
 トキハ左ノ事項ヲ記シ毎月一回取纏メ地方長官
 ニ届出ツヘシ引込線、共同引込線ニ移動ナキモ
 左ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ
 一 需用ノ場所(市區町村字番地番用者名)
 二 電燈ノ種類(「ワット」數ヲモ)及箇數
 三 電動機ノ種類(「ワット」數ヲモ)及箇數
 第二十五條 左ノ場合ニ於テハ第十六條第四項ニ
 依ルモノヲ除ク外電氣事業者運滞ナク其ノ事
 項ヲ具シ選信大臣ニ届出ツヘシ但シ第五號ノ事
 項ハ第一條第一號及第二號ノ電氣事業者ニ限ル

一 電氣ノ使用ヲ開始シ又ハ事業ヲ廢止シタル
 トキハ其ノ年月日
 二 營業所又ハ事務所ヲ設置若ハ變更シタルト
 キハ其ノ位置
 三 電氣事業者又ハ主任技術者ノ改姓名
 四 取締役、業務執行社員其ノ他電氣事業管理
 者ヲ選任若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名又ハ
 改姓名
 五 定款ヲ定メ若ハ之ヲ變更シタルトキ但シ其
 ノ定款ヲ添付スヘシ
 第十六條第四項ニ依リ第一條第三號ノ電氣事業
 者前項第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ前項ノ
 規定ニ準シ地方長官ニ届出ツヘシ
 第二十六條 左ノ場合ニ於テハ電氣事業者其ノ時
 日、場所、原因其ノ他必要ナル事實ヲ具シ運滞
 ナク地方長官ニ届出ツヘシ
 一 電氣事業者ヨリ災害其ノ他ノ故障ヲ生シタル
 トキ
 二 送電中止シ又ハ之ヲ復舊シタルトキ
 三 送電ヲ廢止シタルトキ
 第二十七條 第一條第一號及第二號ノ電氣事業者
 ハ毎決算期ニ於テ事業概況報告書(業務上各般
 ノ狀況、報告期未現在及其ノ期間ニ於テ新設、増
 設又ハ撤去シタル電線路ノ長、電線ノ延長、電
 燈、電動機、車輛ノ箇數(電線ノ延長ハ電壓ノ類
 別ニ依リ、電燈ハ白熱電燈、弧光電燈及「ワット」
 數ニ依リ、電動機及車輛ハ各其ノ種類ニ依リ區
 別スヘシ)ヲ記載シタルモノヲ調製シ選信大臣
 ニ届出ツヘシ但シ決算期ノ定メナキモノ又ハ決
 算期ノ一年以上三箇月ノハ一年毎ニ届出ツヘ
 シ

第二十八條 選信大臣又ハ地方長官ハ必要ト認ム
 ル場合ニ於テ電氣事業者ヲシテ第七十四條第八
 十四條第九十三條第九十四條第九十六條第九十
 七條及第九十三條ノ記録ヲ提出セシムルコトアル
 ヘシ
 第二十九條 此ノ規則ニ依リ選信大臣又ハ地方長
 官ニ提出スル書類圖面中技術ニ關スルモノハ主
 任技術者又ハ其ノ代務者之ニ署名捺印スヘシ但
 シ主任技術者ノ選任前ニ在リテハ擔當技術者之
 ニ署名捺印スヘシ
 第三十條 選信大臣又ハ地方長官ハ許可若ハ認可
 ニ條件ヲ附シ又ハ審査上必要ト認ムル書類圖面
 ノ提出ヲ命ズルコトアルヘシ
 第三十一條 電氣事業者第十三條又ハ第十八條ノ
 認可ヲ得タルトキハ其ノ認可ノ日ヨリ六箇月以
 内ニ工事ニ着手スヘシ第一條第一號又ハ第二號
 ノ電氣事業者第十七條第一項ニ依リ認可ヲ得タ
 ルトキ亦同シ但シ其ノ認可ヲ與ヘタル官廳ニ於
 テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ電氣事業者ノ
 申請ニ依リ期間ノ伸長ヲ認可スルコトアルヘシ
 第三十二條 第十四條第十五條又ハ第十八條ノ落
 成期限ヲ數部ニ區別シタルトキハ雖特ニ各別ニ
 著手期限ヲ定メテ認可ヲ受ケタルモノヲ除ク外
 外各部分悉ク前條ノ期間内ニ工事ニ着手スルコ
 トヲ要ス
 第三十三條 電氣事業者第三十一條ニ依リ工事ニ
 著手シタルトキハ運滞ナク其ノ工事施行ノ認可
 ナ與ヘタル官廳ニ届出ツヘシ
 前項ノ工事落成期間六箇月以上三箇月ノハ工
 事著手ノ日ヨリ六箇月毎ニ工程表ヲ調製シ其ノ
 工事施行ノ認可ヲ與ヘタル官廳ニ届出ツヘシ但

第一條 第三號ノ電氣事業ハ此ノ限ニ在ラス
 第三十四條 電氣事業者第十三條第十六條乃至第二十條ニ依リ認可ヲ得若ハ届出ヲ爲シタル工事落成シタルトキハ運轉ナク其ノ認可若ハ届出ノ區別ニ從ヒ當該官廳ニ届出シヘシ
 第三十五條 選信大臣又ハ地方長官ハ前條ノ届出ニ依リ吏員ヲ派遣シ其ノ落成シタル電氣工作物ヲ検査セシメ之ヲ使用セシムルモ差支ナシト認ムルトキハ電氣事業者ニ使用認可證ヲ下付スヘシ
 選信大臣又ハ地方長官ニ於テ特ニ第一項ノ検査ヲ施スノ必要ナシト認ムルトキハ直ニ使用認可證ヲ下付スルコトアルヘシ
 第一項ニ依リ検査ノ結果選信大臣又ハ地方長官ニ於テ其ノ落成電氣工作物ヲ不完全ナリト認ムルトキハ其ノ改修ヲ命スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス
 第三十六條 前條ノ場合ニ於テ検査吏員ハ危險ノ虞ナシト認ムルモノニ限り電氣事業者ニ假使用認可證ヲ下付スルコトアルヘシ
 前項ニ依リ下付シタル假使用認可證ノ效力ハ其ノ設下付ノ日ヨリ起算シ三十日以内トス但シ其ノ期間内ト雖選信大臣又ハ地方長官ニ於テ其ノ落成電氣工作物ヲ不完全ナリト認ムルトキハ假使用認可證ノ失效ヲ命スルコトアルヘシ
 第三十七條 第三十四條ニ依リ届出ヲ要スル落成電氣工作物ハ第三十五條又ハ第三十六條ニ依リ使用認可證又ハ假使用認可證ヲ受クニ非サルハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ第二十條第二項ニ依リモノハ其ノ落成届出ノ日ヨリ三十日間ヲ限リ使用認可證又ハ假使用認可證ヲ受ケスシテ

之ヲ使用スルコトヲ得
 第四章 主任技術者
 第三十八條 電氣事業者ハ工事着手前學識經驗アル主任技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ但シ第十六條第四項ニ依リ第一條第三號ノ電氣事業ハ此ノ限ニ在ラス
 主任技術者ヲ選任シタルトキハ運轉ナク左ノ事項ヲ具シタル履歷書ヲ添ヘ選信大臣ニ届出シシ後後之ヲ改任又ハ變更シタルトキ亦同シ
 一 主任技術者ノ氏名、住所、年齢及姻籍
 二 學歷
 三 官廳又ハ會社其ノ他ノ事業ニ従事セシトキハ其ノ勤務ノ場所、職務ノ種類及其ノ始終ノ年月日
 四 卒業又ハ修業證書ノ原本
 選信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ二人以上ノ主任技術者ヲ選任セシムルコトアルヘシ
 選信大臣ハ主任技術者ヲ不適任其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ解クコト能ハサルモノト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトアルヘシ
 第三十九條 主任技術者疾病、旅行又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ職務ヲ執ル能ハサルコト七日以上ニ亘ルトキハ豫メ其ノ代替者ヲ選任スル代務者ノ行爲ニ就テハ主任技術者其ノ責任ス
 第五章 工事施設、送電及配線
 第一節 通則
 第四十條 特別高壓電氣ノ使用ハ本章程ノ制限ニ依リテ外特種ノ設計ヲ爲スモノニ限リ選信大臣其ノ土地ノ狀況ニ依リ許可又ハ認可スルモノトス
 第四十一條 電路ニハ必要ナル場所ニ避留ノ裝置

ヲ爲スヘシ
 第四十二條 電路ニハ必要ナル場所ニ完全ナル閉閉器ヲ備ヘ電路ヲ遮斷スルニ便ナラシムヘシ
 第四十三條 電路ニハ漏電ヲ檢スルノ裝置ヲ爲スヘシ但シ選信大臣ニ於テ特ニ認可シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第四十四條 電線ハ使用電流ノ爲攝氏二十度以上ノ溫度ヲ増スコトナク且絶縁物ニ變化ヲ顯ハサルモノナルヘシ
 第四十五條 各電線ニハ如何ナル場合ニ於テモ電流ノ爲攝氏四十度以上ノ溫度ヲ増ササル機完全ナル自働遮斷器ヲ裝置スヘシ
 各高壓電線並電氣鐵道用各幹線ニハ發電所及變壓所ニ於テ特ニ銳敏ナル自働遮斷器ヲ裝置スヘシ
 多線式ノ共同線及特ニ選信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
 第四十六條 架空電線ハ絶縁物ヲ以テ被覆シ且外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル様外裝シタルモノナルヘシ
 三百「ガ」アルト一以上ノ低壓ニ使用スル架空電線ハ二重以上ノ木綿編打線ニシテ其ノ被覆物ハ常ニ耐水質絶縁性ヲ具ヘ且其ノ厚サ五厘以上ノモノ又ハ之ノ下等以上ノモノナルヘシ
 高壓ニ使用スル架空電線ハ絶縁又ハ之ニ相當スル善質ナル絶縁物ヲ以テ被覆シ其ノ厚サ三厘五毛以上ニシテ其ノ絶縁力ハ二十四時間浸水ノ後更ニ浸水ニ浸シ一分時間充電ノ後一百「ガ」アルト一以上ノ電壓ヲ以テ試驗シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ一里四十万「オーム」以上ノモノナルヘシ
 第二項及第三項ニ適合セサル電線ヲ使用スルコト

トヲ得ルモ此ノ場合ニ於テハ左ノ各號ニ依リ施設スヘシ
 一 警察ナル電線墜落豫防裝置若ハ接地裝置ヲ爲シ斷線スルモ危險ノ虞ナカラシムルカ又ハ相當ノ強サ及太サヲ有スルモノナルヘシ
 二 電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ電氣的混觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲メ架空電線ノ上部ニ堅牢ナル豫防裝置ヲ爲スヘシ但シ架空電線ノ上部ニ於テ之ヲ交叉若ハ接近シテ電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ架設シアラサル場所ニ在リテハ其ノ架設セラルルマテ本號ノ裝置ヲ爲ササルコトヲ得
 人家ヲ離隔シ交通稀少ナルカ又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ危險ノ虞ナシト認ムル場合ハ選信大臣ノ認可ヲ得テ前各項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
 本條ノ規定ハ電車線ニ之ヲ適用セズ
 第四十七條 架空電線ハ電車線ヲ除クノ外直徑六厘五毛ノ圓形ノ銅線又ハ之ノ同等以上ノ強力ヲ有スルモノナルヘシ
 第四十八條 市街地ニ限リ道路ニ建設スル架空電線路ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ工地上又ハ土地ノ狀況ニ依リ止ムヲ得サル場所ニ限リ選信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
 一 道路ノ兩側ニ跨ラヌシテ其一側ニノミ架設スヘシ
 二 道路ノ一側ニ電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ架設シアルトキハ他ノ一側ニ架設スヘシ若其ノ一側ニ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ノ架設シアルトキハ其ノ同側ニ架設スヘシ
 本條ノ規定ハ電車線ニ之ヲ適用セズ
 第四十九條 架空電線ハ電車線ヲ除クノ外道路ヲ横斷スル所ニ於テハ地表ヲ距ル二十尺以上其ノ

他ノ場所ニ於テハ十六尺以上タルヘシ又造幣物ニ沿ヒ架設スルトキハ四尺以上、造幣物ノ上ヲ架設スルトキハ六尺以上離隔セシムヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場所ハ地方長官ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
 第五十條 架空ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架空電線ヲ建設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ電氣信號線管理者ノ承諾ヲ得タルトキ及引込線、共同引込線ニシテ工地上止ムヲ得サルモノニ限リ此ノ距離ノ制限ハ二尺マテニ縮スルコトヲ得
 第五十一條 他人ニ屬スル電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ之ニ接近シテ架空電線ヲ建設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ工地上止ムヲ得サル場所ニシテ地方長官ノ認可ヲ得タルモノ又ハ同一ノ電柱ニ架設スルモノハ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
 第五十二條 架空ノ電信線、電話線、電氣信號線又ハ電燈、電力若ハ電氣鐵道用電線ト其ノ上部ニ於テ交叉若ハ六尺以内ノ距離ニ接近シテ架空電線ヲ建設セムトスルトキハ其ノ前日マテニ關係管理者ニ通知シ立會ヲ請フヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理若ハ撤去スル場合亦同シ
 第五十三條 架空電線ノ分岐ハ其ノ狀況ニ依リ地方長官ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
 第五十四條 電柱ニハ電氣事業者名並電柱ノ番號ヲ記スヘシ
 高壓電線ヲ支持スル腕木ハ全部赤色ニ塗ルヘシ
 第五十五條 坑内、隧道、橋梁等ニシテ人畜ニ危害ヲ及ボスノ虞アル場所ニ施設スル電氣工作物ニ

ハ完全ナル危險豫防方法ヲ設ケ高壓電線ニ在リテハ特ニ之ヲ堅牢ナル當ナル種内ニ藏ムルカ又ハ之ニ相當スル他ノ適當ナル方法ヲ設ケルヘシ
 第五十六條 電線ヲ他ノ金屬體ニ接近シテ施設スルトキハ其ノ電線又ハ之ヲ藏メ若ハ保護スル爲メ用ケル金屬體ヨリ他ノ金屬體ニ放電ヲ起ササル様豫防方法ヲ設ケルヘシ
 第五十七條 地中線試驗口ハ成ルヘク瓦斯又ハ水ノ浸入スルコトヲキ極端避シ且時時之ヲ點檢シ若瓦斯ノ浸入シアルトキハ直ニ之ヲ排除スヘシ
 第五十八條 高壓電線ト低壓電線トハ同一ノ管若ハ管内ニ藏ムルヘカス
 第五十九條 電線ヲ藏ムル時、管若ハ管内ニ堅牢ニシテ荷重其ノ他重大ナル重量ノ壓力ニ耐ヘ且容易ニ瓦斯又ハ水ノ浸入セサル様構造スヘシ
 第六十條 電線ヲ藏メ若ハ之ヲ蓋スル爲メ用ケル金屬體ハ充分大地ト電氣的接觸ヲ爲スヘシ但シ電燈球取附器具其ノ他之ニ類スル短小ナルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第六十一條 閉閉器、自働遮斷器、抵抗器其ノ他導體ニ接スル器具ハ耐火質絶縁性ノモノナルヘシ
 第六十二條 變壓器、直列式弧光電燈其ノ他高壓電氣ノ通スル機械器具ハ電氣事業者ノ外容易ニ人ノ觸レサル様取附クヘシ
 第六十三條 變壓器ノ一次線輪ト二次線輪トノ間ニ絶縁力ハ使用電壓ノ二倍ノ電壓ヲ以テ試驗シ一時間以上之ニ耐フルモノナルヘシ但シ特別高壓電氣ニ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラス
 高壓電路ト低壓電路トノ電氣的混觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲適當ノ方法ヲ設ケルヘシ

第六十四條 屋外ニ設置スル變壓器ハ耐火耐水ノ
函内ニ藏ムヘシ且地中ニ設置スルモノノ外地表
ヲ距ル十六尺以上ニ於テ電柱ニ取附ケヘシ
石造、煉瓦造及土藏造ノ建物ノ外部ニシテ人ノ
觸ルル虞ナキ場所ニ限リ前項ノ規定ニ依リ取附
クルコトヲ得

第六十五條 電路ハ總テ之ヲ檢査シ安全ト認ムル
ニ非ラサルヘシ之ヲ送電スルコトヲ得

第六十六條 電氣事業者ハ送電中ノ架線電線ノ近
傍ニ失火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫
ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警
察官ニ届出シムヘシ其ノ出張員ハ警察官ノ許可
ヲ得ルニ非ラサルヘシ退場スルコトヲ得

第六十七條 電氣事業者ハ送電中失火、暴風其ノ
他非常ノ場合ニ際シ危險ノ虞アリト認ムル區域
内ノ架空電線ニ對シ速ニ其ノ送電ヲ遮斷スヘシ

第六十八條 前二條ノ標旗及標燈ノ制式ハ別ニ之
ヲ定ム

第六十九條 地方長官ハ出火、暴風其ノ他非常ノ
場合ニ際シ送電上危險豫防ノ手續ヲ爲サシムル
ノ必要アリト認ムルトキハ電線路ノ要所ニ技術
者又ハ工夫ノ派遣所ヲ設置セシメ當時其ノ在勤
ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ散宿所ニハ公眾ノ購券キ所ニ其ノ標札ヲ
掲ケヘシ

前項ニ依リ送電中中止シタル區域内電路ノ各要
所ニ警備ハ標旗夜間ハ標燈ヲ掲ケヘシ

第七十條 第一條第三號ノ電氣事業者ハ特ニ通
信大臣ノ認可ヲ得タル場合ヲ除ク外他人ニ電氣
ヲ供給スルコトヲ得

第七十一條 通信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ
特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第七十二條 本章ノ規定ニ依リ記録ハ記録ノ時ヨ
リ五年間之ヲ保存スヘシ

第七十三條 電路ハ全部大地ヨリ充分絶縁スヘシ
但シ危險ノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ
第七十四條 高壓電路ノ架線部分及絶縁電路ノ地
中ニ施設シタル部分ノ大地トノ絶縁力ハ一百
「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試驗シ電線ノ長サ
一里ニ付前者ニ在リテハ二万五千「オーム」ヲ
又後者ニ在リテハ使用電壓一百「ヴォルト」毎
二六千「オーム」ヲ下ルヘカラス

第七十五條 電氣事業者ハ屋内電路ヲ含有シ
アルトキハ二拘ハラス漏洩電流ヲシテ最大供給
電流ノ一千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス
土地ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ム
ル場合ハ通信大臣ノ認可ヲ得テ前二項ノ制限ヲ
輕減スルコトヲ得

第七十六條 電氣事業者ハ屋外電線ハ復線ヲ同
一電柱ニ並行シテ架設スヘシ但シ他二障害ヲ及
ホスノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ通信大臣ノ認
可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十七條 架空電線ヲ架設スル電線又ハ電氣信
號線ト認行シテ建設スルトキハ在勤檢査員ノ直
流式電燈線ヲ架設電線ト認行シテ建設スルコト
得

第七十八條 架空引込線ハ架空高壓電線ノ上部ヲ
架設スヘカラス但シ特ニ堅牢ニ建設スル場合ハ
此ノ限ニ在ラズ

第七十九條 架空引込線ヨリ分岐シ道路ヲ横斷セ
スシテ其ノ分岐點ヨリ十五間以内ノ區域ヲ限リ
共同引込線ヲ施設スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ
ハ屋内ヲ通過スルコトナク且入ノ容易ニ觸レサ
ル標取附ケヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ地方長官
ノ認可ヲ得タルモノハ私道ニ限リ横斷スルコト
ヲ得

第八十條 屋外ニ施設スル電線ハ總テ絶縁物ヲ
以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セザル標
外裝シタルモノニシテ左ノ制限ニ依リヘシ但シ
特別ノ場合ニ於テハ特ニ通信大臣ノ認可ヲ得テ
裸線ヲ用ルルコトヲ得

第八十一條 點檢容易ナル場所、點檢シ能ハサル場
所、濕氣ノ充チ易キ場所又ハ工事上已ムナ得
ス入ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル電線ハ第
八十條ニ規定セル高等絶縁電線若ハ之ノ同等
以上ノモノタルヘシ但シ點檢容易ナラザル場
所ト雖モ二百五十「ヴォルト」以下ノ電壓ニ限
リ特別ノ方法ニ施設スルコトキハ第四十六條第

二項ノ規定ニ依リ電氣使用スルコトヲ得
前項ノ規定ハ發電所、變壓所及配電所内ニ之ヲ
適用セ

第八十二條 屋外ニ施設スル電線ハ耐火耐水質ノ
管若ハ管内ニ藏メタル場合ヲ除クノ外耐火耐水
質ノ管子ヲ使用シテ人ノ容易ニ觸レサル標取附
ケヘシ點檢容易ナル乾燥セル場所ニ在リテハ二
百五十「ヴォルト」以下ノ電壓ニ使用スル電線ニ
限リ點檢木製「クリート」ヲ用ルルコトヲ得

第八十三條 電線ノ天井、壁及床等ヲ貫通スル部
分又ハ屋内ニ於テ電線、電話線、電氣信號線、
水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體ニ接近スルカ若ハ
相互ニ交叉スル部分ハ之ヲ管内ニ藏メ又ハ特
別ノ裝置ヲ爲スヘシ

第八十四條 屋内ニ施設スル電線相互間ノ絶縁力
及電線ト大地トノ絶縁力ハ執レモ機械、器具及

附屬物ヲ含テ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ五
千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス
前項ノ絶縁力ハ毎一年一回以上之ヲ試驗シ其ノ成
績ヲ記録スヘシ

第八十五條 第一條第一號ノ電氣事業者ハ需用者
ノ需ニ應ジテ電氣供給時間中充分ニ送電シ契
約セル一定電壓又ハ一定電流ヲシテ百分ノ四以
上ノ變動ヲ起サシメ又電燈需用者ニ供給スル
場合ハ其ノ電力ニ不定ヲ顯ササル標維持スヘシ
但シ技術上已ムナ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八十六條 電氣事業者ハ屋外ノ電路ニ於テ
障害アルコトヲ發見シタルトキハ障害ノ復舊ス
ルマテ送電ヲ中止スヘシ此ノ場合ニ於テハ警告
ノ通知ヲキキノ外豫メ其ノ旨需用者ニ通知スヘ
シ

第八十七條 修繕其ノ他ノ原因ニ因リ幹線中或ル
部分ハ一時間以上送電ヲ中止スルトキハ關係需
用者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ但シ急遽ノ場合ヲ除
クノ外其ノ旨ヲ豫告スヘシ

第八十八條 屋内ニ送電スル電線ハ直流式ニ在リ
テハ五百「ヴォルト」交流式ニ在リテハ二百五十
「ヴォルト」ヲ超過スヘカラス但シ特ニ此ノ制限
ヲ超過シテ送電セムトスルトキハ工事方法書ヲ
具シ地方長官ニ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ハ發電所、變壓所及配電所内ニ之ヲ
適用セ

第八十九條 電路ハ電線及之ニ接続セルモノヲ
除クノ外全部大地ヨリ充分絶縁スヘシ但シ危險
ノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ通信大臣
ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

通信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキ
ハ六尺以上又架空ノ電力線若ハ交流式電燈線
又ハ單線架設ノ直流式電燈線ヲ架空電線ト認
行シテ建設スルコトキハ十二尺以上ヲ離隔スヘシ
但シ電信線、電話線又ハ電氣信號線管理員ノ承
諾ヲ得タルトキ及引込線、共同引込線ニシテ工
事上已ムナ得ザルモノハ限リ此ノ距離ノ制限ハ
二尺マテニ短縮スルコトヲ得

第七十七條 架空引込線ハ架空高壓電線ノ上部ヲ
架設スヘカラス但シ特ニ堅牢ニ建設スル場合ハ
此ノ限ニ在ラズ

第七十八條 架空引込線ヨリ分岐シ道路ヲ横斷セ
スシテ其ノ分岐點ヨリ十五間以内ノ區域ヲ限リ
共同引込線ヲ施設スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ
ハ屋内ヲ通過スルコトナク且入ノ容易ニ觸レサ
ル標取附ケヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ地方長官
ノ認可ヲ得タルモノハ私道ニ限リ横斷スルコト
ヲ得

第七十九條 屋外ニ施設スル電線ハ總テ絶縁物ヲ
以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セザル標
外裝シタルモノニシテ左ノ制限ニ依リヘシ但シ
特別ノ場合ニ於テハ特ニ通信大臣ノ認可ヲ得テ
裸線ヲ用ルルコトヲ得

第八十條 屋外ニ施設スル電線ハ總テ絶縁物ヲ
以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セザル標
外裝シタルモノニシテ左ノ制限ニ依リヘシ但シ
特別ノ場合ニ於テハ特ニ通信大臣ノ認可ヲ得テ
裸線ヲ用ルルコトヲ得

第八十一條 點檢容易ナル場所、點檢シ能ハサル場
所、濕氣ノ充チ易キ場所又ハ工事上已ムナ得
ス入ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル電線ハ第
八十條ニ規定セル高等絶縁電線若ハ之ノ同等
以上ノモノタルヘシ但シ點檢容易ナラザル場
所ト雖モ二百五十「ヴォルト」以下ノ電壓ニ限
リ特別ノ方法ニ施設スルコトキハ第四十六條第

二項ノ規定ニ依リ電氣使用スルコトヲ得
前項ノ規定ハ發電所、變壓所及配電所内ニ之ヲ
適用セ

第八十二條 屋外ニ施設スル電線ハ耐火耐水質ノ
管若ハ管内ニ藏メタル場合ヲ除クノ外耐火耐水
質ノ管子ヲ使用シテ人ノ容易ニ觸レサル標取附
ケヘシ點檢容易ナル乾燥セル場所ニ在リテハ二
百五十「ヴォルト」以下ノ電壓ニ使用スル電線ニ
限リ點檢木製「クリート」ヲ用ルルコトヲ得

第八十三條 電線ノ天井、壁及床等ヲ貫通スル部
分又ハ屋内ニ於テ電線、電話線、電氣信號線、
水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體ニ接近スルカ若ハ
相互ニ交叉スル部分ハ之ヲ管内ニ藏メ又ハ特
別ノ裝置ヲ爲スヘシ

第八十四條 屋内ニ施設スル電線相互間ノ絶縁力
及電線ト大地トノ絶縁力ハ執レモ機械、器具及

附屬物ヲ含テ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ五
千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス
前項ノ絶縁力ハ毎一年一回以上之ヲ試驗シ其ノ成
績ヲ記録スヘシ

第八十五條 第一條第一號ノ電氣事業者ハ需用者
ノ需ニ應ジテ電氣供給時間中充分ニ送電シ契
約セル一定電壓又ハ一定電流ヲシテ百分ノ四以
上ノ變動ヲ起サシメ又電燈需用者ニ供給スル
場合ハ其ノ電力ニ不定ヲ顯ササル標維持スヘシ
但シ技術上已ムナ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八十六條 電氣事業者ハ屋外ノ電路ニ於テ
障害アルコトヲ發見シタルトキハ障害ノ復舊ス
ルマテ送電ヲ中止スヘシ此ノ場合ニ於テハ警告
ノ通知ヲキキノ外豫メ其ノ旨需用者ニ通知スヘ
シ

第八十七條 修繕其ノ他ノ原因ニ因リ幹線中或ル
部分ハ一時間以上送電ヲ中止スルトキハ關係需
用者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ但シ急遽ノ場合ヲ除
クノ外其ノ旨ヲ豫告スヘシ

第八十八條 屋内ニ送電スル電線ハ直流式ニ在リ
テハ五百「ヴォルト」交流式ニ在リテハ二百五十
「ヴォルト」ヲ超過スヘカラス但シ特ニ此ノ制限
ヲ超過シテ送電セムトスルトキハ工事方法書ヲ
具シ地方長官ニ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ハ發電所、變壓所及配電所内ニ之ヲ
適用セ

第八十九條 電路ハ電線及之ニ接続セルモノヲ
除クノ外全部大地ヨリ充分絶縁スヘシ但シ危險
ノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ通信大臣
ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

通信大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキ
ハ六尺以上又架空ノ電力線若ハ交流式電燈線
又ハ單線架設ノ直流式電燈線ヲ架空電線ト認
行シテ建設スルコトキハ十二尺以上ヲ離隔スヘシ
但シ電信線、電話線又ハ電氣信號線管理員ノ承
諾ヲ得タルトキ及引込線、共同引込線ニシテ工
事上已ムナ得ザルモノハ限リ此ノ距離ノ制限ハ
二尺マテニ短縮スルコトヲ得

第七十七條 架空引込線ハ架空高壓電線ノ上部ヲ
架設スヘカラス但シ特ニ堅牢ニ建設スル場合ハ
此ノ限ニ在ラズ

第七十八條 架空引込線ヨリ分岐シ道路ヲ横斷セ
スシテ其ノ分岐點ヨリ十五間以内ノ區域ヲ限リ
共同引込線ヲ施設スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ
ハ屋内ヲ通過スルコトナク且入ノ容易ニ觸レサ
ル標取附ケヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ地方長官
ノ認可ヲ得タルモノハ私道ニ限リ横斷スルコト
ヲ得

第七十九條 屋外ニ施設スル電線ハ總テ絶縁物ヲ
以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セザル標
外裝シタルモノニシテ左ノ制限ニ依リヘシ但シ
特別ノ場合ニ於テハ特ニ通信大臣ノ認可ヲ得テ
裸線ヲ用ルルコトヲ得

第八十條 屋外ニ施設スル電線ハ總テ絶縁物ヲ
以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セザル標
外裝シタルモノニシテ左ノ制限ニ依リヘシ但シ
特別ノ場合ニ於テハ特ニ通信大臣ノ認可ヲ得テ
裸線ヲ用ルルコトヲ得

四 軌道ハ電氣的完全ナル接続ヲ爲スヘシ

五 軌道ノ外一平方寸ノ百分ノ四以上ノ切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル補助線ヲ敷設スヘシ

六 軌道ノ中間又ハ軌道ノ外側一尺以内ニ敷設シタル補助線ハ長サ一尺以下毎ニ一平方寸ノ百分ノ三以上ノ切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル他ノ方法ヲ以テ軌道ト接続スヘシ

七 歸線ノ絶縁セサル部分中ニ生スル最大電位ノ差ハ七「ヴォルト」ヲ超過セシムヘカラス

第九十三條 前條ノ場合ニ於テハ歸線ノ絶縁セサル部分ニ起ルヘキ電位ノ差及第九十四條ニ規定セル接地點ヨリ發電機ニ向テ流ルル電流ヲ常ニ自動的ニ記録スルノ装置ヲ爲シ其ノ最大電位ノ差及最大電流ヲ毎日記録スヘシ

第九十四條 第九十二條ノ場合ニ於テハ發電機ノ一極ヲ接地シタル點ノ近傍ニ二箇ノ地板ヲ埋設シ且四「ヴォルト」以下ノ電壓ヲ用テ兩地板間ニ二「アムペア」以上ノ電流ヲ發シシムル様ニテ施設シ少クトモ毎月一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記録スヘシ

前項ノ接地點ハ金屬體ヨリ六尺以上ヲ隔テタル所ニ施設シ又埋設スヘキ地板ノ距離ハ十間以上タルヘシ

前二項ニ適合スル地板埋設ノ地ヲ得難キ場合ニハ選任大臣ノ認可ヲ得テ前二項ノ制限ヲ輕減シ若ハ他ノ方法ニ依リ施設スルコトヲ得

第九十五條 電車線及之ニ接続セル電路中ノ絶縁セル部分ノ絶縁力ハ其ノ漏洩電流軌道一里ニ對シ「アマペア」ノ三十分ノ一ヲ超過セサル様ニ維持スヘシ若シ其ノ漏洩電流軌道一里ニ對シ「アマペア」ヲ超過シ二十四時間ヲ過クルモ之ヲ除去スルコト能ハサルトキハ直ニ車輛ノ運轉ヲ中止スヘシ

高壓電路ノ架空部分及絶縁電路ノ地中ニ施設シタル部分ノ大地トノ絶縁力ハ第七十四條第一項ノ規定ヲ適用ス

土地ノ狀況ニ依リ危險又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ハ選任大臣ノ認可ヲ得テ前二項ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

第九十六條 前條第一項ノ漏洩電流ハ毎日一回使用最大電壓ヲ用テ非前條第二項ノ絶縁力ハ毎月一回之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記録スヘシ

第九十七條 歸線ト金屬體トノ電氣的接觸ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タル後選任大臣ノ認可ヲ申請スヘシ其ノ接觸ハ最モ容易ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル様ニ施設スルコトヲ得

第九十八條 架空電車線ハ地表ヲ距ル十六尺以上タルヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル場所ハ地方長官ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第九十九條 電車線ハ十町以内ノ區劃ニ分テ非常其ノ他道路ニ故障ノ起リタル場合ニ於テ容易ニ送電ヲ遮斷シ得ル様施設スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ選任大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

第一百條 電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ架設シタル場所ニ架空電線ヲ建設スルトキハ危險ノ虞ナク且障害ヲ與ヘサル様施設スヘシ

第一百一條 架空電車線ニハ其ノ上部二尺以上ノ距離ニ於テ完全ニ接地シタル強力ナル金屬線ヲ架設シ若ハ他ノ適當ナル方法ヲ設ケ電信線、電話線又ハ電氣信號線トノ電氣的混觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スヘシ但シ電車線ノ上部ニ於テ之ト交叉若ハ接近シテ電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ架設シアラサル場所ニ在リテハ其ノ架設セラルルマテ本項ノ裝置ヲ爲ササルコトヲ得

前項ノ金屬線ハ二條以上ニシテ其ノ相互間ノ距離ハ二尺五寸以下其ノ電車線ノ外部ニ張出スル距離ハ一尺以上タルヘシ且單線式電氣軌道ニ在リテハ其ノ金屬線ト大地トノ抵抗ハ若電車線ト金屬線ト混觸ヲ生スルコトアルモ直ニ電車線ト送電セル電路ノ自動遮斷器ヲシテ動作セシムルモノタルヘシ危險ノ虞ナシト認ムル場合ハ選任大臣ノ認可ヲ得テ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第一百二條 電車線ニ使用スル電氣ハ直流式ニシテ且其ノ電壓ハ六百「ヴォルト」以下タルヘシ但シ選任大臣ノ認可ヲ得テ六百「ヴォルト」以上ノ電壓又ハ交流式ノ電氣ヲ使用スルコトヲ得

第一百三條 毎日運轉スル車輛數及其ノ使用スル最大ノ電流及電壓ハ之ヲ記録スヘシ

第六章 監督、試驗、改修及停止許可認可ノ取消

第一百四條 選任大臣ハ吏員ヲ派遣シ電氣工作物若ハ事業經營ノ實況ヲ監督セシメ又ハ電氣事業者ニ命ジ現ニ使用シ若ハ使用セムトスル機械、器具又物品ノ見本ヲ差出サシメ其ノ試驗ヲ爲スコトアルヘシ

前項ノ監督ニ係ル試驗費用又ハ見本ノ運搬ニ要スル費用試驗ニ因テ生スル損害ハ電氣事業者ノ負擔トス

第一百五條 選任大臣ハ電氣事業ノ施設方法ニ障害

ヲ及ボシ若クハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ改修、撤去若ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第一百六條 地方長官ハ第四百四條ノ監督若ハ試驗及危險檢査トナリト認ムル場合ニ於テ第五百五條ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第一百七條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アルトキハ選任大臣ノ許可又ハ認可ヲ取消スルコトアルヘシ

一 第十三條ノ期間内ニ工事施行認可ヲ申請セサルトキ若ハ其ノ申請ヲ爲スモ認可セラレサルトキ又ハ其ノ認可ヲ取消サレタルトキ

二 六箇月以上送電ヲ中止シタルトキ

三 第三十一條ノ期間内ニ工事ニ着手セサルトキ

四 第十三條又ハ第十七條ニ依リ認可ヲ得タル工事ヲ落成期限内ニ落成セシメサルトキ

第一百八條 主任技術者ノ職缺スルコト四箇月以上ニ亘ルトキハ選任大臣ハ其ノ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消シ又ハ其ノ電氣工作物ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第一百九條 前二條ノ外電氣事業者此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ依リ發シタル命令ヲ遵守セサルトキハ選任大臣ハ電氣工作物ノ使用ヲ停止シ又ハ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消スルコトアルヘシ

第一百十條 電氣事業者使用認可證ヲ得タル日ヨリ六箇月以内ニ其ノ電氣工作物ヲ使用セサルトキ又ハ六箇月以上其ノ使用ヲ中止シタルトキ又ハ使用ヲ廢止シタルトキハ其ノ使用認可證ヲ下付シタル官廳ニ於テ其ノ工作物ノ撤去ヲ命スルコトアルヘシ

電氣事業ヲ廢止シ又ハ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消サレタル電氣工作物ニ對シ前項ノ規定ヲ適用ス

第七章 罰則

第一百十一條 第十條ニ依リ許可ヲ得ス若ハ第十三條第十六條第十七條第十八條第二十條ニ依リ認可ヲ得スシテ其ノ認可ヲ得ケヘキ工事ニ着手シタル者又ハ第二十一條ニ依リ認可ヲ得スシテ電氣事業ヲ讓渡シタル者及讓受ケタル者又ハ第三十七條第七十條第八十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百十二條 左ニ掲グル者ハ一圓九十五錢以下ノ料科ニ處ス

一 第十二條第十六條第十七條第十九條第二十二條第二十一條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第三十三條第三十八條ノ届出ヲ爲ササル者

二 第二十三條ニ依リ認可ヲ得スシテ其ノ認可ヲ受ケヘキ工事ニ着手シタル者

三 第九十七條ニ依リ認可ヲ得スシテ同條規定ノ施設ヲ爲シタル者

四 第三十九條第五十二條第五十四條第六十六條第六十七條第六十九條第七十二條第七十八條第八十六條第八十七條第八十八條第九十二條ノ規定ニ違反シタル者

五 第七十四條第八十四條第九十三條第九十四條第九十六條第九十七條第九十九條ノ規定ヲ爲ササル者

六 第二十八條ニ依リ發スル命令ニ違反シタル者

第一百十三條 前二條ノ罰則ハ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ其ノ罪ヲ論スヘカラス

第一百十四條 此ノ規則ハ明治三十五年十月一日ヨリ施行ス

第一百十五條 此ノ規則ニ依リ選任大臣ニ提出スル書類ハ總テ所轄地方廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由スヘシ

前項ニ依リ提出スル書類圖面中訂正ニ係ルモノハ特ニ指示シタル場合ニ限リ地方廳長由セサルコトヲ得但シ其ノ訂正ニ係ル書類圖面ノ副本ヲ地方廳ニ提出スヘシ

第一百十六條 電氣以下ノ原動力ニ關スル工作物ノ施設道路、橋梁、河川、溝渠等ノ使用ニ關シテハ他ノ命令ノ定ムル所ニ依ル

第一百十七條 此ノ規則施行前ニ於テ認可ヲ得タル工事設計圖面中ノ事項ハ此ノ規則ノ規定ニ依リ變更ヲ受ケ

第一百十八條 此ノ規則施行前ニ於テ既ニ使用シ又ハ使用シ得ヘキ電氣工作物中此ノ規則ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ電氣事業者ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ二年六箇月以内ニ於テ適法ニ之ヲ改修スヘシ但シ其ノ期間内ト雖第七十一條ノ規定ニ依リ選任大臣ノ許可若ハ認可ヲ得テ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

電氣事業者ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ於テ前項ニ依リ改修ヲ要スル事項、改修ノ方法及期限ヲ詳具シ選任大臣ニ届出ツヘシ

選任大臣ハ改修ヲ要スル事項及改修ノ方法ヲ指示シ又ハ前項ノ届出ニ係ル改修方法ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第一項ニ依リ改修ヲ了シタルトキハ直ニ選任

大臣三届出ツヘシ
 第百十九條 天災其ノ他不可抗力ニ因リ前條第一項ノ期間内ニ改修スルコト能ハサルトキハ電氣事業者ハ期間ノ伸長ヲ逡信大臣ニ申請スルコトヲ得但シ前條第一項ノ期間満了ノ日ヨリ一年ヲ超過スルコトヲ得ス
 第百二十條 此ノ規則施行前ニ於テ第一條第一號又ハ第二號ニ該當スヘキ電氣事業ノ許可ヲ得此ノ規則施行前ニ於テ逡信大臣ヨリ工事施行認可ヲ得サル者ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ第十三條ニ依リ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ
 此ノ規則ニ依リ逡信大臣ニ工事施行認可ノ申請ヲ爲スヲ要スル電線路工事ニ關シ此ノ規則施行前ニ於テ地方長官ヨリ工事施行認可ヲ得サル電氣事業者ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ第十四條第一項第二號ノ電線路器具シ逡信大臣ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ
 逡信大臣ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ電氣事業者ノ申請ニ依リ前二項ノ期間ヲ伸長スルコトアルヘシ
 此ノ規則施行前ニ於テ第一條第三號ニ該當スヘキ電氣事業ノ許可ヲ得此ノ規則施行前ニ於テ逡信大臣ヨリ工事施行ノ認可ヲ得サル者ハ第十六條ニ依リ更ニ逡信大臣ニ認可ヲ申請スヘシ
 第百二十一條 此ノ規則施行前ニ於テ電氣事業者ニ付與シタル電氣工作物ノ改修若ハ特別施設ノ命令ハ此ノ規則ニ抵触スルモノヲ除クノ外此ノ規則施行後ト雖猶其ノ效力ヲ有ス

（明治三十五年九月）
 （逡信省告示第四百十一號）
 明治三十五年（八月）逡信省令第三十六號電氣事業取締規則第十條第二項第二號第十四條第二項第二號第十五條第二項第四號ノ書類第三十三條第二項ニ依ル工程表及第百十八條第二項ニ依ル届書調製方左ノ通之ヲ定ム
 第一 第十條第二項第二號中工事費及事業上ノ收支概算書第十四條第二項第二號及第十五條第二項第四號ノ工程豫算書ハ別記書式ニ依リ調製スルコトヲ要ス
 第二 第三十三條第二項ニ依ル工程表ハ左ノ各項ニ區別シ詳細ニ記載スルコトヲ要ス
 一 材料及土地使用ノ準備
 二 水利工事（水路、水管敷設其ノ他ノ水利土工）
 三 軌道建築工事（道路取換、隧道開鑿、築堤、掘鑿、橋梁、軌道地形、軌道敷設、軌道ノ電氣的接続等）
 四 發電所、變壓所及配電所用家屋建築工事
 五 機械器具ノ裝置工事（機械類ノ地形、原動機、發電機、蓄電池、配電盤、電流變式機、變壓器、電車内ニ裝置スル機械器具等ノ据附若ハ設置）
 六 電線路建築工事（電柱建設、架空線架設、地中線敷設地中線試驗口、其ノ他電線路ノ土工）
 七 需用者屋内電氣工事（電燈又ハ電動機ノ取付箇數）
 第三 第百十八條第二項ニ依ル届書ハ電氣工作物ノ規定ニ適合セザル當該條項ヲ掲ケ其ノ條項毎ニ左ノ各項ニ區別シ詳細ニ記載スルコトヲ要ス
 一 第一條何項ニ適合セザルモノ

（別記）

- 一 改修ヲ要スル事項（改修ヲ要スル部分ノ數量若ハ範圍並ニ其ノ現狀）
- 二 改修ノ方法
- 三 改修ノ期限（改修工事ノ着手及竣成期限ノ豫定）

工 事 費		金 高	
項	金	高	備考
立 工 事 費			各項ニ就キ其内譯ヲ記入スヘシ
動 力 工 備			
創 原 電 機			
合 計			

事業上ノ收支概算書

項	金 高
収入ノ部	
料金（ <small>電氣事業ニ在リテハ支出及付入（収入）又ハ電力事業ニ在リテハ支出及付入（収入）トス</small> ） 電氣工事及電氣機械物品ノ賣上ヨリ生 スル益金並機械物品等ノ損料 利息及雜收入	備考 電氣鐵道事業ニ在リテハ支出ノ部ニ（軌道維持費）及（車輛維持費）ノ二項ヲ加フヘシ 電燈又ハ電力事業ニ在リテハ支出ノ部ニ（需用者構内電氣工作物維持費）ノ項ヲ加フヘシ 他ヨリ電氣ノ供給ヲ受ケ其電氣ニ依リ更ニ電氣事業ヲ經營セントスルモノハ支出ノ部ニ（電力料）ノ項ヲ加フヘシ 各項ニ就キ其ノ内譯ヲ記入スヘシ
合 計	
支出ノ部	
發電所、變壓所並配電所運轉費及維持費 電線路維持費 本社費 雜 費	
合 計	

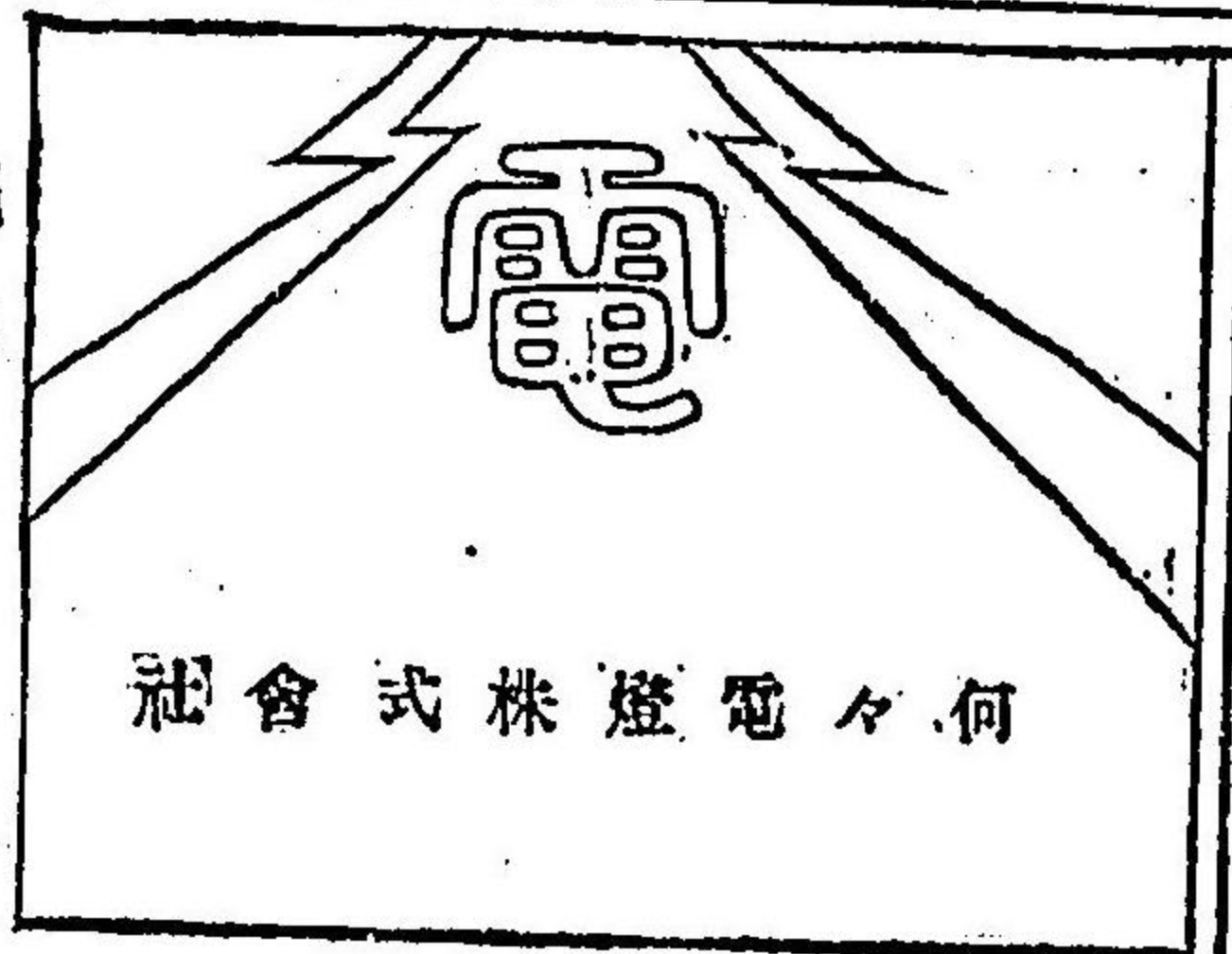
差 引 純 益 金
 内 積 立 金
 利 益 金
利益金ノ資本ニ對スル割合

工 費 豫 算 書

項	金 高
設計、測量、監督其ノ他ノ準備費 用地費、建物費、移轉費 火力又ハ水力工事費 發電所電氣工事費 變壓所及配電所電氣工事費 電線路費 雜費及豫備費	備考 電氣鐵道事業ニ在リテハ（軌道費）及（車輛費）ノ二項ヲ加ヘ電燈及電力事業ニ在リテハ（需用者構内電氣工事費）ノ一項ヲ加フヘシ 各項ニ就キ其内譯ヲ詳細ニ記入スヘシ
合 計	

●電氣事業取締規則ニ依ル
標旗及標燈制式 (明治三十
五年九月
四日)

明治三十五年(八月)逓信省令第三十六號電氣事業
取締規則第六十六條及第六十七條ニ依リ使用スル
標旗及標燈ノ制式ニ依リ調製スヘシ
第一 標旗ノ制式
一 第六十六條ニ依リ使用スルモノ



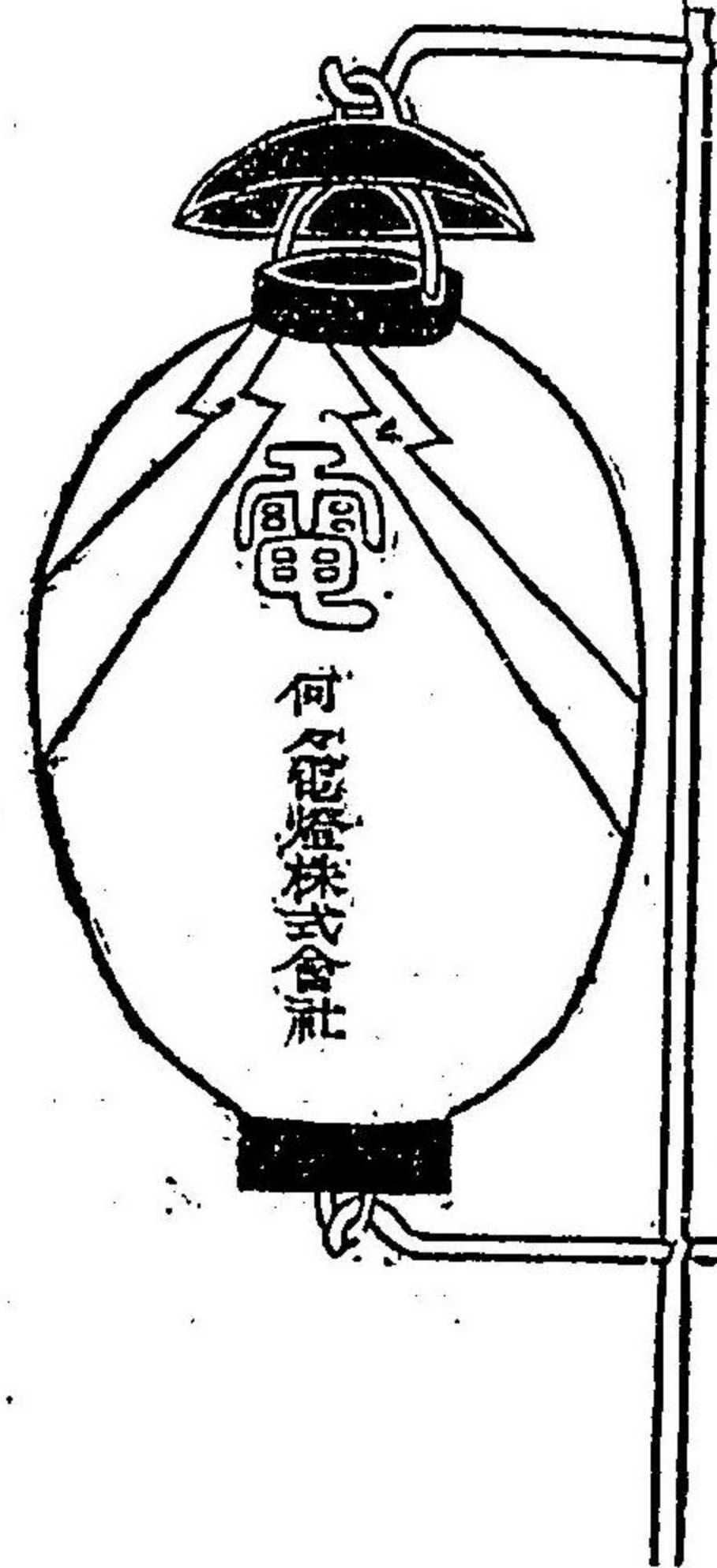
地色 白
標旗色 赤
電氣事業者ノ商號又ハ名稱ヲ標章ノ下ニ黒
書ス

二 第六十七條ニ依リ使用スルモノハ縦二尺横三尺トシ其ノ他ノ制限ハ總テ前項ニ準ス
第二 標燈ノ制式
一 第六十六條ニ依リ使用スルモノ



地色 白
形狀 丸形ヲ張提燈
標章色 赤
電氣事業者ノ商號又ハ名稱ヲ標章ノ下ニ黒
書ス

二 第六十七條ニ依リ使用スルモノハ通常高張提燈ノ形狀トシ其ノ他ノ制限ハ總テ前項ニ準ス



●電氣事業取締規則ニ依ル
電信電話線其他ノ金屬體
ニ關シ承諾又ハ立會ヲ請

求スル場合申請方 (明治三十
五年九月
四日)

第九十七條ニ依リ電氣事業者ヨリ郵便電信局又
ハ電話交換局ノ所轄ニ係ル電氣線、電話線及其ノ
他ノ金屬體ニ關シ承諾又ハ立會ヲ請求スル場合ニ
ハ其ノ所轄ノ一帯郵便電信局長又ハ電話交換局長
ニ申請スヘシ

●官廳施設電氣事業取締規則
程 (明治三十五年十一月
五日)

官廳施設電氣事業取締規則
第一條 官廳ニ於テ電氣事業ヲ施設セムトスルト
キハ工事施行前電氣事業取締規則第十六條ニ準
シ調製シタル書類及圖面ヲ逓信大臣ニ提出スヘ
シ其ノ書類及圖面中ノ事項ヲ變更スル場合亦同
シ但シ同規則第十六條第四項ニ依ル電氣事業ニ
該當スルモノハ同項ノ規定ヲ準用ス
特別高壓電氣ヲ使用セムトスルトキハ特別高壓
電氣ノ使用ニ關スル特種ノ設計方法書ヲ前項ノ
書類ト共ニ逓信大臣ニ提出シ特ニ其ノ承認ヲ受
ケヘシ
第二條 前條ノ電氣事業ニ關スル電氣工作物落成
シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ逓信大臣ニ報告シ其
ノ使用ノ承認ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ使用スル
コトヲ得ス
第三條 第一條ノ電氣事業ニ關シテハ電氣事業取
締規則第二十五條第一項第一號第二十六條第二
十八條第三十條第四十條乃至第六十七條第六十
九條第七十一條乃至第八十四條第八十八條乃至
第九十六條第九十五條乃至第九十九條ノ規定ヲ準
用ス
第四條 本規則ハ電氣事業取締規則第二條第一號
第三號及第四號ニ該當スルモノ並一般運送ノ用
ニ供スル鐵道ノ動力及其ノ車輛内ニ電氣ヲ使用

●電氣ニ關スル心得ノ件
(明治三十一年六月
十日)

スルモノニ之ヲ適用セズ
凡ソ電氣事業ノ世ヲ利スルコト大ナルハ論ヲ俟タ
ズト雖若シ其取扱ヲ過マルトキハ危險ノ虞ナシト
セス決シテ注意ヲ怠ルヘカラス取扱上一人ノ不注
意ヨリ甚シキニ至クハ人命財產ニ危害ヲ及ボシ其
結果遂ニ電氣事業ノ發達ヲ妨グルニ至ルコトアリ
電氣事業ノ當事者ニ於テハ電氣ノ危險ヲ察シ之ニ
應ズルノ裝置方法ヲ設ケアルモノ一般人民ニ於テハ
總意ヲ了解セサル爲メ知ラズシテ危險ニ陥ルコト
ナシトモス電氣事業者ニ於テハ成ルヘク平易ノ通
俗文ヲ以テ懇ニ取扱ノ注意ヲ示シ備用者ニ於テモ
當業者ノ注意ヲ服膺シ其取扱上注意ヲ怠ラサルヲ
要ス今一般注意スヘキ要項ヲ列舉シテ左ニ之ヲ告
示ス
電氣ニ關スル注意心得
一 電柱及電線ニハ成ルヘク接觸セサルヲ長シ
トス殊ニ暴風雨雷鳴ノ際ニハ最モ注意スヘ
シ
二 低壓電燈、電力線及電信、電話線ハ通常危險
ナシト雖モ暴風雨雷鳴ニ事變ノ際ニハ高壓電
燈、電力、電氣鐵道用電線ト混同スルノ虞アリ
レハ右等ノ場合ニハ總テ電柱電線類ニ身體ヲ
觸レサルヲ可トス
三 電線ヲ支持スル腕木又ハ電柱ノ一部分ノ赤色
ニ塗リタルモノハ危險ナル電氣ノ流通シツツ
アルヲ示スモノナレハ之ニ接觸スヘカラス殊
ニ左ノ標示アルモノハ最モ危險ナルモノナレ
ハ注意スヘシ

●危險ノ件

一 電柱電線ノ近傍ニ出火アリト雖モ其道ノ心
得アルモノノ外妄リニ頭部赤色ニ塗リタル電
柱又ハ赤色ニ塗リタル腕木ヲ以テ支持スル電
線ヲ切斷スル等ノコトヲ試ムヘカラス
二 近傍ニ出火アリ電柱類ノ虞アリトモ妄リニ
刃物ヲ以テ電線ヲ切斷シ又ハ電柱ヲ倒ス等ノ
コトアルヘカラス此道ニ心得ナクシテ之ヲ試
ムルトキハ意外ノ危險ニ陥ルコトアリ注意ス
ヘシ
三 電線電柱腕木等ニ破損アルカ之ニ接觸セル
物ニ火花ヲ發スルカ又ハ其他ノ異狀アルトキ
ハ直ニ警察官又ハ電氣事業者ニ報知スヘシ
電力電燈用ノモノ又ハ之ニ接觸セル物品ニ火
花ヲ發シ又ハ異狀アルトキハ速ニ警察官又ハ
電氣會社ノ役人類ニ報知スヘシ但電氣鐵道ニ
於テ電車通行ノ際火花ヲ發スルハ通常ナレハ
此等ノ別段トス
四 電線ノ切斷垂下セルモノアルモ該事業者ニ
アラサレハ妄リニ之ニ觸ルヘカラス之ヲ移ス
ノ必要アルトキハ相當ノ手當ヲ爲シ取扱フヘ
シ殊ニ跳足又ハ草鞋ノ儘索中ヲ以テ之ニ觸ル
ル如キコトアルヘカラス
五 萬一已ムテ得スシテ切斷垂下線ヲ動かストキ
ハ乾キタル布ニテ厚ク手ヲ包ミ乾燥シタル長
キ竹木ノ類ヲ以テ間接ニ之ニ觸ルヘシ其間乾
キタル靴若クハ下駄類ヲ穿ツヲ長トス若シ跳
足又ハ草鞋ノ儘ニ刃物或ハ金棒類ヲ以テ電
線ニ觸ルトキハ電氣ニ打タルコトアルカ
爲メナリ

室内用電力、電燈線ニ關スル注意
五 室内用電線ハ決シテ損傷セザル様注意シ若シ損傷ノ箇所アルトキハ速ニ修補ノ手續ヲナスヘシ

室内用電線ハ電氣ノ漏泄ヲ防ク爲メ、
六 室内電線ハ決シテ之ヲ金屬ニ接シメ又ハ釘ニ懸クル等ノコトヲナスヘカラス
電線ヲ金屬ニ接シメ又ハ釘ニ懸ル如キノ類ハ其外包ノ損傷ヲ來シ易ク電氣ノ漏泄ヲ醸生スルノ虞アルモノナレハ務メテ之ヲ避ケヘシ

七 室内用電線電燈球其他電氣器具ハ成ルヘク濕ラサル様注意シ濕手ニテ扱フヘカラス
電燈ノ點滅若クハ電流ノ送停ヲナス爲メ備ヘタル開閉器ヲ使用スルノ外成ルヘク電線電氣器具等ニ觸ルヘカラス

電線其他電氣器具ヲ濡ラストキハ電氣ノ漏泄ヲ導キ易ク危害ヲ招クノ虞アリ注意スヘシ
電氣器具及室内電線等ヲ玩弄シ又ハ水氣アル手指ニテ扱ヒ或ハ跳足ノ儘土間に在リテ之ニ觸ルル等ハ電氣ニ感シ易ク危險ナレハ電氣器具用者ハ厚ク婢僕等ニ教ヘ常ニ注意セシムヘシ
八 若シ電氣ノ爲メニ氣絶シタル者アテハ直ニ被害者ヲ其電線ヨリ取離スカ又ハ電氣ノ傳フ

サル様注意ノ方法ヲ施スヘシ
九 電氣ノ傳フサル様注意スニハ電氣事業者ヲシテ適當ナル方法ヲ採ラシムヘキハ勿論ナルモ其時間ナキ場合ニ於テハ乾キタル竹木ノ長キ柄ヲ有スル刃物ニテ電線ヲ斷テ切ルカ(危險ノ標示アル電線ヲ除ク)又ハ被害者ヲ電線ヨリ引卸スヘシ此場合ニハ素手ニテ爲サル様注意シ必ス乾キタル竹木或ハ布切類ノ如キ電氣ノ傳リ難キ物ヲ用ヒテ之ヲ行フヘシ

十 電氣ニ觸レ氣絶シタル者アラハ直ニ醫師ヲ招キテ相當ノ手当ヲ爲スヘキハ勿論ナルカ尙ホ醫師ノ來ル迄トテモ決シテ閉ニ捨置ケヘカラス假令蘇生ノ見込ナキ様見ユルモ少クモ一時間半以上人工呼吸法ヲ用フルカ或ハ他ノ適宜ノ方法ニテ蘇生ノ手段ヲ施スヘシ

第十三款 狩獵

狩獵法 (明治三十四年四月法律第三十三號)

第一章 獵具、獵法
第一條 本法ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、網、罽繩又ハ槍ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ
前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル
第二條 爆發物、劇毒、毒藥、掘銃又ハ危險ナル器具若ハ陷罪ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス
前項ノ外ノ獵具、獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ於テハ地方官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條 日出前、日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶若ハ汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス
第四條 左ニ掲ケル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス
一 御獵場
二 禁獵區
三 公道
四 公園
五 社寺境内
六 墓地

第五條 樹、樺、圍籬若ハ作物植付アル他人ノ所有地ニ於テハ所有者又ハ占有者、他人ノ共同狩獵地ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス
第六條 地方官ハ鳥獸ノ捕獲保護ノ爲メ又ハ土地所有者ノ出願其ノ他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ十箇年以内ノ期間ヲ以テ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第七條 地方官ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ區域ヲ限リ銃獵ヲ禁スルコトヲ得
第二章 狩獵免許
第八條 狩獵ハ地方官ニ願出テ免許ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ網、樺又ハ圍籬アル宅地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス
第二十二條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經テ再ハ免許ヲ受ケルコトヲ得ス
第九條 從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域内ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受ケルコトヲ得但シ其ノ出願ニ關スル規則ハ

農商務大臣ノ決定
第十條 免狀ヲ分チテ甲乙ノ二種トス
甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第十一條 免狀ヲ受ケル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免狀稅ヲ納ムヘシ
一等 所得稅百圓以上、地租五百圓 金二十圓
二等 所得稅三十圓以上、地租三十圓 金十圓
三等 所得稅十圓以上、地租十圓 金二圓
以上若ハ營業稅百五十圓以上
納ムル者又ハ其ノ家族

第十二條 免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス
第十三條 免狀ノ使用ハ木入ニ限ルモノトス
第十四條 獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帯スヘシ
警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ検査スルコトヲ得

第十五條 免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察官署及當初ノ下付シタル官廳ニ届出ツヘシ
第十六條 未成年者ハ乙種免狀ヲ受ケルコトヲ得
第十七條 免狀ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十

日以内ニ當初ノ下付シタル官廳ニ送附スヘシ
第十八條 學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲メ其ノ他特別ノ理由ニ因リ保護鳥獸又ハ其ノ他ノ鳥獸ノ捕獲ヲ要スルコトキハ地方官ハ何時タリトモ特別ノ許可ヲ與フルコトヲ得但シ捕獲シタル鳥獸ハ之ヲ賣買スルコトヲ禁ズ

第十九條 保護鳥獸ヲ捕獲シタル之ヲ賣買スルコトヲ禁ズ但シ保護期間前ニ捕獲シタル鳥獸ハ其ノ期間ノ初日ヨリ二週間以内ニ於テ賣買スルハ此ノ限ニ在ラス
第二十條 保護鳥獸ハ前項期日後ト雖農商務大臣定ムル所ノ規則ニ依リ賣買スルコトヲ得
第二十一條 保護鳥獸ノ卵又ハ雛ヲ取リ若ハ之ヲ賣買スルコトヲ禁ズ但シ學術研究ノ爲メ之ヲ採取ヲ要スルコトキハ地方官ハ特別ノ許可ヲ與フルコトヲ得

第四款 罰則
第二十二條 第八條第一項、第十二條第二項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ許欺ノ所爲ヲ以テ狩獵免狀若ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケ又ハ許テ共同狩獵地ヲ表示シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル器具ハ之ヲ沒收ス
第二十三條 第二條第一項、第三條若ハ第四條ニ違背シタル者ハ罰則ニ同シ
前項ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

第二十三條 第五條、第十四條第三項、第十九條第一項、第二十條ニ違背シタル者ハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第五條ニ付テハ土地所有者、占有者又ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ノ告訴ヲ待テ處斷ス
第二十四條 第十四條第一項、第十五條第一項、第十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
附則
第二十五條 本法ハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
第二十六條 本法施行前ニ免許ヲ受ケタル獵區及共同狩獵地ハ本法施行後ト雖其ノ免許期間仍舊前ノ規定ヲ適用ス
第二十七條 本法施行前ニ受ケタル狩獵免狀ハ本法施行後仍舊其ノ效力ヲ有ス
第二十八條 本法施行前ニ明治二十八年法律第二十號狩獵法ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行後仍舊其ノ罰則ヲ適用ス
第二十九條 明治二十八年法律第二十號狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過スルニ非サレハ本法ニ依リ狩獵免狀ヲ受ケルコトヲ得ス
第三十條 本法中地方官ノ職務ハ東京府ニ於テハ警視廳長ニ付テシ
本法中市町村長ノ職務ハ北海道、沖繩縣ノ區ニ於テハ區長、町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ町村長ニ該當スヘキ者ニ付テシ

狩獵法施行規則 (明治三十四年六月令第七號)

農商務省
狩獵法施行規則左ノ通改正シ狩獵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二等免狀雛形 紙地綠色

川中ニ由

狀免獵狩
第一種(乙)甲

花紋赤 五寸五分

許之證 農商務省 府 縣 團

明拾年月日

姓名	住所	年令	職業	關係	開始	期限

解除地名

川中ニ由

要摘令法獵狩

五寸五分

表

川中ニ由

狀免獵狩
第二種(乙)甲

花紋黒 五寸五分

許之證 農商務省 府 縣 團

明拾年月日

姓名	住所	年令	職業	關係	開始	期限

解除地名

表

川中ニ由

要摘令法獵狩

五寸五分

三等免狀雛形 紙地淺紅色

川中ニ由

狀免獵狩
第三種(乙)甲

花紋黒 五寸五分

許之證 農商務省 府 縣 團

明拾年月日

姓名	住所	年令	職業	關係	開始	期限

解除地名

表

川中ニ由

要摘令法獵狩

五寸五分

第一號樣式

明治何年度狩獵甲(乙)種免狀統計表

廳府縣名

種目	一等		二等		三等		計
	免狀受取高	免狀下付高	免狀受取高	免狀下付高	免狀受取高	免狀下付高	
免許稅							
免狀再渡及香換高							
免狀再渡料及							
附註獵禁止地名							
解除地名							
何々々							

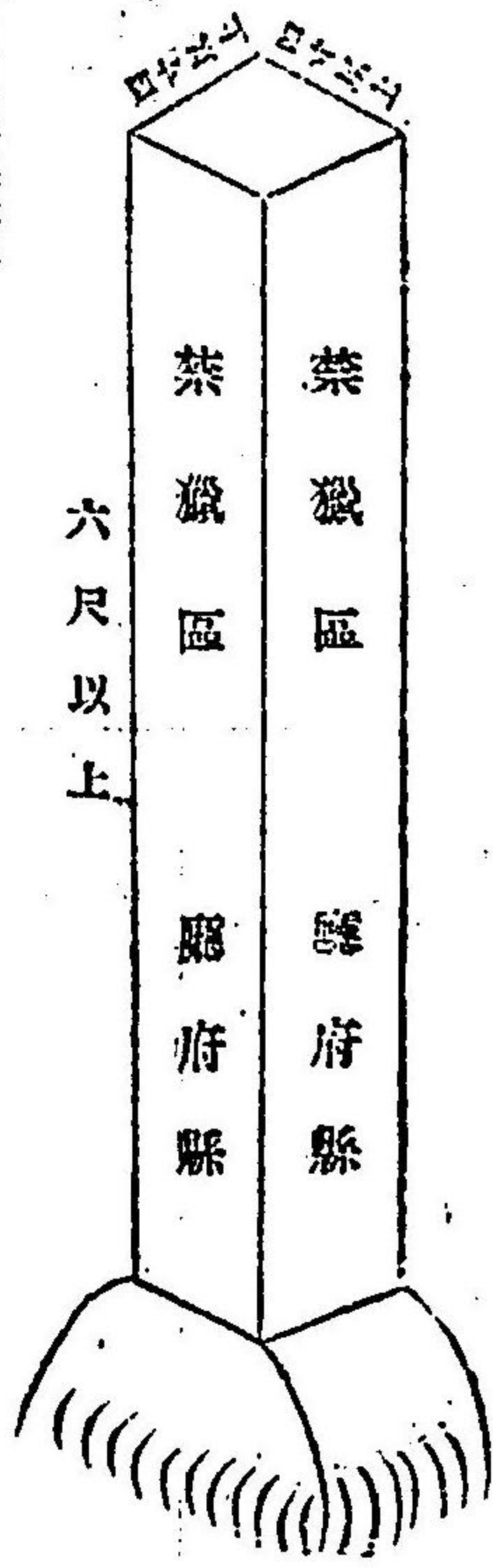
第二號樣式

備考	鳥獸(卵)名	員數	捕獲(採取)		許可ヲ受ケルモノ、住所	廳府縣名
			捕獲(採取)地	捕獲(採取)日		

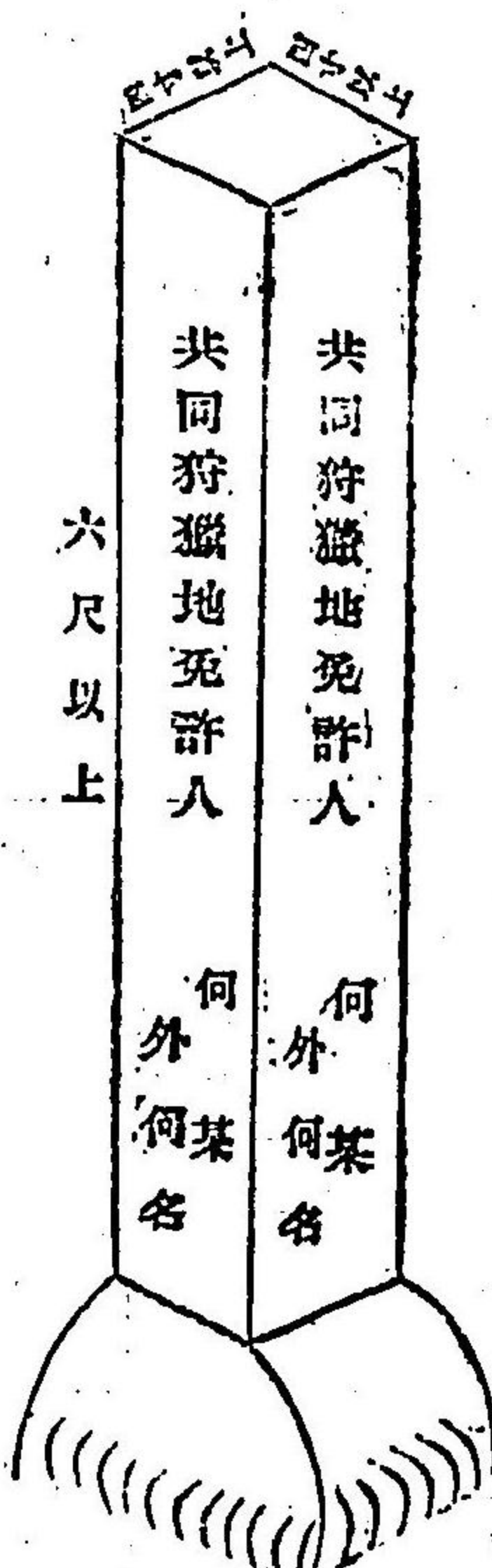
第三號樣式

備考	鳥獸名	員數	被害ノ狀況	捕獲地	許可ヲ受ケルモノ、住所	廳府縣名

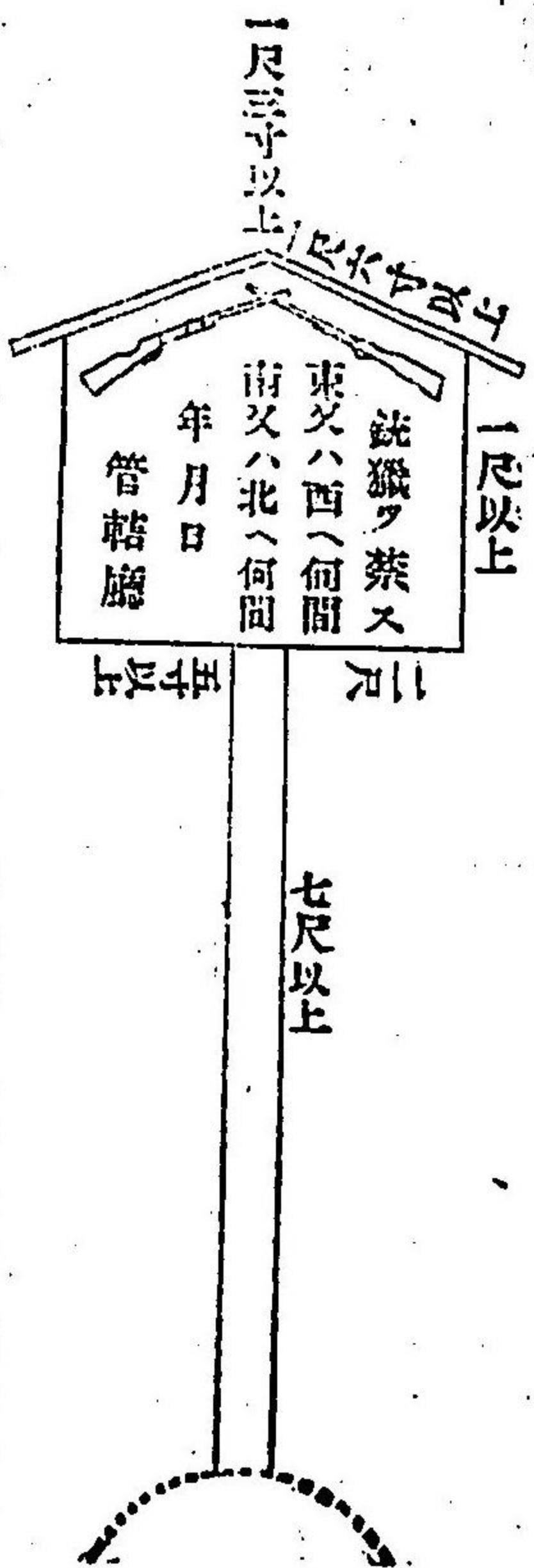
禁獵區木標雛形



共同狩獵地木標雛形



狩獵禁止制札雛形



● 共同狩獵地出願書樣式及圖

面雛形 (明治三十四年七月 農商務省告示第九十九號)

狩獵法施行規則第十三條第十四條共同狩獵地出願書樣式及圖面ノ雛形左ノ通相定ム

第一號樣式(用紙美濃紙正副二通)

共同狩獵地免許願

本籍 現住所 身分

何 年 某

何町何國何町何村大字何

小字何全地

何町何

但官地何町何

何町何

小字何ノ内

何町何

但官地何町何

何町何

合計

何町何

右ノ箇所從來ノ慣行ニ依リ共同狩獵地ト致度候

三付御許可ノ日ヨリ向ノ何年間免許相成度狩獵

法第九條同法施行規則第十三條ニ依リ別紙狩獵

ノ慣行調査及圖面相添此段願上候也

年月日 何 某

前書ノ通相違無之ニ付證明ス (現住所)

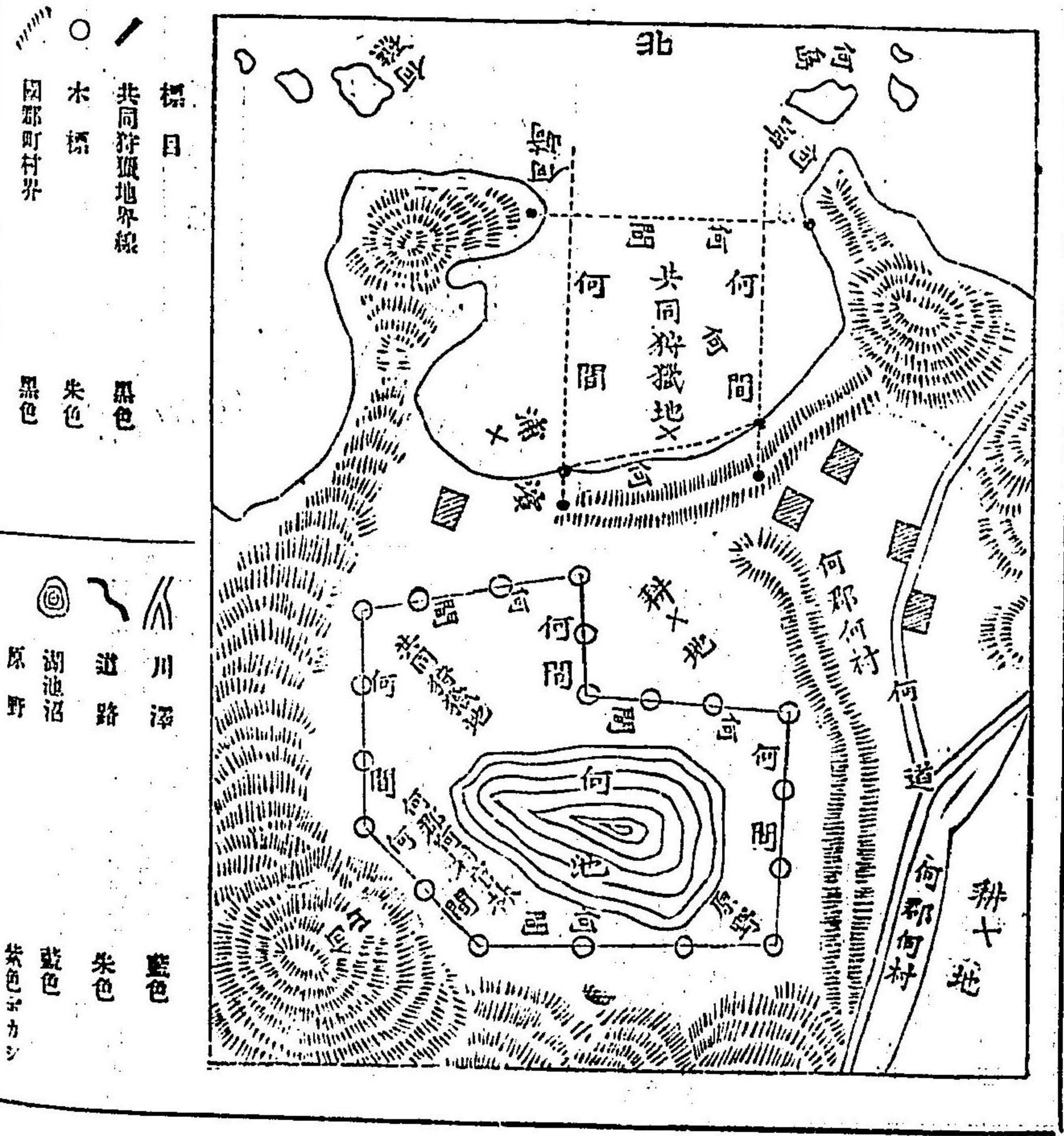
何市町村長 某

何市町村長 (共同狩獵免許地)

何市町村長 某

第二號樣式(川紙美濃紙正副二通)

共同狩獵地邊近頃
 本籍
 取住所
 身分
 何 年 某
 合計何町步
 何府何國何町何村
 右從前許可ノ分
 何府何國何町何村何大字何
 小字何何地何々々
 小字何ノ内
 但官地何々々
 但民地何々々
 合計
 右今同増加(減)ノ分
 何町步
 明治何年農第何號ヲ以テ共同狩獵地免許相成候處
 更ニ接續地何町步ヲ加ヘ(前共同狩獵地何町步ヲ
 減シ)其區域變更致度候ニ付御許可相成度狩獵法
 第九條同法施行規則第十四條ニ依リ別紙圖面相添
 此段願上候也
 年月日 何 某
 前書ノ通相違無之ニ付證明ス
 (現住所)
 何市町村長 某
 (共同狩獵地免許地)
 何市町村長 某
 何 某
 農商務大臣宛



耕地 黄色ホカシ
 宅地 淡洋紅ホカシ
 山林 綠色ホカシ

備考
 一 水面ニ於ケル共同狩獵地ノ境界線ハ一定不
 動ノモノニシテ見通シ若シ一定不動ノモノ
 ナキトキハ木橋ニ箇ヲ建設シ之ヲ見通シテ
 定ムヘシ
 一 但湖沼ノ全面ヲ共同狩獵地トスル如キ場
 合ハ此限ニアラス
 ● 狩獵取締ニ關スル件 (明治三十
 一年九月
 農商務省訓
 令第十八號)

警視廳 北海道廳 府縣
 近來狩獵者中或ハ免狀ヲ受ケヌ又ハ他人ノ免狀ヲ
 借受ケテ狩獵ヲ爲シ或ハ危險ナル器具ヲ使用シテ
 鳥獸ヲ捕獲シ或ハ密ニ保護鳥ヲ捕獲シテ之ヲ販賣
 スル者甚々有之哉ニ相聞エ不都合ニ候條自今取締
 上一層注意ヲ加フヘシ
 ● 狩獵免許稅徵收ノ件 (明治三十
 一年三月
 法律第七
 號)
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル狩獵免許稅徵收ニ關ス
 ル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 狩獵法ニ據リ政府ニ納ムル免許稅ハ稅額ニ相當ス
 ル印紙ヲ狩獵免許出願書ニ貼用シテ納ムル者トス
 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス
 ● 狩獵免許稅印紙ノ消印ニ關ス

第十五類 第一章 警察 第十四款 滲入紙附模造通貨證券

ル件 (農商務省告示第三十號)
 狩獵免許稅ハ本年法律第七號及本年大藏省告示第
 十六號ニ依リ登記印紙ヲ以テ納ムヘキニ付テハ狩
 獵免許出願者ハ其願書ニ貼付シタル印紙ニ消印ヲ
 爲サス當該官廳ニ差出スヘシ當該官廳ハ免許ヲ與
 ヘタルトキ之ヲ消印スヘシ
 ● 狩獵免許稅表調製ノ件
 (明治三十一年三月
 大藏省訓令第十四號)
 北海道廳 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)
 狩獵法第十一條ノ免許稅ハ一箇年度分ヲ集計シ左
 ノ様式ニ據リ報告表ヲ調製シ毎年四月三十日マテ
 ニ當省ヘ送付スヘシ(三十四年大藏省訓令第二十
 五號ヲ以テ條中改正)
 明治何年度分狩獵免許稅表

種目	等級			免許人自稅額	備考
	一等	二等	三等		
甲種					
乙種					
合計					

右報告候也
 年月日 大藏大臣宛 官氏名印
 一 法第十六條該當ノモノハ甲種又ハ乙種ノ一等
 二 編入シ其備考欄ヘ「内何人法第十六條該當
 ノモノ」ト記入スヘシ

● 御獵場御料地御料牧場ニ於
 ケル有害鳥獸ノ驅除ニ關ス
 ル件 (明治三十四年七月
 農商務省訓令第十五號)
 警視廳 北海道廳 府縣 東京府
 御獵場、御料地若クハ御料牧場ニ於ケル有害鳥獸
 ノ驅除ニ付テハ官内省主獵局長、御料局長若クハ
 主馬頭ヨリ照會アリタルトキハ狩獵法施行規則第
 二十三條第二項ノ期間内ニ於テ其照會ニ應スヘシ
 此場合ニ於テ同規則第二十六條第一項ノ報告ハ御
 獵場ニ在リテハ該場監督長、御料地ニ在リテハ御
 料局長、同局支廳長、若クハ事務所長、御料牧場
 ニ在リテハ該牧場長ヨリ之ヲ受ケヘシ

● 官林内有害鳥獸驅除ノ件
 (明治二十八年四月
 農商務省訓令第七號)
 大林區署
 所轄官林内ニ於テ有害鳥獸ノ驅除ヲ必要ト認ムル
 場合ハ本年法律第二十號狩獵法第十九條第二項及
 本年當省訓令第四號狩獵法取扱手續第一條第二項
 ニ準據シ地方廳ノ承認ヲ得タル上部下ノ吏員ナシ
 テ驅除方ヲ實施セシメ其驅除シタル鳥獸ノ名稱及
 員數ハ毎月十日迄三前月分ヲ取極メ地方廳ニ報告
 スル儀ト心得ヘシ

第十四款 滲入紙附模造
 通貨證券
 ● 滲入紙製造取締規則 (明治二十
 一年七月
 勅令第三
 十六號)
 朕滲入紙製造取締規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

流入紙製造取捨規則

第一條 文字畫紋ヲ流入レタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添ヘ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ届出ヘシ違フ者ハ一圓以上二圓九十五錢以下ノ料ニ處ス

第二條 紙幣兌換銀行券公債證券大藏省證券其他政府發行ノ證券ニ類似ノ文字畫紋又ハ凸ニ文字畫紋ヲ流入レタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

流入紙製造届出手續 (明治二十年八月)

大藏省令
第十二號

文字畫紋ヲ流入レタル紙ヲ製造スル者ハ一種毎ニ現品二葉ヲ添ヘ左ノ雛形ニ據リ届出ニ通テ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ差出スヘシ管轄廳又ハ警視廳ハ一通ヲ留メ既キ一通ヲ當省ニ送達スルモノトス

雛形 (川紙半紙)
流入紙製造
一何々流ハ紙
右製造仕候間現品相添此段御届仕候也

年月日 何 誰印

通貨及證券模造取締法
(明治二十八年四月)
法律第二十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル通貨及證券模造取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

通貨及證券模造取締法

第一條 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ類ハシキ外國者有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違ヒタル者ハ一月以上三年以下ノ罰禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ

第四條 第一條ニ掲ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

第十五款 移民保護

移民保護法 (明治二十九年四月)
法律第七十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル移民保護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

移民保護法

第一章 移民

第一條 本法ニ於テ移民ト稱スルハ勞動ニ從事スルノ目的ヲ以テ清韓兩國以外ノ外國ニ渡航スル者及其ノ家族ニシテ之ト同行シ又ハ其ノ所在地ニ渡航スル者ヲ謂フ(三十五年法律第四號ヲ以テ條中改正)

前項勞動ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 移民ハ行政廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ外國ニ渡航スルコトヲ得ス

渡航ノ許可ハ其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ出發セサルトキハ效力ヲ失フモノトス

第三條 行政廳ハ渡航スヘキ地ノ情況ニ因リ移民取扱人ニ依ラサル移民ヲシテ適當ト認ムル二人以上ノ保證人ヲ定メシムルコトヲ得

保證人ハ移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於テ之ヲ救助シ若ハ歸國セシムヘシ又行政廳ニ於テ移民ヲ救助シ若ハ歸國セシメタルトキハ其ノ費用ヲ擔當スヘシ

第四條 行政廳ハ移民保護ノ爲若ハ公安保持ノ爲又ハ外交上必要ト認ムルトキハ移民ノ渡航ヲ差止メ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

渡航差止中ノ日數ハ第二條第二項ノ期間ニ算入セス

第二章 移民取扱人

第五條 本法ニ於テ移民取扱人ト稱スルハ何等ノ名稱ヲ以テスルニ拘ラズ移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ヲ周旋スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第六條 移民取扱人タラムト欲スル者ハ行政廳ノ許可ヲ受ケヘシ

移民取扱人ノ許可ハ其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ營業ヲ開始セサルトキハ效力ヲ失フモノトス

第七條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミナ社員若ハ株主トスル商會社ニシテ帝國ニ於テ主たる營業所ヲ有スルモノニ非サレハ移民取扱人タルコトヲ得ス

前項ノ外移民取扱人ニ要スル資格ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條ノ二 移民取扱人ハ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民ニ對シ渡航ノ日ヨリ滿十箇年間第三條第二項ニ規定シタル保證人ノ職務ヲ負フ(三十四年法律第二十三號ヲ以テ追加)

第八條 行政廳ハ移民取扱人ノ行為法律命令ニ違反シタルトキ若ハ公安ヲ害スルモノト認ムルトキ又ハ移民取扱人保證金ノ納付ヲ遲滞シタルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ營業ノ許可ヲ取消ス

コトヲ得

第九條 移民取扱人ハ營業ヲ停止セラレ又ハ休業シタルトキト雖モ渡航セシメタル移民ニ對シ契約ノ履行ヲ中止スルコトヲ得ス

第十條 移民取扱人代理人ヲ定メ其ノ業務ヲ行ハシムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受ケヘシ

第十一條 移民取扱人ハ業務擔當社員若ハ取締役又ハ代理人ヲ在留セシメサル地ニ移民ヲ渡航セシムルコトヲ得ス

第十二條 移民取扱人ハ移民トシテ渡航スル者ニ非サレハ其ノ周旋又ハ募集ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 移民取扱人ハ勞動契約ニ因リ渡航スル移民ノ渡航ノ周旋又ハ募集ヲ爲ストキハ移民トシテ面契約ヲ爲シ行政廳ノ認可ヲ受ケヘシ(三十四年法律第二十三號ヲ以テ本項改正)

第十四條 必要ナル條件ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

第十四條 移民取扱人ハ手数料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス移民ヨリ金錢又ハ物品ヲ受ケルコトヲ得ス但シ其ノ手数料ハ豫メ行政廳ノ認可ヲ受ケヘシ(三十四年法律第二十三號ヲ以テ改正)

第十五條 移民取扱人移民ヲ募集スルトキハ出發セシムヘキ期日ヲ豫定シテ之ヲ示スヘシ移民取扱人正當ノ理由ナクシテ豫定ノ期日内ニ移民ヲ出發セシメサルトキハ其ノ出發延期ノ爲ニ生スル移民ノ費用ヲ負擔スヘシ

第三章 保證金

第十六條 移民取扱人ハ行政廳ニ保證金ヲ納付シタル後ニ非サレハ其ノ營業ヲ開始スルコトヲ得ス

保證金額ハ一萬圓以上トシ行政廳之ヲ定ム

第十七條 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ保證金額ヲ増減スルコトヲ得但シ前條ノ金額以下トスルコトヲ得ス

第十八條 行政廳ニ於テ移民取扱人移民ニ對シ契約ヲ履行セシムルニ規定シタル保證人ノ義務ヲ履行セシムルニ必要ト認ムルトキハ保證金ヨリ其ノ費用ヲ支出シテ移民ヲ救助シ又ハ歸國セシムルコトヲ得(三十四年法律第二十三號ヲ以テ改正)

第十九條 移民取扱人死亡、解散、營業許可ヲ取消又ハ其ノ理由ニ依リ營業ヲ廢止スルモ保證金ハ行政廳ニ於テ領置ノ必要アリト認ムル間ハ其ノ全部又ハ一部ヲ還付セサルコトヲ得

第二十條 移民取扱人營業中及前條行政廳ニ於テ保證金領置ノ必要アリト認ムル間ハ移民又ハ其ノ相續人カ本法ニ從ヒタル契約ニ基キ權利ヲ執行スル場合ノ外何人ト雖モ保證金ニ對シテ債權取立ヲ爲スコトヲ得ス

第四章 罰則

第二十一條 渡航ノ許可ヲ受ケス又ハ渡航地ヲ許リテ許可ヲ受ケ又ハ渡航差止命令ニ違反シテ渡航シタル移民ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 法律命令ニ違反シタル移民ノ渡航ヲ周旋シ又ハ渡航差止中ニ移民ヲ渡航セシメタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ移民取扱人ノ行為ヲ爲シタル者又ハ營業停止中ニ移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民取扱人及代理人ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 移民取扱人行政廳ノ許可ヲ受ケサル代理人ヲシテ其ノ行為ヲ爲シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ行為ヲ爲シタル代理人亦同シ

第二十五條 第十一條、第十二條、第十三條、第十四條及第十六條第一項ニ違反シタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 誘惑ノ手段ヲ以テ移民ヲ募集シ若ハ渡航ノ周旋ヲシタル移民取扱人及代理人ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二十七條 本法ノ罰則ハ商會社ニ在テハ其ノ各條ニ掲ケル行為ヲ爲シタル業務擔當社員又ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第五章 附則

第二十八條 本法施行以前ヨリ當該官廳ノ許可ヲ受ケ營業スル移民取扱人ハ本法施行ノ際別ニ許可ヲ受ケルヲ要セス本法ノ規程ニ依リ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ其ノ營業ヲ繼續セサルトキト雖モ其ノ既ニ納付シタル保證金ニ對シテハ仍本法ノ規程ヲ適用ス

第二十九條 本法ハ帝國ト締結シタル特別ノ條約ニ基キ渡航スル移民及其ノ取扱人ニ適用セス

第三十條 本法施行ノ爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 本法ハ明治二十九年六月一日ヨリ施行ス

明治二十七年勅令第四十二號移民保護規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

移民保護法施行細則 (明治二十九年五月)
外務省令
第三號

移民保護法施行細則左ノ通相定ム

移民保護法施行細則

第一條 移民保護法第一條ニ掲クル労働ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ(三十四年外務省令第一號ヲ以テ條中改正)

一 耕作、栽培、牧畜、漁業、(露領沿海州及薩摩島沿岸島嶼兩國通商規則ニ依リ韓國沿岸ニ於テ行フ漁業ヲ除ク)鑛業、製造、土木、運搬、建築等ニ従事シ努力ヲ供スル者

二 炊事、洗濯、裁縫、給仕、看護等ヲ爲メ家事ニ使役セラルル者

第二條 渡航ノ許可ヲ受ケント欲スル移民ハ渡航地名、渡航ノ目的及渡航年限ヲ詳記シ原籍地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ニ出願スヘシ但シ移民屋主ノ申請ニ依リ外務大臣特ニ認可シタル場合ニ於テハ之ニ服ハルヘキ移民ハ其ノ所在地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ニ出願スルコトヲ得(三十四年外務省令第一號第二號ヲ以テ條中改正)

前項ノ移民ニシテ移民取扱人ニ依ル者ハ渡航願書ニ移民取扱人ヲシテ連署セシメ移民取扱人ニ依ラズシテ保證人ヲ要スル地ニ渡航スル者ハ保證人ヲシテ之ニ連署セシムヘシ但シ移民保護法第十三條第一項ニ該當スル移民ハ同時ニ移民取扱人ト締結シタル契約書ヲ提示シ要ス

第一項 但書ニ依リ移民所在地ノ地方長官渡航ノ許可ヲ與ヘタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ移民原籍地ノ地方長官ニ通知スヘシ

第三條 移民保護法第三條ニ依リ保證人ヲ定メシムヘキ場合ハ外務大臣之ヲ告示ス

第四條 移民保護法第三條ニ掲クル保證人ハ其ノ原籍地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ニ於テ適

當ト認ムル者ニ限ル

第五條 移民取扱人タラント欲スル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ヲ經由シ外務大臣ニ出願スヘシ但シ合名會社ニ於テハ各社員ヨリ、合資會社ニ於テハ業務擔當社員ヨリ、株式會社ニ於テハ發起人ヨリ出願スヘシ(三十年外務省令第四號ヲ以テ本條中削除)

一 營業所

二 營業資本金額

三 營業年限ヲ定ムルモノハ其ノ年限

四 移民ヲ渡航セシムヘキ土地

五 移民ノ種類

六 取扱フヘキ移民ノ豫定人員

七 移民ノ渡航前後ニ於ケル周旋ノ方法

八 出願者ノ履歷

九 合名會社ニ於テハ各社員ノ財産、合資會社ニ於テハ各社員ノ出資額及無限責任社員ノ財産、株式會社ニ於テハ株式總數及一株ノ金額並發起人各自ノ引受クル株式數及財産、會社ニアラサルモノニ於テハ營業主ノ財産

移民取扱人ノ營業ヲ相續シ若クハ讓受ケントスル者モ亦本條ノ規定ニ依ルヘシ

第六條 移民取扱人營業開始ノ後前條ニ掲クル第二項第四項第六項第七項事項ヲ變更シ又ハ主タル營業所ヲ他ノ廳府縣ニ移轉セントスルトキハ前條ノ手續ニ準シ許可ヲ受クヘシ

第七條 移民取扱人ハ左ノ事項ヲ十日以内ニ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ヲ經由シ外務大臣ニ出願スヘシ(三十年外務省令第四號ヲ以テ本條中削除)

一 開業シタルトキハ其ノ年月日

株式會社設立ノ後取締役ノ氏名住所

二 株式會社設立ノ後取締役ノ氏名住所

三 關東會社ニシテ無限責任社員若クハ取締役ニ變更アリタルトキ其ノ氏名住所但シ無限責任社員ニ關シテハ其ノ履歷書及財産調査ヲ添フヘシ

四 同一廳府縣内ニ於ケル主タル營業所ノ移轉

五 支店若クハ出張所ノ廢置移轉

六 營業年限ノ變更

主タル營業所ヲ置ク廳府縣以外ノ地ニ於ケル支店若クハ出張所ノ廢置移轉ハ其地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ニモ出願スヘシ(三十一年外務省令第三號ヲ以テ追加)

第八條 外務大臣ニ於テ不適當ト認メタル者若クハ左ノ事項ノ一ニ該當スル者ハ移民取扱人又ハ代理人タルコトヲ得ス(三十年外務省令第四號ヲ以テ本條中削除)

一 瘋癲白痴ノ者

二 公權ヲ褫奪セラレタル者

三 公權停止中ノ者

四 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復舊セザル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第九條 移民保護法第十一條ニ依リ移民渡航地内ニ於テ業務擔當社員若クハ取締役又ハ代理人ヲ在留セシムヘキ地ハ外務大臣之ヲ定ム(三十二年外務省令第八號ヲ以テ追加以下順次條下ク)

第十條 移民保護法第十一條ニ依リ業務擔當社員若クハ取締役又ハ代理人ヲ移民ノ渡航地ニ在留セシムルトキ又ハ其ノ歸國若クハ解任ノトキハ其ノ氏名及在留地ヲ詳記シ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)及在留地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ出願スヘシ(三十一年外務省令第三號ヲ以テ本條中追加)

第十一條 移民保護法第十三條ニ掲クル書面契約

第十一條 移民保護法第十三條ニ掲クル書面契約ニ對シ認可ヲ受ケント欲スルトキハ其ノ契約書全文ニ移民ヲ渡航セシムヘキ土地ノ情況ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ又同法第十四條ニ規定セル手續料ノ認可ヲ受ケント欲スルトキハ移民ノ渡航地及手續料金額ヲ記載シ移民原籍地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ニ提出スヘシ(三十四年外務省令第一號第二號ヲ以テ改正)

前項契約書ニハ左ノ事項ヲ缺クコトヲ得ス

一 契約期限

二 手数料

三 渡航及歸航費用ノ支拂方

四 渡航地ニ於ケル周旋ノ方法

五 疾病其ノ他困難ノ場合ニ於テ救助又ハ歸國ノ手續

書面契約認可ノ後移民取扱人トノ間ニ解約アリタルトキハ移民原籍地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ニ届出ツヘシ

第二條第一項但書ニ依リ移民所在地ノ地方長官ニ渡航許可ヲ出願スル場合ニ於テハ本條第一項及第三項ノ書類ハ之ヲ其ノ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官本條第一項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ契約書寫又ハ手数料認可書寫ヲ添ヘ認可ノ年月日、移民ノ氏名、年齢、族籍、職業並ニ契約又ハ願書ノ番號ヲ外務大臣ニ報告シ又移民取扱人ノ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ニ通知スヘシ前項解約ノ届出アリタルトキ亦同シ

前項契約書ニハ左ノ事項ヲ缺クコトヲ得ス

一 契約期限

二 渡航周旋若クハ手数料

三 渡航及歸航費用ノ支拂方

三 渡航及歸航費用ノ支拂方

四 渡航地ニ於ケル周旋ノ方法

五 疾病其ノ他困難ノ場合ニ於テ救助又ハ歸國ノ手續

書面契約認可ノ後移民取扱人ト移民トノ間ニ解約アリタルトキハ移民原籍地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ニ届出スヘシ(三十一年外務省令第三號ヲ以テ本項追加)

地方長官書面契約ニ對シ認可ヲ與ヘタルトキハ契約書寫ヲ添ヘ認可ノ年月日、移民ノ氏名、年齢、族籍、職業並ニ契約番號ヲ外務大臣ニ報告シ又移民取扱人ノ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ニ通知スヘシ前項解約ノ届出アリタルトキ亦同シ(同上)

第十二條 移民取扱人外國ニ於ケル移民屋主ノ注文ニヨリ移民ヲ募集セントスルトキハ屋主ノ注文書ニ移民募集地方別豫定表ヲ添ヘ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ニ通知スヘシ(卅一年外務省令第三號ヲ以テ本條追加以下條下)

第十三條 當該官廳ヨリ移民保護法第十三條ニ掲クル契約書ヲ示スヘキコトヲ命シタルトキハ移民取扱人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 移民取扱人移民保護法第十五條ニ依リ豫定シタル移民ノ出發期日ヲ移民ニ通知スルトキハ書面ヲ以テスルコトヲ要ス

第十五條 移民保護法第十六條ニ掲クル保證金ハ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ニ納附スヘシ

前項保證金額及其ノ増減ハ外務大臣之ヲ定ム

前項保證金額及其ノ増減ハ外務大臣之ヲ定ム(三十年外務省令第四號ヲ以テ本條中削除)

第十六條 移民取扱人ノ納附スヘキ保證金ハ左ノ割合ヲ超過セザル限リ國債證券又ハ地方債證券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得(三十二年外務省令第一號ヲ以テ改正)

一 保證金額一萬二千圓マテハ其ノ三分ノ二

二 保證金額一萬二千圓以上三萬圓マテハ一萬二千圓ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ四分ノ三分ニ付テハ其ノ五分ノ四

三 保證金額三萬圓以上ハ三萬圓ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ五分ノ四

前項國債證券及地方債證券ノ價格ハ其ノ納附ヲ受クルヘキ官廳ノ定ムル所ニ依ル

第十七條 主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ハ移民取扱人ノ保證金増額ヲ追納セシム若クハ缺損ヲ填補セシムル場合ニ於テ一箇月以内ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得

第十八條 移民取扱人代理人ヲ定メ其ノ許可ヲ受ケント欲スルトキハ左ノ事項ヲ詳記シタル書類ヲ添附シ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ヲ經由シ外務大臣ニ出願スヘシ(三十年外務省令第四號ヲ以テ本條中削除)

一 代理人ノ履歷

二 代理人ノ財産

三 代理人ノ財産

第十九條 代理人ニシテ其ノ業務ヲ行フトキハ代理人タルノ許可證ヲ携帯スヘシ移民取扱人外國ニ在留スル者ヲ代理人ニ定メ其ノ許可證代理人ニ到達スル以前ニ業務ヲ行ハシムル必要アルトキハ移民取扱人ノ費用ヲ以テ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)ヲ經由シ其ノ在留スヘキ地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出

第二十條 移民取扱人移民ニ關シ別ニ他人ト契約ヲ爲シタルトキハ該契約書寫ヲ添ヘ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ク地方長官(東京府ハ警視總監)及其ノ移民ノ在留地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

移民取扱人前項ノ契約ニ基キ移民ヲ募集シタルトキハ第十一條ノ手續ヲ爲スニ當リ該契約書寫ヲ添フヘシ(三十一年外務省令第三號三十四年同第一號ヲ以テ本項改正)

第二十一條 移民取扱人移民ノ身上ニ異變ヲ生セシ報告ニ接シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ク並ニ移民原籍地ノ地方長官(東京府ハ警視總監)及其ノ移民ノ在留地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツヘシ(三十一年外務省令第三號三十四年同第一號ヲ以テ本項改正)

第二十二條 移民取扱人移民ヲ渡航セシムルトキハ移民ノ出發ト同時ニ移民ノ氏名ヲ明記シタル届書ヲ其ノ移民ノ在留地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ送付スヘシ但シ移民保護法第十三條第一項ニ該當スル移民ニ係ルトキハ契約書寫ヲ添フヘシ(三十四年外務省令第一號ヲ以テ本項改正)

前項契約書寫ハ同一條件ニ係ルモノハ其ノ寫一通ヲ以テ足レトス

第二十三條 移民ノ渡航地ニ在留スル業務擔當社員若クハ取締役又ハ代理人ハ移民名簿ヲ備ヘ移民ノ就地地屋主ノ氏名ヲ明記シ當該官廳ヨリ命令アルトキハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ

第二十四條 移民ノ渡航地ニ在留スル業務擔當社員若クハ取締役又ハ代理人ハ他國ニ轉住スヘキ移民アルトキハ其ノ在留地及轉住地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第二十五條 移民取扱人ハ左ノ格式ニ依リ調製シタル渡航者名簿ヲ翌月五日マテニ、歸國者名簿及死亡者名簿ヲ翌年一月二十五日マテニ主タル

營業所ヲ置ク地方長官(東京府ハ警視總監)ニ届出ツシ

渡航者名簿		歸國者名簿		死亡者名簿	
渡航許可ノ官廳及年月日	氏名	渡航許可ノ官廳及年月日	氏名	渡航許可ノ官廳及年月日	氏名
	職及年齢		職及年齢		職及年齢
	渡航ノ目的		渡航ノ目的		死亡ノ年月日
	渡航地		渡航地		死亡ノ年月日
	期限契約		期限契約		

第二十六條 渡航ノ日及ハ渡航年限ヲ詳リテ渡航ノ許可ヲ受ケタル者並ニ第六條第十三條第十四條第十五條第二十條及第二十五條ニ違反シタル者ハ五圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス(三十一年外務省令第三號三十四年同第一號ヲ以テ條中改正)

第二十七條 第七條第十條第二十條第二十一條第二十二條第一項及第二十四條ニ違反シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第二十八條 本令ニ於テ在外帝國官廳ト稱スルハ在外帝國領事館又ハ貿易事務館及領事館貿易事務館ナキ地ニ於テハ其ノ地ヲ管轄スル帝國公使館ヲ指ス

第二十九條 本令ハ明治二十九年六月一日ヨリ施行ス

明治二十七年外務省令第六號移民保護規則施行規則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●移民保護法ニ依リ保證人ヲ

定ムヘキ地方指定 (明治二十九年六月)

外務省令(明治二十九年六月) 示第七號

明治二十九年法律第七十號移民保護法第三條ニ依リ左ノ地方ハ渡航スヘキ移民ノ保證人ヲ定ムヘシ

一 北米合衆國 一加拿大 一 澳洲諸島 一 布哇國 一 暹羅國

明治二十七年外務省令第二號ハ之ヲ廢止ス

婦女ヲ誘惑シ海外渡航ノ途ヲ杜絶セシム (明治二十六年二月)

外務省令(明治二十六年二月) 第一號

近來不逞ノ徒各地ヲ徘徊シ甘言ヲ以テ海外ノ事情ニ惑キ婦女ヲ誘惑シ送ニ種々ノ方法ニ因リテ海外ニ渡航セシメ渡航ノ後ハ正業ニ就カシムルコトヲ爲サス却テ之ヲ強迫シテ醜業ヲ營マシメ若クハ多少ノ金錢ヲ貪リテ他人ニ交付スル者アリ之カ爲メニ海外ニ於テテリテ忍ビサルノ困難ニ陷ル婦女道々増加シ在外公館ニ於テ救護ヲ勉ムト雖モ或ハ遠隔ノ地ニ在リテ其所在ヲ知ルニ由ナク困難ニ陷ル婦女モ亦種々ノ障礙ノ爲メニ其事情ヲ出訴スルコト能ハサルモノ多シ依テ此等誘惑渡航ノ途ヲ杜絶シ且ツ婦女ヲシテ忘リニ渡航ヲ企圖セシメサル豫取計ヲヘシ

清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法 (明治二十九年四月)

法律第八十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法

第一條 清國及朝鮮國駐在ノ領事ハ在留ノ帝國臣

第十五類 第一章 警察 第十六款 北海道移民

北海道移民

民該地方ノ安寧ヲ妨害セムトシ又ハ該地方ノ風俗ヲ擾亂セムトスル者アルトキハ一年以上三年以下在留スルコトヲ禁止スヘシ

第二條 在留ヲ禁止セラルル者ハ十五日以内ニ退去スヘシ若クハ期限內退去シ難キ正當ノ理由アリテ其ノ旨ヲ申立ツルトキハ領事ハ相當ノ猶豫期限ヲ與フルコトヲ得

第三條 在留ヲ禁止ノ命令ヲ受ケタル者其ノ命令ニ對シ不服アルトキハ命令ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ領事ヲ經テ外務大臣若クハ駐劄帝國公使ニ該命令取消ノ申請ヲ爲スコトヲ得

但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ命令ノ執行ヲ停止セス

第四條 前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ外務大臣若クハ駐劄帝國公使ハ其ノ事實ヲ審査シ領事ノ命令ヲ認可シ若クハ之ヲ取消スヘキ命令ヲ爲スヘシ其ノ命令ハ確定ノモノトス

第五條 在留ヲ禁止セラルル者營業上若クハ其ノ他ノ關係ニ於テ其ノ地ヲ去リ難キ事情アリト認ムルトキハ領事ハ其ノ期限間相當ノ保證金ヲ出サシメ在留セシムルコトヲ得

第六條 保證金ヲ出シ在留ノ許可ヲ得タル者其ノ期限內再ヒ第一條ノ舉動アリト認定スル時ハ其ノ保證金ヲ沒收シ仍ホ在留ヲ禁止スヘシ

第七條 在留ヲ禁止セラルル者改換ノ狀アルトキハ領事ハ何時ニテモ職權ニ依リ又ハ所轄地方長官ノ證明ニ依リ該命令ヲ取消スコトヲ得

第八條 退去期限若クハ猶豫期限內ニ退去セザル者及禁止期限ヲ犯シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

附則

●北海道移民渡航船舶取締規則 (明治三十一年八月)

內務省令第八號

第九條 明治十六年第九號布告及明治十八年第二十六號布告ハ此ノ法律實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十六款 北海道移民

第一條 北海道移民渡航船舶取締規則

第二條 北海道移民渡航船舶取締規則

第三條 北海道移民渡航船舶取締規則

第四條 北海道移民渡航船舶取締規則

第五條 北海道移民渡航船舶取締規則

第六條 北海道移民渡航船舶取締規則

第七條 北海道移民渡航船舶取締規則

第八條 北海道移民渡航船舶取締規則

第九條 北海道移民渡航船舶取締規則

第十條 北海道移民渡航船舶取締規則

第十一條 北海道移民渡航船舶取締規則

第十二條 北海道移民渡航船舶取締規則

第十三條 北海道移民渡航船舶取締規則

第十四條 北海道移民渡航船舶取締規則

第十五條 北海道移民渡航船舶取締規則

第十六條 北海道移民渡航船舶取締規則

第十七條 北海道移民渡航船舶取締規則

第十八條 北海道移民渡航船舶取締規則

第十九條 北海道移民渡航船舶取締規則

第二十條 北海道移民渡航船舶取締規則

第二十一條 北海道移民渡航船舶取締規則

第二十二條 北海道移民渡航船舶取締規則

第二十三條 北海道移民渡航船舶取締規則

第二十四條 北海道移民渡航船舶取締規則

第二十五條 北海道移民渡航船舶取締規則

第二十六條 北海道移民渡航船舶取締規則

第二十七條 北海道移民渡航船舶取締規則

第二十八條 北海道移民渡航船舶取締規則

第二十九條 北海道移民渡航船舶取締規則

第三十條 北海道移民渡航船舶取締規則

第三十一條 北海道移民渡航船舶取締規則

第三十二條 北海道移民渡航船舶取締規則

第三十三條 北海道移民渡航船舶取締規則

第三十四條 北海道移民渡航船舶取締規則

第三十五條 北海道移民渡航船舶取締規則

第三十六條 北海道移民渡航船舶取締規則

第三十七條 北海道移民渡航船舶取締規則

第三十八條 北海道移民渡航船舶取締規則

第三十九條 北海道移民渡航船舶取締規則

第四十條 北海道移民渡航船舶取締規則

一 船名及發航日時
 二 移住民ノ員數船賃及渡航周旋料又ハ手數料
 三 移住民又ハ船前所有者若ハ船長トノ契約
 四 移住民ヲ投宿セシメタルトキハ其月日
 第六條 前條ノ渡航周旋料又ハ手數料ヲ不當ナリト認ムルトキハ所轄警察署ハ之ヲ低減セシムルコトヲ得
 第七條 同前條ノ渡航周旋料又ハ手數料ヲ不當ナリト認ムル理由ナクシテ第五條ノ發航日時ニ移住民ヲ出立セシメタルトキハ其出發延期ノ爲ニ生スル移住民ノ費用ヲ負擔スヘシ
 第八條 同前條ノ渡航周旋料又ハ手數料ヲ不當ナリト認ムル理由ナクシテ第五條ノ發航日時ニ移住民ヲ出立セシメタルトキハ其出發延期ノ爲ニ生スル移住民ノ費用ヲ負擔スヘシ
 第九條 左ニ掲グル事項ノ一ニ該當スル者ハ二十五日以下ノ重罰額又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第一條ノ届出ヲ爲サスシテ航行シ又ハ同條若ハ第五條ノ場合ニ於テ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者
 二 第四條ノ届出以前ニ發航シタル者
 三 第五條ノ届出ヲ爲サスシテ周旋料ヲ爲シタル者
 四 第八條ニ違背シ金銀又ハ物品ヲ受ケタル者
 五 船舶内ニ於テ天災其他避ケルヘカラサル事故ニ由リニアラスシテ飲食物ノ供給ヲ怠リタル者
 第十條 前條ノ商會社ニ在リテハ其所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役又ハ使用人ニ之ヲ適用ス

警察官吏附添派遣ノ件
 (明治三十一年十月内務省訓令第二十八號)
 府 縣
 北海道移住民三百名以上一時ニ乘船シテ渡航スルトキ及渡航セントスル移住民三百名ニ滿タスト雖モ既ニ搭載シタル移住民ヲ合セ七員數ニ達シタルトキハ乘船地ノ府縣廳ハ警察官吏一名以上ヲ著港地マテ附添派遣セシムヘシ
 ●北海道移住民汽車賃及汽船賃ノ無賃、割引、取扱方
 (明治三十一年二月内務省告示第九號)
 北海道移住民ニ對シテ汽車賃及汽船賃ノ無賃、割引ニ其ノ取扱方左ノ如シ
 第一條 北海道移住民ニシテ汽車賃及汽船賃ノ無賃、割引ヲ受ケントスル者ハ住所ヲ有スル地ノ府縣、島嶼又ハ郡市役所(東京市、京都市、大阪市及沖繩縣ニ於テハ區役所)ニ申出割引券ヲ下附テ請フヘシ但シ主務官廳ノ移住證明書ヲ有スル移住民ニシテ住所ヲ有スル地ニ於テ割引券ヲ受ケルコト能ハサルトキハ施行先ノ官公署ニ之ヲ請求スルコトヲ得(三十二年內務省告示第九十三號ヲ以テ條中改正)
 第二條 割引券ヲ携帶スル者ハ當初移住ノ往路ニ限リ左ノ區別ニ依リ無賃若ハ割引ヲ以テ乘車又ハ乘船スルコトヲ得
 逓信省所管ノ鐵道 五割引
 北海道所管ノ鐵道 無賃
 (三十二年內務省告示第六十五號ヲ以テ追加)
 住野鐵道株式會社ノ鐵道 五割引
 京都鐵道株式會社ノ鐵道 三割引

鐵道株式會社ノ鐵道 三割引
 日本鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 參宮鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 總武鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 播磨鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 青島鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 豐川鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 房總鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 成田鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 上野鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 關西鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 甲武鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 川越鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 大阪鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 奈良鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 豐州鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 南和鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 阪堺鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 阪鶴鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 山陽鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 九州鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 中越鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 北越鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 岩越鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 (三十二年內務省告示第九十二號ヲ以テ前二會社追加)
 北海道鐵道株式會社ノ鐵道 無賃
 七尾鐵道株式會社ノ鐵道 二割引
 (三十二年內務省告示第五十三號ヲ以テ追加)
 大阪商船株式會社ノ汽船 二割引
 (三十五年內務省告示第十三號ヲ以テ割引改正)

日本郵船株式會社ノ汽船 一割五分引
 (三十二年內務省告示第十六號ヲ以テ追加)
 尼崎伊三郎ノ汽船(大阪府) 二割引
 柏屋磯一ノ汽船(大阪府) 二割引
 宇和島運輸株式會社ノ汽船 二割引
 末廣岩次郎ノ汽船(愛媛縣) 二割引
 太湖汽船株式會社ノ汽船 二割引
 原田十二郎ノ汽船(大阪府) 二割引
 東洋汽船株式會社ノ汽船 二割引
 高田磯丸ノ汽船(大阪府) 二割引
 松田精一ノ汽船(長崎縣) 二割引
 島谷三郎ノ汽船(大阪府) 二割引
 中村丑太郎ノ汽船(大阪府) 二割引
 岡崎運兵衛ノ汽船(大阪府) 二割引
 高田磯丸山本茂藏ノ汽船(大阪府) 二割引
 阿波國共同汽船株式會社ノ汽船 二割引
 中田久七ノ汽船(大阪府) 二割引
 龜井長太郎ノ汽船(大阪府) 二割引
 宇麻汽船株式會社ノ汽船 二割引
 藤野林太郎ノ汽船(大阪府) 二割引
 阪川汽船株式會社ノ汽船 二割引
 川ノ石汽船株式會社ノ汽船 二割引
 土佐商船株式會社ノ汽船 二割引
 有田精之ノ汽船(兵庫縣) 二割引
 大川運輸株式會社ノ汽船 二割引
 北村久輔ノ汽船(大阪府) 二割引
 土屋清三郎ノ汽船(大阪府) 二割引
 岡田太郎治ノ汽船(鳥取縣) 二割引
 福永正七中村丑太郎ノ汽船(大阪府) 二割引
 山澤與三兵衛ノ汽船(富山縣) 二割引
 濱岡與三兵衛ノ汽船(富山縣) 二割引
 濱岡與三兵衛ノ汽船(富山縣) 二割引

岡本太郎吉ノ汽船(富山縣) 二割引
 野野宗八ノ汽船(富山縣) 二割引
 船本與右衛門ノ汽船(富山縣) 二割引
 石本典次郎ノ汽船(富山縣) 二割引
 久和六郎ノ汽船(富山縣) 二割引
 國鐵汽船株式會社ノ汽船 二割引
 內國運送株式會社ノ汽船 二割引
 銚子汽船株式會社ノ汽船 二割引
 吉岡孝太郎ノ汽船(千葉縣) 二割引
 陸奥汽船合資會社ノ汽船 二割引
 益城速雄ノ汽船(青森縣) 一割五分引
 鎌田嘉助ノ汽船(青森縣) 一割五分引
 中越汽船株式會社ノ汽船 一割引
 (以上三十五年內務省告示第十三號ヲ以テ追加)
 三上合資會社ノ取扱ニ係ル汽船(東海丸、萬國丸) 三割引
 松永平次郎(橫濱市)ノ取扱ニ係ル各汽船 三割引
 秋田汽船株式會社ノ汽船 二割引
 (以上三十五年內務省告示第四十號ヲ以テ追加)
 本條ニ掲グル播但鐵道株式會社、山陽鐵道株式會社及九州鐵道株式會社ノ鐵道ニ於ケル割引ハ明治三十一年十二月三十一日迄トス(三十二年告示第二號三十五年同告示第三號參看)
 第三條 逓信省所管ノ鐵道ニ於ケル割引ハ左記ノ區別ニ從ヒ乘船地ニ到ル線路ニ限ル(三十二年內務省告示第二十九號ヲ以テ乘車線路中吹田ヲ神戸ト改ム)

武庫	豐橋、神戸間及武豐線各驛	三割引
大和	豐橋、神戸間及北陸線各驛	二割引
兵衛	豐橋、神戸間及北陸線各驛	二割引
伏見	北陸線各驛	二割引
直江津	信越線各驛	二割引
青森	奥羽線各驛	二割引

本條指定ノ線路ニ依リ能ハサル者ハ第一條ニ掲グル各驛ニ申出特ニ乘降地ノ指定ヲ受ケルコトヲ得
 第四條 日本鐵道株式會社ノ鐵道ニ於ケル割引ハ青森ニ山陽鐵道株式會社ノ鐵道ニ於ケル割引ハ神戸ニ九州鐵道株式會社ノ鐵道ニ於ケル割引ハ門司ニ中越鐵道株式會社ノ鐵道ニ於ケル割引ハ高岡ニ到リ下車スル者ニ限ル
 第五條 携帶品ノ無賃割引ハ左ノ區別ニ依リスル分ヲ五割引トス
 一 逓信省所管ノ鐵道ニ於テハ無賃定限ニ超過スル分ヲ五割引トス
 二 北海道所管ノ鐵道及北海道鐵道株式會社ノ鐵道ニ於テハ日常必要ノ家具衣類農具ニ限リ無賃トス(三十二年內務省告示第六十五號ヲ以テ本項中追加)
 三 豐州鐵道株式會社ノ鐵道ニ於テハ日常必要ノ家具衣類農具ニシテ定限ノ斤量ヲ超過セサル分ニ限リ無賃トス
 四 中越鐵道株式會社ノ鐵道ニ於テハ日常必要ノ家具衣類農具等ニシテ無賃定限ニ超過スル分ヲ五割引トス
 五 其ノ他ノ鐵道(日本鐵道株式會社、參宮鐵道株式會社、播但鐵道株式會社、青島鐵道株式會社、奈良鐵道株式會社及山陽鐵道株式會社)

社ノ鐵道ヲ除ク及汽船ニ於テハ普通手荷物ニシテ無貨定限ニ超過スル分ヲ割引ス其ノ歩合ハ第二條ニ同シ

第六條 割引券ハ避ケヘカフサル事故ニ由リ滅失シタルモノノ外再ヒ下附セズ

第七條 割引券ノ格式ハ左ノ如シ
(割引券格式略ス) (三十三年內務省告示第四十六號ヲ以テ格式中改正)

○內務省告示明治三十二年一月 明治三十一年(二月三日)內務省告示第九號第二項北海道移住民ニ對スル汽船貨物割引ノ期限但鐵道株式會社ノ鐵道ハ更ニ無期トシ山陽鐵道株式會社ノ鐵道ハ仍ホ明治三十二年十二月三十一日迄トス

○內務省告示明治三十五年十二月 明治三十一年(二月三日)內務省告示第九號第二條第二項北海道移住民ニ對スル山陽鐵道株式會社及九州鐵道株式會社ノ鐵道汽船貨物割引期限ハ仍ホ明治三十六年十二月三十一日迄トス

○內務省訓令明治三十一年 本年內務省告示第九號ニ依ル北海道移住民ノ汽船貨物割引券取扱方左ノ通相定ム

第一條 割引券ノ下附ヲ請フ者アルトキハ左ノ事項ヲ調査シテ之ヲ下附スヘシ

一 一時ノ出稼ニアラサル者

二 生業ノ目的ヲ以テ移住スル者

三 移住ニ要スル旅費ヲ辨シ得ル者

第二條 告示第三條第二項ニ依リ特ニ乘降地ヲ指定シタル各乘車五日前ニ其ノ乘降スヘキ驛名並ニ乘車人員ヲ鐵道作業局運輸部ニ通知スヘシ但割引券下附後ニ在リテハ之ヲ訂正スヘシ

第三條 南和鐵道株式會社ノ鐵道ニ係ル割引券ヲ下附シタル各驛ハ其ノ乘降スヘキ驛名並ニ乘車人員ヲ同會社ニ通知スヘシ

第四條 割引券ハ乘車內務省ヨリ府縣ニ配附ス府縣ニ於テハ自ラ下附スルモノヲ除キ直ニ下級廳ニ分配スヘシ

第五條 割引券ノ受拂ヲ爲シタル各驛ニ於テハ割引券受拂簿並ニ下附簿ヲ設ケテ左ノ事項ヲ登記スヘシ

受拂簿ニ登記スヘキ事項

受入ノ年月日、員數並ニ送越ノ驛名

拂出ノ年月日、分配及下附ノ員數、棄却ノ事由及員數並ニ毎月末現在高

下附簿ニ登記スヘキ事項

券面ノ番號、下附ノ年月日、受領人ノ住所、身分、職業、移住ノ目的、氏名、年齡

第六條 前條ノ事項ハ府縣知事ニ於テ毎年左記甲乙兩號ノ表式ニ依リ本大臣ニ報告スヘシ
(表式略ス)

○內務省訓令明治三十一年 北海道移住民ニシテ北海道内ノ一港ニ上陸シ更ニ移住目的地ニ到ラントスル者ニ對シ其ノ應及ハ支應ハ本年(二月)內務省訓令第一號ニ依リ其ノ目的地ニ到リ迄ノ汽船貨物割引券ヲ下附スルコトヲ得但上陸後二箇月ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス

第十七款 水難救護
水難救護法 (明治三十二年三月) 法律第九十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テタル水難救護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 遊離船舶

第一條 遊離船舶救護ノ事務ハ最初ニ事件ヲ通知シタル市町村長ニ行フ

第二條 遊離船舶アルコトヲ發見シタル者ハ運滯ナク最近地ノ市町村長又ハ警察官吏ニ報告スヘシ

警察官吏ニ於テ報告ニ接シタルトキハ市町村長ニ通知スヘシ

第三條 遊離船舶アルコトヲ通知シタルトキハ市町村長ハ直ニ現場ニ臨ミ救護ニ必要ナル處分ヲ爲スヘシ

第四條 警察官吏ハ救護ノ事務ニ關シ市町村長ヲ助ケ市町村長現場ニ在ラサルトキハ之ニ代リ其ノ職務ヲ執行スヘシ

第五條 救護ハ船長ノ意ニ反シ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ船長ノ人命ヲ保護スル手段ヲ不充分ナリト認メ又ハ船長ニ惡意アリト認メタル場合ニハ之ヲ適用セス

第六條 市町村長ハ救護ノ爲人ヲ召集シ船舶車馬其ノ他ノ物件ヲ徵用シ又ハ他人ノ所有地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ召集セラレタル者ハ市町村長ノ指揮ニ從ヒ救護ニ從事スヘシ

第七條 市町村長ハ救護ニ際シ必要ナラスト認ムル者、妨害ヲ爲シタル者又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ退去セシムルコトヲ得

市町村長ハ救護ニ際シ暴行ヲ爲シタル者ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

市町村長前項ノ處分ヲ爲スニ當リ助力ヲ命セラレタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 市町村長ハ救護ニ際シ遊離物件ヲ隱匿シ

タル者アリト認ムルトキハ其ノ物件ヲ捜索シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第九條 市町村長ハ遊離船舶其ノ他救上ケタル物件及前條ノ規定ニ依リ差押ヘタル物件ヲ保管スヘシ

前項ノ物件中ニ郵便物アルトキハ市町村長ハ運滯ナク最近ノ郵便局ニ引渡スヘシ

第十條 船長ハ遊離後運滯ナク遊離報告書ヲ作り市町村長ニ提出スヘシ但シ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セザル船舶又ハ湖川港灣ノミヲ限リ航行スル船舶ノ遊離ニ付テハ此ノ限ニアラス

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査シ相當ト認ムルトキハ船長ノ請求ニ依リ證書ヲ與フヘシ

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査スル爲メ船内書類ノ提出ヲ命ジ又ハ船員、旅客其ノ他船中ニ在リタル者ヲ呼出シ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十一條 市町村長ハ救上ケタル物件左ニ掲グル事項ノ一ニ該當スト認メタルトキハ之ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

一 物件久シ耐ヘ難キコト又ハ著シク其ノ價格ヲ減スル虞アルコト

二 爆發物、容易ニ燃焼スヘキ物又ハ其ノ他ノ物件ニシテ保管上危險ノ虞アルコト

三 保管ノ費用其ノ物件ノ價格ニ超過シ又ハ其ノ價格ニ比シ不相當ナルコト

前項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲サントスル場合ニ於テ船長其ノ地ニ在ルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供シテ物件ノ引渡ヲ請求セザルトキハ公賣ニ付スヘキ旨ヲ船長ニ告知スヘシ

遊離船舶ノ所在地船籍港ナルトキハ前項ノ告知

ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ公賣ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 救護ニ關係シタル者ハ市町村長ヨリ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ左ニ掲グル者ニハ之ヲ適用セス

一 救護セラレタル船舶ノ所有者又ハ其ノ船舶ノ船員

二 故意、懈怠又ハ過失ニ因リ遊離ヲ惹起シタル者

三 第五條ノ規定ニ違反シテ救護シタル者

四 救護ニ際シ妨害ヲ爲シ又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者

五 遊離物件ヲ持去リ又ハ其ノ引渡ヲ拒ミタル者

第十三條 左ニ掲グルモノヲ以テ救護費用トス

一 救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ報酬

二 第六條ノ規定ニ依ル土地ノ使用又ハ物件ノ徵用ニ對スル補償

三 救上ケタル物件ノ運搬、保管又ハ公賣ニ要シタル費用

第十四條 救護費用ノ支給ヲ受ケントスル者ハ市町村長ノ指定スル期間内ニ其ノ金額ヲ申立ツヘシ

前項ノ手續ヲ爲ササル者ハ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條 救護費用ノ金額ハ命令ノ規定ニ依リ市町村長ニ決定ス

市町村長ハ救護費用ノ金額ヲ船長ニ告知シ期間ヲ定メテ之ヲ納付セシムヘシ

遊離船舶ノ所在地船籍港ナルトキハ船長在ラ

サルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條 船長又ハ船舶所有者ハ救護費用ヲ納付シテ市町村長ノ保管ニ係ル金額其ノ他ノ物件ノ引渡ヲ受ケヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供スルトキハ前項ノ金額其ノ他ノ物件ノ全部若ハ一部ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

左ニ掲グル物件ハ前二項ノ規定ニ拘ラス其ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

一 船員ノ所持品

二 船員及旅客ノ食料

三 運送貨物支拂フコトナクシテ船中ニ携帯スル旅客ノ手荷物

第十七條 第二項ニ掲グル物件

市町村長ノ保管スル船舶又ハ積荷ヲ賣却シ適當ト爲シ又ハ質入セントスルトキハ市町村長ノ認可ヲ受ケヘシ此ノ場合ニ於テ市町村長必要アリト認ムルトキハ之ニ立會フヘシ

前項ノ處分ニ因リ取得シタル金額其ノ他ノ物件ハ市町村長ニ於テ第十一條又ハ前項ノ規定ニ依リ金額ヲ保管スル場合ニ其ノ金額救護費用ノ金額ニ過シタルトキハ直ニ其ノ金額ヲ以テ救護費用ヲ支拂シ其ノ殘額ハ保管ニ係ル他ノ物件ト共ニ船長又ハ船舶所有者ニ引渡スヘシ

第十七條 船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ定メタル期間内ニ救護費用ヲ納付セザルトキハ市町村長ハ保管ノ物件又ハ擔保トシテ差出シタル物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ公賣ヲ爲スモ其ノ代金ヲ以テ公賣ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタ

第十五類 第一章 警察 第十七款 水難救護

ル物件ニハ之ヲ適用ス
 第十八條 市町村長ハ納付ヲ受ケタル金額又ハ其ノ保管ニ係ル金額ヲ以テ救護費用ヲ支辨スヘシ
 第十九條 救護其ノ救護費セサルトキハ救護費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス
 船長又ハ船舶所有者救護費用ヲ納付セザル場合ニ於テ第十七條ニ定ムル手續ヲ爲シタル後市町村長ノ保管ニ係ル金額ヲ以テ救護費用ヲ支辨スルニ足ラサルトキハ國庫ヨリ之ヲ補助シ殘餘アルトキハ船長又ハ船舶所有者ニ之ヲ還付ス
 第二十條 本章ノ規定ハ市町村長ノ招集ヲ待タズシテ救護ニ從事シタル者ニ亦之ヲ適用ス但シ市町村長ニ於テ救護ニ干與セザルトキハ此ノ限ニテラス
 第二十一條 本章中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス
 第二十二條 第一條乃至第四條、第五條第一項、第六條乃至第九條、第十二條乃至第十四條、第十五條第一項第二項、第十八條、第十九條第一項、第二十條及第二十一條ノ規定ハ海軍艦船其ノ他官廳ノ所有スル船舶ニ亦之ヲ適用ス
 第二十三條 本章ノ規定ハ條約ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用ス
 第二章 漂流物及沈没品
 第二十四條 漂流物又ハ沈没品ヲ拾得シタル者ハ還附ナク之ヲ市町村長ニ引渡スヘシ但シ其ノ物件ノ所有者者分明ナル場合ニ於テハ拾得ノ日ヨリ七日以内ニ限リ直ニ其ノ所有者ニ引渡スコトヲ得(三十二年法律第六十六號ヲ以テ條文中改正)前項但書ノ場合ニ於テハ拾得者ノ所有者ヨリ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格

ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額以内ノ報酬ヲ受ケルコトヲ得
 第二十五條 市町村長ハ引渡ヲ受ケタル物件ヲ保管スヘシ
 市町村長ハ前項ノ物件ヲ所有者ニ引渡スヘキコトヲ公告スヘシ但シ其ノ所有者知レタルトキハ公告スヘキ事項ヲ直ニ其ノ所有者ニ告知スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ヲ須キサルコトヲ得
 第二十六條 第十一條第一項ノ規定ハ漂流物及沈没品ニ之ヲ適用ス
 第二十七條 市町村長ニ於テ第二十五條ノ公告又ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ限リ所有者ハ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額ヲ支給ス
 物件ノ價格ハ市町村長ニ之ヲ定ム但シ鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ得
 第二十八條 前條ノ期間内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求セザルトキ又ハ物件ノ引渡ヲ請求セザル意思ヲ表示シタルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受ケヘキコトヲ拾得者ニ告知スヘシ
 拾得者ハ前項ノ期間内ニ公告、保管、公費又ハ引渡ヲ受ケタル費用ヲ市町村長ニ納付シ物件ノ引渡ヲ受ケルニ因リテ其ノ所有權ヲ取得ス
 拾得者ニ於テ前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受ケザルトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公費シ其ノ代金ヨリ前項ノ費用ヲ控除スヘシ此ノ場合ニ於テ國庫ヨリ之ヲ補助ス
 第二十九條 警察官吏ニ於テ航路、鋪地又ハ建造物ニ障害ヲ爲スト認メタル漂流物又ハ沈没品ヲ取除キタル場合ニ於テハ警察官吏ハ其ノ物件ヲ市町村長ニ引渡スヘシ
 前項ニ依リ市町村長ニ於テ引渡ヲ受ケタル物件ニ付テハ第十一條第一項及第二十五條第二項ノ規定ヲ適用ス
 第三十條 前條ニ依リ公告若ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求セザルトキハ市町村長ハ所有者ヲシテ取除、保管及公告ニ要シタル費用ヲ納付セシメ之ニ其ノ物件ヲ引渡スヘシ
 前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ請求スル者ヲキトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公費シ其ノ代金ヲ以テ取除、保管、公告及公費ニ要シタル費用ヲ支辨スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ヨリ之ヲ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補助ス
 第三章 罰則
 第三十一條 遺難船救護ノ場合ニ於テ左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 正當ノ理由ナクシテ市町村長ノ招集ニ應ズ又ハ物件ノ費用若ハ土地ノ使用ヲ拒ミタル者
 二 第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者
 三 第七條第三項ノ規定ニ違反シタル者

第三十二條 遺難船救護ノ場合ニ於テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第三十三條 第十條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ怠リタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十四條 詐偽ノ所爲ヲ以テ船舶報告書ニ記載シタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十五條 一 刑法第三百八十五條及第三百八十七條ノ規程ハ沈没品ニ亦之ヲ適用ス
 第三十五條 二 漂流ノ物件ニ對シ現存スル船舶ヲ檢査毀損シ若ハ新ニ附記押捺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(三十三年法律第六十六號ヲ以テ追加)
 附則
 第三十六條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第三十七條 明治三年二月二十九日(不開港揚規則船救護)心得方後目、明治四年四月二十二日外國船運者ノ節取扱方、明治八年第六十六號布告及明治十年第五十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス
 第三十八條 此ノ法律施行ノ際明治八年第六十六號布告ニ依リ處分中ノ事件ニ付テハ其ノ處分ヲ廢止ス
 第三十九條 此ノ法律ニ於ケル市町村長ノ事務ハ東京市及大阪市ニ於テハ區長之ヲ行ヒ市町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ月長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ
 ● 水難救護法施行ノ件 (明治三十二年七月五十七號勅令第三百)

朕水難救護法施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 水難救護法(明治三十二年八月四日ヨリ施行ス) 第三十五號勅令
 ● 水難救護法施行細則 (明治三十二年七月五十七號勅令第三百)
 第一章 遺難船救護
 第一條 水難救護法第十條ニ定ムル船舶報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スヘシ
 一 船舶ノ種類及名稱
 二 船噸數又ハ積石數
 三 船籍港
 四 船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
 五 發航港、寄航港、到達港及遺難ノ場所
 六 遺難及救護ノ顛末
 七 船舶ノ損害
 八 死傷者ノ氏名
 九 滅失若クハ毀損シタル積荷ノ種類、重量若クハ容積其荷造ノ種類、箇數、記載及備載者
 若クハ荷送人ノ氏名若クハ名稱
 第二條 船舶報告書ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ船長之ニ署名捺印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ様字體ヲ存スヘシ
 第三條 船舶報告書ニ記載シタル事項ニ關シキハ該報告書ニ通テ差出スヘシ
 第四條 市町村長船舶報告書ニ記載シタル事實ヲ正當ナルト認メタルトキハ其一通ノ末尾ニ記載事項ノ相違ナキコトヲ認證スル旨及年月日ヲ附記シ署名捺印シ上船長ニ還付シ他ノ一通ハ當該

役場ニ之ヲ保存スヘシ
 第五條 市町村長ニ於テ水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ指定スル期間ハ救護ノ終リタル後直ニ救護人ヲ集メテ之ニ告知シ又ハ還附ナク一定ノ場所ニ之ヲ揭示スルモノトス
 第六條 水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ救護費用ノ金額ヲ申立タルニハ書面又ハ口頭ヲ以テ其金額及之ヲ算出シタル事由ヲ示スヘシ
 第七條 市町村長ハ地方習慣上ノ賃銀ヲ基礎トシ各人ノ爲シタル勞務ノ種類、時間ノ長短、危險ノ程度及被害ノ大小ヲ斟酌シテ勞務ノ報酬ヲ定ムヘシ
 地方習慣上ノ賃銀ハ市町村長ニ於テ課メ之ヲ定メ當該地方長官ノ認可ヲ受ケ其金額ヲ定率ト爲スヘシ
 市町村長ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項ノ定率ヲ變更スルコトヲ得
 第八條 海軍艦船其他官廳ノ所有スル船舶ノ救護費用ヲ請求セントスルトキハ市町村長ハ救護費用計算書ヲ調製シ之ヲ其船長又ハ船長ニ差出スヘシ
 第九條 船長、船舶所有者其他利害關係人ハ救護費用ノ算定ニ關シ市町村長ノ調製シタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得
 第二章 漂流物及沈没品
 第十條 水難救護法第二十四條第一項ノ市町村長トハ拾得地ノ市町村長ヲ指シ航海中ニ拾得シタル場合ニ在リテハ其發見地ニ到著シタル地ノ市町村長ヲ指ス
 第十一條 水難救護法第二十五條第二項ニ定ムル公費ノ物件ノ品質及價格ニ準シ揭示又ハ新聞紙掲載其他市町村長ノ適當ト認ムル方法ニ依リ

品名、數量、拾得ノ日時及場所ヲ明示スヘシ
 第十二條 水難救護法第二十七條第一項ノ規定ニ依リ所有者ニ於テ物件ノ引渡ヲ申請スルトキハ其物件ニ對スル自己ノ權利ヲ市町村長ニ疏明スヘシ

第三章 公安

第十三條 水難救護法第十一條第一項、第十七條第一項、第二十八條第三項及第三十條第二項ニ規定スル公安ハ入札ノ方法ヲ以テ行フヘシ
 第十四條 市町村長公安ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ
 一 物件ノ種類、數量及品質
 二 公安ノ場所及年月日時
 公告ノ方法ニ付テハ第十一條ノ規定ニ依リ
 第十五條 水難救護法第十七條第一項ノ規定ニ依リ公安ヲ爲ス場合ニ於テハ遺難船舶ノ船長又ハ所有者ハ公安ニ立會フコトヲ得

附則

第十六條 本則ハ水難救護法施行ノ日ヨリ施行ス
 第十七條 明治九年(十二月)百十七號達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●水難救護法取扱手續 (明治三十年七月)

選信省訓
 令第六號

道廳 府縣

水難救護法取扱手續左ノ通定ム
 水難救護法取扱手續

第一章 遺難船舶
 第一條 遺難船舶救護ノ場合ニ於テ人ノ招集、物件ノ搬出其他一般ノ處分ニ付テハ救護ノ目的ヲ達スルニ必要ナル程度ヲ限リ救護費用ノ増加セサル様注意スヘシ

第二條 救護ノ人命ヲ先ニシ逐次郵便物、船内書類其他ノ物件ニ及ホスヘシ
 第三條 市町村長ハ救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ種類、危險ノ程度及救護ニ從事シタル時間ノ長短ニ留意スヘシ
 第四條 遺難船舶外國ノ國籍ニ屬スルモノナルトキハ市町村長ハ事件ヲ通知シタル後遲滞ナク地方官廳ニ左ノ事項ヲ通知スヘシ
 一 船舶ノ國籍及名稱
 二 遺難ノ事由、場所及年月日時
 第五條 市町村長ニ於テ水難救護法第十四條第一項ノ期間ヲ指定スルニハ救護ニ關係シタル者ニ於テ其金額ヲ申立テ得ヘキ時間ヲ標準トスヘシ
 第六條 救護ヲ爲シタル市町村長ハ左ノ事項ヲ記載シタル救護始末書ヲ調製スヘシ
 一 遺難船舶ノ種類、名稱及積載品並ニ外國ノ船舶ナルトキハ其國籍
 二 船舶ノ港
 三 船舶所有者ノ住所、氏名若クハ名稱
 四 船長ノ氏名並ニ海技免狀ヲ有スル者ナルトキハ其種類及番號
 五 遺難ノ事由、年月日時及場所
 六 救護ノ狀況
 七 救護ニ關係シタル者ノ氏名、勞務ノ種類、時間、水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ申立タル金額及市町村長ノ定メタル救護費用、水難救護法第十二條各號ニ掲ケタル者アルトキハ其事項
 八 費用シタル物件及使用シタル土地ノ種類、所有者ノ氏名若クハ名稱、使用ノ時間、損傷ノ有無及程度、水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ申立タル金額、市町村長ノ定メタル

●救護費用

九 船員及旅客ノ員數、死傷者ノ氏名及住所
 十 救上ケタル物件ノ種類及數量
 十一 公安ヲ爲シタル物件ノ種類、數量及公安代金
 十二 物件ノ運搬、保管又ハ公安ニ要シタル費用
 第七條 市町村長ニ於テ水難救護法第十五條第二項ノ期間ヲ指定スルニハ船長又ハ船舶所有者ニ於テ救護費用ヲ納付シ得ヘキ時間ヲ標準トスヘシ
 第八條 遺難船舶外國ノ國籍ニ屬スル場合ニ於テ市町村長水難救護法第十五條第二項及第三項ノ手續ヲ爲サントスルモ船長、船舶所有者又ハ其代理人內國ニ在ラサルトキハ市町村長ハ救護費用ノ金額及之ヲ納付スヘキ期間ヲ地方官廳ニ申立ツヘシ
 地方官廳ハ前項ノ金額及期間ヲ最近地ニ駐在スル當該國ノ領事官ニ通知スヘシ
 第九條 船長又ハ船舶所有者ニ於テ救護費用ヲ納付シ又ハ擔保ヲ供シタルトキハ市町村長ハ領收書ヲ交付スヘシ船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ保管スル金額又ハ物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ領收書ヲ差出サシムヘシ
 第十條 市町村長救護費用ヲ支拂セントスルトキハ之ヲ領收スヘキ者ヲ呼出シテ其金額ヲ交付シ又ハ便宜ニ依リ直ニ其金額ヲ送付スヘシ
 第十一條 市町村長水難救護法第十九條ノ規定ニ依リ國庫ヨリ救護費用ノ全部又ハ一部ヲ支給ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ記載シタル救護費用補給請求書ニ救護始末書ノ謄本ヲ添ヘ地方官廳ヲ經由シテ之ヲ選信大臣ニ差出スヘシ

第十二條 市町村長ハ救護ノ事務終了シタルトキハ一箇月以内ニ當該地方官廳ヨリ經由シテ救護始末書ノ謄本ヲ選信大臣ニ差出スヘシ但前條ノ規定ニ依リ既ニ之ヲ差出シタル場合ハ此限ニ在ラズ

第二章 漂流物及沈没品

第十三條 市町村長拾得者ヨリ漂流物又ハ沈没品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ拾得ノ日時、場所並ニ物件ノ存在セシ狀況ヲ訊問スヘシ
 第十四條 市町村長ハ漂流物又ハ沈没品ノ件名書ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 物件ノ名稱、數量、品質其他必要ナル表示
 二 拾得ノ日時及場所
 三 物件ノ引渡ヲ受ケタル日時
 四 拾得者ノ住所、氏名
 五 公告ノ方法、公告又ハ告知ヲ爲シタル年月日
 六 物件ノ評價額
 七 公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用
 八 拾得者ニ支給スヘキ分一金額
 九 所有者ノ住所、氏名
 第十條 水難救護法第二十八條第三項ノ場合ニ於テハ國庫ノ取得額又ハ補給金額
 第十五條 市町村長所有者又ハ拾得者ニ物件ヲ引渡シタルトキハ件名書中其氏名ノ項ニ何年何月何日引渡シ附記シ氏名ノ下ニ捺印セシムヘシ
 第十六條 水難救護法第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ノ場合ニ於テ國庫ノ取得トスヘキ殘餘ヲ生シ又ハ國庫ノ補給ヲ受ケヘキ不足ヲ生シタルトキハ市町村長ハ左ノ事項ヲ記載シタル漂流物又ハ沈没品計算書ヲ調製シ地方官廳經由シテ選信大臣ニ之ヲ差出スヘシ

第三章 公安

第十三條 水難救護法第十一條第一項、第十七條第一項、第二十八條第三項及第三十條第二項ニ規定スル公安ハ入札ノ方法ヲ以テ行フヘシ
 第十四條 市町村長公安ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ
 一 物件ノ種類、數量及品質
 二 公安ノ場所及年月日時
 公告ノ方法ニ付テハ第十一條ノ規定ニ依リ
 第十五條 水難救護法第十七條第一項ノ規定ニ依リ公安ヲ爲ス場合ニ於テハ遺難船舶ノ船長又ハ所有者ハ公安ニ立會フコトヲ得

附則

第十六條 本則ハ水難救護法施行ノ日ヨリ施行ス
 第十七條 明治九年(十二月)百十七號達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●水難救護法ニ依リ取得ノ收入金並ニ支出金等ノ取扱手續

入金並ニ支出金等ノ取扱手續 (明治三十年四月)
 選信省訓
 令第一號

北海道廳 府縣

水難救護法ニ依リ國庫ノ取得ト爲スヘキ收入金及國庫ヨリ支給ナラシムヘキ救護費用ノ仕拂、領拂、過渡金ノ取扱並ニ會計規則第五十二條ノ歲出計算書送付方ハ北海道廳長官府縣知事ニ委任ス

一 物件ノ名稱、數量及品質
 二 公賣代金
 三 公告、保管及公賣ノ費用
 四 殘餘又ハ不足ノ金額
 第十七條 市町村長ハ毎年一回附錄書式ニ從ヒ漂流物及沈没品件數表ヲ調製シ翌年四月三十日マテ地方官廳ニ差出スヘシ
 第十八條 市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣シ又ハ拾得者ニ引渡サントスル場合ニ於テ該物件關稅未納ノ貨物ナルトキハ其種類並ニ數量及公賣又ハ引渡ノ場所並ニ期日ヲ稅關官吏、稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ通知シ且稅關手續未済ノ物件ナルコトヲ入札者又ハ拾得者ニ告知スヘシ(三十五年選信省訓令第一號ヲ以テ追加)
 (附錄書式略)

●水難救護ニ關スル收入支出

取扱順序 (明治三十四年五月)
 選信省訓令第三號
 北海道廳 府縣
 但仕拂手續ハ總テ電柱敷地手當金ニ關スル諸規則ヲ適用スヘシ
 水難救護ニ關スル收入支出取扱順序
 本年六月一日ヨリ施行ス
 但明治三十三年四月選信省訓令第一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
 水難救護ニ關スル收入支出取扱順序
 第一條 水難救護法ニ依リ國庫ノ取得トナルヘキモノ及水難救護費ノ過拂、領拂トナリタルモノ等ノ收入金ハ明治三十三年大藏省訓令第二十七號ニ據リ收納スヘシ
 第二條 水難救護ニ關スル費用中外國政府ヨリ償還ヲ受ケヘキモノアルトキハ其費用詳細取調選信大臣ニ具申スヘシ
 第三條 水難救護ニ關スル費用中國庫ヨリ支出スヘキモノアルトキハ支拂豫算額ヲ取調選信大臣ニ具申スヘシ
 但選信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ豫メ一箇年度間ノ仕拂豫算額ヲ定メ令達スルコトアルヘシ
 前項ニ依リ仕拂豫算ノ令達ヲ受ケタルトキハ電柱敷地手當金ニ關スル諸規則ヲ準用シ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ
 第四條 會計規則第五十二條ノ歲出計算書ハ直ニ會計検査院ニ提出スヘシ
 ●海難其他ノ事實届出ノ件
 (明治三十年六月)
 選信省訓令第十九號

第十五類 第二章 警察 第十七款 水難救護

海難其ノ他ノ事實届出ノ件左ノ通定ム
 第一條 海難免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ニ掲ケル事項ニ該當シタルトキハ當該船長、船長不在ナルトキハ代理者ニ於テ其ノ地若ハ爾後始メテ到着シタル地ノ船舶司檢所、同支所、警察署、警察分署、市町村役場若ハ浦役場外國ニ在テハ領事館若ハ貿易事務館ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ
 一 其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
 二 自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ
 三 人ヲ殺傷シタルトキ
 四 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メタルトキ
 五 職務上ノ職務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
 六 亂解租額其ノ他ノ失行アリタルトキ
 第二條 第一條各號ノ事項ニ該當スル事實アリタルコトヲ認知シ若ハ其ノ事實アリト思料シタル者ハ其ノ所在地ニ於テ第一條ニ掲ケル官廳若ハ公署ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ
 第三條 第一條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
 附則
 第四條 本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス
 第五條 明治二十六年逕信省令第五號海難取調手續、明治二十八年逕信省令第一號外國航海中海難届出手續ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

旅帝國議會ノ協贊ヲ經タル行旅病人及行旅死亡人取扱法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 行旅病人及行旅死亡人取扱法
 第一條 此ノ法律ニ於テ行旅病人ト稱スルハ歩行ニ堪ヘサル行旅中ノ病人ニシテ療養ノ途ヲ有セズ且救護者ナキ者ヲ謂ヒ行旅死亡人ト稱スルハ行旅中死亡シ引取者ナキ者ヲ謂フ
 住所、居所若ハ氏名知レズ且引取者ナキ死亡人ハ行旅死亡人ト看做ス
 前二項ノ外行旅病人及行旅死亡人ニ準スヘキ者ハ内務大臣之ヲ定ム
 第二條 行旅病人ハ其ノ所在地市町村長之ヲ救護スヘシ
 必要ノ場合ニ於テハ市町村長ハ行旅病人ノ同伴者ニ對シテ亦相當ノ救護ヲ爲スヘシ
 第三條 行旅病人又ハ其ノ同伴者ヲ救護シタルトキハ市町村長ハ速ニ扶養義務者若ハ家族又ハ第五條ニ掲ケタル公共團體ニ通知シ之ヲ引取ラシムルノ手續ヲ爲スヘシ
 前項ノ通知及引取ノ手續並期間ノ指定其ノ他之ニ關スル必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム
 第四條 救護ニ要シタル費用ハ救護者ノ負擔トシ救護費ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス
 第五條 行旅病人若ハ其ノ同伴者ノ引取ヲ爲ス者ナキトキ又ハ救護費用ノ辨償ヲ得ザル場合ニ於テ其ノ引取並費用ノ辨償ヲ爲スヘキ公共團體ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル
 第六條 扶養義務者ニ對スル救護者引取ノ請求及救護費用辨償ノ請求ハ扶養義務者中ノ何人ニ對シテモ之ヲ請求スルコトヲ得但シ費用ノ辨償ヲ爲シタル者ハ民法第九百五十五條及第九百五

十六條ニ依リ扶養ノ義務ヲ履行スヘキ者ニ對シテ求償ヲ爲スヲ妨ケズ
 第七條 行旅死亡人アルトキハ其ノ所在地市町村長ハ其ノ狀況相親遺留物件其ノ他本人ノ認識ニ必要ナル事項ヲ記録シ其ノ屍體ヲ假土葬スヘシ但シ法令ニ別段ノ規定アリハ該合ニ於テ之ヲ火葬スルコトヲ妨ケズ
 墓地若ハ火葬場ノ管理者ハ本條ノ假土葬又ハ火葬ヲ拒ムコトヲ得ス
 第八條 必要ノ場合ニ於テハ市町村長ハ行旅死亡人ノ同伴者ニ對シテ亦相當ノ救護ヲ爲スヘシ
 行旅病人ニ關スル規定ハ前項ノ場合ニ準用ス
 第九條 行旅死亡人ノ住所、居所若ハ氏名知レサルトキハ市町村長ハ其ノ狀況相親遺留物件其ノ他本人ノ認識ニ必要ナル事項ヲ公告スヘシ
 告示シ且官報若ハ新聞紙ニ公告スヘシ
 第十條 行旅死亡人ノ住所若ハ居所及氏名知レタルトキハ市町村長ハ速ニ相親人ニ通知シ相親人分明ナラザルトキハ扶養義務者若ハ家族ニ通知シ又ハ第十三條ニ掲ケタル公共團體ニ通知スヘシ
 前項ノ手續其ノ他之ニ關スル必要ナル事項ニ付テハ第三條第二項ヲ準用ス
 第十一條 行旅死亡人取扱ノ費用ハ先ツ其ノ遺留ノ金銀若ハ有價證券ヲ以テ之ヲ充テ仍不足ラザルトキハ相親人ノ負擔トシ相親人ヨリ辨償ヲ得ザルトキハ死亡人ノ扶養義務者ノ負擔トス
 第十二條 行旅死亡人ノ遺留物件ハ市町村長之ヲ保管スヘシ但シ其ノ保管ノ物件滅失若ハ毀損ノ虞アルトキ又ハ其ノ保管ニ相當ノ費用若ハ手数ヲ要スルトキハ之ヲ賣却シ又ハ棄却スルコトヲ得

第十八款 行旅病人、死亡人取扱 (明治三十三年三月) (法律第九十三號)

第十三條 市町村長ハ第九條ノ公告後六十日ヲ經過スルモ仍行旅死亡人取扱費用ノ辨償ヲ得ザルトキハ行旅死亡人ノ遺留物件ヲ賣却シテ其ノ費用ニ充ツルコトヲ得其ノ仍不足ラザル場合ニ於テ費用ノ辨償ヲ爲スヘキ公共團體ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル
 市町村長ハ行旅死亡人取扱費用ニ付遺留物件ノ上ニ他ノ債權者ノ先取特權ニ對シ優先權ヲ有ス
 第十四條 市町村長ハ行旅死亡人取扱費用ノ辨償ヲ得タルトキハ相親人ニ其ノ保管スル遺留物件ヲ引渡スヘシ相親人ナキトキハ正當ナル請求者ト認ムル者ニ之ヲ引渡スコトヲ得
 第十五條 行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ニ關スル費用ハ所在地市町村費ヲ以テ一時之ヲ擔當フヘシ
 前項費用ノ辨償金徴收ニ付テハ市町村稅徴收ニ關スル例ニ依ル
 第十六條 行旅病人行旅死亡人ノ所持物件若ハ遺留物件ノ取扱ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム
 第十七條 外國人タル行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者並其ノ所持物件若ハ遺留物件ノ取扱ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十八條 船車内ニ於ケル行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者並其ノ所持物件若ハ遺留物件ノ取扱ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十九條 此ノ法律ニ於テ市町村長トアルハ東京市京都市大阪市其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區長ニ、市町村長ヲ置カサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノニ、市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノ

第二準用ス
 第二十條 北海道沖繩縣其ノ他市制町村制ヲ施行セザル地ニハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得
 第二十一條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス
 第二十二條 明治十五年第四十九號布告行旅死亡人取扱規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス
 ●行旅病人死亡人等ノ引取及費用辨償ニ關スル件 (明治三十二年六月) (勅令第三二號)
 行旅病人死亡人等ノ引取及費用辨償ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 行旅病人及行旅死亡人取扱法第五條及第十三條ノ公共團體ハ行旅病人行旅死亡人若ハ其ノ同伴者ノ住所府縣トシ其ノ住所府縣ナキトキ若ハ住所府縣分明ナラザルトキハ其ノ者ノ救護又ハ取扱ヲ爲シタル地ノ府縣トス
 附則
 第二條 第一條ノ地ニシテ北海道又ハ沖繩縣ニ屬スルトキハ當分ノ内費用ハ國庫ノ負擔トシ引取ハ地方長官之ヲ掌ルヘシ臺灣ニ屬スルトキハ其ノ費用及引取ニ關シテハ臺灣總督ノ定ムル處ニ依ル(三十二年勅令第三百六十七號ヲ以テ條中追加)
 第三條 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス
 ●外國人タル行旅病人、行旅死亡人及同伴者ノ救護並取扱ニ關スル特例 (明治三十二年六月)

内務省令 (第四號)
 行旅病人及行旅死亡人取扱法第十七條ニ依ル外國人タル行旅病人、行旅死亡人及同伴者ノ救護並取扱ニ關スル特例ノ件左ノ通定ム
 第一條 行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ依リ外國人タル行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ救護若ハ取扱ヲ爲シタル市町村長ハ速ニ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ
 地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタル場合ニ於テ帝國ニ住所、居所ヲ有スル扶養義務者若ハ親族又ハ相親人分明ナルトキハ其ノ所在地ノ地方長官ヲ經テ行旅病人及其ノ同伴者ニ關シテハ扶養義務者若ハ親族ニ之ヲ通知シ行旅死亡人及其ノ同伴者ニ關シテハ相親人又ハ扶養義務者若ハ親族ニ之ヲ通知スヘシ其ノ被救護者ニ付テハ併テ之ヲ引取ラシムルノ手續ヲ爲スヘシ
 外國人タル行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ニシテ國籍分明ナルトキハ地方長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ外之ヲ其ノ所屬國領事ニ通知スヘシ
 第二條 外國人タル行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ救護若ハ取扱ニ關スル費用ニシテ被救護者ヨリ辨償ヲ得ザルトキ又ハ遺留ノ金銀若ハ有價證券ヲ以テ之ヲ充テ仍不足ラザルトキハ市町村長ハ其ノ計算書ヲ製シ地方長官ニ提出スヘシ
 地方長官ニ於テ前項ノ計算書ヲ受ケタル場合ニ於テ帝國ニ住所、居所ヲ有スル扶養義務者若ハ相親人分明ナルトキハ其ノ所在地ノ地方長官ヲ經テ行旅病人及同伴者ニ關シテハ扶養義務者若ハ親族ニ對シ行旅死亡人ニ關シテハ相親人若ハ死亡人ノ扶養義務者ニ對シ其ノ辨償ヲ請求スヘシ

ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六拾間以上ニシテ土地
 高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ
 第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ
 有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニ
 テモ之ヲ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモ
 ノハ此限ニアラス
 但死刑ニ處セラレタル者ハ其地ノ一隅ヲ區劃
 シテ其内ニ埋葬スルモノトス
 第四條 墓地ノ周圍(墓地ト墓地ニ非サル地トノ
 境界ヲ云フ)ニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ
 一丈以上ノ樹木埋藏ヲ存スヘカガラサルモノトス
 但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス
 第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘ
 カラス
 第六條 火葬場ハ人家及人民偏濫ノ地ヲ隔ル凡ソ
 百貳拾間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火
 爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ
 塹溝ヲ設クヘシ
 但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルト
 キハ格別ナリトス
 第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ
 第八條 燻穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地
 ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋
 藏スルモノハ格別ナリトス
 第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名
 ハ區役所又ハ月長役場ニ届ケ置クヘシ
 第十條 死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年
 月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳等ノ
 碑文ヲ刻セラル基標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ケ
 ルノ限ニ非ス
 第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ
 主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ月長ノ認許

ヲ受ケルヘシ
 醫師ノ治療ヲ受ケルノ猶豫ナクシテ死亡シタル
 モノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルトキハ醫師ノ
 檢案ヲ差出シ區長又ハ月長ノ認許證ヲ乞フヘシ
 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ
 産婆ノ死産證ヲ差出シ區長又ハ月長ノ認許證ヲ
 乞フヘシ
 變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ
 檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ
 囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモ
 ノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ
 差出スヘシ
 第十二條 區月長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニ
 アラサレハ埋葬ノ認許證ヲ與フヘカラス
 第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區月長ノ
 認許證ヲ編纂シ毎三ヶ月所轄警察署ノ檢附ヲ受
 ケテ之ヲ區役所又ハ月長役場ヘ差出スヘシ
 第十四條 管理者ハ墓地ノ給圖及墓籍ヲ調製シ區
 長ヘシ
 第十五條 (十九年内務省甲第五號通達ヲ以テ削除)
 ● 死産ノ埋葬認許證ニ特別
 番號ヲ付スル件 (明治三十
 内務省訓令
 第二十一號)
 府縣
 墓地及埋葬認許規則ニ依リ死産ニ關シ埋葬認許
 證ヲ與フルトキハ其順序ニ從ヒ特別ニ番號ヲ付ス
 ヘシ
 ● 古墳ト見ユル地ハ掘ニ發掘
 ヲ禁ス (明治七年五月六政)
 官第五十九號通達)

刑死者ノ墓標、祭祀等ニ關
 スル件 (明治二十四年七月)
 内務省令第十一號
 第一條 刑死者ノ墓標ニハ氏名、法號、族籍、年
 齡、生死ノ年月日ヲ記入スルニ止メ他ノ事項ヲ
 記入スルコトヲ得ス
 其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先塋域ノ外之ヲ建設
 スルコトヲ得ス
 異様ノ墓標ヲ建設シ及文字ニ彩色ヲ施スコトヲ
 得ス
 第二條 所轄警察署ノ許可ヲ得スシテ刑死者ノ爲
 メ公然祭祀ヲ行フコトヲ得ス但現族ノ香花ヲ供
 スルノ類ハ此限ニ在ラス
 第三條 刑死者ノ寫眞其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ
 販賣スルコトヲ得ス
 其他總テ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス
 第四條 前各條項ニ違行シタル者ハ二圓以上二十
 五圓以下ノ罰金若クハ十一日以上二十五日以上
 ノ懲禁錮ニ處ス
 第五條 犯罪ニ關シ現ニ捜査、起訴、拘留、服刑
 中ノ者若クハ捜査、起訴、拘留、服刑中ニ死去
 シタル者及刑ヲ免レント欲シテ自殺シ或ハ犯罪
 現行ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官(東京
 府ハ警視總監)ハ安寧秩序ヲ保持スルニ必要ナ
 リト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第一條第二條
 第三條ニ掲ケル所爲ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ
 違背シタル者ハ第四條ニ懲リ處分ス

第二十一款 消防組

● 消防組規則 (明治二十七年二月)
 勅令第十五號
 朕消防組規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 消防組規則
 第一條 府縣知事ハ職權又ハ市町村ノ申請ニ依リ
 火災ノ警戒防禦ノ爲メ消防組ヲ設置スルコトヲ
 得(三十年勅令四百八號ヲ以テ改正)
 第二條 消防組ノ設置區域ハ市町村ノ區域ニ依ル
 (但シ土地ノ狀況ニ依リ市町村内ニ於テ適宜
 區域ヲ定ムルコトヲ得(同上))
 第三條 消防組ハ組頭一人小頭若干人及消防手若
 干人ヲ以テ之ヲ組織ス
 組頭及小頭ハ警部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル
 警察署長之ヲ命免ス
 第四條 組頭ハ警察官ノ命ヲ承ケ部下ノ指揮取締
 ニ任シ庶務ニ從事ス
 小頭ハ組頭ヲ助ケ組頭差支アルトキハ之ニ代ル
 モノトス
 第五條 府縣知事ハ市町村會ニ諮問シ消防組ヲ敷
 部ニ分ツコトヲ得(同上)
 第六條 消防組ハ府縣知事ニ於テ指定シタル警察
 署長之ヲ指揮監督ス
 消防組ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但火災
 ニ際シ警察官ノ臨場スル迄町村長又ハ組頭若クハ
 小頭之ヲ指揮ヲ爲スコトヲ得(同上)ナリ但書
 改正)
 第七條 消防組ハ其ノ區域外ノ火災ト雖警察署長
 ノ指揮ニ從ヒ其ノ警戒ニ應援スヘシ(同上)ナリ
 但火災中(例外)
 危急ノ場合ニ於テ警察署長前項ノ指揮ヲ爲スノ
 限ナキトキハ他ノ警察官警察署長ニ代テ其ノ指

揮ヲ爲スコトヲ得
 第八條 警部長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケテ其ノ地方
 全體ノ消防組ヲ指揮監督ス
 消防組ハ火災警防ノ爲メニアラサレハ集合若ク
 ハ運動スルコトヲ得但警部長若クハ其ノ委任
 ヲ受ケタル警察署長ニ於テ儀式訓練及他ノ災害
 ノ爲メニ集合運動ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニア
 ラス(同上)
 第九條 消防組ノ服務規律及懲戒ニ關スル規程ハ
 府縣知事之ヲ定ムヘシ
 第十條 消防組ノ舉動治安ニ妨害アリト認ムルト
 キハ府縣知事ハ之ヲ解散コトヲ得
 第十一條 消防組員ノ手當並ニ被服等ハ市町村會
 ニ諮問シ府縣知事之ヲ定ム(同上)ナリ以テ改正)
 第十二條 消防組ニ必要ナル器具及建物ハ府縣知
 事市町村會ニ諮問シ之ヲ定ム(同上)ナリ以テ全條
 改正)
 前項ノ器具及建物ハ市町村ニ於テ之ヲ設備スヘ
 シ
 第十三條 消防組ニ關スル費用ハ其ノ市町村ノ負
 擔トス(同上)
 第十四條 (三十年勅令第四百八號ヲ以テ削除)
 第十五條 (同上)
 第十六條 此ノ規則ヲ施行スル爲メニ必要ナル細
 則ハ府縣知事之ヲ定ム(三十年勅令第四百八號
 改正ニ依リ)
 第十七條 府縣知事ハ地方ノ狀況ニ依リ此ノ
 規則ノ全部若クハ一部ヲ準用シ水災ノ警戒防禦ノ
 爲メ水防組ヲ設ク又ハ消防組ヲシテ水災警防ノ
 事務ヲ兼シムルコトヲ得(三十年勅令第四百
 八號ヲ以テ追加)
 第十八條 此ノ規則ハ沖繩縣及東京市ニ適用セス

但第七條ハ東京市ニモ之ヲ適用ス
 第十八條 北海道ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ北海
 道廳長官之ヲ行フ
 東京府郡部ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ警視總監
 之ヲ行ヒ警部長ノ職務ハ警察署長之ヲ行フ
 第十九條 此ノ規則中市町村ニ係ル規定ハ北海道
 ノ區及町村制第六百六條ニ依レル町村組合ニ準
 用ス(三十年勅令第四百八號ヲ以テ改正)
 ● 消防組點檢規則 (明治三十
 内務省訓令
 第十六號)
 府縣 東京府
 消防組點檢規則左ノ通之ヲ定ム
 第一條 消防組ノ點檢ハ人員、服裝、姿勢及機械、
 器具其ノ他携帶品ノ保存使用ノ適否ヲ檢査スル
 モノトス
 第二條 點檢ヲ行フトキハ所屬警察署長警察分署
 長又ハ其ノ代理者ヲ點檢官トシ組頭又ハ小頭ヲ
 指揮者トス但シ所屬警察署長警察分署長又ハ其
 ノ代理者ヲラサルトキハ組頭ヲ點檢者トシ小頭
 ナ指揮者トス
 第三條 消防組員ノ集合整頓ノ方法ハ巡査點檢規
 則ヲ準用ス
 第四條 指揮者タラサル小頭ハ前列右翼ニ若シ餘
 員アルトキハ同左翼ニ列シ尙ホ餘員アルトキハ
 後列ノ中央ニ列シ距離ニ於テ押伍ト爲ルヘシ
 第五條 點檢ノ際列員ハ一定ノ服裝ヲ爲シ手袋ア
 ルトキハ之ヲ着用スヘシ
 但シ頭巾ヲ携フルトキハ其ノ紐ヲ頭ニ掛ケ之
 ヲ背部ニ負フヘシ

第六條 點檢ハ消防組當番員出務ノ際、現場引上ケノ際及演習ノ際之ヲ行フモノトス
 現場引上ケノ際、機械、器具、被服其他携帶品破損ノ有無ヲ検査スルハ特ニ嚴重ノ注意ヲ要ス
 第七條 機械、器具ニシテ使用シタルモノハ洗滌ノ後修繕シタルモノハ竣工ノ後警察官ニ於テ點檢スヘシ其ノ在ラサルトキハ組頭又ハ小頭ニ於テ點檢スヘシ
 第八條 唧筒其ノ他機械ニシテ組立テアルモノハ毎年二回以上之ヲ分解シ内部ノ検査ヲ爲スヘシ前項ノ検査ハ可成演習ノ際ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二十二款 感化

感化法 (明治三十三年三月)

第一章 總則
 第一條 北海道及府縣ニハ感化院ヲ設置スヘシ
 第二條 感化院ハ地方長官之ヲ管理ス
 第三條 感化院ニ關スル經費ハ北海道及沖繩縣チ除クノ外府縣ノ負擔トス
 第四條 北海道及府縣ニ於テハ其ノ區域内ニ團體又ハ私人ニ屬スル感化事業ノ備置アルトキハ內務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ感化院ニ代用スルコトヲ得
 第五條 代用感化院ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用ス
 第六條 感化院ニハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ入院セシム
 一 地方長官ニ於テ滿八歳以上十六歳未滿ノ者
 二 對スル適當ノ親權ヲ行フ者ハ適當ノ後見人ナクシテ遊蕩又ハ乞食ヲ爲シ若シハ惡文ヲ

リト認メタル者
 二 懲治場留置ノ言渡チ受ケタル幼者
 三 裁判所ノ許可ヲ經テ懲戒場ニ入ルヘキ者
 第六條 入院者ノ在院期間ハ滿二十歳ヲ超ユルコトヲ得ス但シ第五條第三號ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ
 第七條 地方長官ハ何時ニテモ條件ヲ指定シテ在院者ヲ假ニ退院セシムルコトヲ得
 第八條 假退院者ニシテ指定ノ條件ニ違背シタルトキハ地方長官ハ之ヲ復院セシムルコトヲ得
 第九條 感化院長ハ在院者及假退院者ニ對シ親權ヲ行フ
 第十條 在院者ノ父母又ハ後見人ハ在院者及假退院者ニ對シ親權又ハ後見ヲ行フコトヲ得ス
 第十一條 第五條第二號及第三號ニ該當スル者ノ財產ノ管理ニ關シテハ前二項ノ規定ヲ適用セシム
 第十二條 感化院長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ在院者ニ對シ必要ナル検査ヲ加フルコトヲ得
 第十三條 行政廳ハ第五條第一號ニ該當スヘキ者アリト認メタルトキハ之ヲ地方長官ニ具申スヘシ此場合ニ於テハ假ニ之ヲ留置スルコトヲ得
 第十四條 前項留置ノ期間ハ五日ヲ超ユルコトヲ得ス
 第十五條 地方長官ハ在院者ノ扶養義務者ヨリ在院費ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得
 第十六條 前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納附セザル者アルトキハ國稅徵收法ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得
 第十七條 在院者ノ親族又ハ後見人ハ在院者ノ退院ヲ地方長官ニ出願スルコトヲ得
 第十八條 前項出願ノ許可ヲ得サル在院者ニ關シテハ六箇月ヲ經過スルニ非サレハ退院ヲ出願スルコトヲ得ス
 第十九條 第五條第一號又ハ第十一條第二項ノ處

分ニ不服アル者又ハ第十二條第一項ノ出願ヲ許可セラレサル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得
 附則
 第十四條 本法施行ノ期日ハ府縣會ノ決議ヲ經テ地方長官ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム
 第十五條 北海道沖繩縣ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得
 感化法施行規則 (明治三十四年八月)

第一章 總則
 第一條 感化法施行規則左ノ通定ム
 第二條 地方長官ニ於テ感化法第五條第一號及第二號ニ該當スル者ヲ入院セシメントスルトキハ入院命令書ヲ交付スヘシ
 第三條 感化法第五條第三號ニ該當スル者ニ付テハ親權ヲ行フ父母又ハ後見人ハ裁判所ノ決定書ヲ地方長官ニ呈出シ入院ヲ出願スヘシ
 第四條 前項ノ場合ニ於テ入院ヲ許可シタルトキハ入院命令書ヲ交付スヘシ
 第五條 本條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ旨チ感化院長ニ通知スルコトヲ要ス
 第六條 前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ感化院長ハ入院命令書ヲ查閱シタル後入院セシムヘシ
 第七條 府縣ニ於テ感化院ヲ設置セントスルトキハ其ノ位置名稱其ノ他必要ナル規則ヲ定メ內務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
 第八條 感化院ニハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ院長其ノ他必要ナル職員ヲ置ク
 第九條 在院者ニハ獨立自營ニ必要ナル教育ヲ施シ實業ヲ練習セシメ女子ニ在テハ家政縫紉等ヲ練習セシムヘシ

第六條 感化院長ハ必要ニ應ジ在院者ヲ適宜公私ノ施設又ハ私人ニ託シ教育ヲ施サシメ又ハ勞務ニ就カシムルコトヲ得但シ所在府縣外ニ於テ公私ノ施設又ハ私人ニ託セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ
 第七條 在院者ニ對スル懲戒及檢束ノ方法ニ付テハ內務大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ムヘシ
 第八條 在院者ノ衣食療養其ノ他必要ナル費用ハ扶養義務者ニ於テ地方長官ノ定ムル所ニ依リ相當ノ額ヲ負擔スヘシ
 第九條 地方長官ハ感化院ノ職員養成ノ爲必要ナル設備ヲ感化院ニ附設スルコトヲ得
 第十條 前各條ノ規定ハ代用感化院ニ之ヲ準用ス
 第十一條 地方長官ハ代用感化院ニ對シ府縣費ヲ以テ補助ヲ爲スコトヲ得

第二十三款 精神病者監護

精神病者監護法 (明治三十三年三月)

第一章 總則
 第一條 精神病者ハ其ノ後見人配偶者四親等内ノ親族又ハ戶主ニ於テ之ヲ監護スルノ義務ヲ負フ但シ民法第九百八條ニ依リ後見人タルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラズ
 第二條 監護義務者數人アル場合ニ於テ其ノ義務ヲ履行スヘキ者ノ順位ハ左ノ如シ但シ監護義務者相互

ノ同意ヲ以テ順位ヲ變更スルコトヲ得
 第一 後見人
 第二 配偶者
 第三 親權ヲ行フ父又ハ母
 第四 戶主
 第五 前各號ニ掲ケタル者ニ非サル四親等内ノ親族中ヨリ親族會ノ選任シタル者
 第六 監護義務者ニ非サルハ精神病者ヲ監護スルコトヲ得ス
 第七 精神病者ヲ監護セムトスルトキハ行政廳ノ許可ヲ受ケヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ假リニ之ヲ監護スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ二十四時間内ニ行政廳ニ届出ヘシ
 第八 前項假監護ノ期間ハ七日ヲ超ユルコトヲ得ス
 第九 行政廳ノ許可ヲ受ケテ監護シタル精神病者ノ監護ヲ廢止シタル後三箇年内ニ更ニ之ヲ監護セムトスルトキ又ハ民法第九百二十二條ニ依リ禁治產者ヲ監護セントスルトキハ行政廳ニ届出ヘシ

シ又ハ監護ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ命スルコトヲ得
 第十條 監護ノ許可ヲ取消サレ又ハ其ノ廢止ヲ命スル者監護ヲ廢止セザルトキハ行政廳ハ直接ニ監護ヲ廢止スルコトヲ得
 第十一條 精神病者監護ノ必要アルトキ又ハ監護不適當ト認ムルトキハ行政廳ハ第一條第二項ノ順位ニ拘ラス監護義務者ヲ指定シ之ヲ監護ヲ命スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政廳ハ假リニ其ノ精神病者ヲ監護スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス
 第十二條 市區町村長ニ於テ監護スル精神病者ノ監護義務者ヲ發見シ又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行シ得ルニ至リタルトキ亦前項ニ同シ
 第十三條 依リ精神病者ノ監護ヲ命セラレタル監護義務者其ノ命ヲ履行セザルトキハ第六條ノ例ニ依リ市區町村長ニ於テ之ヲ監護スヘシ
 第十四條 依リ監護義務者ノ監護シタル精神病者ニ關シテハ行政廳ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ其ノ監護ヲ廢止シ又ハ監護ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得ス
 第十五條 私宅監護室、公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ハ行政廳ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
 第十六條 監護室、公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ノ構造設備及管理方法ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十七條 監護ニ要シタル費用ハ被監護者ノ負擔トシ被監護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス
 第十八條 市區町村長ニ於テ監護スル場合ニ於テ之ヲ爲要スル費用ノ支辨方法及其ノ追徴方法ハ行政廳人

及行旅死亡人取扱法ノ規定ヲ適用ス
 第十一條 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ精神病者ノ檢査ヲ爲シメ又ハ官署若シテ醫師ヲシテ精神病者ニ關シ必要ナル事關ヲ爲シメ又ハ精神病者ニ關シ必要ナル他ノ場所ニ檢査セシムルコトヲ得
 第十二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ侵害セラレタルトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ執行ニ關スル行政廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第十四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第十五條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法第二百八十六條ノ例ニ照ラシテ處斷ス
 第十六條 左ニ掲クル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 一 詐僞ノ所爲ヲ以テ行政廳ノ許可ヲ受ケ若ハ虛偽ノ届出ヲ爲シ精神病者ヲ監置シ又ハ拘束ノ程度ヲ加重シタル者
 二 醫師精神病者ノ診斷者ニ虛偽ノ事實ヲ記載シ又ハ自ら診斷セシメテ診斷書ヲ授與シタル者
 前項第一號ノ場合ニ於テハ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ
 第十七條 左ニ掲クル者ハ二月以下ノ重禁錮ニ處

シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ
 一 許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲サス若ハ命ヲ受ケシテ精神病者トシテ人ヲ監置シタル者
 二 禁治産ノ宣告又ハ監置ノ許可ヲ取消サレ又ハ監置ノ廢止ヲ命セラレ若ハ假監置ノ期間ハ經過シタル後監置ヲ廢止セサル者
 三 許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シ若ハ命ヲ受ケタル程度ヲ超エテ精神病者ヲ拘束シタル者
 第十八條 左ニ掲クル者ハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 精神病者ノ監置ニ關シ虛偽ノ事實ヲ記載シタル者
 二 監置義務ヲ履行スヘキ順位ニ在ラサル者ニシテ許可ヲ受ケ又ハ命ニ依リ非シテ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更シタル者
 三 官吏又ハ行政廳ノ指定シタル醫師ノ檢査若ハ檢診ヲ拒ミ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辭ヲ爲サス若ハ虛偽ノ答辭ヲ爲シタル者
 第十九條 左ニ掲クル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 監置ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ命セラレ其ノ命ヲ履行セサル者
 二 監置義務者精神病者ノ監置ヲ命セラレ其ノ命ヲ履行セサル者
 三 第八條第四項及第九條第一項ニ違背シタル者
 第二十條 第四條及第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則
 第二十一條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本法施行前ヨリ精神病者ヲ監置シタル者ニシテ仍之ヲ繼續セムトスルトキハ本法施行ノ日ヨリ二箇月内ニ第三條ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲スヘシ
 第三條ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲サスシテ前項ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢止セサル者ハ第十七條ノ例ニ照ラシテ處斷ス
 本法中市區町村長ニ關スル職務ハ市制區制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市區町村長ニ準スヘキ者ニシテ行フ
 第二十二條 外國人タル精神病者ノ監置ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二十三條 人事訴訟手續法第五十條又ハ第六十條ニ依リ裁判所ニ於テ精神病者ノ監護ニ付必要ナル處分ヲ命シタル場合ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用セス
 ●精神病者監護法施行規則
 (明治三十三年六月内)
 (務省令第三十五號)
 精神病者監護法施行規則ノ通定ム
 第一條 精神病者監護法施行規則
 第二條 精神病者監護法第一條第二項但書ニ依リ監護義務者ノ順位ヲ變更シタルトキハ關係者ハ七日内ニ連署ヲ以テ警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出ヘシ
 第三條 精神病者監護法第一條第二項第五號ニ依リ監護義務者ヲ選任シタルトキハ視察會ハ七日内ニ警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出ヘシ
 第四條 精神病者監護法第三條ニ依リ精神病者ヲ

私宅病院其ノ他ノ場所ニ監置セムトスルトキハ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出又ハ届出ヘシ
 第三條第一項但書ニ依リ精神病者ヲ監置シタルトキハ監護義務者ハ警察官署ニ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要セス
 第四條 精神病者ヲ監置セムトスル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケルノ限ナシト認ムルトキハ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ警察官署ニ届出ヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ監護義務者ハ三十日以内前條ニ依リ更ニ地方長官ニ届出ヘシ
 第五條 前二條ノ届出又ハ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ監置ノ方法及場所ヲ記シテ私宅監置室ヲ設ケタルトキハ其ノ構造設備ヲ記シタル書類ヲ添付スヘシ
 第六條 本則第四條第一項ニ依リ監置シタル精神病者ニ關シ三十日以内地方長官ニ監置ノ届出ヲ爲サルトキ又ハ地方長官ニ於テ届出ニ對シ不許可ノ處分ヲ爲シタルトキハ警察官署ノ與ヘタル許可ハ取消サレタルモノトス
 第七條 精神病者監護法第四條又ハ第五條ノ届出ハ監護義務者ニ於テ醫師ノ診斷書又ハ檢査書ヲ添ヘ警察官署ヲ經テ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ行方不明ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書又ハ檢査書ヲ添フルコトヲ要セス
 本則第四條第一項ニ依リ監置シタル精神病者ニ關シテハ前項ノ届出ハ警察官署ニ之ヲ爲スヘシ
 第八條 私宅監置室ハ精神病者ノ資産又ハ扶養義務者扶養ノ程度ニ應ジ相當ノ構造設備ヲ爲シ及之ヲ管理スルコトヲ要ス
 第九條 府縣立テ除ク外公立精神病院及公私立

病院ノ精神病室ヲ設置セムトスルトキハ其ノ構造設備及管理ニ關スル事項ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受ケヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
 第十條 精神病者監護法第七條及第八條行政廳ノ職權ハ地方長官ノ之ヲ行フ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ニ於テ之ヲ行ヒ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ
 第十一條 精神病者監護法第九條第一項行政廳ノ職權ハ地方長官ノ之ヲ行フ但シ私宅監置室ニ關シテハ警察官署ノ之ヲ行フ
 第十二條 精神病者監護法第十一條行政廳ノ職權ハ内務大臣地方長官又ハ警察官署ノ之ヲ行フ
 第十三條 本則第九條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十四條 本則第一條及第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第十五條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警察官署ニ行フ
 ●精神病者監護法第六條及第八條第三項ニ依レル監護ニ關スル件 (明治三十三年六月勅令第二百八十二號)
 朕精神病監護法第六條及第八條第三項ニ依レル監護ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 精神病者監護法第六條ニ依リ市區町村長ニ於テ精神病者ヲ監置スヘキ場合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ
 前項地方長官ノ認可ヲ受ケル限ナキトキハ市區町村長ハ警察官署ノ同意ヲ經テ三十日以内精神病者ヲ監置スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキ

ハ警察官署ノ同意ヲ經サルモ七日内假ニ之ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ警察官署ニ通知スヘシ
 第二條 精神病者監護法第六條及第八條第三項ニ該當スル精神病者アルトキハ地方長官ハ警察官署ヲ經テ市區町村長ニ引渡シシムヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ハ假ニ之ヲ市區町村長ニ引渡シ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ
 第三條 市區町村長ニ於テ監置シタル精神病者一死シ又ハ行方不明ト爲リタルトキハ第一條第一項及第二條ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監置シタル者及第二條但書ニ依リテ假ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知スヘシ
 市區町村長ニ於テ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更セムトスルトキハ第一條第一項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知シ第二條ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其ノ但書ニ依リテ假ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ノ同意ヲ經ヘシ但シ監置ノ方法及場所ノ變更ヲ要スル急迫ノ事情アルトキハ假ニ之ヲ變更シ直ニ認可ヲ受ケ又ハ同意ヲ經ヘシ
 第四條 市區町村長ハ其ノ監置スル精神病者ノ監置ヲ適當ナル公私ノ施設又ハ私人ニ委託スルコトヲ得
 第五條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警察官署ニ行フ
 附則
 本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四款 宿泊、外國人居住營業

● 宿泊届其ノ他ノ件 (明治三十二年七月)

第一條 旅館主其ノ他營業ニ依リ他人ヲ宿泊セシムル者ハ廳府縣令ニ依リ其ノ所定ノ事項ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

者ハ本條ノ届出ヲ要セス 第四條 第七條ノ登録簿ニ登録セラルタル外國人移轉スルトキハ左ニ記載シタル者移轉ノ日ヨリ十日内ニ移轉ノ年月日及移轉先ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

二依リ本條ノ登録ヲ要スル事實ヲ知り得タルトキ亦同シ 第八條 何人ト雖第七條登録簿ノ閲覧又ハ登録ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

(明治三十二年七月内) 警察官署ハ明治三十二年内務省令第三十二號第七條ニ依リ登録シタル事項ヲ其ノ地戶籍吏ニ通知ス

● 條約、慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件 (明治三十二年七月)

警察官署ハ明治三十二年内務省令第三十二號第七條ニ依リ登録シタル事項ヲ其ノ地戶籍吏ニ通知ス

(明治三十二年七月内) 條約、慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件

● 外國人雇入ニ關スル手續ヲ要セサル件 (明治三十二年七月)

● 皇室ニ關スル文字ヲ商品其ノ他ノ物件ニ濫用取締ノ件

(明治三十四年十二月)

(內務省訓令第二十號)

聽府縣 東京府

近來往々各種ノ商品、商品容器、封皮、引札、廣告、看板等ノ物件ニ於テ帝室御用、東宮御用、宮内省御用其ノ他皇室ニ關スル文字ヲ濫用スル者ナキニテアラズ右ハ明治元年(三月)太政官布告ノ精神ニ違背シ得ナラサル儀ニ付心得違フ者ナキ檢査重取ヲ行フヘシ

形像取締規則 (明治三十三年五月)

形像取締規則左ノ通相定ム

- 第一條 官有地及公衆ノ往來出入スル地ニ於テ永久保存ノ目的ヲ以テ人物其ノ他ノ形像ヲ建設、移轉、改造又ハ除却セシムル者ハ東京市京都府大阪市ニ在テハ內務大臣其ノ他ノ地方ニ在テハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ其地境內ニ於テ實例ニ依リ禮拜ノ用ニ供スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ申請スルニハ地方長官ヲ經由スルヘシ
- 第二條 形像ノ建設、移轉、改造ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ添付スヘシ
 - 一 形像ノ位置ヲ表示セル地圖
 - 二 形像ヲ設置スヘキ土地ノ種目
 - 三 地主又ハ其ノ土地若ハ形像ニ關スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ承諾ノ有無
 - 四 形像ノ物質、製作方法其ノ設計及圖面
 - 五 礎石其ノ他ノ部分ニ文字ヲ表ハストキハ其ノ文字
 - 六 歴史上顯著ナル人物ノ形像ニ係ルトキ

ハ其ノ人ノ事蹟又寓意アルトキハ其ノ寓意費用ヲ募集スルモノハ募集及支出ノ方法

- 八 形像ノ管理及維持方法
- 形像ノ除却ノ許可申請書ニハ其ノ形像ノ來歴及除却ノ要スル理由ヲ具シタル書面ヲ添付スヘシ
- 第三條 內務大臣ニ於テ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ風俗ノ取締ヲ爲スル必要ト認ムルトキハ既ニ建設シタル形像ノ移轉、改造又ハ除却ヲ命スルコトアルヘシ
- 許可ヲ得シテ建設、移轉、改造又ハ除却シタル形像ハ地方長官ニ於テ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

娼妓取締規則 (明治三十三年十月)

娼妓取締規則左ノ通之ヲ定ム

- 第一條 十八歳未満ノ者ハ娼妓タルコトヲ得ス
- 第二條 娼妓名簿ニ登錄セラレザル者ハ娼妓ヲ爲スコトヲ得ス
- 娼妓名簿ハ娼妓所在地所轄警察官署ニ備フルモノトス
- 娼妓名簿ニ登錄セラレタル者ハ取締上警察官署ノ監督ヲ受クルモノトス
- 第三條 娼妓名簿ノ登錄ハ娼妓ヲラントスル者自ラ警察官署ニ出願シ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ以テ之ヲ申請スヘシ
 - 一 娼妓ト爲ルノ事由
 - 二 生年月
 - 三 同一月籍內ニ在ル最近親族親、親族親ナキトキハ月主ノ承諾ヲ得タルコト若シ承諾ナキトキハ其ノ承諾ナキハ其ノ事實

四 未成年者ニ在テハ前號ノ外實父、實母ナキトキハ實母、實父母ナキトキハ實祖父、實父母實祖父ナキトキハ實祖母ノ承諾ヲ得タルコト

- 五 娼妓名簿ニ登錄スヘキ場所
- 六 娼妓名簿登錄後ニ於ケル住居
- 七 現在ノ生業但シ他人ニ依リテ生計ヲ營ム者ハ其ノ事實
- 八 娼妓タリシ事實ノ有無並ニ娼妓タリシ者ハ其ノ稟業ノ開始廢止ノ年月日、場所、娼妓タリシトキノ住居及稟業廢止ノ事由
- 九 前各號ノ外聽府縣令ヲ以テ定メタル事項
- 前項ノ申請ニハ月籍吏ノ作リタル月籍簿本、前項第三號第四號ノ承諾書及市町村長ノ作リタル承諾書印鑑證明書ヲ添付スヘシ
- 娼妓名簿登錄申請者ハ登錄前聽府縣令ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘキモノトス
- 第四條 娼妓名簿ニ禁止セラレタル者ハ娼妓名簿ヨリ削除セラルルモノトス
- 前項ノ外娼妓名簿ノ削除ハ娼妓ヨリ之ヲ申請スルモノトス但シ未成年者ニ在テハ前號第一項第三號及第四號ニ掲グル者ヨリモ之ヲ申請スルコトヲ得
- 第五條 娼妓名簿削除ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テスヘシ
- 前項ノ申請ハ自ラ警察官署ニ出願シテ之ヲ爲スニ非サレハ受理セザルモノトス但シ申請書ヲ郵送シ又ハ他人ニ托シテ之ヲ差出ス場合ニ於テ警察官署カ申請者自ラ出願スルコト能ハサル事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 警察官署ニ於テ娼妓名簿削除申請ヲ受理シタルトキハ直ニ名簿ヲ削除スルモノトス

(明治三十三年五月)

(務省訓令第二十五號)

聽府縣 東京府

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

營業浴場ノ風紀取締ノ件

(明治三十三年五月)

(務省訓令第二十五號)

聽府縣 東京府

- 客ノ來集ヲ目的トスル浴場ニ於テハ十二歳以上ノ男女ヲシテ混浴セシムルコトヲ得ス
- 前項ニ違背シタル營業者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス但シ聽府縣長官(東京府ニ於テハ警察總監)ハ營業者ノ出願ニ對シ本令施行ノ日ヨリ起算シ一年以内ノ範圍ニ於テ浴場ノ設備ヲ爲スニ必要ナル期間本令ノ適用ヲ猶豫スルコトヲ得

水上警察旗製式

(明治三十三年七月)

(內務省訓令第二十七號)

聽府縣(東京府ヲ除ク)

- 水上警察巡回用ノ汽船及短艇ニハ水上警察旗ヲ掲揚スヘシ
- 水上警察旗ノ製式左ノ如シ
- (水上警察旗制略ス)
- 製式
 - 一 地白
 - 二 縦二尺五寸横三尺五寸
 - 三 日章ハ直徑七寸其ノ日ハ白トシ光線ハ黒線ノ線ヲ付シ赤トス
 - 四 最上位ノ横線ハ黒トシ其ノ他ノ線ヲ赤トス
 - 五 芳草ト黒線ノ間隔ハ一寸トス
 - 六 線ノ幅及線ト線トノ間隔ハ二寸五分トス
 - 七 縦線ノ長サハ六寸トシ中央縦線トノ間隔ハ六寸五分トス
 - 八 短艇用ノ警察旗ハ便宜縮少スルコトヲ得

- 第六條 娼妓名簿削除申請ニ關シテハ何人ト雖娼妓ヲ爲スコトヲ得ス
- 第七條 娼妓ハ聽府縣令ヲ以テ指定シタル地域外ニ住居スルコトヲ得ス
- 娼妓ハ法令ノ規定若ハ官廳ノ命令ニ依リ又ハ警察官署ニ出願スルカ爲外出スル場合ノ外警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ外出スルコトヲ得ス但シ聽府縣令ノ規定ニ依リ一定ノ地域內ニ於テ外出ヲ許ス場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 娼妓ハ官廳ノ許可シタル貸座敷內ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 第九條 娼妓ハ聽府縣令ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘシ
- 第十條 警察官署ノ指定シタル醫師又ハ病院ニ於テ疾病ノ診斷ヲ受ケタル者又ハ傳染性疾患アル者ト診斷シタル娼妓ハ治療ノ上健康診斷ヲ受クルニ非サレハ稟業ニ就クコトヲ得ス
- 第十一條 警察官署ハ娼妓名簿ノ登錄ヲ拒ムコトヲ得
- 聽府縣長官ハ娼妓稟業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトヲ得
- 第十二條 何人ト雖娼妓ノ通信、面接、文書ノ閱覽、物件ノ所持、購買其ノ他ノ自由ヲ妨害スルコトヲ得ス
- 第十三條 左ノ事項ニ該當スル者ハ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス
 - 一 虚偽ノ事項ヲ具シ娼妓名簿登錄ヲ申請シタル者
 - 二 第六條第七條第九條第十二條ニ違背シタル者
 - 三 第八條ニ違背シタル者及官廳ノ許可シタル貸座敷外ニ於テ娼妓稟業ヲ爲シメタル者

- 第十四條 娼妓ニ違背シタル者及第十條ニ依リ稟業ニ就クコトヲ得サル者ヲシテ強テ稟業ニ就カシメタル者
- 第十五條 停止中ノ娼妓ヲシテ強テ稟業ニ就カシメタル者
- 第十六條 本人ノ意ニ反シテ強テ娼妓名簿ノ登錄申請又ハ登錄削除申請ヲ爲シメタル者
- 第十七條 本令ノ外必要ナル事項ハ聽府縣令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十八條 本令施行ノ際現ニ娼妓タル者ハ申請ヲ待タズシテ娼妓名簿ニ登錄セララルモノトス

- 第九條 娼妓ハ聽府縣令ノ規定ニ從ヒ健康診斷ヲ受クヘシ
- 第十條 警察官署ノ指定シタル醫師又ハ病院ニ於テ疾病ノ診斷ヲ受ケタル者又ハ傳染性疾患アル者ト診斷シタル娼妓ハ治療ノ上健康診斷ヲ受クルニ非サレハ稟業ニ就クコトヲ得ス
- 第十一條 警察官署ハ娼妓名簿ノ登錄ヲ拒ムコトヲ得
- 聽府縣長官ハ娼妓稟業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトヲ得
- 第十二條 何人ト雖娼妓ノ通信、面接、文書ノ閱覽、物件ノ所持、購買其ノ他ノ自由ヲ妨害スルコトヲ得ス
- 第十三條 左ノ事項ニ該當スル者ハ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 虚偽ノ事項ヲ具シ娼妓名簿登錄ヲ申請シタル者
 - 二 第六條第七條第九條第十二條ニ違背シタル者
 - 三 第八條ニ違背シタル者及官廳ノ許可シタル貸座敷外ニ於テ娼妓稟業ヲ爲シメタル者

第一章 新聞

●新聞紙條例 (明治二十年十二月)

新聞紙條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシメ

新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週目以前ニ發行地ノ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ内務省ニ届出ヘシ

第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 題號
二 記載ノ種類
三 發行ノ時期
四 發行所及印刷所
五 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢...

第六條 年齡滿二十年以上ニシテ帝國内ニ居住スル者ニアラザレハ發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス
(三十二年法律第五號ヲ以テ改正)
三十二年七月一日ヨリ施行ス

第七條 編輯人、印刷人ハ五ニ相兼ムルコトヲ得ス
第八條 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ納ムヘシ
一 東京ニ於テハ千圓
一 京都大阪橫濱兵庫神戶長崎ニ於テハ七百圓...

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳(東京府ハ警視廳)及管轄始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ
第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤辯駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求テ受ケタル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤辯駁書ヲ掲載スルコトヲ得...

第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤辯駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求メタル後其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤辯駁書ヲ掲載スルコトヲ得ス
第十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣言ノ全文ヲ掲載スヘシ
第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セザレバ以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス...

第十八條 公ニセザル官ノ文書及建白願書ハ官廳官廳ノ許可ヲ得ルニ非サルハ謄寫ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十九條 (三十年法律第九號ヲ以テ削除)

第二十條 (同上)

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ擾亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條 外務大臣陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ外交ハ軍事ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得(三十年法律第九號ヲ以テ改正)

第二十三條 第二十二條第三十二條及第三十三條ニ關シテ發行者ハ内務大臣又ハ拓殖務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ停止シ假ニ之ヲ差押ヘ其發行者ニ對シテ依リ第二十二條ノ禁令ヲ裁判所ハ犯罪ノ情狀ニ依リ第二十二條ノ禁令ヲ犯シ又ハ第三十二條及第三十三條ヲ犯シタル新聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得(三十年法律第九號ヲ以テ全條改正)

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判所ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲ共ニ其責任ニ當ラシムヘシ(同上ヲ以テ全條改正)

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ謄寫ノ許可ヲ得ルニ非ズルニシテ其私行ニシテ謄寫ノ外裁判所ニ於テ其入テ謄寫スルノ惡意ニ出テスルヲ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告入ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ罪狀ノ限ヲ免ス其損害賠償ノ訴訟ヲ受ケタルトキモ亦同シ
第二十六條 裁判所定ノ日ヨリ一週目以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セズ又ハ損害賠償金ナルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ是ラサルトキハ刑罰法收處分ニ依リ

第十四條以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十條 第二十一條ノ禁令ヲ犯シ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ(同上)
第三十一條 第二十二條ノ禁令ヲ犯シタルトキハ發行人編輯人チ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス(同上)
第三十二條 第二十三條ノ停止ヲ犯ストキハ發行人編輯人チ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス(三十年法律第九號ヲ以テ追加)
第三十三條 社會ノ秩序又ハ風俗ヲ擾亂スル事項ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人チ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス(同上ヲ以テ改正)

第三十四條 第十三條ノ場合ニ以テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
第三十五條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪併罰ノ例ヲ用ヒス
第三十六條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇月トス
第三十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除ク外皆此條例ニ依ル

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人チ五百圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人チ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

公文ヲ新聞紙ニ掲載スル
(明治八年九月太政官第五十八號達)

自今各縣事務ニ係ル申往復等ノ公文ヲ新聞紙ニ
掲載候儀不相成此旨相違候事

●新聞紙條例中傍聽ヲ禁シ

タル訴訟ノ辯論記載方
(明治十九年六月
司法省令第十號)

檢察長 檢察

新聞紙條例第三十三條ニ傍聽ヲ禁シタル所
論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ヌトアルハ公判ノ半
リ傍聽ヲ禁シタル場合ト雖モ其訴訟ノ當日
辯論ヲ記載スルコトヲ得サル儀ニシテ裁判官傍
聽ヲ禁スルノ命令ヲ爲シタル時ヨリ以下ノ辯論
ヲ指ス者ニ非ス右ハ往々疑義ヲ生シ候向モ有之趣
ニ付此旨心得ヘシ(二十二年勅令第七十五號參看)

●官報ニ登載ノ件新聞紙ニ

抄録ヲ許ス (官報二十六年六月太政
凡ソ官報ニ登載シタルモノハ新聞紙條例ニ依リ記
載スルコトヲ得サル者ト雖モ各新聞紙ニ於テ其文
ヲ抄録スルコトヲ得

官報ニ於テ云々(二十年勅令第七十五號ヲ以テ新
聞紙條例改正ニ依リ本項消滅)
右布達候事

●他ノ新聞紙ニ掲載スル論

既轉載ニ關スル件 (明治十八
年五月
內務省甲第
十七號達)

新聞紙ニシテ他ノ新聞紙(歐文新聞ヲ除ク)ニ掲載
スル論說ヲ十日以内ニ其新聞紙ニ轉載スルトキハ
原新聞紙ノ持主又ハ社主ノ承諾ヲ要セシメ候儀現

ニ發行ノ新聞紙ハ直チニ向後發行セントスル者ト
ハ出願ノ際其旨持主又ハ社主(相違左ノ書式ニ準
シ)請書ヲ附シ當省へ進達可致此旨相違候事
但豫メ轉載ノ目的ヲ定メ發行スルモノハ別ニ本
文原新聞持主又ハ社主ノ承諾ヲ爲テ進達可致
進達候儀心得ヘシ

(書式)

今般何新聞發行相願候ニ付准許相成候上ハ白
今何新聞紙ニ(歐文ノ新聞紙ヲ除キ)他ノ新聞紙
ニ掲載スル論說ヲ十日以内ニ轉載候儀ハ必原新
聞紙ノ持主又ハ社主ノ承諾ヲ得タル上記載可致
候也

年月日

警視總監(府知事縣令)宛 持主 何ノ誰
豫メ轉載ノ目的トスル新聞紙原新聞紙持主又
ハ社主ノ承諾ヲ添付スル書式

警視總監(府知事縣令)宛

今般准許相願候何々新聞(何新聞)何々新聞
何々新聞ニ掲載スル論說ヲ轉載致候目的ニ付何
々新聞何々新聞持主(又ハ社主)ノ承諾ヲ得候條
別紙承諾書相添付此段御届仕候也

年月日

持主 何ノ誰

警視總監(府知事縣令)宛
新聞紙ニ關スル届書式
(明治三十二年六月内
務省告示第六十二號)

新聞紙ニ關スル届書式左ノ通り之ヲ定ム

第一書式 新聞紙發行届

一 新聞紙又ハ雜誌ノ題號

一 記載ノ種類

一 同 發行ノ時期

一 同 發行所ノ所在及其名稱

一 同 印刷所ノ所在及其名稱

一 同 發行所ノ氏名、年齢及其原籍(居住ノ
地)

一 同 編輯人ノ氏名、年齢及其原籍(居住ノ
地)

一 同 印刷人ノ氏名、年齢及其原籍(居住ノ
地)

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候ニ
付保証金何圓(若クハ公債證券又ハ國立銀行ノ
預リ手形ヲ以テ)管轄廳へ納置候間此段御届申
上候也

(保証金ニ納ムルニ及ハサルモノノ例ハ左ノ如
シ)

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候間
此段御届申上候也

年月日

發行所 氏名 名印

編輯人 氏名 名印

印刷人 氏名 名印

內務大臣宛

第二書式 新聞紙改題届

一 現在ノ題號

一 變更ノ題號

右年月日ヨリ改題候間此段御届申上候也

年月日

發行所 氏名 名印

住所

內務大臣宛

第三書式 何新聞紙記載ノ種類變更届

一 現在ノ記載ノ種類

一 變更ノ記載ノ種類

右年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

(保証金ヲ納ムス發行シタルモノヲ變更シテ保
証金ヲ要スルモノトナサントスルノ例ハ左ノ
如シ)

ナ公布セシム

出版法

第一條 凡ソ機械會密其ノ他何等ノ方法ヲ以テス
ルチ間ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ
頒布スルチ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編
纂シ若クハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣
頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當ス
ル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ
外文書圖畫ノ出版ハ總テ此ノ法律ニ依ル(シ)但
シ專ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル
雜誌ハ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條 文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ
到達スヘキ日數ヲ除キ三日ニ製本二部ヲ添ヘ
內務省ニ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版スルトキハ其
ノ官廳ヨリ發行前ニ製本二部ヲ內務省ニ送付ス
ヘシ

第五條 出版届ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者
連印ニテ之ヲ送付スヘシ但シ非賣品ハ著作者又
ハ發行者ノミニテ届出ルコトヲ得

第六條 保護ナキ文書圖畫ヲ出版スルトキ若クハ著
作者又ハ其ノ相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其
ノ由テ記シ發行者ヨリ送付スヘシ

第七條 學校、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出
版スル文書圖畫ハ其ノ學校、協會、協會等ヲ代
表スル者發行者ト連印シテ之ヲ届出ヘシ

第八條 文書圖畫ノ發行者ハ文書圖畫ノ販賣ヲ以
テ營業トスル者ニ限ル但シ著作者又ハ其ノ相續
者ハ發行者ヲ兼メルコトヲ得

第九條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第十條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第十一條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第十二條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第十三條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第十四條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第十五條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第十六條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第十七條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第十八條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第十九條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第二十條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第二十一條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第二十二條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第二十三條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第二十四條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第二十五條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第二十六條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

第二十七條 文書圖畫ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發
行ノ年月日ヲ其ノ文書圖畫ノ末尾ニ記載スヘシ

自今各縣事務ニ係ル申往復等ノ公文ヲ新聞紙ニ
掲載候儀不相成此旨相違候事

●新聞紙條例中傍聽ヲ禁シ

タル訴訟ノ辯論記載方
(明治十九年六月
司法省令第十號)

檢察長 檢察

新聞紙條例第三十三條ニ傍聽ヲ禁シタル所
論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ヌトアルハ公判ノ半
リ傍聽ヲ禁シタル場合ト雖モ其訴訟ノ當日
辯論ヲ記載スルコトヲ得サル儀ニシテ裁判官傍
聽ヲ禁スルノ命令ヲ爲シタル時ヨリ以下ノ辯論
ヲ指ス者ニ非ス右ハ往々疑義ヲ生シ候向モ有之趣
ニ付此旨心得ヘシ(二十二年勅令第七十五號參看)

●官報ニ登載ノ件新聞紙ニ

抄録ヲ許ス (官報二十六年六月太政
凡ソ官報ニ登載シタルモノハ新聞紙條例ニ依リ記
載スルコトヲ得サル者ト雖モ各新聞紙ニ於テ其文
ヲ抄録スルコトヲ得

官報ニ於テ云々(二十年勅令第七十五號ヲ以テ新
聞紙條例改正ニ依リ本項消滅)
右布達候事

●他ノ新聞紙ニ掲載スル論

既轉載ニ關スル件 (明治十八
年五月
內務省甲第
十七號達)

新聞紙ニシテ他ノ新聞紙(歐文新聞ヲ除ク)ニ掲載
スル論說ヲ十日以内ニ其新聞紙ニ轉載スルトキハ
原新聞紙ノ持主又ハ社主ノ承諾ヲ要セシメ候儀現

ニ發行ノ新聞紙ハ直チニ向後發行セントスル者ト
ハ出願ノ際其旨持主又ハ社主(相違左ノ書式ニ準
シ)請書ヲ附シ當省へ進達可致此旨相違候事
但豫メ轉載ノ目的ヲ定メ發行スルモノハ別ニ本
文原新聞持主又ハ社主ノ承諾ヲ爲テ進達可致
進達候儀心得ヘシ

(書式)

今般何新聞發行相願候ニ付准許相成候上ハ白
今何新聞紙ニ(歐文ノ新聞紙ヲ除キ)他ノ新聞紙
ニ掲載スル論說ヲ十日以内ニ轉載候儀ハ必原新
聞紙ノ持主又ハ社主ノ承諾ヲ得タル上記載可致
候也

年月日

警視總監(府知事縣令)宛 持主 何ノ誰
豫メ轉載ノ目的トスル新聞紙原新聞紙持主又
ハ社主ノ承諾ヲ添付スル書式

警視總監(府知事縣令)宛

今般准許相願候何々新聞(何新聞)何々新聞
何々新聞ニ掲載スル論說ヲ轉載致候目的ニ付何
々新聞何々新聞持主(又ハ社主)ノ承諾ヲ得候條
別紙承諾書相添付此段御届仕候也

年月日

持主 何ノ誰

警視總監(府知事縣令)宛
新聞紙ニ關スル届書式
(明治三十二年六月内
務省告示第六十二號)

新聞紙ニ關スル届書式左ノ通り之ヲ定ム

第一書式 新聞紙發行届

一 新聞紙又ハ雜誌ノ題號

一 記載ノ種類

一 同 發行ノ時期

一 同 發行所ノ所在及其名稱

一 同 印刷所ノ所在及其名稱

第五書式 何新聞紙編輯人(印刷人)變更届

舊編輯人(舊印刷人)氏名
原籍及居住ノ地
新編輯人(新印刷人)氏名
年齢

右之通り年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候
也

年月日

舊編輯人(舊印刷人)氏名 名印

新編輯人(新印刷人)氏名 名印

發行所 氏名 名印

內務大臣宛

第六書式 何新聞紙發行時期變更届

一 舊發行ノ時期

一 新發行ノ時期

右之通り年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候
也

年月日

發行所 氏名 名印

內務大臣宛

第七書式 何新聞紙發行所(印刷所)變更届

一 舊發行所(舊印刷所) 所在及名稱

一 新發行所(新印刷所) 所在及名稱

右之通り年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候
也

年月日

發行所 氏名 名印

內務大臣宛

第三章 出版附著作權

第一款 出版

●出版法 (明治二十六年四月
法律第十五號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル出版法ヲ裁可シ茲ニ之

第十五類 第三章 出版附著作權 第一款 出版

八三

年月日

原籍及住所 氏 名印
編輯者 氏 名印
原籍及住所 氏 名印
發行者商號 氏 名印
年 齡

內務大臣宛

第二款 著作權

●著作權法 (明治三十二年三月)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル著作權法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 著作權ノ權利

第二章 偽作

第三章 罰則

第四章 附則

著作權法

第一章 著作權ノ權利

第一條 文藝演述圖畫彫刻模型寫真其ノ他文藝學術ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス

第二條 著作權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得

第三條 發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ス

第四條 著作ノ死後三十年間繼續ス

第五條 無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第六條 官公衙學校社寺協會其ノ他團體ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第七條 著作權者原著作物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セザルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

第八條 冊號ヲ送付順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ每冊若ハ每號發行ノトキヨリ起算ス

第九條 前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間計其スルニハ著作者死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ヨリ起算ス

第十條 相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス

第十一條 左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物ト爲ルコトヲ得

- 一 法律命令及官公文書
- 二 新聞紙及定期刊行物ニ記載シタル雜報及政事上ノ論說若ハ時事ノ記事
- 三 公開セル裁判所、議會或政黨議會ニ於テ爲

第十二條 無名又ハ變名著作物ノ發行者又ハ興行者ハ著作權者ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得

第十三條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ各著作者ノ共有ニ屬ス

第十四條 各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナラザル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ自己ノ部分ヲ分擔シ單獨ノ著作物トシテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作者ト看做シ其ノ編輯物全部ニ付テノ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作者ニ屬ス

第十六條 著作權者ハ著作權ヲ登錄ヲ受クルコトヲ得

第十七條 發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權者ハ登錄ヲ受クルニ非サレハ偽作ニ對スル民事ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十八條 著作權ノ讓渡及買入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

無名又ハ變名著作物ノ著作者ハ其ノ實名ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

第十六條 登錄ハ行政官之ヲ行フ

第十七條 未タ發行又ハ興行セザル著作物ノ原本及其中ノ著作權ハ債權者ノ爲ニ差押テ受クルコトナシ但シ著作權者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 著作權ヲ承繼シタル者ハ著作者ノ同意ナクシテ其ノ著作者ノ氏名稱號ヲ變更シ若ハ其ノ題號ヲ改メ又ハ其ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得

第十九條 原著作物ニ關シテ、傍註、句讀、批評、註解、附録、圖畫ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正増減ヲ爲シ若ハ翻案シタルカ爲新ニ著作權ヲ生ズルコトナシ但シ新著作物ト看做サルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 新聞紙及定期刊行物ニ掲載シタル記事ニ關シテハ小説ヲ除外著作權者カ特ニ轉載ヲ禁ズル旨ヲ明記セザルトキハ其ノ出所ヲ明示シテ轉載スルコトヲ得

第二十一條 適法ニ翻譯ヲ爲シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十二條 原著作物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十三條 寫真著作權ハ十年間繼續ス

前項ノ期間ハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス若シ發行セザルトキハ複製板ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

寫真術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十四條 既ニ發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルハ偽作ト看做サス

第一 發行スルノ意思ナク且機械的又ハ化學的方法ニ依ラシテ複製スルコト

第二 自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節録引用スルコト

第三 普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スルコト

第四 文藝學術ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル原本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ充用スルコト

第五 文藝學術ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト

第六 圖畫ヲ彫刻物模型ニ作り又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ルコト

第七 帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ偽作物ヲ輸入スル者ハ偽作物ト看做ス

第八 練習用ノ爲ニ著作シタル問題ノ解答書ヲ發行スル者ハ偽作物ト看做ス

第九 管見ニシテ且過失ナク偽作物ヲ爲シテ利益ヲ受ケ之ヲ爲シ他人ニ損失ヲ及ボシタル者ハ其ノ利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第十 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權者ハ偽作ニ對シ他ノ著作權者ノ同意ナクシテ告訴ヲ爲シ及自己ノ持分ニ對シ損害ノ賠償ヲ請求シ又ハ自己ノ持分ニ應ジテ前條ノ利益ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第十五章

第三節

出版附著作權 第二款 著作權

未だ發行セザル脚本及樂譜ノ發行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作權トシテ氏名ヲ顯ハシタル者ヲ以テ其ノ著作權ト推定ス

著作權ノ氏名ヲ顯ハササルトキハ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作權ト推定ス

第三十六條 偽作ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判所ハ原告又ハ告訴人ノ申請ニ依リ保證ヲ立テシメ又ハ立シメスシテ假ニ偽作ノ疑アル著作物ノ發賣頒布ヲ禁止ス若シテ之ヲ差押ヘ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ偽作ニ非サル旨ノ判決確定シタルトキハ申請者ハ差止又ハ差押ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責任ニ任ス

第三十七條 偽作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ偽作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第二十條及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セズシテ複製シタル者或ハ第三十條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 著作權ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 著作權ノ消滅シタル著作物ト雖モ之ヲ改竄シテ著作權ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若シテ著作權ノ氏名稱號ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行シタル者ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 虛偽ノ登錄ヲ受ケタル者ハ十圓以上

百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 偽作物及專リ偽作ノ用ニ供シタル器機器具ハ著作權ノ印刷者、發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限り之ヲ沒收ス

第四十四條 本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作權ノ死亡シタルトキ或ハ第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時効ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第四十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十六年法律第六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七十九號寫眞版權條例ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條 本法施行前ニ著作權ノ消滅セザル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有ス

第四十八條 本法施行前偽作ト認メラレザリシ複製物ニシテ既ニ複製シタルモノ又ハ複製ニ著手シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

前項ノ複製ノ用ニ供シタル器機器具ノ現在スルトキハ本法施行後五年間仍舊其ノ複製ノ爲ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第四十九條 本法施行前翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレザリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得但シ其ノ翻譯物ハ本法施行後七年内ニ發行スルコトヲ要ス

前項ノ翻譯物ハ發行後五年間仍舊之ヲ複製スルコトヲ得

第五十條 本法施行前既ニ興行シ若ハ興行ニ著手

シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレザリシモノハ本法施行後五年間仍舊之ヲ興行スルコトヲ得

第五十一條 第四十八條乃至第五十條ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得ス

第五十二條 本法ハ建築物ニ適用セズ

●著作權法施行ノ件 (明治三十一年六月勅令第三十三號)

朕著作權法施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム著作權法ハ明治三十一年七月十五日ヨリ施行ス

●著作權者不明ノ著作物ニ關スル件 (明治三十一年六月勅令第三十二號)

著作權者不明ノ著作物ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

著作權法第二十七條ニ依リ著作物ヲ發行又ハ興行セントスル者ハ其ノ山著作物ノ題號及著作權者ノ氏名稱號等ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙或ハ著作權者ノ氏名住所明ナル場合ハ其ノ居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告スヘシ

前項期日ノ最終日ヨリ六箇月以内ニ著作權者ノ出テサルトキハ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

●著作權登錄ニ關スル規定 (明治三十一年六月勅令第三十號)

著作權登錄ニ關スル規定左ノ通之ヲ定ム

第一條 著作權法第十五條ニ依リ登錄ヲ受ケントスル者ハ內務省ニ願出ヘシ

第二條 登錄願ハ著作權法第十五條第一項ノ場合ニ在リテハ第一書式、第四項ノ場合ニ在リテハ第二書式ニ依リ且ツ著作物ノ明細書ヲ添付スヘシ

明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スルヲ要ス

一 著作物ノ題號

二 著作權者ノ氏名稱號 (無名著作物ニ在リテハ之ヲ要セズ)

三 著作及發行若クハ興行ノ年月日

四 著作物ノ體裁 (著作物體裁明瞭ナラシムル爲メ必要ナル場合ハ其圖面)

五 無名又ハ變名著作物ノ著作權者ノ氏名稱號ニシテ前登錄ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前登錄ノ年月日

第三條 著作權ニ關スル登錄簿ハ內務省ニ備置キ內務大臣ハ第一條ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シテ官報ニ公告ス

第四條 何人ト雖モ登錄簿ノ閲覧又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ下附ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲナス者ハ著作權登錄ノ年月日若クハ登錄番號ヲ記シ願書ヲ差出シ且ツ手数料金叁拾圓ヲ納ムヘシ

前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ用井ルモノトス

第五條 登錄簿ノ閲覧ハ內務大臣定ムル所ノ期日ニ從ヒ官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第一書式

(甲) 著作權登錄願

一 著作物ノ題號

二 此登錄税金何圓也

冊(箇)數

右著作權登錄相成度此段相願候也

住所及原籍

年月日 著作權者(又ハ發行者)氏 名印

內務大臣宛

(乙) 著作權讓渡(質入)登錄願

一 著作物ノ題號

二 此登錄税金何圓也

冊(箇)數

右著作物ハ今般誰ヨリ誰ニ讓渡(質入)候間登錄相成度雙方連署ヲ以テ此段相願候也

年月日 讓渡(質入)人 氏 名印

住所及原籍

讓受(質取)人 氏 名印

內務大臣宛

一 著作物ノ題號

二 此登錄税金何圓也

冊(箇)數

右著作物ハ幾ニ何(稱號)著作トシテ(無名ニテ)發行者誰(氏名)ノ名義ヲ以テ發行候處今般左記ノ通實名ノ登錄相成度發行者連署ヲ以テ此段相願候也

年月日 著作權者 氏 名印

住所及原籍

發行者 氏 名印

內務大臣宛

●著作權ニ關スル登錄簿開覽日 (明治三十一年六月勅令第三十三號)

著作權ニ關スル登錄簿ハ左ノ日時ニ於テ開覽セシムルモノトス

一 毎水曜日 午前十時ヨリ午後三時迄

●著作權法ヲ臺灣ニ施行スルノ件 (明治三十一年六月勅令第三十一號)

朕著作權法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

著作權法ハ明治三十一年七月十五日ヨリ臺灣ニ施行ス

第十六類 監獄

第一章 監獄總則

第一條 監獄

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

監獄之執行、以刑罰之執行爲目的。

第十六類 監獄

第一章 普通監獄

第一款 監獄則

●監獄則 (明治二十二年七月 勅令第百九十三號)

朕監獄則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監獄則

- 第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス
 - 一 集治監 徒刑流刑及罰法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 - 二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル所トス
 - 三 地方監獄 拘留禁錮禁錮懲役ニ處セラレタル者及婦女ニシテ徒刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
 - 四 拘留監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス
 - 五 留置場 刑事被告人ナリ一時留置スル所トス
 - 六 懲治場 拘留監内ノ留置場ニ於テハ罰金ヲ禁錮ニ換フル者及拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
- 第二條 監獄ハ司法大臣ノ監督ニ屬ス(三十三年勅令第百七十二號ヲ以テ本令中內務大臣ヲ司法大臣ニ改ム)
- 第三條 集治監及假留監ハ司法大臣之ヲ管理シ其他ノ監獄ハ警視總監北海道廳長官府縣知事府中除之ヲ管理ス(二十八年勅令第百號ヲ以テ條中改正)
- 第四條 司法大臣ハ隨時監獄巡官ヲシテ各監獄

第十六類 監獄 第一章 普通監獄

第一款 監獄則

ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監北海道廳長官府縣知事 東京府ハ每年少クトモ一回所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル拘留監ヲ巡視スヘシ

檢察官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル監獄ヲ巡視スヘシ

第五條 府縣會議員ハ臨時其府縣所轄ノ監獄ヲ巡見スルコトヲ得

第六條 新ニ入監スル者アルトキハ令狀宣告書執行指揮書其ノ他適法ノ文書ヲ査閱シタル後入監セシムヘシ(三十二年勅令第百四十四號ヲ以テ改正)

第七條 在監ノ婦女其ノ子ヲ乳養セント請フトキハ其ノ齡滿一歲ニ至ル迄之ヲ許スコトヲ得(同上)

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ之ヲ領置スヘシ但シ監獄則施行細則ニ依リ處分スルハ此ノ限ニアラス(同上ヲ以テ條中改正)

第九條 水火風雪等非常ノ變災ニ際シ監獄内ニ於テ避難ノ手段ヲシト考定スルトキハ典獄ハ其狀況ニ依リ在監ノ囚人懲治人及刑事被告人其他所ニ押送シ其災ヲ避ケシムヘシ若シ押送スルノ途ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

第十條 滿期ノ者ヲ釋放スルハ其滿期ノ翌日午前十時ヲ過クヘカラス

第十一條 囚人ハ各罪實ニ從テ嚴ニ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

一 滿十二歲以上十六歲未滿ノ者

二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者

三 滿二十歲以上ノ者

四 滿十六歲以上二十歲未滿再犯ノ者

五 滿二十歲以上再犯ノ者

第十二條 懲治人ハ左ノ年齡ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

一 滿八歲以上十六歲未滿ノ者

二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者

三 滿二十歲以上ノ者

第十三條 刑事被告人ハ各罪實ニ從テ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

一 滿十二歲以上十六歲未滿ノ者

二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者

三 滿二十歲以上ノ者

第十四條 地方監獄拘留監懲治場ノ一區畫内ニ在ルモノハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第十五條 凡ソ監獄ハ男監女監ノ別ヲ嚴隔スヘシ

第十六條 囚人及刑事被告人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ男女トナテ分テ時宜ニ依リ戒具ヲ用フルコトヲ得但懲治人ニハ戒具ヲ用ヒス

第十七條 定役囚ノ作業ノ刑名罪實年齡技能將來ノ生計等ヲ斟酌シ各自ノ體力ニ應ジテ之ヲ課ス(三十二年勅令第百四十四號ヲ以テ改正)

第十八條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

一月一日 元始祭

春分日 神武天皇祭

秋分日 神嘗祭

十二月三十一日 新嘗祭

父母ノ喪ニ遭フ者ハ三日免役ス

前二項ノ外司法大臣ノ認可ヲ得テ臨時服役ヲ免
スルコトヲ得(三十二年勅令第三百四十四號ヲ
以テ追加)

炊事洒掃其ノ他監獄ノ必要ニ因リ使役スル者ハ
免役セシメサルコトヲ得(同上)

第十九條 無定役囚ニシテ監獄園内ニ於テ自ラ作
業ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許シ作業ノ種類ハ
典獄之ヲ指定ス刑事被告人モ亦之ニ準スルコト
ヲ得

第二十條 懲治人ニハ毎日五時以内農業若クハ工
藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

第二十一條 役場ハ男女ノ別ヲ嚴斷シ仍ホ定役囚
無定役囚懲治人ノ役場ハ各別ニ之ヲ設ケ其中ニ
就キ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別スヘシ

第二十二條 定役囚現役一百日ヲ經タルトキハ重
罪囚ニハ其ノ工錢ノ十分ノ一乃至五厘罪囚ニハ
十分ノ二乃至六分給ス(三十二年勅令第三百四
十四號ヲ以テ改正)

無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業スル者
ニハ其ノ工錢ノ十分ノ七ヲ給ス

定役囚ニシテ科外ノ作業ヲ爲ス時ノ工錢モ亦
前項ニ準ス

第二十三條 前條ニ依リ作業者ニ與フヘキ工錢ハ
之ヲ領置スヘシ(同上ヲ以テ條中改正)

第二十四條 囚人懲治人及刑事被告人逃走シ監獄
ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿一箇年
ヲ經テ之ヲ受ケヘキ者ナキトキハ監獄懲罰ノ用
ニ充テ刑死者死亡者ノ領置貨物ニシテ受ケヘキ
者ナキトキモ亦同シ

第二十五條 囚人及懲治人監獄ニ領置ノ貨物ヲ以
テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ充テト請フ
トキハ典獄其事情ヲ取亂シテ之ヲ許可スヘシ

刑事被告人ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經
ヘシ

第二十六條 囚人ニハ一定ノ衣類器具ヲ着ルセシ
ム但シ拘留囚ハ自衣ヲ著スルコトヲ得(三十二
年勅令第三百四十四號ヲ以テ改正)

第二十七條 懲治人刑事被告人ノ衣類器具ハ總テ
自辨トシ其ノ種類品數等ハ典獄之ヲ指定ス但シ
自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス(同上)

第二十八條 囚人懲治人及刑事被告人ニハ各自ノ
身體作業等ヲ斟酌シ左ノ糧食ヲ給スヘシ(同上)

一 下白米十分ノ四 一人一回三合以下
一 菜 一人一日三錢以下

地方ノ狀況又ハ在監人ノ體質等ニ依リ司法大臣
ノ認可ヲ得テ前項ノ糧食ヲ變更スルコトヲ得
懲治人刑事被告人ニシテ糧食ヲ自辨セント請フ
トキハ之ヲ許ス

第二十九條 囚人懲治人及刑事被告人ノ頭髮髭鬚
ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ之ヲ短縮剃除セシ
ム(同上)

第三十條 囚人及懲治人ニハ教誨ヲ施スヘシ
刑事被告人ニシテ教誨ヲ請フモノアルトキハ之
ヲ許ス(同上)

第三十一條 囚人十六歳未満ノ者及懲治人ニハ每
日四時以内讀書習字算術等ヲ教フヘシ(同上ヲ
以テ條中改正)

第三十二條 囚人懲治人及刑事被告人現行ノ法律
命令書ヲ看テ請フトキハ之ヲ許ス(同上)

囚人及懲治人中書籍ノ看讀ヲ請フ者アルトキハ
感化若クハ紀律ニ妨ケナシト認メタルモノニ限
リ之ヲ許ス

刑事被告人書籍ヲ看テ請フトキハ總テ之ヲ許
ス

ス但領置外ノ書籍ハ當該裁判官ノ承認ヲ經ヘキ
モノトス

第三十三條 囚人ノ發スル信書ハ一箇月一通トス
但シ典獄ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニアラス
(同上)

第三十四條 囚人及懲治人ノ發スル信書又ハ外人
ヨリ送リ來ル信書ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ書
中不正不實ニ涉リ又ハ其改悛ヲ妨グルモノト認
ムルトキハ之ヲ發附付與スルコトヲ許サス但刑
事被告人ニ係ル信書ハ總テ當該裁判官ノ檢閱ヲ
經ヘキモノトス

第三十五條 囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セン
ト請フモノアルトキハ監獄官吏ノ立會ヲ以テ之
ヲ許ス但シ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ムルト
キハ之ヲ許ササルコトヲ得(三十二年勅令第三
百四十四號ヲ以テ條中改正)

前項ノ場合ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ旨渡テ受
ケタル者ハ裁判官波アル迄辯護人ヲ除ク外其
現在地ノ裁判所長ノ允許ヲ受ケヘク監獄監禁者
ハ當該裁判官ノ允許ヲ受ケヘシ

第三十六條 囚人懲治人及刑事被告人疾病ニ罹ル
トキハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於
テ醫療セシム懲治場ニ在ル者ハ前狀ニ由リ其親
屬ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 囚人懲治人及刑事被告人死亡シタル
トキハ典獄ハ看守長醫師ノ立會ヲ以テ之ヲ檢視
スヘシ(三十二年勅令第三百四十四號ヲ以テ全
條改正)

刑死者ハ死相ヲ檢シタル後五分時ヲ過キサレハ
其ノ遺骸ヲ袋ニ封ヒ解下スルコトヲ許サス

親屬若クハ故舊ニシテ遺骸ヲ請フ者アルトキハ之
ヲ下付ス但シ死亡後二十四時以内ニ在テ其ノ下

付テ請フ者ナキトキハ監獄ニ於テ之ヲ假葬スヘ
シ

傳染病豫防上必要アルトキハ監獄ニ於テ之ヲ火
葬スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ親屬若クハ故舊ニ
シテ遺骸ノ下付ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第三十八條 懲治人及刑事被告人ニ其親屬故舊ヨ
リ書籍書籍用紙衣服具其他必要ノ物品又ハ飲
食物ヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許スコトヲ得但
書籍書籍ハ當該裁判官ノ檢閱ヲ受ケヘシ其書籍
監禁者ニ係ルトキハ他物ニ於テモ亦同シ(同上
ヲ以テ條中改正)

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前項ノ例ニ
アラズ

第三十九條 囚人ニハ現行ノ法律命令書並ニ書籍
用紙印紙郵便切手貨幣及司法大臣ニ於テ許可シ
タルモノヲ除ク外差入ヲ許サス但書籍ハ第三
十二條ニ記載シタル制限ニ從フ(同上)

第四十條 囚人獄則ヲ遵守シ作業ニ勉勵シ且改悛
ノ行爲アル者ト典獄ニ於テ承認スルトキハ之ヲ
賞與スヘシ

賞與セシ者ニハ之ヲ表スル爲メ賞状ヲ與ヘ獄衣
ニ縫着セシムヘシ

賞状ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ際檢
ト爲スコトヲ得

第四十一條 賞状ヲ有スル囚人ハ其監房ヲ區別シ
テ尋常囚人ト別異シ賞状ノ多寡ニ應ジテ優遇ヲ
爲スヘシ

第四十二條 囚人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ
左ノ例ニ從テ處罰ス(三十二年勅令第三百四十
四號ヲ以テ條中改正)

一 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ役場ト隔絶シタル
監房ニ獨居セシメ服役時間坐作ノ役ヲ課

二 減食 一回ノ糧食ヲ二分ノ一乃至三分ノ一
ニ減ス

三 閉室 閉室ニ入レ一回ノ糧食ヲ二分ノ一乃
至三分ノ一ニ減シ仍ハ臥具ヲ禁ス

屏禁ハ二月以内減食ハ一週日以内閉室ハ五晝夜
以内トス

第四十三條 囚人十六歳未満ノ者及懲治人獄則ヲ
犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス
(同上)

一 獨居 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 一回ノ糧食ヲ二分ノ一乃至三分ノ一
ニ減ス

獨居ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第四十四條 減食若クハ閉室ノ罰ニ處スヘキ者ア
ルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ
證シテ後之ヲ行フヘシ其處罰中ハ醫師ヲシテ毎
日之ヲ視察セシメ醫師ニ於テ身體ニ妨アルヲ證
スルトキハ處罰ヲ中止スヘシ

第四十五條 無期徒刑ノ囚人重罪ヲ犯シ若クハ逃
走シ又ハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ
タルトキハ一年以上五年以下其他ノ輕罪ヲ犯シ
タルトキハ一年以上一年以下兩脚又ハ一脚ニ鎖
ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鎖ニ貫キ腰
間ニ綴リシメ鐵帶ノ所ニ下懸ス其監房ニ在ル
モ錠間ハ仍ホ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以
下前項ノ例ニ照シテ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ
體力ニ應ジテ之ヲ施ス丸ハ米尼ニ屬シ地上ヲ轉
ハスモノトス若シ外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除
キ二人聯結ノ法ニ從フ

第四十六條 監獄中ノ者病ニ罹リ醫師ノ診斷ニ依
リ獄ノ解除ヲ必要トスルトキハ一時之ヲ解除ス
ルコトヲ得但解除中經過セシ日數ハ監獄期限ニ
算入セズ

第四十七條 賞状ヲ有スル者處罰ヲ受ケタルトキ
ハ其情狀ニ因リ賞状一箇又ハ數箇ヲ視奪スルコ
トアルヘシ

第四十八條 獄則ヲ犯シ罰ニ處セラルタル者改悛
ノ狀若シキトキハ之ヲ免スルコトヲ得(三十二
年勅令第三百四十四號ヲ以テ條中改正)

第四十九條 免幽閉ヲ受ケタル流刑ノ者監獄ノ命
令ニ違背シタルトキハ七日以内之ヲ拘留スルコ
トヲ得

第五十條 囚人懲治人及刑事被告人司獄官吏ノ處
置ニ對シテ情書ヲ附ヘントスルトキハ第四條ニ記
載シタル官更巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告
スルコトヲ得

第五十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ司法大
臣之ヲ定ム

第五十二條 此規則ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ適用
セサルモノトス

●監獄則施行細則(明治三十
二年七月)

內務省令
第三十八號
監獄則施行細則左ノ通改正ス

第一章 通則

第一條 新ニ入監スル者アルトキハ必要ノ書類ヲ
査閱シテ之ヲ領收シ其領收證ヲ引致シ來リタル
者ニ交付スヘシ

第二條 入監者ニハ先ツ之ニ番號ヲ付シ通身ヲ檢
査シ名簿原簿ニ其事項ヲ詳録シ仍ホ在監人遵守

ノ要件ヲ指示スヘシ
第三條 在監人ノ遺守ニキキ事項ハ册子トシ監房
内ニ備ヘ置クヘシ

第四條 監房前ニハ下部ニ番號入監年月日上部ニ
氏名刑罰刑名刑罰留置期限犯罪年月ヲ記載シ
タル小札ヲ掲クヘシ但上部ハ之ヲ掩フモノト
ス

第五條 領置ノ貨物ハ其品名數量ヲ簿冊ニ記載シ
典獄之ニ印スヘシ

第六條 入監ノ際携帶ノ物品ニシテ監獄官吏ニ於
テ保存ノ價值ナシト認メタルモノ又ハ保存ニ堪
ヘ難キモノ又ハ保存ニ不便ナルモノハ本人ハ告
知ノ上之ヲ領置ヲ拒ムコトヲ得但本人ノ請求
アルトキハ之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スヘシ
長期囚所持ノ物品ハ本人ハ告知ノ上之ヲ賣却ス
ルコトヲ得

第七條 在監中外人ヨリ差入タル貨物ニシテ領置
スルモノモ又第五條第六條ノ例ニ依ル
在監人ノ親屬故舊ヨリ領置貨物ノ下付ヲ請フト
キハ本人ノ承諾ヲ得テ之ヲ許可スルコトヲ得
第八條 總務監房ニ入ルル物品ハ之ヲ點檢シ其危
險ノ虞アルモノハ之ヲ禁スヘシ

第九條 在監人入房ノ際ハ總務通身ノ検査ヲ爲ス
ヘシ

通身ノ検査ハ一人宛之ヲ爲シ他人ヲシテ見セシ
ムヘカラス但工場教誨室運動場浴室等ヨリ一時
多人數ヲ遺房セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス
男子ノ檢身ハ看守長監獄看守之ヲ行ヒ女子ニ
係ルトキハ女監取締之ヲ行フヘシ

第十條 囚人及懲治人ノ放免期日ハ入監後直ニ之
ヲ調査シテ放免簿簿ニ記入シ仍ホ本人ニ告知ス

第二十八條 囚人ノ監房ニハ疊ナ數クコトヲ得ス
但病監又ハ特ニ内務大臣ノ認可アリタル場合ハ
此限ニ在ラス

第二十九條 雜居監房ニ下付スル書籍ハ一人同時
ニ三冊ヲ超ユヘカラス但字書ハ此限ニ在ラス

第三十條 監房内ニ在テハ各自ノ席次ヲ定ムヘシ
工場ニ在テモ亦同シ

第三十一條 各監房ト看守所間ニハ報知器ノ設備
ヲ爲スヘシ

第三十二條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ塙壁ヲ以
テ外見ヲ防クヘシ

第三十三條 各監房ノ輪匙ハ其型式ヲ同クシ彼此
供用スルヲ得セシムヘシ

第三十四條 監獄ニハ消防具ヲ備ヘ置クヘシ

第三十五條 極寒ノ季節ニ在テ必要ト認ムルトキ
ハ暖房ノ設備ヲ爲スヘシ

第二章 作業
第三十六條 作業ヲ指定セントスルトキハ先ツ醫
師ヲシテ其就業スヘキ者ノ身體ヲ検査セシムヘ
シ

第三十七條 作業ハ科程ヲ定メテ服セシムヘシ
科程ハ普通一人ノ働高ヲ以テ第一ニ之ヲ定ム但
老若幼者病弱者不具者未熟者等ハ此限ニ在ラ
ス

炊事洒掃看病等科程ヲ付シ難キモノハ一定ノ就
業時間ヲ以テ一日ノ科程トス

第三十八條 監獄作業ノ種類ハ内務大臣ノ認可ヲ
受クヘシ

第三十九條 外役セシムヘキ囚人ハ刑期ノ二分ノ
一ヲ經過シタル者ノ中ニ就キ之ヲ撰ムヘシ但刑
期二分ノ一ヲ經過セサル者ニシテ特別ノ必要アリ
ルトキハ内務大臣ノ認可ヲ經テ外役セシムルコ
トヲ得

刑罰六箇月以下ノ者及女囚ハ外役セシムルコト
ヲ得ス

第四十條 外役ニ服セシムルモノハ鐵鍬ノ鎖ヲ川
ヲ二箇毎ニ聯結シ晴雨ヲ問ハス笠ヲ用テ其面ヲ
掩ハシムヘシ

外役ノ囚人ハ看守二人以上ヲシテ戒護セシムヘ
シ

第四十一條 理髮紙屑掃除等ノ如キ監獄用ノ業
ニシテ終日使役シ難キモノハ副業トシテ之ヲ課
スヘシ

第四十二條 作業ノ出來高ハ毎日一回各囚ニ就キ
之ヲ検査スヘシ

第四十三條 科程ノ了否ハ一箇月分ヲ核算調査シ
テ之ヲ定ムヘシ

第四十四條 服役セシムヘキ在監人ハ左ノ時間就
役セシムルモノトス但地方ノ狀況又ハ監獄ノ構
造ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ經テ伸縮スルコトヲ
得

十二月 七時 十月 八時三十分 五月 十時
十一月 七時三十分 九月 九時 六月 十時三十分
二月 八時 四月 九時三十分

第十一條 釋放スヘキ者アルトキハ典獄ハ名簿原
簿ニ照シテ其氏名相貌等ヲ札シ釋放ヲ許波スヘ
シ

第十二條 領置ノ貨物ヲ下付スルトキハ其名數ヲ
簿冊ニ照シテ其旨ヲ記シ受取人ヲシテ證明セ
シムヘシ

第十三條 同日ニ數名ノ釋放者アルトキハ各其釋
放時ヲ異ニスヘシ但刑罰被罰人ハ此限ニアラ
ス

第十四條 刑罰被罰人ノ中共犯人アルトキハ其監
房ヲ別異ニシ談話通聲スルコトヲ得サラシムヘ
シ裁判所又ハ其他ニ押送ノトキモ亦同シ

第十五條 (三十三年司法省令第二十七號ヲ以テ
削除)

第十六條 特赦免職閉假出獄ノ申渡ハ其裁可又ハ
許可ノ監督ニ違ハシタル時ヨリ二十四時以内ニ之
ヲ爲スヘシ

假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者ニハ典獄其証票ヲ與
ヘテ最近ノ警察署ニ送付スヘシ

第十七條 特赦免職閉假出獄ノ申渡ハ別ニ定ムル
方式ニ依テ行フヘシ

第十八條 免職閉假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者ハ監獄近傍
ノ地ヲ限リ居住セシム典獄之ヲ監督スヘシ但土
地家屋ナキ者ニハ之ヲ貸與ス

已ムヲ得サル事故アリテ一時限外ニ出シコトヲ
請フトキハ典獄ニ於テ其事由ヲ取札シテ許可ス
ルコトアルヘシ

第十九條 免職閉假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者アルト
キハ其裁可決定ノ上免職閉假出獄ノ申渡ヲ監獄ニ於
テ直ニ其刑ヲ執行スヘシ

第二十條 免職閉假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者其罷職者又
ハ其他ノ親屬ヲ招キテ同居シ又ハ結婚セント請
フトキハ典獄其生計ノ方法ヲ取札シテ許可スヘ
シ

第二十一條 假出獄中重罪輕罪ヲ犯シタル者アル
トキハ其裁可決定ノ上現ニ之ヲ管束スル典獄ニ
於テ假出獄ノ停止ヲ請フシ證據ヲ取上ケ其旨ヲ
所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務司法兩大臣ニ
申報スヘシ

甲地ニ於テ假出獄ヲ許サレタル者乙地ニ於テ
停止シタルトキハ乙地典獄ヨリ其取上タル證據
ヲ甲地典獄ニ送致シテ其旨ヲ通知スヘシ

前項ニ依リ乙地ニ於テ假出獄ヲ停止シタルトキ
ハ集治監ニ入ルヘキ者ヲ除クノ外其地監獄ニ拘
禁シ前刑後刑トモ乙地ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第二十二條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ
他ノ者ト別異シ一房ニ一人ヲ拘禁シテ特ニ戒護
ヲ爲スヘシ

第二十三條 死刑ノ執行ハ午前十時ヲ過ルヲ得ス
其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシ
ムヘシ

第二十四條 死刑ヲ執行スヘキ者同時ニ二人以上
アルトキハ一人宛執行シ其間他ノ受刑者ヲシテ
刑場ニ入ラスヘカラス

第二十五條 死刑ノ受刑者白衣著用ノ儘之ヲ執行
スルコトヲ得

第二十六條 雜居監房ハ相當官吏ノ立會アルニア
ラサレハ閉扉スルコトヲ得但監人ノアラサ
ルトキハ此限ニ在ラス

第二十七條 同一監房ニハ二人ヲ拘禁スルコトヲ
得ス

餘罪又ハ刑期限内犯罪ノ爲メ審問中ニ係ル囚人
ハ一房ニ一人ヲ拘禁スヘシ

第四十七條 定役囚ニハ左ノ例ニ從ヒ工錢ヲ給與
ス

一 初入者ニハ重罪囚十分ノ二輕罪囚十分ノ三
一再入者ニハ重罪囚十分ノ一輕罪囚十分ノ二
一 再入者ニシテ刑期一年以上ヲ經過シ作業ニ勉
勵スルトキハ初入者ノ例ニ準スルコトヲ得

第四十八條 免役日ニ於テ囚人ヲ使役スルトキハ
科程外ノ工錢ヲ與フヘシ

第四十九條 屏禁處罰中ハ工錢ヲ給與セズ

第五十條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ毎月十日以内
ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ示スヘシ

第四章 給與
第五十一條 囚人ノ衣類ハ綠色懲治人及刑罰被罰
人ニ貸與スル衣類ハ淺藍色ニシテ總テ筒袖トシ
通常服ト就役服トヲ別ツヘシ

第五十二條 囚人ノ蒲團ハ綠色懲治人及刑罰被罰
人ノ蒲團ハ淺藍色トシ各自ニ貸與ス

第五十三條 懲治人及刑罰被罰人ノ著用スル衣類
ニシテ時季ニ適セス又ハ汚損其他衛生上ニ害アリ
ト認ムルトキハ之ヲ貸與ス

第五十四條 在監人ノ衣服ノ外裝及蒲團ニハ白布
ヲ縫著シ之ニ其者ノ番號ヲ記スヘシ

第五十五條 囚人ノ衣類及貸與ノ衣類雜具左ノ如
シ

衣類
一 單衣
一 給入
一 給入
一 襪袴
一 股引
一 股引

婦女ニハ股引ニ代テ前垂ヲ貸與ス

雜具

一 給入

一 襪袴

一 股引

婦女ニハ股引ニ代テ前垂ヲ貸與ス

雜具

一 給入

一 襪袴

一 股引

婦女ニハ股引ニ代テ前垂ヲ貸與ス

雜具

一 給入

一 襪袴

一 股引

婦女ニハ股引ニ代テ前垂ヲ貸與ス

雜具

一 給入

一 襪袴

一 股引

婦女ニハ股引ニ代テ前垂ヲ貸與ス

雜具

一 給入

一 襪袴

一 臥具
一 蚊帳
一 莞蓆
一 枕
一 帶
一 襪
一 手巾
一 雨具
一 冠物
一 履物

以上ノ外用紙ハ別ニ之ヲ給與ス其他必要ナル場合ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ其品目ヲ變更又ハ増減スルコトヲ得

第五十六條 病者ノ衣類雜具ハ醫師ノ意見ニ依リ典獄ニ於テ變更又ハ増減スルコトヲ得

第五十七條 療養ノ爲メ必要ナル飲食物ハ醫師ノ意見ニ依リ之ヲ給與スヘシ

第五十八條 囚人及懲治人ニシテ二圓以上ノ領置工錢ヲ有シ作業ニ勉勵シ行狀方正ナルトキハ其請ニ依リ工錢ヲ以テ食物購求ヲ許スコトヲ得但

其種類分量ハ典獄ヲ制限シ得クヘシ

第五十九條 工錢ヲ以テ食物購求スルハ一月五圓以下ニシテ一回金五圓ヲ超スルコトヲ得但購求費ハ前月分給與工錢ノ三分ノ一以內トス

第六十條 食物購求ハ懲罰中並ニ處罰後一箇月ヲ經ルニアラサレハ之ヲ許可スルコトヲ得

第五節 衛生及死亡

第六十一條 監獄ハ常に清潔ヲ圖リ並ニ便器ハ度數ヲ定メテ掃除スヘシ

第六十二條 病者ノ居室身體衣類臥具等ハ特ニ清潔ニシテ掃除消毒スヘシ

第六十三條 刑事被告人無定役囚及分房ニ在ル囚人ハ毎日三十分以上監房外ニ於テ運動ヲ爲サシムヘシ

第六十四條 監獄ニハ體量器ヲ備ヘ置キ出入監ノ際、處罰前後、其他一箇年一回以上體量ヲ量ルヘシ

第六十五條 衣類臥具其他ノ物品ハ種質ニ由リ蒸汽其他適當ノ方法ヲ用ヒ臭氣ヲ除キ蟲害ヲ防クヘシ但病者ノ物品ハ特ニ注意ヲ施シ他物ト混同スヘカラス

第六十六條 入浴ノ度數ハ作業ノ種類其他ノ狀況ニ依リ之ヲ定ム但毎年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一回十月ヨリ五月マテハ十日毎ニ一回下ルヲ得

第六十七條 在監人ノ頭髮ハ常に清潔ニ梳理セシムヘシ但衛生上若クハ規程上必要ト認メタルトキハ之ヲ剃削スルコトヲ得

第六十八條 髮ヲ短縮セサル者ノ監房ニハ木梳ヲ備ヘ置クヘシ

第六十九條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ嚴密ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ隔離室ニ移シ其消毒ヲ嚴ニシ病性及感染ノ狀況ヲ詳悉シ典獄ヨリ所屬長官ハ申報シ且其旨ヲ町村役場及警察署ニ通知スヘシ

第七十條 傳染病流行ノ際ハ飲食物ノ差入及購求ヲ停止スルコトヲ得

第七十一條 傳染病流行地ヲ發シ若クハ其地方ヲ經過シタル者新ニ入監スルトキハ一週以上他ノ者ト隔離シ其攜帶スル物品ハ消毒ヲ行フヘシ

第七十二條 危篤ノ病者アルトキハ直ニ親屬ニ通知シ刑事被告人ナルトキハ尙其旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第七十三條 死亡者又ハ刑死者アルトキハ其年月日ヲ記シ典獄ヨリ親屬ニ通知スヘシ

刑事被告人死亡シ又ハ囚人及懲治人ニシテ裁判所ノ訊問中ニ保ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十四條 在監人病死シタルトキハ醫師ノ診察ニ依リ病症及其因由並ニ死亡ノ年月日時ヲ死亡帳ニ記載スヘシ若シ變死シタルトキハ醫師ノ檢案ニ依リ死亡ノ因由及其年月日時場所死狀等ヲ詳記スヘシ

第七十五條 死者ノ親屬若クハ故舊ニ其遺骸ノ下付ヲ許シタルトキハ其者ヲシテ死亡帳ニ證明セシムヘシ

第七十六條 在監人ノ遺骸ハ假葬シタル後ト雖モ下付ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第七十七條 死亡者ノ領置貨物アルトキハ親屬ニ下付ス

親屬遺地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ公費シテ代價ヲ送送スルコトヲ得但送費ハ親屬ノ自辨トス

第七十八條 假葬シタル死亡者刑死者ノ遺骸ニシテ滿三箇年ニ至ルモ引取人ナキトキハ更ニ合葬スルコトヲ得但合葬シタルトキハ其墓標ニ石ヲ用ユヘシ

第六章 書信及接見

第七十九條 在監人ヨリ發スル書信ハ一定ノ書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ封緘發送スルモノトシ郵便稅ハ自辨トス但郵便端書ヲ用ヒシムルモ妨ナ

第八十條 囚人ヨリ發スル書信ハ一定ノ日時ニ於テ認メシムヘシ但緊急ノモノハ此限ニ在ラズ

第八十一條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ其氏名身分住所職業及事由ヲ詳悉シタル上之ヲ許スヘシ

接見ノ時間ハ三十分ヲ過クナラズ但死刑ノ執行以前及又集治監ニ移送以前ニ保ル囚人ニハ特ニ一時間ノ接見ヲ許スコトヲ得

第八十二條 接見ヲ許シタル者若シ接見ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲ爲シタルカ又ハ恣意其他形狀等ヲ以テ相通スルノ形跡アルトキハ之ヲ停止スヘシ

第八十三條 接見ノ際在監人男子ニ係ルトキハ看守長看守立會、女子ニ係ルトキハ看守長女監取締立會ヲヘシ

第八十四條 病者トノ接見ハ危篤ノ際ニ限り病監ニ於テ之ヲ爲サシムコトヲ得

第八十五條 在監人接見ノ時限ハ午前八時ヨリ午後四時迄ノ間トス

第七章 差入品

第八十六條 刑事被告人及懲治人ニ差入ルヘキ飲食物ハ酒及煙草ヲ除キ監獄内ニ炊烹ヲ要セサルモノニシテ一日三回一人一食ノ量ニ限ル

第八十七條 總テ差入品ハ看守長立會看守ニ於テ之ヲ檢査スヘシ但飲食物ノ檢査ニハ醫師ナシテ立會ハシムヘシ

第八十八條 檢査ノ爲メ解纏シタル衣類臥具ニシテ差入ヲ許スモノハ監獄ニ於テ之ヲ原形ニ復ス

第八十九條 免職閉シ受ケタル者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄附ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第九十條 教誨ハ免役日及日曜日又ハ休役間ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九十一條 免役日及日曜日ノ教誨ハ教誨室ニ於テシ休役間ノ教誨ハ被教誨者ノ居所ニ就キ之ヲ爲スヘシ

第九十二條 幼年囚懲治人ノ教育ハ小學程度ニ依リ修身讀算術地理歴史習字體操其他必要ナル學科ヲ授ケルモノトス

第九章 賞與

第九十三條 賞與ハ曲尺長二寸幅一ノ寸白色ノ布ヲ用ヒ上衣ノ左袖肩間ノ表面ニ縫著スルモノトス

第九十四條 賞與ヲ有スル者ニハ左ノ優遇ヲ爲スモノトス

一 衣類雜具ハ成ルヘク良品ヲ賞與ス

二 書信ハ一箇月ニ二回之ヲ爲スコトヲ許ス

三 入浴ハ尋常囚人ニ先キタシムコトアルヘシ

四 賞與一箇月得タル者ニハ菜ヲ一週ニ一回其二箇月得タル者ニハ二回其三箇月得タル者ニハ三回増給ス但其價ハ一回金二圓ヲ超ユルコトヲ得

五 定役囚ノ工錢ハ左ノ例ニ依リ給與スルモノトス

賞與一箇月得タル重罪囚ニハ十分ノ三輕罪囚ニハ十分ノ四其二箇月得タル重罪囚ニハ十分ノ四輕罪囚ニハ十分ノ五其三箇月得タル重罪囚ニハ十分ノ五輕罪囚ニハ十分ノ六ヲ給ス

第九十五條 在監人左ニ掲ケタル所爲アルトキハ金五十圓以下ヲ以テ之ヲ賞與スルコトヲ得但賞與ノ限ニ在ラズ

一 在監人ノ逃走セントスル者ヲ密告シタルトキ

二 人命ヲ救授シ及逃走者ヲ捕得シタルトキ

三 監獄ニ係ル水火風災ヲ防禦シタルトキ

刑事被告人ニ係ルトキハ所屬長官ニ申報シ仍ホ當該裁判官ニ通知スヘシ

第十章 懲罰

第九十六條 在監人中犯刑者アルトキハ其取調中他ノ者ト隔離シ置クヘシ

第九十七條 懲罰ヲ受ケタル者ハ其罰期終ルモ監房ヲ別異スヘシ但改悛ノ情著シキトキハ合居セシムルコトヲ得

第九十八條 懲罰ニ處セラレタル者裁判事件ニテ出廷スルトキハ當日ニ限リ其執行ヲ中止スヘシ但中止經過セシ日數ハ懲罰期限ニ算入スヘカラス

第九十九條 兩脚ニ施錠ノ者改悛ノ狀顯ハレ其施錠期限ノ半ヲ經過シタルトキハ一脚ノ錠ハ免除スルコトヲ得

第一百條 施錠ノ者改悛ノ狀最モ顯著ニシテ其施錠期限ノ四分ノ三ヲ經過シタルトキハ假ニ其錠ヲ免除スルコトヲ得

第一百一條 假ニ錠ヲ免除シタル者其罰期內更ニ懲罰ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ復シ其假免中經過セシ日數ハ施錠期限ニ算入スヘカラス

第一百二條 懲罰ニ處シタル者アルトキハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ視察シ教誨師醫師ナシテ之ヲ訪問セシムヘシ

●假出規則 (明治十九年十一月)
刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ依リ懲治場ニ留置セラレタル者ニシテ...

第一條 假出場ヲ許スヘキ者アル時ハ典獄ヨリ其長官ニ狀ヲ具シテ認可ヲ受クヘシ
第二條 假出場ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其監票ヲ本人ニ下付ス可シ
第三條 假出場監票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ...

●監獄巡閱内規 (明治二十六年)

第一條 內務大臣ハ所屬官吏ヲシテ少クモ毎年一回全國各監獄ヲ巡閱セシム
第二條 監獄巡閱區ヲ分テ左ノ五區トス
第一區 (青森縣、埼玉縣、千葉縣、茨城縣、栃木縣、宮城縣、宮城集治監、福島縣、鹿手縣、青森縣、山形縣、秋田縣)...

●看守及監獄備人ノ分掌例 (明治二十二年六月)

第一條 看守及監獄備人ノ分掌例左ノ通改ム
第一章 看守ノ職務
第一條 晝夜交替シテ看守受持場ヲ巡警スヘシ
第二條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ在監...

人員ノ點檢ヲ爲スヘシ
第三條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ監房ヲ檢査シ其常置器具等ヲ點檢スヘシ
第四條 在監人ノ籍貫、氏名、年齢、罪質、刑名等ヲ點檢スルハ勿論日々ノ行狀ヲ視察シ其事項ヲ手帳ニ詳記シ看守長若クハ看守副長ノ檢閱ニ供スヘシ...

●受渡ニ立會ロ不正不真ノ所爲ナカラシムヘシ
第十六條 在監人ノ接見及救護ノ席ニ立會ヒ其舉動ヲ監視スヘシ
第十七條 病者ノ醫治ニ立會ヒ其舉動ヲ監視スヘシ
第十八條 在監人中ニ急發病者アルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ...

第二十六條 在監人ヨリ願訴ヲ爲サントスル者アルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ
第二十七條 文字ヲ書スル能ハサル在監者ノ爲ニ願訴ノ書面ヲ代書シ且之ヲ本人ニ讀ミ聽スヘシ
第二十八條 典獄ノ指揮ヲ受ケ専ラ已決因及懲治人ノ救護ニ從事シ又懲治人及十六歳未満ノ已決囚ニ讀書、算術、習字等ノ學科ヲ教授スヘキ者トス...

免懲罰ノ旨渡又ハ賞褒授與式ニ立會フヘシ

第三章 醫師ノ職務

第三十八條 典獄ノ指揮ヲ受ケ在監人ノ疾病ヲ診察治療シ醫治ニ關スル一切ノ事務ニ從事スヘキモノトス

第三十九條 常ニ監内一般ノ衛生事項ニ注目シ其方法ヲ考究シテ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ若シ衛生上ニ關スル事項ニ付典獄ヨリ諮問ヲ受ケタルトキハ之ヲ詳答シテ報告スヘシ

第四十條 在監人ヲ診斷シタルトキハ其姓名、病性、徵候、治否、及處方ヲ調治簿ニ詳記シ典獄ノ檢閱ニ供スヘシ

第四十一條 已決囚新ニ入監スルトキハ其實質ヲ檢査シ其體質ノ強弱等ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十二條 各監房及工場等ヲ巡廻シ在監人ノ飲食物及衣類等ヲ注視シテ衛生上ニ害アリト認ムル事アルトキハ改良ノ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十三條 流行病及傳染病發生ノ兆アルカ又ハ該患者アルトキハ直ニ典獄ニ稟請シ其病症及感染ノ形狀ヲ詳悉シ預防消毒ヲ施行スヘシ

第四十四條 減食又ハ閉室等ノ懲罰ニ處セラルヘキ者ヲ診察シ其身體ニ妨ケナキヤ否ヤヲ詳記シ其證明書ヲ典獄ニ差出スヘシ

第四十五條 在監人中ニ急發病者アルノ報知ヲ受ケタルトキハ直ニ其居所ニ就キ診察治療スヘシ

第四十六條 服役スヘキ囚徒ノ疾病快復スルトキハ其堪ニヘキ役業ノ種類ヲ指定シ典獄ニ具申スヘシ

第四十七條 急者誕生ノ爲メ特別ノ衣食物品等ヲ要スルトキハ事由ヲ詳記シ典獄ニ具申スヘシ

第四十八條 施設上危險ノ恐アル手術ヲ施ストキハ其旨ヲ典獄ニ具申シテ許可ヲ受ケヘシ

第四十九條 患者癯瘠疾苦クハ危篤ニ至レハ診斷書ニ處方添テ添ヘ之ヲ典獄ニ差出スヘシ

第五十條 在監人中病死又ハ變死シタルモノアルトキハ典獄並ニ看守長ト俱ニ驗屍シ其死亡ノ原因及病症、死狀等ヲ詳記シ死亡證書又ハ檢案書ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ差出スヘシ

第五十一條 患者若シ死後ニ解剖ヲ請フモノアルトキハ速ニ之ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十二條 在監人中作病ヲ構ヘ診察ナクフモノアルトキハ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第五十三條 差入飲食物アルトキハ之ヲ檢査シ其可否ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十四條 看守者ノ適否ヲ監視シ意見アルトキハ直ニ典獄ニ具申スヘシ

第五十五條 醫療器械並ニ書籍等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第五十六條 患者ノ日表及月表ヲ製シ典獄ノ檢閱ニ供スヘシ

第五十七條 看守押丁志願者ノ體格ヲ檢査スヘシ

第五十八條 看守長ノ指揮ヲ受ケ女監ノ戒護其他婦女ノ取締ニ關スル一切ノ事務ニ從事スルモノトス

第五十九條 看守ノ職務第一條乃至第二十四條及第二十六條第二十七條ハ本職ニモ之ヲ適用ス

第六十條 病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ

第六十一條 作業器械及素品製品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第五章 押丁ノ職務

第六十二條 看守ノ助手トナリ新ニ入監スル者ノ身體衣服ヲ檢査スヘシ入監後監房ヲ出入スルトキ

第六十三條 看守ノ指揮ヲ受ケ監外押役ノ在監人ニ戒具ヲ施シ又ハ控繩戒錘ニ從事スヘシ

第六十四條 死刑者アルトキハ上官ノ指揮ヲ受ケ其執行方ニ從事スヘシ

第六十五條 看守ノ助手トナリ監房ノ檢査ヲ爲スヘシ

第六十六條 看守ノ指揮ヲ受ケ監門及監房戸扉ノ開閉ヲ爲スヘシ

第六十七條 看守ノ立會ヒテ受ケケ食物ノ配與、獄衣其他給與品及差入品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第六十八條 上官ノ指揮ヲ受ケ病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ

第六十九條 上官ノ指揮ヲ受ケケ刑死者及死亡者ノ死體取片付方ニ從事スヘシ

第七十條 看守ノ立會ヒテ受ケケ作業器械及素品製品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第七十一條 工場内其他ニアル諸器具其他ノ物件ヲ排列シ看守ノ點檢ニ供スヘシ

第七十二條 獄具及消防器具等ヲ監守シ毀損紛亂セサル様注意スヘシ

第七十三條 在監人ノ頭髮身體衣服ニ注目シ若シ垢染破損セシ等ノモノアルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ

第七十四條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルト認知シタルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ

第七十五條 監内ニ異狀アルトキハ直ニ之ヲ上官ニ申告スヘシ在監人ヨリ報告ヲ得タルトキモ亦同シ

第七十六條 在監人ノ行狀ノ異否ヲ認知シタルトキハ之ヲ手帖ニ記シ監守ニ申告スヘシ

第七十七條 炊場、浴場等ニ於テハ火災ノ虞ナキ

樣注意スヘシ

第六章 授業者ノ職務

第七十八條 工業掛員ノ指揮ヲ受ケ農工業等ヲ教授スヘシ

第七十九條 受業囚ヲ督勵シ科刑了ラ否ヲ注視スヘシ

第八十條 授業上ニ要スル器械雜具ヲ整理シ取扱上及保存方ニ注意スヘシ

第八十一條 役業ノ科刑及工錢料定上ニ付テハ意見ヲ工業掛ニ開申スヘシ

第八十二條 役業ノ廢散及改良方ニ付意見アルトキハ之ヲ典獄ニ具申スヘシ

第八十三條 役業ヲ怠ルカ又ハ指導ニ從ハサルモノアルトキハ速ニ看守長ニ申告スヘシ

第八十四條 器具ノ新調及修繕ヲ要スルトキハ其買入又ハ修繕方ヲ工業掛ニ申立ツヘシ

第八十五條 毎月受業囚ノ勤怠及技藝ノ優劣進否等ヲ調査シ之ヲ看守長ニ具申スヘシ

第七章 看守押丁賞與方

內務省訓令第一號

看守押丁ニシテ左ノ各項ニ該當スル者ハ明治二十一年十月內務省訓令第二十一號警察官賞與規則ニ據リ功勞ノ適度ニ應ジ金拾五圓以下ヲ賞與スヘシ

一 反獄ヲ鎮制スルニ當テ其功勞著シキ者

二 自己ノ監守ニ非ラサル在監人ニシテ逃走スル者ヲ捕獲シ其功勞著シキ者

三 監獄内ノ水火風災及ヒ流行病ニ付其功勞著シキ者

四 自己ノ危難ヲ顧ミス在監人ノ性命ヲ救済シタル者

●看守點檢規則 (明治三十四年三月 司法省訓令第二號)

第十六類 監獄 第一章 普通監獄 第三款 看守監獄備人

看守點檢規則左ノ通相定ム

第一章 總則

第一條 點檢ハ看守ノ人員、姿勢、服裝、給與品、食料、點檢スルモノトス

第二條 點檢ヲ別テ通常點檢、臨時點檢トス

第三條 通常點檢ハ人員、姿勢、服裝、日帶ノ携帶品及禮式ヲ檢査スルモノニシテ其順序左ノ如シ但刀身及禮式ノ檢査ハ每點檢時之ヲ爲ササルモ妨ケナシ

一 人員

二 姿勢、服裝

三 刀身

四 手帖、名刺

五 捕繩

六 呼子笛

七 禮式

第四條 臨時點檢ハ給與品ノ保存及代料ヲ以テ給與スル物品ノ適否ヲ檢査スルモノトス

第五條 點檢ハ上官看守長點檢官ト爲リ次席ノ看守長指揮官ト爲ル

第六條 點檢官不在トキハ次席ノ看守長之ヲ代理シ指揮官ハ順次次席者代理ス

第七條 點檢ノ定刻前ニハ看守ヲ所定ノ場所ニ召集セシムヘシ

第八條 點檢ハ最モ嚴格ニ之ヲ執行シ就中刀身ノ手入、姿勢、服裝ノ正否ハ周到嚴密ニ檢査スルモノトス

第九條 外裝ハ兩肩ヲ内ニ納メ之ヲ捲キ兩端ヲ結東シテ左肩ヨリ右腋下ニ懸クヘシ

第十條 降雨ノトキハ外裝ヲ著スルハ妨ケナシト雖モ各

具一定ヲラシムルヲ要ス

第九條 手帖ハ上衣ノ左上腰シニ呼子笛ハ同右腰シニ捕繩ハ袴ノ右腰シニ名刺ハ手帖ノ名刺入ニ納ムルモノトス

外裝ヲ著スルトキハ手帖、呼子笛ハ其右腰シニ之ヲ納ムヘシ

第十條 點檢ノ隊形ハ通常二列橫隊ニ作ルモノトス

但集合所ノ地形又ハ人員ノ多寡ニ依リテハ一列橫隊又ハ縱隊或ハ片手間隔ノ橫隊若クハ半圓形ニ作ルコトヲ得

第十一條 集合ハ「集マレ」ノ號令又ハ呼子笛ノ一長聲ヲ以テス

第十二條 指揮官ハ號令ノ際按劍スルモノトス但刀身檢査ノ場合ノ外ハ按劍セサルモ妨ケナシ

第十三條 點檢官ハ左ノ方法ニ依リ豫テ看守ノ集合順序ヲ一定シ置クヲ要ス(第一圖参照)

身幹長短ノ順序ニ從ヒ約子二尺(此距離ハ前者ノ背ヨリ後者ノ胸マテ計量ス)ノ距離ヲ隔テテ二列ニ編成シ其前後ニ立テタル二人ヲ伍トシ各伍中長大ナル者ヲ第一列ニ置ク列員奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺ク之ヲ缺伍トス後列員ハ正シク前列員ニ重ナリ同方向ニ位置ス

各列員ノ間隔ハ肘肘五ニ接觸スルコトナク行進ニ當リ手ヲ前後ニ振動スルヲ妨ケサルヲ要ス(此間隔ハ右手ヲ胸骨上ニ當テ肘ヲ側方ニ張りタルトキ輕ク右腕員ノ左腕ニ觸ルルヲ度トス)

各伍ハ第一列正面ニ在テ右ヨリ左ニ番號ヲ附列ノ兩翼前列ニ二名ノ標導ヲ置ク標導ハ看守部長ヲ以テ之ニ充ツ其在ラサルトキハ上官看守長ヲ以テ充ツ他ノ看守部長ハ後列ヨリ二歩ノ處ニ位置ス之ヲ押伍トス

第十四條 號令ヲ別テ豫令、動令トス豫令ハ明瞭ニ長ク動令ハ快活ニ短ク其間適當ナル時間ヲ存スヘシ(適當ナル時間トハ豫令ノ後動令ニテ如ク時間)何ニ動作スヘキヤノ判斷及準備ニ費ヤス時間)

第十五條 點檢ヲ受クヘキ人員最少ナルトキハ第二章以下ノ規定ヲ參酌シ適宜之ヲ行フコトヲ得

第十六條 看守教習所ニ在リテハ此規則ニ依リ所長教官ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二章 通常點檢

第十七條 通常點檢ハ當日服務ノ看守ニ對シ交代時限二十分前之ヲ施行スルモノトス

第十八條 指揮官ハ時刻ニ至レハ左ノ號令ヲ下シ看守ヲ集合セシメ點檢ノ準備ヲ爲スヘシ

「集まれ」(此令ノ後集まれヘキ隊形ヲ高ハ片手間隔)

此號令ニテ右翼標準ハ速クニ指揮官ノ前面五六歩ノ處ニ面シテ位置シ以下列員ハ番號ノ順序ニ從ヒ靜肅ニ集合ス

第十九條 集合終レハ指揮官ハ順次左ノ號令ヲ下シ列員ヲ一線上ニ整頓セシム

一 氣ヲ付ケ

此號令ニテ列員ハ不動ノ姿勢ヲ取ル其法兩踵ヲ一線上ニ揃ヘテ之ヲ著ク兩足ハ矩形ヨリモ少シク狭ク開キテ齊シク外側ニ向ケ兩膝ハ之ヲ伸ハシテ接シ上體ハ正シク腰上ニ落テ付ケ且ツ少シク前ニ傾ケ兩肩ハ故ラニ張ルコトヲ後方ニ引キ一様ニ下ケ兩臂ハ自然ニ垂レ掌ハ僅ニ前方ニ向ケ指ヲ輕ク風メテ之ヲ竝ヘ小指ヲ稍ノ縫目ノ後ロニ當テ頭ハ正シク眞直ニ保チ腰ヲ輕ク頸ニ近ツ

ケ兩眼ハ遠ク前面ノ一點ヲ直視ス

二 番號

此號令ニテ右翼首位ノ者ヨリ單簡明瞭最モ迅速ニ一ト發唱シツツ頭ヲ左ニ回ハシ次キノモノ即チ二番ニ唱ヘ送り直ニ頭ヲ正面ニ復ス斯ノ如クシテ順次末尾ニ至ル

三 總隊ニテ兩翼標準ハ示サレタル步數ヲ前進ス指揮官ハ直チニ驅歩ヲ以テ右標準ノ右側ニ歩ノ處ニ立チ兩標準ヲ一線上ニ位置セシメ列員整頓ノ基準線ヲ作ルモノトス

四 進

此號令ニテ列員ハ三步(二歩、四歩、五歩)前進シ最後ノ一歩ヲ少シク縮メ整頓線ノ後方五六寸ノ處ニ止マリ右手ヲ腕骨ノ上ニ上ケ指ヲ後方ロニシ他ノ四指ヲ接シテ之ヲ前ニ肩ヲ側方ニ張り上體ヲ前後ニ出スコトナリ頭ヲ右(左)ニ向ケ右眼(左眼)ヲ以テ隣員ヲ直視シ他眼ヲ以テ全體ヲ直視シ得ルマテ少シク指ヲ以テ前後シ靜ニ整頓ニ就ク押込(若シニ列ナルトキハ後列員モ)ハ正シク前列員ニ重ナリテ距離ヲ取り右方(左方)ニ整頓ス

五 兩翼標準ハ已レニ近キ者ヨリ逐次速ニ何番後ヘ何番前ヘト呼ヒ整頓ヲ正スヘシ

六 直

此號令ニテ頭ヲ正面ニ復シ右手ヲ垂下ス若シニ列橫隊ナルトキハ左ノ號令ヲ下シ前後列六歩ノ距離ニ展開ス

前列六歩前ヘ 進

此號令ニテ前列員ハ左足ヨリ六歩前進ス其法左脚ヲ輕ク風メテ前ニ出シ足尖ヲ少シク

下ケ且ツ儘カニ外方ニ向ケ上體ヲ少シク前ニシ右足ヨリ二尺四寸ノ處ニ脚ヲ伸ハシツツ故ラニ地面ヲ敲クコトヲ平ラニ踏付ケ同時ニ腰ヲ地面ノ方ニ壓シテ伸ハシ全ク體ノ重ヲ踏付ケタル足ノ上ニ移シ左足ヲ踏付ケルト同時ニ右足ヲ地ヨリ離シ左脚ニ就テ示セシト同法ニテ右脚ヲ前ニ出シ片進ヲ續行シ兩肩ヲ同スコトナク頭ヲ眞直ニ保チ兩臂ヲ自然ニ振動ス而シテ六歩目ニテ後ナル足ヲ前ニ引付ケテ止ル(一歩ノ長サハ頭ヨリ頭マテ二尺四寸ニシテ一分時間二百五歩ヲ以テ常歩トス)

第二十條 前條ノ動作終レハ左ノ號令ヲ下シ列員ヲ休憩セシメ點檢官ノ禮場ヲ待ツモノトス

休憩

此號令ニテ列員ハ右足ハ其儘ニシテ左足ヲ足裏ノ長サ程其方向ニ出シ姿勢ニ意ヲ止ルコトナク休憩ス

若シ右足ヲ休メント欲セハ正シク右足ヲ齒位ニ復シ右足ヲ左足ヲ休メタル如クス如何ナル場合ト雖モ兩足同時ニ齒位ヲ離シ又ハ談話スルコトヲ得

第二十一條 點檢官禮場スルトキハ指揮官ハ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ列員ハ不動ノ姿勢ヲ取ラシメ直ニ點檢官ノ許ニ至リ相當ノ敬禮ヲ行フタル後人員ノ報告ヲ爲スヘシ

第二十二條 點檢官ハ指揮官ヨリ人員ノ報告ヲ受ケ終レハ直ニ列ノ右翼前面ヨリ左翼ヲ通過シ背後ニ回ハリ(若シニ列ナレハ後列モ)前列ノ如ク(ス)服裝、刀鞘、靴、手袋、下襟、姿勢ヲ檢查シ終リテ定位ニ就クヘシ但指揮官ハ點檢官ニ隨行スルモノトス

第二十三條 前條ノ檢查終リ刀身ノ檢查ヲ爲ス場合ハ左ノ號令ヲ下シ各人ノ距離間隔ヲ取ラシム但人員少數ナルトキハ適宜ノ號令ヲ以テ間隔ヲ取ラシムルモ妨ケナシ

奇數員(偶數員)ニテ三歩前ヘ 進

此號令ニテ呼ハレタル數員及兩翼標準ハ三歩前進ス若シ標準隊員ト間隔ヲ取リ得サルトキハ指揮官ハ右(左)標準ニ一歩(右)ノ奇數ヲ爲ス

次ニ左ノ號令ヲ下シ拔劍セシム

拔劍

此號令ニテ列員ハ左ノ分解動作ヲ爲ス

「拔劍」ノ豫令ニテ左手ヲ以テ鞘ノ第一環上部ヲ握リ右手ヲ以テ劍柄ヲ握リ約子離口一寸餘ヲ緩ム

二 「劍」ノ動令ニテ活潑ニ劍ヲ拔キ右足尖ノ方ニ伸シ拳ヲ肩ノ高サニシテ握指ヲ劍柄ニ添ヘ劍ヲ壓スル如クシテ伸ハシ劍刃ヲ右斜下方ニ向ケ劍尖ヲ眼ノ高サニシ兩眼ヲ切先ニ注ク

三 劍柄ヲ右手ノ握指ト食指ト中指ト間ニ把持シ他ノ二指ヲ劍柄ノ後ニ當テツ、之ヲ下ケ右腕骨ノ下方ニ接シ肘ヲ成ルヘク後ニ引キ劍身ヲ眞直ニシ劍背ヲ肩ノ縫目ニ接スルト同時ニ頭ヲ正面ニ復シ左手ヲ垂下ス

第二十四條 拔劍動作終レハ點檢官ハ第一列右翼ヨリ劍ノ把持法特ニ刀身ヲ檢查シ荷モ手入ノ粗爾アルトキハ嚴戒ヲ加フヘシ此場合ニ於テ指揮官ハ點檢官ニ隨行スルモノトス

第二十五條 刀身ノ檢查終レハ指揮官ハ左ノ號令ヲ以テ劍ヲ納メシムヘシ

一 此號令ニテ列員ハ左ノ分解動作ヲ爲ス

「納メ」ノ豫令ニテ左手ヲ以テ鞘ノ第一環上部ヲ握ル

二 「劍」ノ動令ニテ右手ノ握指ヲ劍柄ニ添ヘテ伸シ無名指ト小指ヲ他ノ二指ニ併セ劍柄ヲ握リツツ之上上ケ右肘ヲ輕ク脇ニ著ケ劍ノ刃ノ前方約子四寸ノ處ニ持來リ劍身ヲ眞直ニシ又チ左方ニ向ク

三 劍身ヲ左方ニ倒シ右手ヲ高ク上ケ眼ヲ離口ニ注キ劍身ヲ確實ニ納メ速ニ兩手ヲ垂下シ頭ヲ正面ニ復ス

次ニ指揮官ハ左ノ號令ヲ下シ齒形ニ復サシムヘシ

偶數員(奇數員)ニテ三歩前ヘ 進

此號令ニテ偶數員(奇數員)ハ左足ヨリ三歩前進シ元ノ位置ニ入ル標準ノ間隔ヲ取りタルモノハ同時ニ齒位置ニ復ス(此時手袋ヲ脫シ刀鞘ニ挿ムモノトス)

第二十六條 人員、姿勢、服裝、刀身ノ檢查ヲ終ラハ指揮官ハ左ノ順序ニ依リ號令ヲ下スヘシ

點檢官ハ指揮官ヲ隨ヘ一品毎ニ第一列右翼ヨリ異狀ノ有無ヲ檢查スヘシ

一 手帖

此號令ニテ列員ハ左ノ動作ヲ爲ス

「手帖」ノ豫令ニテ右手ヲ以テ隠シヨリ手帖ヲ半ハ程出ス(以下之ニ倣フ)

二 「前」ノ動令ニテ手帖ヲ全ク出シテ右肩ノ前ニ持チ來リ肘ヲ體ニ接シテ前臂ヲ水平ニシ左手ヲ以テ印章名刺ノアル處ヲ開キ右掌ノ上ニ置キ握指ヲ以テ之ヲ支ヘ左手ヲ垂下ス(以下之ニ倣フ)

三 此號令ニテ速ニ左手ヲ添ヘテ手帖ヲ閉チ右手ヲ以テ隱シニ之ヲ納ム

捕繩

此號令ニテ右手ヲ以テ捕繩ヲ出シ解キ口ヲ前方上部ニ向ケ掌ヲ上ニシ之ヲ持ツ

解繩

此號令ニテ左手ヲ添テ一齊迅速ニ解繩シ了テ左手ヲ垂下ス

但此號令ハ時宜ニ依リ省略スルコトヲ得

收メ

此號令ニテ解繩シアルトキハ左手ヲ添ヘ假リニ繰リ纏テ之ヲ納メ解繩シアラサルトキハ右手ノミヲ以テ速ニ之ヲ納ム

呼子留

此號令ニテ右手ヲ以テ呼子留ヲ出シ横穴ヲ下方ニ向テ之ヲ持ツ

發聲

此號令ニテ右内肘ヲ軸トシ頭ヲ伏仰スルコトヲ當ナク口ニ持チ來リ強ク一聲吹笛シ右手ヲ齒位ニ復ス如此シテ右翼ヨリ順次吹笛ス但發聲ハ時宜ニ依リ省略スルコトヲ得

收メ

此號令ニテ之ヲ納ム

第二十七條 前條ノ檢查了リ禮式點檢ヲ行フトキハ左ノ順序ニ依ル

一 室外ノ最敬禮

二 室外ノ敬禮

三 室外同僚間ノ禮

四 兩手物品攜帶ノ敬禮

五 室内ノ最敬禮

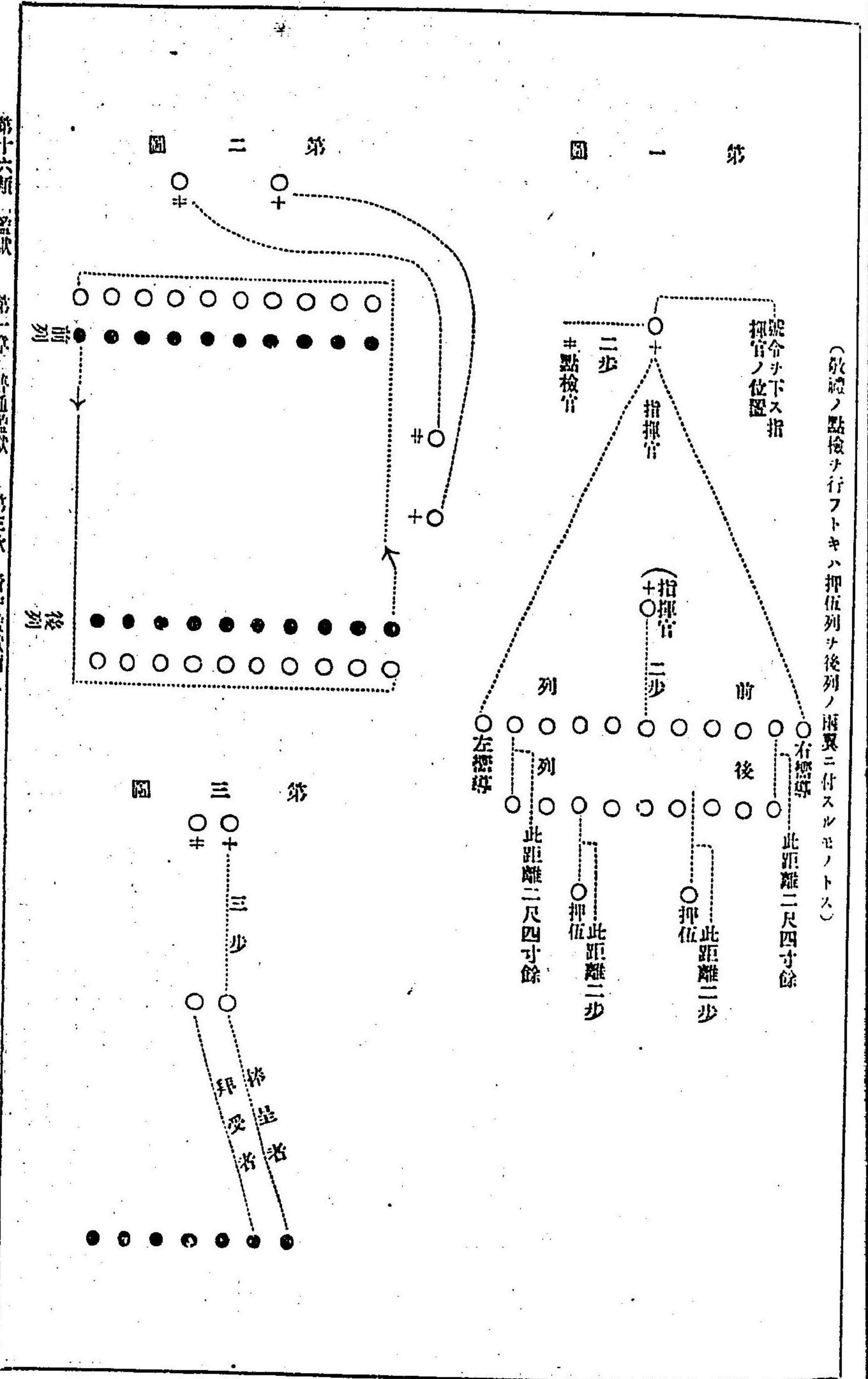
六 室内ノ敬禮

七 辭令書物品等授受等ノ禮

第二十八條 前條第一乃至第四ノ禮式點檢ヲ行フトキハ左ノ號令ヲ下スヘシ
 一 前列何歩前ヘ一進メ
 此號令ニテ場所ノ許ス程度ニ於テ成ルヘク廣ク展開セシム
 二 前列同ハレ一右
 此號令ニテ左ノ分解動作ヲ爲ス
 一 右足ヲ其方向ニ於テ後ロニ引キ右足尖ヲ左顧ニ接ス
 二 兩脚ニ力ヲ加ヘテ伸ハシ兩脚中心トシ兩足尖ヲ輕ク上ケ腰ト顧ニテ迅速ニ全ク後ロニ向キ同ハル
 三 右足ヲ左足ニ引著ケテ左方ニ整頓ス
 右第二ノ號令ニ換フルニ左ノ號令ヲ下スコトヲ得同ハレ一右ヘ止レ
 其法「止レ」右足ノ地ニ著クトキ下スモノニシテ左足ヲ一步前ニ踏ミ出シ其足尖ニテ後ロニ向ハリ右足ヲ左足ニ引著ケ止ル
 第二十九條 前條ノ如ク前後相當ノ距離ヲ隔テ相對向スルハ點檢官及指揮官ハ列ノ右左ノ側方適宜ノ位置ニ就キ第二十七條ノ順序ヲ追フテ禮式ノ種類ヲ指示シ前列(後列)ヲ受禮者トシ後列(前列)ヲ行禮者トス但人員多數ナルトキハ一列員ニハ長敬禮他ノ一列員ニハ同僚間ノ敬禮ヲ行ハシメ順序行ハシメハ次ニ一列員ニハ室外ノ敬禮他ノ一列員ニハ物品攜帶(手帖ヲ物品ト見做シ攜帶セシム)ノ禮ヲ行ハシムル等便宜ニ從フコトヲ得(第二圖參照)
 指揮官禮式ノ種類ヲ指示シ了レハ左ノ號令ヲ下スヘシ
 始メ一
 此號令ニテ前列(後列)ノ一疊及後列(前列)

ノ終番員ハ左足ヨリ互ニ前進シテ前後列員行進ヒ互ニ五歩ノ處ニ至リ其指示セウレタル禮式ヲ行ヒ了テ前進シ列ノ後ロニ至リ正面ニ位置ス
 又此號令ニテ他ノ列員ハ休メノ姿勢ヲ取ル然レトモ前進スルニ當テハ必ス氣ヲ付ケテ姿勢ヲ取り左足ヨリ前進スヘシ
 右禮式了レハ他ノ列員ハ指揮官ノ指示ヲ待タス返次前進シテ末尾ニ至ルヘシ若シ末尾奇數ナルトキハ指揮官ヲ受禮者ト見做スヘシ
 第三十條 禮式點檢ニ於テ規定ノ禮式ニ違ヒ又ハ動作不十分ナルトキ點檢官又ハ指揮官ハ式ニ適合スルマテ反覆之ヲ行ハシムヘシ
 第三十一條 第二十七條第五乃至第七ノ禮式點檢ヲ行フトキハ列ノ右翼ヨリ順次指揮官ノ三歩前マテ進ミ禮式ヲ爲サシメ指揮官ハ一々之ニ答禮スヘシ辭令等物品等授受ノ禮ハ便宜手帖ヲ辭令書又ハ物品ト見做シ指揮官ハ奇數員ヲ以テ捧呈者トシ偶數員ヲ以テ拜受者トシ順次末尾ニ至ラシムヘシ(第三圖參照)禮式宜シキヤ得ス又ハ動作不十分ナルトキハ答禮ヲ爲サス又ハ辭令書若ハ物品ヲ授受セス之ヲ矯正シテ後ニ答禮又ハ授受スヘシ
 第三十二條 全員ノ點檢了レハ指揮官ハ二列ニ在リタルモノハ元ノ二列橫隊ニ復サシムル爲メ左ノ號令ヲ下スヘシ
 一 前列同ハレ一右
 二 後列前ヘ一進メ
 此號令ニテ後列ハ前列ノ直後ニ向テ前進ス次ニ左ノ號令ヲ下シテ停止セシメ二列橫隊ニ作

三 分隊止レ
 第三十三條 指揮官ハ列ヲ解散セシムル爲メ「解列」「進メ」ノ號令ヲ下シ列員ハ點檢官及指揮官ニ對シ一齊ニ舉手注目ヲ爲シ其答禮ヲ待テ解散スヘシ
 第三章 臨時點檢
 第三十四條 臨時點檢ハ消防具ヲ除ク外毎月一回之ヲ行フモノトス
 但時宜ニ依リ二箇月ニ一回ト爲スコトヲ得
 第三十五條 物品點檢ハ帽、被服、外套、肌著、長短靴、肩章、提燈、消防具等ノ使用保存ノ當否及代料渡品ノ適否破綻ノ手入レ卸其他徵章ノ正否手帖ノ記載事項等詳細ニ檢査スルモノトス其不都合ト認ムルモノハ期間ヲ定メ修繕セシムルヲ要ス
 第三十六條 物品配置ノ場所ハ豫メ一定シ置キ一見檢査ニ差支ナキ樣配列シ受檢者ハ其前ニ整列スヘシ
 第三十七條 物品ノ配列了レハ點檢官ハ指揮官ヲ隨ヘ列ノ右翼(左翼)ヨリ檢査ヲ爲シ終テ指揮官ハ物品ヲ收メシメ「解列」「進メ」ノ號令ヲ下シ
 第三十三條ノ如ク敬禮ヲ行ヒ解散スヘシ但人員少數ナルトキハ此號令ヲ略スルコトヲ得
 第三十八條 消防具ノ點檢ハ四箇月毎ニ一回演習ノ際之ヲ行フモノトス
 第三十九條 機械、器具ニシテ使用シタルモノハ洗滌ノ後修繕シタルモノハ竣工ノ後之ヲ點檢スヘシ
 第四十條 唧筒其他ノ機械ニシテ組立アルモノハ毎年二回以上之ヲ分解シ内部ノ檢査ヲ爲スヘシ
 前項ノ檢査ハ可成其演習ノ際ニ於テ之ヲ行フヘシ



第四款 監獄費

●府縣監獄費等國庫支辨ニ關スル件 (明治三十三年一月)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ府縣監獄費及府縣監獄建築修繕費ノ國庫支辨ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 監獄ニ關スル費用ハ總テ國庫ニ於テ之ヲ支辨ス

第二條 府縣監獄ニ屬スル府縣有土地建築物器具器械藥品其ノ他ノ物件ハ國庫ニ歸屬ス

第三條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 本法發布以後施行ノ日迄ノ間ニ於テ第二條ニ掲ケル土地物件ノ處分ヲ要スルトキハ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ノ外内務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第五條 本法施行ノ際國庫地方費ノ區分ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●明治三十三年法律第四號施行ノ際ニ於ケル國庫地方費ノ區分ニ關スル件 (明治三十三年七月)

朕明治三十三年法律第四號施行ノ際ニ於ケル國庫地方費ノ區分ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 明治三十三年法律第四號施行ノ際ニ於ケル國庫地方費ノ區分ハ命令ノ規定ニ依ル

第二條 收入未済金ノ區分ハ其ノ收入スヘキ事實ノ生シタル日ノ所屬ニ依リテ之ヲ定ム

第三條 支出未済金ノ區分ハ左ノ各號ニ依リテ之ヲ定ム

第一 看守補助年金ハ其ノ支拂期日ノ所屬

第二 物件買入代價ハ其ノ納付ヲ爲シタル日ノ所屬

第三 前各項ノ類別ニ入ラサルモノハ總テ其ノ事實ノ生シタル日ノ所屬

●府縣監獄費等國庫支辨ニ關スル法律施行ノ日迄ノ間ニ於テ府縣監獄ニ於テ府縣監獄ニ屬スル物件ノ處分ヲ要スルトキ報告ノ件 (明治三十三年一月)

本年法律第四號施行ノ日迄ノ間ニ於テ府縣監獄ニ屬スル物件ノ處分ヲ要スルトキハ左ノ制限内ニ限リ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ於テ之ヲ行ヒ處分後内務大臣ニ報告スヘシ

一 不用ノ器具器械藥品ハ一口見積價格百圓未満

二 製品ハ一口見積價格千圓未満

三 前二項以外ノ物件ハ一口見積價格二百圓未満

●警察署、分署ニ拘禁留置ノ者食糧ニ關スル件 (明治三十三年八月)

朕警察署警察分署ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ食糧ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警察署警察分署ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ食糧ハ内務大臣又ハ殖産務大臣ノ定ムル費額ノ範圍内ニ於テ適宜之ヲ給與スルコトヲ得

●警察署分署ニ拘禁留置ノ者食料金額 (明治三十年八月)

警察署警察分署ニ拘禁又ハ留置スル者ノ食料ハ一食拾錢以下トス (三十二年内務省令第三十三號ヲ以テ本令中改正)

○内務省令 (明治三十年十二月) 明治三十年省令第二十三號警察署警察分署ニ拘禁又ハ留置スル者ノ食料ニ關スル規程ハ北海道廳ニモ適用ス

●警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ費用ニ關スル件 (明治三十五年二月)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ費用ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監獄則第一條ニ依リ警察署内ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ニ關スル費用ハ總テ警察費ヲ以テ之ヲ支辨ス但シ其ノ費額ニシテ北海道地方費及府縣ノ負擔ニ屬スル部分ハ命令ノ定ムル所ニ依リ監獄費ヨリ之ヲ償還スヘシ

●監獄費ヨリ北海道地方費及府縣ニ償還スヘキ費額ノ件 (明治三十五年三月)

本法ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來監獄所屬ノ物品ニシテ警察署内ノ留置場ニ留置セルモノハ本法施行ノ際ニテ北海道地方費及府縣ノ所屬トス但シ警察費ノ國庫支辨ニ屬スル地方ハ此ノ限ニ在ラス

●監獄費ヨリ北海道地方費及府縣ニ償還スヘキ費額ノ件 (明治三十五年三月)

本法ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來監獄所屬ノ物品ニシテ警察署内ノ留置場ニ留置セルモノハ本法施行ノ際ニテ北海道地方費及府縣ノ所屬トス但シ警察費ノ國庫支辨ニ屬スル地方ハ此ノ限ニ在ラス

●囚人及刑事被告人押送規則 (明治三十年十一月)

(勅令第四百十五號)

朕囚人及刑事被告人押送規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 囚人及刑事被告人ノ押送ハ警察署又ハ警察分署ノ選擇ニ付スルモノトシ但シ十里以内ノ押送汽車汽船ノ便アル地方間ノ押送又ハ一時多數ノ囚人若ハ刑事被告人ノ押送其ノ他特別ノ事情アル場合ハ本項ニ依ラサルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ看守長看守又ハ憲兵下士卒ヲシテ押送セシムルコトヲ得

第二條 同一廳府縣内ニ在ル監獄間囚人ノ押送ハ看守長看守ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ但シ十里以外ノ押送ハ前條ニ依リ選擇ニ付スルコトヲ得

第三條 被押送者ノ所持スル貨物物品ニシテ本人ト同時ニ押送スルモノハ左ノ例ニ依リ取扱フヘシ

一 物品ハ押送者ニ託シテ之ヲ押送ス但シ危險ノ虞アル物品及押送者ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ此ノ限ニ在ラス

二 貨幣ハ押送者ニ託セス保領金符託替ノ手續ニ依リ之ヲ送致ス但シ五圓未満ノ金額若ハ押送期間一日以上ニ亘ラサル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣ニシテ本人ノ請求アル場合ハ押送者ニ託スルモノトシテ之ヲ押送ス

第十條 本則ヲ施行スル爲必要ナル細則ハ内務大臣ノ制定ス

前項ノ細則ニ規定シタルモノノ外押送ニ關シ必要ナル指揮ハ廳府縣長官(東京府ニ於テハ警視總監)ノ指揮ニ依リテ之ヲ行フ

●囚人及刑事被告人押送規則 (明治三十年十一月)

(勅令第四百十五號)

朕囚人及刑事被告人押送規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 囚人及刑事被告人ノ押送ハ警察署又ハ警察分署ノ選擇ニ付スルモノトシ但シ十里以内ノ押送汽車汽船ノ便アル地方間ノ押送又ハ一時多數ノ囚人若ハ刑事被告人ノ押送其ノ他特別ノ事情アル場合ハ本項ニ依ラサルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ看守長看守又ハ憲兵下士卒ヲシテ押送セシムルコトヲ得

第二條 同一廳府縣内ニ在ル監獄間囚人ノ押送ハ看守長看守ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ但シ十里以外ノ押送ハ前條ニ依リ選擇ニ付スルコトヲ得

第三條 被押送者ノ所持スル貨物物品ニシテ本人ト同時ニ押送スルモノハ左ノ例ニ依リ取扱フヘシ

一 物品ハ押送者ニ託シテ之ヲ押送ス但シ危險ノ虞アル物品及押送者ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ此ノ限ニ在ラス

二 貨幣ハ押送者ニ託セス保領金符託替ノ手續ニ依リ之ヲ送致ス但シ五圓未満ノ金額若ハ押送期間一日以上ニ亘ラサル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣ニシテ本人ノ請求アル場合ハ押送者ニ託スルモノトシテ之ヲ押送ス

第十條 本則ヲ施行スル爲必要ナル細則ハ内務大臣ノ制定ス

前項ノ細則ニ規定シタルモノノ外押送ニ關シ必要ナル指揮ハ廳府縣長官(東京府ニ於テハ警視總監)ノ指揮ニ依リテ之ヲ行フ

●囚人及刑事被告人押送規則 (明治三十年十一月)

(勅令第四百十五號)

朕囚人及刑事被告人押送規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 囚人及刑事被告人ノ押送ハ警察署又ハ警察分署ノ選擇ニ付スルモノトシ但シ十里以内ノ押送汽車汽船ノ便アル地方間ノ押送又ハ一時多數ノ囚人若ハ刑事被告人ノ押送其ノ他特別ノ事情アル場合ハ本項ニ依ラサルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ看守長看守又ハ憲兵下士卒ヲシテ押送セシムルコトヲ得

第二條 同一廳府縣内ニ在ル監獄間囚人ノ押送ハ看守長看守ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ但シ十里以外ノ押送ハ前條ニ依リ選擇ニ付スルコトヲ得

第三條 被押送者ノ所持スル貨物物品ニシテ本人ト同時ニ押送スルモノハ左ノ例ニ依リ取扱フヘシ

一 物品ハ押送者ニ託シテ之ヲ押送ス但シ危險ノ虞アル物品及押送者ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ此ノ限ニ在ラス

二 貨幣ハ押送者ニ託セス保領金符託替ノ手續ニ依リ之ヲ送致ス但シ五圓未満ノ金額若ハ押送期間一日以上ニ亘ラサル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣ニシテ本人ノ請求アル場合ハ押送者ニ託スルモノトシテ之ヲ押送ス

第十條 本則ヲ施行スル爲必要ナル細則ハ内務大臣ノ制定ス

前項ノ細則ニ規定シタルモノノ外押送ニ關シ必要ナル指揮ハ廳府縣長官(東京府ニ於テハ警視總監)ノ指揮ニ依リテ之ヲ行フ

●囚人及刑事被告人押送規則 (明治三十年十一月)

(勅令第四百十五號)

朕囚人及刑事被告人押送規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

前二項ノ場所ニ宿泊セシメ難キ事山アルトキハ其ノ地ノ警察官又ハ市町村長ニ協議シ宿所ヲ定ムルコトヲ得

第六條 被押送者ヲ警察署又ハ警察分署以外ニ宿泊セシメ又ハ飲食セシムル場合ニ於テハ其ノ費用ハ總テ實費額ニ依ル但具點燈料等宿泊ノ費用ハ一夜金拾錢食費ハ一回金拾錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 刑事被告人押送途中ニ於テ自費ヲ以テ物品又ハ飲食物ノ購求ヲ請フトキハ警察署長警察分署長ハ必要ノ有無及其ノ他ノ關係ヲ取ルシ之ヲ許サスヘシ

第八條 押送中ニ依リ購求シタル物品又ハ飲食物ノ代價ハ其ノ保管ノ金銀ヲ以テ之ヲ支辨シ本人ノ負擔ヲ請フヘシ

第九條 押送中ノ刑事被告人ニ對シ物品又ハ飲食物ノ差入ヲ請フ者アルトキハ第七條ニ準ジ之ヲ許サスヘシ

第十條 押送中押送者發病シタルトキハ速ニ相當ノ手當ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ押送官吏ハ最寄警察官憲兵又ハ市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得又ハ已ムテ得サル事山アルトキハ被押送者ヲ最寄警察署又ハ警察分署ニ交付スルコトヲ得

第十一條 押送中押送者死亡シタルトキハ最寄警察署又ハ警察分署ニ交付スルヘシ

汽車汽船中ニ在テ死亡シタルトキハ最初ノ著籍

地又ハ停車場ノ警察署又ハ警察分署ニ交付スヘシ但已ムテ得サル場合ニ於テハ其ノ他ノ著籍地又ハ停車場ノ警察署警察分署ニ交付スルコトヲ得

交付ヲ受ケタル警察署又ハ警察分署ハ醫師ノ死亡證書ヲ徵シ死亡ノ年月日時場所及病名ヲ本籍市町村長(外國人ナラハ領事)發送官署及最後ニ送付ヲ受ケヘキ官署ニ通知シ尙遺骸ノ下附又ハ假埋葬ノ手續ヲ爲シ第一條記載ノ書類ヲ發送官署ニ送付スヘシ

第十二條 押送中逃走者アルトキハ直ニ其ノ官署其ノ地ノ警察官憲兵及附近ノ各警察署又ハ警察分署ニ通報シ押送官署ハ尙發送官署及最後ニ送付ヲ受ケヘキ官署ニ之ヲ通知シ第一條記載ノ書類ヲ發送官署ニ送付スヘシ

第十三條 被押送者ニシテ傳染病流行地ヲ經由シタルトキハ離隔消毒法ヲ行フヘシ

第十四條 本則ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

附則

第十四條 本則ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

囚人及刑事被告人遞傳護送ニ關スル件 (明治三十一年二月) (別記難形各ス)

檢事局

檢事ニ於テ囚人又ハ刑事被告人ヲ遞傳護送セシムルトキハ遞傳狀ヲ作り護送人ニ交付シ來リタル處明治三十年(十一月)勅令第四百十五號囚人及刑事被告人押送規則(同)內務省令第三十七號囚人及刑事被告人押送規則ノ發布アリタルニ付キ自今檢事ノ遞傳狀ヲ作り囚人又ハ刑事被告人ヲ護送スヘキ官署ニ對シ必要ナル書類ヲ添付シテ

其押送方ヲ指揮スル儀ト心得可シ

●檢證上囚人召連出張ノ節巡査護送ノ件 (明治十五年六月) (內務省乙第五號)

裁判所ニ於テ檢證ノ爲メ囚人ヲ召連シ他所出張ノ節ハ巡査ヲシテ護送セシムヘシ此旨相違候事但護送巡査ノ旅費其他囚人ニ屬スル費用共津テ警察署ヨリ支辨スヘシ

●徒刑流刑禁獄送致方及聯合地方區分 (內務省乙第三十號)

今般各假留監置セラレ候ニ付徒刑流刑及禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒送致方及聯合地方ノ區分左ノ通相定候條此旨相違候事

徒刑流刑禁獄送致方

一 徒刑流刑禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒裁判確定セシ時ハ之ヲ管束セシ地方ヨリ警察署傳テ以テ直ニ其聯合假留監ヘ押送スヘシ

但本監ノ都合ニ依リ典獄ヨリ其聯合地方ヘ囚徒押送ノ延期ヲ通知スルコトアルヘシ

聯合地方區分 (二十年內務省訓令第十一號 二十一年同訓令第十八號、二十五年同訓令第十號、二十六年同訓令第二十號、二十九年同訓令第五號ヲ以テ改正)

一 兵庫假留監(二十六勅令第三百三十號ニ依リ消滅)

一 東京假留監

警視廳、神奈川縣、埼玉縣、千葉縣、三重縣、愛知縣、靜岡縣、山梨縣、岐阜縣、長野縣、滋賀縣、石川縣、富山縣、福井縣

一 富山假留監

新潟縣、福島縣、宮城縣、廣野縣、青森縣、秋田

●軍衛間囚人及刑事被告人押送規則 (明治三十二年十月) (勅令第四百五號)

送規則

一 三池假留監

長崎縣、福岡縣、大分縣、佐賀縣、熊本縣、宮崎縣、鹿兒島縣、京都府、大阪府、兵庫縣、島根縣、鳥取縣、岡山縣、廣島縣、山口縣、和歌山縣、徳島縣、香川縣、愛媛縣、高松縣、香川縣

軍衛間囚人及刑事被告人押送規則

第一條 囚人及刑事被告人ノ押送ハ陸軍ニ於テハ陸軍兵員海軍ニ於テハ海軍兵員憲兵若ハ海軍警査ヲシテ之ヲ爲サシム但シ被押送者ニ在監人ナルトキハ陸軍監獄若ハ海軍監獄守長看守ヲシテ押送セシムルコトヲ得

第二條 囚人及刑事被告人ヲ押送セントスルトキハ發送官衛ニ於テ押送狀ヲ作り被押送者ニ關スル必要ナル書類ヲ添ヘ被押送者ト共ニ押送者ニ交付スヘシ

押送狀ニハ被押送者ノ本籍住所所屬身分氏名年齢、刑名刑期又ハ被告事件人相立署用被服所持品送致貨物品書類ノ目錄等ヲ記載スヘシ

押送者ハ押送路途中宿泊被押送者ノ傷疾疾病暴行其ノ他押送中ニ生シタル重要ナル事項ヲ押送狀ニ記入スヘシ

第三條 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ハ醫師ニ於テ診査ヲシテ認ムルニ非サレハ之ヲ押送スルコトヲ得ス

第四條 被押送者ノ所持スル貨物品ヲ被押送者

同時ニ送致スルトキハ左ノ手續ニ依ルヘシ

一 物品ハ押送者ニ託シテ送致ス但シ危險ノ虞アル物品及押送者ノ攜帶ニ堪ヘサル物品ハ此ノ限ニ在ラス

二 貨幣ハ押送者ニ託セシ保管金寄託券ノ手續ニヨリ送致ス但シ五圓未満ノ金額若ハ押送期間一ヨリ以上ニ互ラサル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣ニシテ本人ノ請求アル場合ハ押送者ニ託スルコトヲ得

前項ニ依リ送致スル貨物品ハ押送者ニ託スル場合ニ於テハ押送官衛ノ保管ニ屬シ押送者ニ託セサル場合ニ於テハ發送官衛ノ保管ニ屬ス

第五條 押送ハ汽車汽船ニ依ルモノ若ハ特別ノ事山アルトキノ外日出前日没後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第六條 押送中宿泊ヲ要スルトキハ被押送者ヲ陸軍監獄若ハ海軍監獄ニ付託シテ宿泊セシメ陸軍監獄若ハ海軍監獄ナキ地ニ於テハ警察署若ハ警察分署ニ付託シテ宿泊セシムヘシ

前項ノ官署ナキ地ニ於テハ適宜被押送者ノ宿泊ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ憲兵警察官及市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第七條 押送中押送者傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ押送者ハ速ニ相當ノ手當ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ憲兵警察官及市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第八條 押送中押送者逃走ヲ謀リ又ハ暴行ヲ爲サントシ其ノ他押送ヲ全クスルコトヲ得サル虞アルトキハ押送者ハ憲兵及警察官吏ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第九條 押送中押送者ノ傷疾疾病其ノ他已ムコ

トナ得サル事山ニ因リ押送ノ停止ヲ要スルトキハ押送者ハ一時被押送者ヲ陸軍監獄若ハ海軍監獄ニ付託シ陸軍監獄若ハ海軍監獄ナキ地ニ於テハ警察署若ハ警察分署ニ付託スルコトヲ得

押送ヲ停止シタルトキハ其ノ旨ヲ押送官衛ニ通知シ指揮ヲ待ツヘシ

第十條 押送中押送者死亡シタルトキハ押送者ハ速ニ其ノ旨ヲ本人所屬ノ官衛發送押送受送ノ各官衛本籍市町村長及近地所在ノ親族ニ通知シ醫師ヨリ死亡證書ヲ徵シ死亡後二十四時ヲ經死體引取人ナキトキハ其ノ地ニ於テ假埋葬ヲ爲スヘシ但シ死體引渡及埋葬ニ付本人所屬ノ官衛若ハ押送官衛ヨリ別段ノ指示アリタルトキハ其ノ指示ニ從フヘシ

前項ノ處分ヲ爲スニ付テハ憲兵警察官及市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

死體ニ關スル處分ハ之ヲ本人所屬ノ官衛押送官衛及本籍市町村長ニ通知スヘシ此ノ通知ニハ死亡證書ヲ添附スルコトヲ要ス

第十一條 被押送者ニ屬スル食料其ノ他ノ費用ハ押送官衛ノ負擔トス

第十二條 押送中押送者逃走シタルトキハ押送者ハ直ニ其ノ旨ヲ最寄ノ憲兵屯所憲兵分屯所警察署警察分署巡査派出所若ハ巡査在所ニ急報シ且速ニ發送押送受送ノ各官衛ニ通知シ第二條及第四條ニ記載シタル書類貨物及物品ヲ押送官衛ニ送付スヘシ

第十三條 被押送者傳染病流行地ヲ經過シタルトキハ離隔消毒法ヲ行フヘシ

第十四條 本令ニ於テ押送官衛ト稱スルハ押送者ノ屬スル官衛ヲ謂フ

第二章 陸軍監獄

●陸軍監獄條例(明治二十七年一月勅令第三號)

朕陸軍監獄條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍監獄條例

第一條 陸軍監獄ハ輕罪以下ノ刑ニ處セラレ未タ現役ヲ離レサル軍人若クハ其ノ官職身分ヲ失ハサル軍屬諸生徒及刑事被告人ヲ拘禁留置スル所トス

第二條 陸軍監獄ノ區別左ノ如シ

一 未決監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス

二 已決監 禁錮拘留ノ刑ニ處セラレタル者及罰金料科ヲ禁錮拘留ニ換ヘタル者ヲ拘禁スル所トス

第三條 未決監已決監ハ軍法會議所在ノ地ニ之ヲ置キ留置場ハ各隊ニ之ヲ置ク

第四條 未決監已決監ハ衛戍司令官之ヲ管理シ留置場ハ師團長警備守備混成旅團長憲兵司令官之ヲ管理シ陸軍大臣ノ監督ニ屬ス(三十二年勅令第三百六號ヲ以テ改正)

第五條 陸軍大臣ハ二年若クハ三年ニ一回陸軍省法官部長若クハ法官部部長ヲシテ未決監已決監ヲ巡視セシムヘシ

衛戍司令官ハ隨時其ノ所管未決監已決監ヲ巡視スヘシ(三十二年勅令第三百六號改正ニ依ル)

刑事ハ少クトモ二箇月ニ一回其ノ所屬軍法會議

所在ノ未決監已決監ヲ巡視スヘシ

第六條 陸軍大臣ハ獄務ノ改良ヲ計ル爲メ隨時監獄長ヲ會同スヘシ

第七條 新ニ入監スル者アルトキハ監獄長ハ令狀若クハ宣旨若クハ陸軍檢察官若クハ陸軍檢察權ヲ有スル者ノ照會書ヲ査閱シテ之ヲ領收シ其ノ領收書ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムヘシ其ノ交書ナキモノハ入監セシムルコトヲ得ス

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ監獄長點檢シテ之ヲ領置スヘシ

第九條 在監人竊ヲ結ビ暴行反獄若クハ越獄ヲ謀リ又ハ結黨犯罪者多數入監ノ爲メ戒護上不便ノ恐レアルトキハ監獄長ヨリ衛戍司令官ニ其ノ旨ヲ具申スヘシ(同上)

司令官前項ノ具申ヲ受ケタルトキハ兵員ヲシテ相當ノ取締ヲ爲サシムヘシ

第十條 水火風震等非常ノ變ニ際シ監獄園内ニ於テ避難ノ手段ナキトキハ監獄長ハ在監人ヲ他所ニ押送シテ其ノ災ヲ避ケシムヘシ若シ押送スルノ途ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

第十一條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ其ノ滿期ノ翌日午前十時ヲ過クヘカラス

第十二條 在監人ハ左ノ區別ニ從ヒ其ノ監房ヲ別異スヘシ

一 將官及其ノ同等ノ軍屬

二 上長官及其ノ同等ノ軍屬

三 士官准士官及其ノ同等ノ軍屬

四 下士及其ノ同等ノ軍屬

五 諸卒諸生徒及刑任官以外ノ軍屬

第十三條 在監人中檢察處分中ノ者アルトキハ其ノ監房ヲ別異スヘシ

第十四條 在監人ハ姓名初犯再犯三犯共犯身分丁年未滿等ノ區別ニ從ヒ戒ルヘク其ノ監房ヲ別異スヘシ

第十五條 婦女ヲ入監セシムヘキトキハ地方監獄ニ囑托スヘシ

第十六條 囚人及刑事被告人ヲ他ニ押送スルトキハ兇暴逃走等ノ恐レアルトキハ戒具ヲ用フルコトヲ得

第十七條 定役ニ服スヘキ囚人ノ作業標準ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十八條 初犯再犯等ノ別ニ依リ其ノ服役ノ科刑方法ヲ別異スルコトヲ得

第十九條 定役ニ服スヘキ囚人ニ科スヘキ作業ナキトキハ監獄園内ノ洒掃若クハ體操運動ヲ以テ服役ニ換フルコトヲ得

第二十條 左ニ記載スル日ハ服役ヲ免ス

一月一日 元始祭

一月二日 紀元節

一月三日 孝明天皇祭

一月四日 神武天皇祭

一月五日 春季皇靈祭

一月六日 秋季皇靈祭

十二月三十一日 新嘗祭

十二月三十一日 靖國神社大祭日

父母ノ喪ニ遭フ者ハ三日間服役ヲ免ス

第二十一條 無定役囚及刑事被告人ニシテ監獄園内ニ於テ作業ヲ爲サント請フ者アルトキハ之ヲ許シ作業ノ種類ハ監獄長之ヲ指定スヘシ

第二十二條 定役ニ服スヘキ囚人一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ其ノ十分ノ四囚人ニ與フ

無定役囚及刑事被告人ニハ其ノ十分ノ六ヲ與フ定役ニ服スル囚人ニシテ科刑外ノ作業ヲ爲シタルトキ亦之ニ準ス

第二十三條 體操運動及監獄園内ノ洒掃ヲ以テ服役ニ換ヘタルトキハ工錢ヲ給セズ

第二十四條 監獄長ハ准士官以上ノ軍人及軍屬ヲ除ク外總テ囚人ニ體操運動ヲ爲サシムヘシ

准士官以上ノ軍人及軍屬刑事被告人ト雖衛生上必要ノ運動ハ必ス之ヲ爲サシムヘシ

第二十五條 作業者ニ與ヘタル工錢ハ監獄長之ヲ領置スヘシ

第二十六條 在監人逃走シ監獄署ニ領置ノ財貨物件アルトキハ其ノ官給ニ係ルモノハ之ヲ本隊若クハ本人所屬ノ官廳ニ送致シ其ノ他ノ物品ハ之ヲ親屬ニ下附ス

刑死者及死亡者ノ財貨物件モ亦前項ニ依ル

第二十七條 在監人監獄署ニ領置ノ財貨物件ヲテ其ノ父母妻子ノ扶助其ノ他正當ノ費用ニ充テ下附フトキハ監獄長其事情ヲ視シ之ヲ許スヘシ

刑事被告人ニ係ルトキハ主任理事ノ允許ヲ經ヘシ

第二十八條 在監人ノ衣類臥具及雜具ハ總テ之ヲ貸與ス但左ニ記載シタル場合ハ監獄長其ノ請ヲ許スコトヲ得

一 拘留囚及刑事被告人制服又ハ自服ヲ著セント請フトキ

二 准士官以上ノ囚人自服ヲ著セント請フトキ

三 刑事被告人臥具ヲ自辨セント請フトキ

第二十九條 在監人ニ給與スル糧食ノ規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十條 囚人領置ノ工錢ヲ以テ食物ヲ購求セ

第二章 陸軍監獄

●陸軍監獄條例(明治二十七年一月勅令第三號)

朕陸軍監獄條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍監獄條例

第一條 陸軍監獄ハ輕罪以下ノ刑ニ處セラレ未タ現役ヲ離レサル軍人若クハ其ノ官職身分ヲ失ハサル軍屬諸生徒及刑事被告人ヲ拘禁留置スル所トス

第二條 陸軍監獄ノ區別左ノ如シ

一 未決監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス

二 已決監 禁錮拘留ノ刑ニ處セラレタル者及罰金料科ヲ禁錮拘留ニ換ヘタル者ヲ拘禁スル所トス

第三條 未決監已決監ハ軍法會議所在ノ地ニ之ヲ置キ留置場ハ各隊ニ之ヲ置ク

第四條 未決監已決監ハ衛戍司令官之ヲ管理シ留置場ハ師團長警備守備混成旅團長憲兵司令官之ヲ管理シ陸軍大臣ノ監督ニ屬ス(三十二年勅令第三百六號ヲ以テ改正)

第五條 陸軍大臣ハ二年若クハ三年ニ一回陸軍省法官部長若クハ法官部部長ヲシテ未決監已決監ヲ巡視セシムヘシ

衛戍司令官ハ隨時其ノ所管未決監已決監ヲ巡視スヘシ(三十二年勅令第三百六號改正ニ依ル)

刑事ハ少クトモ二箇月ニ一回其ノ所屬軍法會議

所在ノ未決監已決監ヲ巡視スヘシ

第六條 陸軍大臣ハ獄務ノ改良ヲ計ル爲メ隨時監獄長ヲ會同スヘシ

第七條 新ニ入監スル者アルトキハ監獄長ハ令狀若クハ宣旨若クハ陸軍檢察官若クハ陸軍檢察權ヲ有スル者ノ照會書ヲ査閱シテ之ヲ領收シ其ノ領收書ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムヘシ其ノ交書ナキモノハ入監セシムルコトヲ得ス

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ監獄長點檢シテ之ヲ領置スヘシ

第九條 在監人竊ヲ結ビ暴行反獄若クハ越獄ヲ謀リ又ハ結黨犯罪者多數入監ノ爲メ戒護上不便ノ恐レアルトキハ監獄長ヨリ衛戍司令官ニ其ノ旨ヲ具申スヘシ(同上)

司令官前項ノ具申ヲ受ケタルトキハ兵員ヲシテ相當ノ取締ヲ爲サシムヘシ

第十條 水火風震等非常ノ變ニ際シ監獄園内ニ於テ避難ノ手段ナキトキハ監獄長ハ在監人ヲ他所ニ押送シテ其ノ災ヲ避ケシムヘシ若シ押送スルノ途ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

第十一條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ其ノ滿期ノ翌日午前十時ヲ過クヘカラス

第十二條 在監人ハ左ノ區別ニ從ヒ其ノ監房ヲ別異スヘシ

一 將官及其ノ同等ノ軍屬

二 上長官及其ノ同等ノ軍屬

三 士官准士官及其ノ同等ノ軍屬

四 下士及其ノ同等ノ軍屬

五 諸卒諸生徒及刑任官以外ノ軍屬

第十三條 在監人中檢察處分中ノ者アルトキハ其ノ監房ヲ別異スヘシ

第十四條 在監人ハ姓名初犯再犯三犯共犯身分丁年未滿等ノ區別ニ從ヒ戒ルヘク其ノ監房ヲ別異スヘシ

第十五條 婦女ヲ入監セシムヘキトキハ地方監獄ニ囑托スヘシ

第十六條 囚人及刑事被告人ヲ他ニ押送スルトキハ兇暴逃走等ノ恐レアルトキハ戒具ヲ用フルコトヲ得

第十七條 定役ニ服スヘキ囚人ノ作業標準ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十八條 初犯再犯等ノ別ニ依リ其ノ服役ノ科刑方法ヲ別異スルコトヲ得

第十九條 定役ニ服スヘキ囚人ニ科スヘキ作業ナキトキハ監獄園内ノ洒掃若クハ體操運動ヲ以テ服役ニ換フルコトヲ得

第二十條 左ニ記載スル日ハ服役ヲ免ス

一月一日 元始祭

一月二日 紀元節

一月三日 孝明天皇祭

一月四日 神武天皇祭

一月五日 春季皇靈祭

一月六日 秋季皇靈祭

十二月三十一日 新嘗祭

十二月三十一日 靖國神社大祭日

父母ノ喪ニ遭フ者ハ三日間服役ヲ免ス

第二十一條 無定役囚及刑事被告人ニシテ監獄園内ニ於テ作業ヲ爲サント請フ者アルトキハ之ヲ許シ作業ノ種類ハ監獄長之ヲ指定スヘシ

第二十二條 定役ニ服スヘキ囚人一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ其ノ十分ノ四囚人ニ與フ

無定役囚及刑事被告人ニハ其ノ十分ノ六ヲ與フ定役ニ服スル囚人ニシテ科刑外ノ作業ヲ爲シタルトキ亦之ニ準ス

第二十三條 體操運動及監獄園内ノ洒掃ヲ以テ服役ニ換ヘタルトキハ工錢ヲ給セズ

第二十四條 監獄長ハ准士官以上ノ軍人及軍屬ヲ除ク外總テ囚人ニ體操運動ヲ爲サシムヘシ

准士官以上ノ軍人及軍屬刑事被告人ト雖衛生上必要ノ運動ハ必ス之ヲ爲サシムヘシ

第二十五條 作業者ニ與ヘタル工錢ハ監獄長之ヲ領置スヘシ

第二十六條 在監人逃走シ監獄署ニ領置ノ財貨物件アルトキハ其ノ官給ニ係ルモノハ之ヲ本隊若クハ本人所屬ノ官廳ニ送致シ其ノ他ノ物品ハ之ヲ親屬ニ下附ス

刑死者及死亡者ノ財貨物件モ亦前項ニ依ル

第二十七條 在監人監獄署ニ領置ノ財貨物件ヲテ其ノ父母妻子ノ扶助其ノ他正當ノ費用ニ充テ下附フトキハ監獄長其事情ヲ視シ之ヲ許スヘシ

刑事被告人ニ係ルトキハ主任理事ノ允許ヲ經ヘシ

第二十八條 在監人ノ衣類臥具及雜具ハ總テ之ヲ貸與ス但左ニ記載シタル場合ハ監獄長其ノ請ヲ許スコトヲ得

一 拘留囚及刑事被告人制服又ハ自服ヲ著セント請フトキ

二 准士官以上ノ囚人自服ヲ著セント請フトキ

三 刑事被告人臥具ヲ自辨セント請フトキ

第二十九條 在監人ニ給與スル糧食ノ規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十條 囚人領置ノ工錢ヲ以テ食物ヲ購求セ

審問中ノ者ノ死亡ハ主任理事ニ之ヲ通知スヘシ
第三十九條 囚人獄則ヲ遵守シ作業ニ勉勵シ且改
格ノ狀者シキ者ト監獄長ニ於テ認ムルトキハ之
ヲ賞券シ賞券ヲ與ヘ獄衣ニ縫著セシム

第四十六條 留置場ニ關スル規則及本條例ノ施行
細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム
附則
第四十七條 本令ハ明治二十七年一月十五日ヨリ
施行ス
明治十六年陸軍省達乙第百九號陸軍監獄則ハ本
令施行ノ日ヨリ廢止ス

二起歩スヘカラス畫間ト雖モ放歌喧嘩又ハ高
聲ニ騒擾シ及隣房ノ者ト通聲交話スヘカラス
八 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ入レ或ハ勝負ナ
申ヒ若クハ賭博類似ノ遊戯ヲ爲シ或ハ他人ニ
汚辱ヲ被ラシメ損傷ニ涉ル如キ所爲アルヘカ
ラス

第六條 外人ヨリ差入タル貨物ニシテ價值スルモ
ノモ亦前三條ノ例ニ依ル
第七條 總テ監房ニ入ルル物品ハ監獄長之ヲ點檢
シ危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

第十九條 看守長ハ日々囚人作業ノ結果ヲ監獄長
ニ報告スヘシ
第二十條 看守長以下ノ宿直不廢等ノ規則ハ監獄
長之ヲ定ムヘシ

第二十九條 共犯者ヲ軍法會議其他ニ押送スルト
キハ成ルヘク同行セシムヘカラス
第三十條 在監人押送ノ際送致スル貨物ハ監獄
長書記ヲシテ目錄ヲ作ラシメ其貨物並ニ目錄ハ
押送者ヲシテ保管セシム

ハ成ルヘク病監房等ヨリ其距離ヲ遠サクヘシ
 第三十八條 屏禁室ハ他ノ監房及役場ト離隔シ他
 ナ展覧スル能ハサラシムヘシ
 第三十九條 隔室ハ空氣ヲ通セシメ光線ヲ通セシ
 ムヘカラス
 第四十條 各監獄ニハ接見室ヲ設ケヘシ
 第四十一條 在監人ノ浴室ハ他ノ官房ト離隔シテ
 之ヲ設ケヘシ
 第四十二條 各監房ノ鑰匙ハ彼是適用スヘキ爲メ
 其制式ヲ一ニスヘシ
 第四十三條 監房ノ鑰匙ハ常ニ一定ノ場所ニ置キ
 看守長ヲシテ之ヲ監守セシムヘシ
 第四十四條 看守所ニハ閘室ヨリ鐵線ノ類ヲ通架
 シ置キ發病等ヲ通報スルノ用ニ供スヘシ
 第四十五條 監獄ニハ防火具ヲ備ヘ置ケヘシ
 第四十六條 燈火ハ監房外ニ置キ監人之ニ觸ル
 ルノ虞ナカラシムヘシ
 第三章 役法及時限
 第四十七條 定役ニ服スヘキ入監者アルトキハ監
 獄長醫官ヲシテ其身體ヲ診斷セシメ其強弱ニ從
 ヒ服役ノ科業ヲ指定スヘシ
 第四十八條 定役ニ服セサル囚人ト雖モ監獄長成
 ルヘク之ヲ勤勞シテ自ラ就役セント請フニ至ラ
 シムヘシ但准士官以上ノ者ハ此限ニ在ラズ
 第四十九條 囚人ノ作業ハ懲戒矯正ノ趣旨ニ適ス
 ルモノヲ選ビ之ヲ科スヘシ
 第五十條 定役ニ服スヘキ者ハ風雨積雪等ノ爲
 メ既定ノ役ニ就カシメ難キト雖モ他ノ作業
 ニ服セシメ已ムテ得サルトキノ外休業セシムヘ
 カラス
 第五十一條 囚人ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ監
 房外ニ整列セシメ看守長之ヲ點檢シ看守其補助

ヲ爲スヘシ還房セシムルトキ亦同シ
 第五十二條 在監人ノ起床ヨリ就寝ニ至ルマテノ
 動作時間ハ別記附表ノ定ムル所ニ依ル
 第五十三條 起床就寝後他動止ヲ令スル
 ハ給又ハ柵ノ類ヲ以テシ各監一齊ニ之ヲ知ラシ
 ムヘシ
 第四章 工錢及給與
 第五十四條 工錢ハ其地普通ノ傭工錢ヲ参照シ各
 白ノ技能ト就役ノ時間トニ應ジ一日若干ト之ヲ
 定ムヘシ
 第五十五條 在監人ニ賜スル工錢ハ毎月ノ首メニ
 於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ示スヘシ
 第五十六條 工錢ハ毎月之ヲ官ニ納ムヘシ
 第五十七條 囚人ニ貸與スヘキ衣服ハ青色刑事被
 告人ニ貸與スヘキ衣服ハ淺藍色ニシテ總テ筒袖
 トシ長短ハ二種ト爲シ通常服ハ長衣就役服ハ短
 衣トス但時宜ニ依リ各兵ノ古服ヲ著用セシムル
 コトヲ得
 第五十八條 在監人ノ著用スル白服ニシテ汚穢シ
 テ衛生上有害ト認ムルトキハ其著用ヲ禁スヘシ
 第五十九條 在監人ノ衣服ノ外襟ニハ白布ヲ縫著
 シ番號ヲ標識スヘシ
 第六十條 在監人ニ貸與スル衣類雜具ニ關スル
 規定ハ別記附表ノ定ムル所ニ依ル
 第六十一條 患者ニ貸與スル衣類雜具及糧食ハ醫
 官ノ意見ヲ踏ヒタル上監獄長増減變更スルコト
 ヲ得
 第六十二條 患者ノ攝養ニ效アル飲食物又ハ湯藥
 等ヲ用フルコトヲ要スルトキハ醫官ヲシテ其旨
 ナ聲明セシメ監獄長之ヲ許可スルコトヲ得
 第六十三條 獄則ヲ遵守シ作業ニ勉勵スル者ニ領
 取工錢以外ノ食物ノ購求ヲ許スハ一月十回以下

一回三錢ヲ限リトシ監獄長ハ醫官ノ意見ヲ踏ヒ
 其物品ノ種類制限ヲ定ムヘシ
 一月間食物購求ノ費用ハ前月マテニ領置シタル
 工錢ノ半額ヲ過クルコトヲ得ス
 第六十四條 監房常置ノ器具左ノ如シ
 一 貯水器並ニ飲器 木製
 一 睡蓆 木製又ハ竹製
 一 便器 木製但監房ニ周圍ノ設ケ
 アルモノハ此器ヲ置カス
 一 洗手器 木製
 一 小箆 草ノ類ヲ用ヒテ製セシ軟
 カナルモノ
 一 雜巾
 第五章 衛生及死亡
 第六十五條 監獄及在監人ノ身體ハ常ニ清潔ナラ
 シムヘシ殊ニ周圍並ニ便器ハ度數ヲ定メテ灑掃
 セシムヘシ
 第六十六條 患者ノ居室身體衣類器具等ハ特ニ清
 潔ニスヘシ
 第六十七條 衣類器具雜具其他ノ物品ハ種類ニ依
 リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ浴ヒ又ハ火氣ニ曝シテ
 臭氣ヲ去リ惡蟲ノ發生ヲ防クヲ要ス但患者ノ物
 品ト混一スヘカラス
 第六十八條 在監人ノ入浴ハ毎年六月ヨリ九月マ
 テハ五日毎ニ一次以上十月ヨリ五月マテハ十日
 毎ニ一次以上トス醫官ノ意見ヲ踏ヒ水浴ヲ混用
 スルコトヲ得
 第六十九條 拘留囚及刑事被告囚ノ鬚髮ハ之ヲ梳
 理セシム
 第七十條 刑事被告囚ノ親屬故舊ヨリ淋瀝ノ爲
 メ衣類ノ下付ヲ請フトキハ本人ノ承諾ヲ得テ監
 獄長之ヲ許可スルコトヲ得

第七十一條 傳染病流行ノ兆アルトキハ衣類其他
 飲食物等ノ差入及購求ヲ禁止スルコトヲ得
 第七十二條 傳染病者アルトキハ監獄長醫官ト協
 議シ直ニ之ヲ傳染病監ニ移スヘシ
 第七十三條 患者ヲ衛戍病院ニ移シ治療スルトキ
 ハ看守ヲ適宜ニ派遣シテ其保護ニ任スヘシ
 第七十四條 傳染病流行地ヲ發シ若クハ其地ヲ經
 過シタル者新ニ入監スルトキハ一週日以上他ノ
 者ト離隔シ其糞石品ニハ消毒ヲ行フヘシ
 第七十五條 前數條ニ揭グル所ノ外傳染病者ニ關
 スル處分ハ陸軍部內傳染病預防規則及同細則ヲ
 準用ス
 第七十六條 在監人中死亡者アリタルトキハ速ニ
 衛戍司令官屯田兵司令官ニ具申シ本人所屬ノ長
 官隊長本籍及近地所在ノ親屬ニ通報スヘシ
 第七十七條 營內居住ノ下士兵卒在監中死亡シ所
 屬本隊其地ニアラスシテ監獄署ニ於テ埋葬シタ
 ルトキ其費用ハ本隊ヨリ償還セシム
 第七十八條 在監人死亡シタルトキハ醫官ノ診斷
 ニ據リ病歴及死亡ノ因由年月日時ヲ名簿ニ記載
 スヘシ
 變死シタルトキハ醫官ノ檢案ニ據リ死亡ノ因由
 年月日時場所死狀等ヲ記載スヘシ
 第七十九條 死者ノ親屬故舊ニ遺骸ノ下付ヲ許シ
 タルトキハ其者ヲシテ簿冊ニ署名捺印セシムヘ
 シ
 監獄署ニ於テ遺骸ヲ埋葬スルトキハ棺ニ入レ之
 ナ埋メ其上ニ面三寸長一尺五寸ニ過キサル氏名
 標ヲ立ヘシ
 第八十條 逃走者刑死者病死者變死者ニ屬スル
 貨物ハ親屬ニ下付ス其之ヲ下付スルトキ親屬遺
 隔ノ地ニ在リ物品送付ノ爲メ費用ヲ要スルトキ

ハ親屬ノ承諾ヲ得テ之ヲ賣却シ代價ヲ送付スル
 コトヲ得其送付遺送ニ要スル費用ハ親屬ノ自辨
 トス
 第六章 接見及通信
 第八十一條 在監人ニ接見ヲ請フ者アルトキハ監
 獄長其姓名身分住所職業及緣由等ヲ詳悉シ其處
 分ヲ爲スヘシ
 第八十二條 在監人ヨリ發スル信書ハ通信紙ヲ用
 ヒシメ監獄長之ヲ封シテ發送ス其郵便稅ハ自辨
 トス但官制ノ規則ニ由テ發信ヲ要スルトキ之ヲ
 自辨スルコト能ハサル者ハ獄費ヲ以テ支辨スヘ
 シ
 第八十三條 信書ヲ檢閱スルハ先直行檢閲シ次ニ
 逆讀斜讀橫讀シ不正ノ文意ナキヤ否ヲ精査スヘ
 シ
 第七章 差入品
 第八十四條 刑事被告囚人ニ差入ルヘキ飲食食物ハ監
 獄內ニ於テ炊煮ヲ要セサルモノニシテ一日三回
 一人一食ノ量ニ限ルヘシ
 第八十五條 差入品ハ看守長立會ヒ看守之ヲ檢査
 シ毒氣酒氣包藏物其他通謀ノ媒介ト爲ルヘキモ
 ノナキヤ否ヲ精査シ監獄長ニ具申スヘシ
 第八十六條 檢査ノ爲メ衣類器具ヲ解纏シタルト
 キハ監獄署ニ於テ之ヲ原形ニ復スヘシ
 第八章 救典教誨及賞罰
 第八十七條 大救特救減刑假出獄ノ申渡ハ其命令

ノ監獄署ニ送シタルヨリ二十四時內ニ之ヲ爲シ
 其旨ヲ衛戍司令官屯田兵司令官ニ具申スヘシ
 假出獄ノ旨渡ヲ受ケタル者ハ監獄長其稟票ヲ
 付與シ本人所屬ノ長官若クハ所屬隊長ニ申報ス
 ヘシ
 第八十八條 大救特救減刑假出獄ヲ申渡シ又ハ賞
 表ヲ授付スルハ特ニ定ムル所ノ式ニ依リ但賞表
 ハ免役日若クハ休役時間ニ之ヲ與フヘシ
 第八十九條 假出獄中重罪輕罪ヲ犯シタル者アル
 トキハ其裁判定定ノ上現ニ之ヲ管束スル所ノ監
 獄長假出獄ノ停止ヲ言渡シ稟票ヲ取上ケ其旨ヲ
 衛戍司令官屯田兵司令官ニ具申シ尙ホ本人所屬
 ノ長官隊長ニ報告スヘシ
 第九十條 囚徒ノ教誨ハ監獄長適當ノ者ヲ選ビ
 衛戍司令官屯田兵司令官ノ認可ヲ得テ之ヲ囑託
 スヘシ
 若シ囑託スヘキ相當ノ者ナキトキハ司令官ニ具
 申シ適宜ノ方法ヲ設ケルコトヲ得
 第九十一條 教誨ハ免役日又ハ日曜日午後又ハ平
 日休役後又ハ休役間ニ之ヲ行フヘシ
 第九十二條 賞券シタル者ニ與フル賞券ハ曲尺方
 二寸ノ淺藍色ノ布ヲ用ヒ賞券セシ毎ニ之ヲ與ヘ
 上衣ノ左袖肩臂間ノ表面ニ縫著スヘシ
 第九十三條 賞券ヲ有スル者ニハ左ノ優遇ヲ爲ス
 ヘシ
 一 衣類雜具ハ成ルヘク良品ヲ貸與ス
 二 書信ハ一月ニ二回二次之ヲ爲スコトヲ許ス
 三 入浴ハ他囚ニ先タシムルコトヲ得
 四 賞表二箇以上ヲ有スル者ハ作業ノ勞動附

陸軍監獄條例第一條明文外
囚人取扱方 (明治二十七年
內務省訓令
第七號)

今般發布ノ勅令第三號陸軍監獄條例第一條明文外ノ囚人ハ陸軍軍法會議ニ於テ處斷セラレタル者ト雖該軍法會議所在ノ地方監獄ニ收監シ普通裁判所處斷因同種ニ取扱ヒ其集治監ニ入ルヘキモノハ假留監ヘ押送收監スヘシ費用ハ其所屬監獄費ヲ以テ支辨シ囑托婦女ニ係ル費用ハ一日一人金貳拾錢ノ割ヲ以テ陸軍省ヘ請求スヘシ

軍、軍法會議ノ處斷ヲ受ケ
地方監獄ニ拘禁セラルヘキ
者所屬ノ件 (明治二十八年五月
內務省訓令第七號)

軍、軍法會議ノ處斷ヲ受ケ地方監獄ニ拘禁セラルヘキ者ニ在テハ軍籍又ハ所屬部隊アルモノハ其屬スル軍部又ハ部隊所在ノ地方監獄ノ所屬トシ軍籍又ハ所屬部隊ナキモノハ該囚住居地ノ地方監獄、現在ノ住居地ナキモノハ最終ノ住居地地方監獄ニ屬スル儀ト心得ヘシ

刑事被告人タル婦女ヲ地方
監獄ニ囑託シタルトキ費用
請求方 (明治二十七年三月
陸軍省訓令第三號)

本年勅令第三號陸軍監獄條例第十五條ニ依リ刑事被告人タル婦女ヲ地方監獄ニ囑託シタルトキ費用ハ其囑託ヲ爲シタル衛皮監獄ニ請求スル儀ト心得ヘシ

第三章 海軍監獄

海軍監獄則 (明治二十三年七月
勅令第十五號)

海軍監獄則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
海軍監獄則
第一條 海軍監獄ヲ別テ左ノ三種トス
一 監倉 刑事被告人ヲ拘禁又ハ留置スル所トス但東京ノ監倉ニ於テハ拘留及十日以下ノ禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコトヲ得
二 輕禁錮場 輕禁錮若クハ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス又懲治人ヲ一時留置スルコトヲ得但他ノ拘禁者ト區別ス可シ
三 重禁錮場 重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
第二條 海軍監獄ハ海軍大臣ノ監督ニ屬ス
第三條 海軍大臣ハ隨時部下ノ高等官ニ命シ各監獄ヲ巡視セシム可シ
第四條 鎮守府司令官ハ毎年一回以上所轄ノ監獄ヲ巡視ス可シ
第五條 列士長列士ハ時々監倉ヲ巡視ス可シ
第六條 新ニ入監スル者アルトキハ司獄官先ツ令狀又ハ宣誓書ヲ査閱シテ之ヲ領シタル後入監セシム可シ其宣誓書ナキ者ハ之ヲ入監セシムルコトヲ得ス
第七條 入監ノ婦女ハ男子ト監房ヲ別異ス可シ若シ其子ヲ乳養セント請フトキハ其齡滿三歳ニ至ル迄之ヲ許ス
第八條 入監人ハ携有スル財貨物件ハ司獄官悉ク點檢シテ之ヲ領置ス可シ
第九條 囚人及刑事被告人ハ左ノ區別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

一 准士官以上ノ軍人及同等ノ軍屬或各候補生生徒
二 下士及同等以下ノ列任軍屬
三 卒及等外ノ軍屬
以上ノ區別内ニ於テ尙ホ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別シ監房ヲ別異ス可シ
刑事被告人ニ就キ當該主理ノ指示アルトキ亦其監房ヲ別異ス可シ
第十條 水火風雷等非常ノ變災ニ際シ監獄内ニ於テ避災ノ手段ナシト考定スルトキハ司獄官其形勢ヲ量リ囚人及刑事被告人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避ケシム可シ若シ押送スルノ途ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得
第十一條 刑罰滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過リ可カラズ
第十二條 囚人及刑事被告人ヲ押送スルトキハ時宜ニ依リ戒具ヲ用フルコトヲ得
第十三條 監倉禁錮場ノ共ニ一區域内ニ在ルモノハ牆壁ヲ以テ之ヲ區別ス可シ
第十四條 死刑場ハ監獄最近ノ練兵所若クハ射的所等ニシテ發銃ニ際シテ所ヲ指定ス可シ
第十五條 定役ニ服ス可キ囚人ノ作業ハ其體力ニ應ジテ之ヲ課ス可シ
第十六條 左ニ記載シタル日ハ定役ヲ免ス
一月一日 元始祭
一月二日 春分祭
一月三日 春分祭
一月四日 春分祭
一月五日 春分祭
一月六日 春分祭
一月七日 春分祭
一月八日 春分祭
一月九日 春分祭
一月十日 春分祭
一月十一日 春分祭
一月十二日 春分祭
一月十三日 春分祭
一月十四日 春分祭
一月十五日 春分祭
一月十六日 春分祭
一月十七日 春分祭
一月十八日 春分祭
一月十九日 春分祭
一月二十日 春分祭
一月二十一日 春分祭
一月二十二日 春分祭
一月二十三日 春分祭
一月二十四日 春分祭
一月二十五日 春分祭
一月二十六日 春分祭
一月二十七日 春分祭
一月二十八日 春分祭
一月二十九日 春分祭
一月三十日 春分祭
一月三十一日 春分祭

第十八條 囚人及刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿一箇年ヲ經テ受クヘキ者ナキトキハ之ヲ沒收ス刑死者死亡者ノ領置貨物ニシテ受クヘキ者ナキトキ亦同シ

第十九條 囚人及刑事被告人監署ニ領置ノ貨物ヲ以テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ充ント請フトキハ司獄官其事情ヲ取裁シテ之ヲ許可ス可シ

刑事被告人ニ係ルトキハ當該主理ノ允許ヲ經可シ

第二十條 刑事被告人ニシテ白衣ヲ著シ若ハ履具食糧ヲ自辨セント請ヒ又ハ拘留因及准士官以上就同等軍屬ノ囚人ニシテ白衣ヲ著セント請フ者アルトキハ之ヲ許スコトヲ得 (三十二年勅令第三百三十八號ヲ以テ改正)

第二十一條 囚人及刑事被告人陸海軍刑法陸海軍治罪法及刑法治罪法ヲ看テ請フトキハ之ヲ許ス

第二十二條 囚人書翰ヲ看テ請フトキハ其職務若クハ修身ニ必要ナルモノニ限リ之ヲ許ス

第二十三條 囚人其親屬故舊ニ信書ヲ發スルハ二月間ニ一次トシ一通ニ過ルコトヲ得但官司ノ訊問等ニ由テ信書ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄官之ヲ必要ト認メタルトキハ此限ニ在ラス

第二十四條 囚人及刑事被告人ノ發スル信書又ハ外人ヨリ送リ來ル信書ハ司獄官之ヲ檢閱ス可シ若シ書中不正不真ニ涉リ又ハ其改換ヲ妨グルモノト認ムルトキハ之ヲ發送休與スルコトヲ許サス但刑事被告人ニ係ル信書ハ總テ主理ノ檢閱ヲ經可キモノトス

第二十五條 囚人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキ司獄官ニ於テ已ムヲ得サルノ事情アリ

第二十六條 監獄 第三章 海軍監獄

第一條 海軍監獄則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第二條 海軍監獄ヲ別テ左ノ三種トス

第三條 海軍大臣ハ隨時部下ノ高等官ニ命シ各監獄ヲ巡視セシム可シ

第四條 鎮守府司令官ハ毎年一回以上所轄ノ監獄ヲ巡視ス可シ

第五條 列士長列士ハ時々監倉ヲ巡視ス可シ

第六條 新ニ入監スル者アルトキハ司獄官先ツ令狀又ハ宣誓書ヲ査閱シテ之ヲ領シタル後入監セシム可シ其宣誓書ナキ者ハ之ヲ入監セシムルコトヲ得ス

一 總信
二 屏禁 寢夜他ノ監房又ハ工場ト隣接シタル監房ニ獨居セシム
三 減食 乾麵包五十枚若クハ麵包六十枚ヲ最下限トシ單ニ一品ヲ給ス
四 閉室 閉室ニ入レ減食シ仍ホ寢具ヲ禁ス絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食ハ七晝夜以內閉室ハ五晝夜以內トス
第三十二條 減食若クハ閉室ノ罰ニ處ス可キ者アルトキハ司獄官シテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フ可シ其處罰中ハ司獄官シテ每日之ヲ視察セシメ醫官ニ於テ身體ニ妨アルヲ證スルトキハ處罰ヲ中止ス可シ

第三十三條 刑事被告人及拘留ノ刑ヲ受ケタル者獄則ヲ犯シタルトキハ其輕重ヲ量リ第三十一條ニ準據シ減食スルコトヲ得

第三十四條 賞表ヲ有スル者罰ニ處セラレタルトキハ其情狀ニ因リ賞表一箇又ハ數箇ヲ視察スルコトアル可シ

第三十五條 獄則ヲ犯シ罰ニ處セラレシ者改換ノ情著シキトキハ罰期內ト雖モ之ヲ免スルコトヲ得

第三十六條 囚人及刑事被告人司獄官吏ノ處置ニ對シ情著シテ訴ヘントスルトキハ第三條第四條及第五條ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第三十七條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三十八條 艦内ニ於テ囚人及刑事被告人ヲ處置スルハ亦此規則ニ從フ可シ但實際已ムヲ得サル場合ニ於テハ艦船長適宜之ヲ處置スルコトヲ得

●海軍監獄則施行細則(明治二十三年九月)

海軍省令 第十四號

海軍監獄則施行細則左ノ通定ム(二十六年海軍省令第五號ヲ以テ各條中監獄課長ヲ監獄長ニ監護長ヲ看守長ニ監護ヲ看守ト改ム)

第一章 規程

第一條 此規則ニ於テ在監人ト稱スルハ囚人懲治人及刑事被告人ナリ云フ
第二條 新ニ入監スル者アルトキハ監獄長其引致シ來リタル者ニ領收證ヲ交付シ之ヲ入監セシム
入監セシムルトキハ先ツ一小房ニ於テ通身ヲ検査シ了リテ名簿簿ニ要項ヲ詳録シ仍ホ房內揭示ノ事項ヲ説示ス可シ
第三條 各監房內ニハ在監人ノ遵守ス可キ事項ヲ揭示シ傍觀ヲ施シ解シ易カラシム可シ其事項左ノ如シ
一 在監人ハ互ニ和順ヲ主トシ常ニ命令ヲ遵守ス可シ
一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及席間周圍ヲ掃除ス可シ
一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不潔ヲ外ヘ唾ハキ及貯水ヲ濫用ス可ラス
一 房外ニ出タルトキハ他人ト手ヲ交ヘ又ハ濫用ス可ラス
一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ喧嘩聲又ハ濫用ノ起歩ス可ラス但書間ト雖モ放歌喧嘩又ハ高聲ニ誦讀シ及隣房ヘ通聲交談ス可ラス
一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ爭ヒ若クハ賭博類似ノ遊戯ヲナシ或ハ他人ニ

汚辱ヲ被ラシメ狼狽ニ涉ルカ如キ所爲アル可ラス
一 服役中雜談シ及服役セサル時間タリト雖モ部外ノ役場ニ到ル可ラス
一 許可ヲ得シテ物品ヲ授受貸借ス可ラス
一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ其夜ニ拘ハラス直ニ看守所ニ通報ス可シ
一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保シ看病人タル者ハ切實ニ之ヲ看護ス可シ
一 刑ノ執行若クハ監獄ノ檢束ヲ免ルル爲メ故ラニ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ又ハ其他ノ所爲アル可ラス(二十六年海軍省令第五號ヲ以テ追加)

第四條 領置ノ貨物ハ其名數ヲ簿冊ニ記載シ監獄長之ニ印シス可シ
領置ノ貨物ハ本人釋放又ハ假出獄ノ時之ヲ下付ス可シ
第五條 領置物品中保存ニ堪ヘ難キモノハ本人ヘ告知ノ上之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得
第六條 入監中外人ヨリ送入タル貨物ニシテ領置スルモノ亦第四條第五條ノ例ニ依ル
第七條 總テ監房ニ入ルル物品ハ監獄長之ヲ點檢シ危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁ス可シ
第八條 入監後出房セシメタル者ニ對シテハ還房ノ際通身ノ検査ヲ爲ス可シ
第九條 通身ノ検査ハ一人宛之ヲ爲シ他人ナシテ見セシム可ラス但書場等ヨリ一時多人數ヲ還房セシムル場合ハ此限ニアラス
第十條 監獄長看守長ハ日夜不時ニ監獄ノ内外ヲ巡視ス可シ但シ看守長ノ巡視ハ一晝夜三回以上タル可シ

第十一條 監獄長ハ看守ヲシテ受持場ヲ定メ晝夜絶ヘス之ヲ巡警セシム可シ
第十二條 看守長ハ毎日在監人ノ員數ヲ點檢シ毎日一回以上監房ヲ検査ス可シ
第十三條 囚人懲治人ノ放免期日ハ入監後直ニ監獄長之ヲ調査シ名簿簿ニ記入ス可シ
第十四條 囚人懲治人ヲ釋放スルトキハ監獄長名簿簿ニ照シテ其氏名等ヲ開封シ釋放スル旨ヲ言渡ス可シ刑事被告人ヲ放免若クハ貸付スルトキ亦同シ
第十五條 刑事被告人中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲スルコトヲ得サラシメ軍法會議又ハ他監ニ引致スルトキ亦同行セシムルコトヲ得ス
第十六條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ宣告書其他必要ノ文書及領置ノ貨物ヲ具シテ送致ス可シ
第十七條 准士官以上ノ軍人若クハ同僚ノ軍屬ヲ押送スルトキハ成ル可ク人目ニ觸レサラシム可シ
第十八條 婦女ヲ押送スルトキハ男子ト別異ス可シ
第十九條 特赦假出獄ノ申渡ハ其裁可又ハ許可ノ監獄長ニ送シタルトキヨリ二十四時内ニ之ヲ爲ス可シ(二十六年海軍省令第五號ヲ以テ本條第一項第二項中改正削除)
特赦假出獄ノ申渡ヲ爲シタルトキハ之ヲ領守府司令長官ニ申報シ領守府司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ申報ス可シ
第十九條 假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者下士以下ナルトキハ監獄長其證據ヲ與ヘ本人ヲ其所屬長ニ送致ス可シ
第二十條 假出獄ヲ許サンタル者軍罪輕罪ヲ犯シ

刑ノ首渡ヲ受ケタルトキハ監獄長假出獄ノ停止ヲ首渡シ其旨ヲ領守府司令長官及犯人ノ所屬長ニ申報ス可シ
第二十一條 死刑ノ受刑者自衣著用ノ備之ヲ執行スルコトヲ得
第二十二條 監房ハ看守長ノ立會アルニアラサルハ開扉スルコトヲ得但シ在監人ナキトキハ此限ニアラス
第二十三條 囚人懲治人ノ監房ニハ疊ヲ敷クコトヲ得但シ但病室拘留囚及十日以下ノ禁錮囚ノ監房ハ此限ニアラス
第二十四條 監房常置ノ器具左ノ如シ
一 貯水器(木製) 一 飲器(木製)
一 唾壺(木製或ハ竹製) 一 便器(木製但監房ニ圓圍アルモノハ此器ヲ用ヒス)
一 洗手盥(木製) 一 小桶
一 小箒(草ノ種類ヲ用テ製作セシ軟ナルモノ) 一 雜巾
第二十五條 在監人ニハ蒲蓆枕蓆(或ハ合羽)笠手巾襪(丈三尺)ヲ貸與シ鞋若クハ草履(用紙ヲ給與スルコトヲ得)
第二十六條 監房ハ暗ニ空氣ヲ流通セシメ窓モ光線ヲ通セサラシムルヲ要ス
第二十七條 接見室ハ監舎ノ首部ニ置ク可シ
第二十八條 各監房ノ鑰匙ハ彼此適川スヘキ爲メ其製式ヲ同クス可シ
第二十九條 監房ノ鑰匙ハ常ニ一定ノ場所ニ置キ看守長之ヲ看守ス可シ
第三十條 看守所ニハ隔室ヨリ鐵線ノ類ヲ通架シ置キ發病等ヲ報スルノ用ニ供ス可シ
第三十一條 監獄ニハ防火具ヲ備ヘ置ク可シ

第三十二條 燈火ハ監房外ニ置キ在監人之ニ觸ルルノ虞ナカラシム可シ
第二章 役法
第三十三條 定役ニ服ス可キ入監人アルトキハ監獄長醫官ヲシテ其身體ヲ診視セシメ其體力ノ強弱ヲ分チ之ヲ課ス可シ
其役業ハ無興味無生産ナルモノ又ハ兵役若クハ軍用ニ適切ナルモノノ内ヲ撰ム可シ
轉禁錮ノ囚服役セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス可シ
第三十四條 毎日囚人ニシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長看守點檢ヲ爲ス可シ還房セシムルトキ亦同シ
第三十五條 起床還房就役後職役就就其他動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム可シ
第三章 衛生及死亡
第三十六條 監獄ハ常ニ清潔シ不潔ナラシメサルヲ要ス
監獄内ノ周圍並ニ便器ハ度數ヲ定メテ掃除シ常ニ清潔ナラシム可シ
第三十七條 病者ノ居室身體交類器具等ハ特ニ清潔ニ爲ス可シ
第三十八條 刑事被告人及懲治人拘留囚ハ毎日一時間以內轉禁錮囚ハ毎日三時間以內監房外ニ於テ運動ヲ許ス(二十六年海軍省令第五號ヲ以テ改正)

第三十九條 衣類履具雜具其他ノ物品ハ種實ニ由リ時時熱湯ヲ用ヒテ之ヲ洗ヒ又ハ大氣ニ晒シ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗ス可ラス
第四十條 刑事被告人ハ湯浴トシ其度數ハ六月ヨリ九月マテ三日毎ニ一次十月ヨリ五月マテ七日毎ニ一次ト定ム(二十六年海軍省令第五號ヲ以テ改正)
囚人懲治人ハ水浴トシ其度數ハ監獄長適宜之ヲ定ム
刑事被告人囚人懲治人ノ鬚髮ハ不潔ナラサル様之ヲ梳理セシム
醫官ノ中立ニ依リ臨時入浴若クハ鬚髮ヲ梳理セシムルハ前三項ノ例ニアラス
婦女ノ頭髮ハ香油類ヲ用ヒ及裝飾スルコトヲ得ス
第四十一條 刑事被告人ノ親屬故舊ヨリ淋瀝ノ爲メ其衣類ノ下付ヲ請フトキハ本人ノ承諾ヲ得テ監獄長之ヲ許可スルコトアル可シ
第四十二條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ慎重ニス可シ若シ在監人中傳染病者アルトキハ可成隔離ノ室ニ移シ其消毒ヲ嚴ニシ速ニ病性及感染ノ狀勢ヲ詳悉シ領守府司令長官ニ申報シ領守府司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ申報シ且其旨ヲ市町村長及警察署ニ通知ス可シ(二十六年海軍省令第五號改正ニ依ル)
第四十三條 傳染病流行ノ際ハ飲食物ノ送入ヲ停止スルコトヲ得
第四十四條 傳染病流行地ヲ發シ若クハ其地方ヲ經過シタル者新ニ入監スルトキハ一週日以上他ノ者ト隔離シ其携有スル物品ハ消毒ヲ行フ可シ
第四十五條 軍法會議中ノ在監人死亡シタルトキハ之ヲ主理ニ申報ス可シ
第四十六條 軍人軍屬ノ死亡シタルトキハ海軍監獄則第二十八條ニ從ヒ海軍規定ノ常例ニ依リテ處分ス可シ
第四十七條 軍人軍屬ニ非サル在監人死亡シタル

飼養術營業取締方	二九
第四章 藥業並藥品	
第一款 藥品營業並藥品取扱	三〇
第二款 藥劑師	三一
藥劑師試験規則	三一
藥劑師試験受験人心得	三二
藥劑師學識試験合格者ニ合格者	三三
認許交付ノ件	三三
藥劑師廢業、死亡報告ノ件	三三
醫藥業取締師名簿編成並加除訂正	三三
規程	三三
第三款 毒藥劇藥	三七
毒藥劇藥品目	三七
石炭酸等傳染病流行ノ際販賣方	三九
毒石類調合ノ際取廻取藥ノ販賣	三九
禁止	四〇
煉製取廻ノ販賣禁止	四〇
給具染料販賣ノ件	四〇
第四款 藥品検査	四〇
醫藥道用ノ藥品検査印紙貼用ノ	四〇
件	四〇
衛生試験所ノ保證、試驗済ノ文	四〇
字記入ニ關スル件	四〇
醫藥用藥品ノ検査證明ヲ業務ト	四〇
スル者取締ノ件	四〇
衛生試験所手数料ニ關スル規定	四〇
第五款 藥局方	四一
日本藥局方	四一
日本藥局方追加	四一
醫藥名稱改稱	四一
第六款 巡視	四九
藥品巡視規則	四九
藥品監視員巡視費用、證書ノ件	四九
第五章 阿片並痘苗、血清	
第一款 阿片	五〇
阿片法	五〇
阿片法施行規則	五〇
阿片賣下代價納付方	五〇
阿片ノ莫兒比混含量及其賠償金	五〇
額、阿片賣下價格	五〇
第二款 痘苗、血清	五一
痘苗賣下規則	五一
血清藥院血清賣下規則	五一
血清、痘苗代價納付方	五一
第六章 賣藥	
賣藥規則	五二
賣藥規則施行期限	五二
賣藥營業免許期限廢止ノ件	五二
賣藥規則取扱手續書及書式	五二
明治十一年內務省乙達第七十號	五二
明治十四年內務省乙達第二十五	五二
號	五二
明治二十一年內務省訓令第十三	五二
號	五二
賣藥附賣札、行商鑑札製作費支	五二
辨方	五二
賣藥行商鑑札紙製トスルヲ得ル	五二
件	五二
第七章 飲食物取締	
飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル	五三
件	五三
飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル	五三
法律施行ニ關スル件	五三
飲食物用具取締規則	五三
人工甘味質取締規則	五三
清涼飲料水營業取締規則	五三
清涼飲料水營業取締規則自害性著	五三
色料取締規則飲食物及布巾中砒	五三
素及錫ノ試驗方法	五三
水雪營業取締規則	五三
牛乳營業取締規則	五三
牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥處方	五三
ニ關スル件	五三
牛乳ノ比重及脂肪量ノ檢定方法	五三
有害性著色料取締規則	五三
屠牛場並牛肉賣買取締方	五三
飲食物ノ中毒藥物ノ誤用等ニテ死	五三
ヲ致ス者通報方	五三
第八章 汚物掃除	
汚物掃除法	五三
汚物掃除法施行規則	五三
掃除監視員ノ組織規程	五三
掃除監視員制服	五三
第九章 雜則	
未成年者喫煙禁止法	五三
如故消毒檢査方施設	五三
貸座敷如故増殖禁止及消毒檢査方	五三
施設	五三
如故消毒檢査方法	五三
牛豚類糞採取方	五三

第十章 獸畜衛生

牛豚類糞採取取締方	三四
獸畜獸田園培養ノ爲メ賣買ノ件	三四
第一款 獸疫	
獸疫預防法	三四
獸疫預防法施行細則	三四
獸疫豫防心得	三四
臨時加入獸醫手当支給ノ件	三四
牛疫檢疫規則	三四
獸疫及畜牛結核病預防ニ關スル	三四
費用負擔區分ノ件	三四
馬ノ假性皮疽預防ノ件	三四
畜牛結核病預防法	三四
畜牛結核病檢査證書規則	三四
輸入畜牛結核病檢査規則	三四
第二款 獸醫	
獸醫免許規則	三四
獸醫免許試験規則	三四
獸醫假免許手續	三四
獸醫斷續工、各免許規則ニ依リ	三四
學則認可請求規程	三四
獸醫免許及試験願書ノ件	三四
獸醫轉居届出ノ件	三四
獸醫及斷續工免狀廢棄報告ノ件	三四

第十七編 衛生

第一章 傳染病

第一款 傳染病豫防

●傳染病豫防法 (明治三十年三月)

朕帝國議會ノ議案ヲ經テ傳染病豫防法ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

傳染病豫防法

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ炭疽
熱、赤痢、腸炎、霍亂、癩疹、癩、猩紅
熱、實布痘、梅毒、格魯布(含ム)及(ハ)スト(ト)チ
ヲ指ス

前項ニ掲ケル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法
ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣
之ヲ指定ス

第二條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地
方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ此ノ法律ノ
全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ
檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ
且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村
長、區長、局長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出
ヘシ其ノ豫防ノ場合亦同シ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者
アリタル室ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ
受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、
區長、局長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘ
シ

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リ

第五條 傳染病患者アリタル室ニ於テハ醫師又ハ
當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒方法及消毒方法ヲ行
ヘシ

第六條 消毒方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定
ム

第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏
員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラ
シムヘシ

第八條 傳染病患者及死體ハ當該吏員ノ認可
ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スルコトヲ得ス

第九條 傳染病患者及死體ハ當該吏員ノ認可
ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スルコトヲ得ス

第十條 傳染病ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件
ハ當該吏員ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ使用、投
與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充
分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋
葬スヘカラス

第十二條 傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員
ノ認可ヲ經テ二十四時間内ニ埋葬スルコトヲ得

第十三條 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所
轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラ

第十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該
吏員ハ其ノ市山ヲ閉止、首長又ハ管理人ニ告知
シ家宅、船艙其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但
シ當該吏員タルノ證明ヲ示スヘシ

第十五條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ
市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第六十一條
町制第六十五條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ
檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議
決ニ依リ之ヲ限ラシム

第十六條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村
内ノ消毒方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫
防上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具、藥品其ノ他
ノ物件ヲ設備スヘシ

第十七條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病
院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ

第十八條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ
地方長官ハ檢疫委員キ置キ檢疫豫防ニ關スル事
務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車ノ檢疫ヲ行ハシ
ムルコトヲ得

第十七編 衛生 第一章 傳染病 第一款 傳染病豫防



第十七類 衛生

第一章 傳染病

第一款 傳染病豫防

●傳染病豫防法 (明治三十年三月法律第三十六號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル傳染病豫防法ヲ幾可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

傳染病豫防法

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列
刺、赤痢、腸壁扶私、痘疹、發疹瘰癧、猩紅
熱、實布埜利亞(格魯布ナ含ム)及「バスト」ヲ
謂フ

前項ニ掲グル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法
ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣
之ヲ指定ス

第二條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地
方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ此ノ法律ノ
全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ
檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ
且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村
長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出
ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者
アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ
受ク又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、
區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘ
シ

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リ

テハ戶主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ
學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務
所、貸席、興行場其ノ他集合ノ場所ニ在リテハ
其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條 傳染病患者アリタル家ニ於テハ醫師又ハ
當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行
ヘシ

第六條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ其
ノ近隣ノ家又ハ患者ト交通ヲ爲シタル家ニモ清
潔方法及消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第七條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定
ム

第八條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏
員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラ
シムヘシ

第九條 健康者ノ隔離ヲ必要ト認ムルトキハ隔離所ニ入
ラシムルコトヲ得

第十條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定
ノ日時間傳染病患者アリタル家及其ノ近隣ノ家
ノ交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第十一條 傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可
ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス

第十二條 傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件
ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授
與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十三條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充
分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋
葬スヘカラス

第十四條 傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員
ノ認可ヲ經テ二十四時間内ニ埋葬スルコトヲ得

第十五條 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所
轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラ
ズ

第十六條 傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ
經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但
シ公共ノ工事ノ爲必要アル場合ニ於テ所轄警察
官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 死體ヲ既ニ埋葬シ若ハ埋葬セムトスル
場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該
吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分
ヲ爲サシムコトヲ得

第十八條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該
吏員ハ其ノ事由ヲ戶主、首長又ハ管理人ニ告知
シ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但
シ當該吏員タルノ證據ヲ示スヘシ

第十九條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ
市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第六十一條
町村制第六十五條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ
檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議
決ニ依ルノ限ニ在ラズ

第二十條 豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出ツ
ル者ハ市町村長之ヲ選任ス

第二十一條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村
内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫
防上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具、藥品其ノ他
ノ物件ヲ設備スヘシ

第二十二條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病
院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ

第二十三條 傳染病院、隔離病舎、隔離所ノ設備
及管理ノ方法ハ地方長官之ニ定ム

第二十四條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ
地方長官ハ檢疫委員キ置キ檢疫豫防ニ關スル事
務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車ノ檢疫ヲ行ハシ
ムルコトヲ得

第十七類 衛生 第一章 傳染病 第一款 傳染病豫防

船汽汽車ノ検査ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船汽若
ハ其ノ船汽ノ乗客乗組人ニシテ病毒感染ノ
疑アル者ヲ必要ノ日時間留置シ及無償ニテ當該
吏員又ハ醫師ヲ船汽汽車中ニ乗込マシムルコト
ヲ得
船汽汽車ノ検査ニ於テ發見シタル患者ハ其ノ地
市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セ
シムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之
ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ノ力爲テ必要ナル費用
ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得
前各項ノ外検査委員ノ設置及船汽汽車ノ検査ニ
關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十九條 地方長官ハ傳染病預防上必要ト認ムル
トキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコト
ヲ得
一 傳染病患者ノ有無ヲ検査セシムルコト
二 市街村落ノ全部又ハ一部ノ交通ヲ遮斷スル
コト
三 祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集
スルコトヲ制限シ若ハ禁止スルコト
四 古著、襪、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル
物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件
ヲ廢棄スルコト
五 傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販
賣、授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト
六 船舶ニ醫師ノ雇入ヲ命ジ又ハ汽船船舶若ハ
多數人民ノ集合スル場所ニ預防上必要ノ設備
ヲ爲サシムルコト
七 清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命ジ及井戸、
上水、下水、溝渠、芥溜、厠所ノ新設改築變
更若ハ廢止ヲ命ジ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト

八 一定ノ場所ノ漁撈、游泳又ハ其ノ水ノ使用
ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スルコト
第二十條 諸官廳、集治監及官立ノ學校、病院、
製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキ
ハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ
預防方法ヲ施行スヘシ
陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若ハ
發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此ノ法律ニ準シ
各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テ
ハ地方長官ト協議シ預防方法ヲ施行スヘシ
第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス
一 預防委員ニ關スル諸費
二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法
及種痘ニ關スル諸費
三 預防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員並
預防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關
スル諸費
四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關
スル諸費
五 預防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、
療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、弔祭料
六 第八條ニ依リル交通遮斷ニ關スル諸費及交
通遮斷ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサ
ル者ノ生活費
七 市町村內ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並
死者ニ關スル諸費
其ノ他市町村ニ於テ施行スル預防事務ニ關スル
諸費
第二十二條 左ノ諸費ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔
トス
一 検査委員ニ關スル諸費
二 船舶又ハ汽汽車ノ検査ニ關スル諸費

三 第十九條第二ニ依リル交通遮斷ニ關スル諸
費及交通遮斷ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費
其ノ他府縣ニ於テ施行シレ預防事務ニ關スル
諸費
第二十三條 地方長官ハ衛生ヲ設ケ清潔方法
消毒方法其ノ他傳染病ノ預防救治ニ關シ規約ヲ
定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得
市町村ハ其ノ市町村內ノ衛生組合ニ於テ傳染病
預防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補
助スルコトヲ得
第二十四條 第二十一條第二十三條第二項ノ支出
ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ府縣稅又ハ地方稅
ヨリ市町村ニ補助スヘシ
第二十五條 國庫ハ第二十二條第二十四條ノ府縣
稅又ハ地方稅ノ支出ニ對シ其ノ六分ノ一ヲ補助
スルモノトス
第二十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發ス
ル命令ニ依リ清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキ
職務者ニ於テ充分ナラズ又ハ之ヲ施行スルモ當該吏
員ニ於テ充分ナラズト認ムルトキ及必要ノ時限
內ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ
行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此
ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追
徴スルコトヲ得
私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セ
サルトキハ國稅滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之
ヲ徵收ス
第二十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發ス
ル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施爲スヘキ
事項ヲ施爲セズ若ハ之ヲ施爲スルモ充分ナラズ
ト認ムルトキ又ハ必要ノ時限內ニ施爲シ得スト
認ムルトキハ地方長官ハ府縣稅又ハ地方稅ヲ以

テ之ヲ施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追
徴スルコトヲ得
私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セ
サルトキハ國稅滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之
ヲ徵收ス
第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ費用追徴
ニ關シ不服アル私人ハ既述法ニ依リ訴願スルコ
トヲ得
第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發ス
ル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ
指定ノ期限内ニ履行セサル者ハ五圓以下ノ罰金
又ハ科料ニ處ス
第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體
ヲ検査シタル後十二時間以內ニ届出ヲ爲サズ又
ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十
圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十一條 第四條第五條第一項第九條第十條第
十一條第一項第十二條ニ違背シタル者第五條第
二項ニ依リ清潔方法及消毒方法ヲ施行セサル者
交通遮斷ヲ犯シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三
條ノ届出ヲ爲サズ若ハ其ノ届出ヲ妨ケタル
者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
附則
第三十二條 此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ
得ヘキモノヲ除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル
事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用
シ得ヘキモノヲ除ク外市町村制ヲ施行セサル
地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第三十三條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シ
施行スル検査ハ別ニ定ムル所ニ依ル
第三十四條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規

程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ
施行ス但シ第二十四條及第二十五條ハ明治三十
一年四月一日ヨリ施行ス
第三十六條 明治三十年布告第三十四號傳染病豫
防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス
●傳染病豫防法施行規則
(明治三十年五月
內務省令第十一號)
傳染病豫防法施行規則左ノ通定ム
第一條 警視廳府縣知事ハ其ノ管內ニ傳染病流
行ノ兆アリト認ムルトキ及傳染病豫防法第一條
ニ掲グル八病ノ外同法ニ依リ預防方法ヲ施行シ
必要ト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀
ヲ記シテ速ニ內務大臣ニ申報スヘシ但前段ノ場
合ニ於テハ隣接シテ船舶汽汽車交通ノ地ノ警視
廳府縣廳長警務及最寄港灣ニ碇泊ノ軍艦等ニ
通報スヘシ
第二條 市町村長區長(沖繩縣ノ區長以下之ニ依
フ)戶長(戶長ニ準スヘキ者ヲ含ム以下之ニ依
フ)又ハ預防委員ニ於テ傳染病豫防法第三條ノ
届出ヲ受ケタルトキハ五ニ通報シ且警察官吏ニ
通報スヘシ但市町村長又ハ戶長ニ於テ届出又ハ通
報ヲ受ケタルトキハ郡役所島廳ニ報告シ郡長市
長島長又ハ區長ハ府縣廳ニ報告スヘシ
市町村長區長戶長又ハ預防委員ニ於テ傳染病豫
防法第四條ノ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ直
ニ醫師ヲシテ診斷セシメ傳染病ナルトキハ前項
ノ手續ヲ爲スヘシ
第三條 警察官吏又ハ検査委員傳染病豫防法第三
條又ハ第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病アルコト

ヲ知リタルトキハ市町村長區長戶長又ハ預防委
員ニ通報スヘシ但警察官吏又ハ分署長ヨリ府縣
廳(東京府ハ警視廳)ニ報告スヘシ
前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシ
テ診斷セシムルコトヲ得
第四條 市町村長區長戶長又ハ預防委員第二條ニ
依リ傳染病ノ届出又ハ通報ヲ受ケ又ハ傳染病ア
ルコトヲ知リタルトキハ直ニ其ノ家ニ臨ミ清潔
方法消毒方法ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生
官吏郡吏員島廳吏員又ハ検査委員ハ市町村長區
長戶長又ハ預防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事
スヘシ
第五條 市町村長區長戶長又ハ預防委員ハ預防上
必要ト認ムルトキハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ
隔離病舎ニ入ラシメ健康者ヲ隔離所ニ入ラシム
ヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢
疫委員ハ市町村長區長戶長又ハ預防委員ヲ指示
シテ其ノ事務ニ從事スヘシ
第六條 警察官吏又ハ検査委員ハ傳染病豫防法第
八條又ハ第十九條第二ニ依リ左ノ日時間交通ヲ
遮斷スルコトヲ得但第十九條第二ニ依リ交通ヲ
遮斷スルハ特ニ府縣知事(東京府ハ警視廳長)
ノ命令アル場合ニ限ル
庚列刺
赤痢
患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若ハ入會
セシメ又ハ患者ヲ治療若ハ死亡シタル後消毒
方法ヲ施行ナリタル時ヨリ起算シ滿五日間
發疹察扶私
「ハスト」
患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若ハ入會セ
シメ又ハ患者ヲ治療若ハ死亡シタル後消毒方法

凡三寸

木札
又ハ一
厚紙
官廳公署印

ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ滿十日間但傳染病預防法第十九條第二ノ場合ニ於テハ尙十日以内繼續スルコトヲ得(三十二年內務省令第五十五號ヲ以テ改正)

第十條 府縣知事(東京府ハ警視總監)ハ市町村ノ醫師ヲシテ傳染病預防法第十九條第一ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得

第七條 左ノ場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏市町村長區長戸長檢査委員又ハ豫防委員ノ認可ヲ受ケヘシ但第一ノ場合ニ於テハ認可ヲ爲シタル吏員ヨリ患者又ハ死體ヲ移スヘキ地ノ吏員ニ通報スヘシ

第十一條 府縣知事(東京府ハ警視總監)傳染病預防法第十九條第七ニ依リ清潔方法消毒方法等ノ施行ヲ命ジタルトキハ第四條ノ規程ヲ準用ス

第八條 傳染病預防法第九條第十條及第十一條第一項ノ場合ニ於テハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ充分消毒方法ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢査委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第十二條 市町村立ノ傳染病院隔離病舎又ハ隔離所ニ於テハ食費藥費ヲ徵收スルコトヲ得其ノ金額ハ市ニ在テハ府縣知事市町村ニ在テハ郡長ノ認可ヲ受ケヘシ

東京市京都市大阪市ニ於テハ傳染病預防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ市長ニ屬スル職務ハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得
第十六條 傳染病預防法又ハ此ノ規則ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ沖繩縣知事之ヲ定ム
第十七條 傳染病預防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ必要ナル細目ハ警視總監府縣知事之ヲ定ム
島地ニ關シ此ノ規則ノ規程ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ警視總監府縣知事ハ別段ノ規程ヲ設ケルコトヲ得
○拓殖務省令 明治三十年 傳染病預防法施行細則(本年五月)內務省令第十一號ヲ適用スヘシ
●傳染病預防法ニ據ル清潔
方法、消毒方法(明治三十年五月)
傳染病預防法第六條ニ依リ清潔方法消毒方法左ノ通定ム
第一章 清潔方法
第一條 清潔方法ノ要項左ノ如シ
一 傳染病患者アリタル家ニ於テハ殊ニ患者ノ居室其ノ他病室汚染ノ疑アル場所ニ注意シ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後掃除ヲ行ヒ其ノ塵芥ハ之ヲ焼却スヘシ
二 家庭掃除ノ際床下ノ塵芥其ノ他ノ不潔物ハ之ヲ取除ク燒却スヘシ
三 傳染病患者アリタル家ノ井戸流、糞所流、便所又ハ芥溜ノ掃除ヲ要スルトキハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ行フヘシ但必要ノ場合ニハ修理改造及井戸後ヲ爲スヘシ
四 傳染病預防法第五條第二項ノ場合ニ於テハ

前各號ヲ準用スヘシ
第二條 傳染病流行ニ際シ糞尿ヲ攪拌スルハ却テ病蔓延ノ媒介ヲ爲スノ虞ナシトセシ必要ノ場合ニハ消毒藥(生石灰末若クハ石灰)ヲ投シタル後清潔スヘシ
第三條 傳染病ノ流行前又ハ流行後ニ於テ清潔方法ヲ行ヒ家宅ノ掃除溝渠ノ清潔ヲ爲ス場合ニ於テハ溢リニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス
第四條 糞尿ヲ浚ヘタル汚泥塵芥ハ直ニ一定ノ距離器ニ入レ健康上有害ナラサル様一定ノ場所ニ棄ツヘシ汚泥ヲ踏踏ニ散逸セシメ又ハ之ヲ堆積スヘカラス
第二章 消毒方法
第五條 消毒方法ハ左ノ四種トス
一 燒却
二 蒸氣消毒
三 煮沸消毒
四 藥物消毒
第六條 燒却ニ適スルモノハ左ノ如シ
一 傳染病患者若クハ死體ニ用ヒタル被服、臥具、布片、便器其ノ他ノ器具等ニシテ甚シク病毒ニ汚染シ消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキモノ
二 傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他ノ排泄物等
第七條 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
一 衣服、臥具、布片等細テ絹布、綿布、麻布、毛織物類
二 硝子器、陶器、磁器其ノ他鋼鐵若クハ木製品類等ニシテ汽熱ニ堪フルモノ
第八條 蒸氣消毒ヲ施行スルトキハ左ノ各項ニ注意スルヲ要ス
一 革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、膠膜

製品、漆膜製品、糊製品、膠製品、毛皮、象牙、齒、角ノ類ハ物品ヲ損スルヲ以テ蒸氣消毒ヲ避クヘシ
二 被服類ニ蒸氣消毒ヲ施スニハ豫メ袖中又ハ衣裏中ヲ檢査シ若シ彈丸、火藥等爆發又ハ發火ノ易キ物品アルトキハ之ヲ取出スヘシ又消毒中他物ニ染色ノ恐アルモノ等ハ蒸氣消毒ヲ避クヘシ
三 蒸氣消毒ハ流通蒸氣ヲ用ヒ成ルヘク消毒器中ノ空氣ヲ驅逐シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ曝シムヘシ
第九條 煮沸消毒ニ適スルモノハ蒸氣消毒ニ適スルモノニ同シ
第十條 藥物消毒ニ供スル藥劑其ノ用法ハ左ノ如シ
一 石炭酸水(二十倍)(結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水九十四分)
石炭酸水ヲ製スルニハ石炭酸五分ニ凡水一分ヲ加ヘ攪拌又ハ攪盪シツツ徐々ニ定量ノ水ヲ注キ後鹽酸一分ヲ加フヘシ温湯ヲ用フルハ其ノ溶解速ニ速カナリトス但使用ノ際ハ毎回攪盪スルヲ要ス
石炭酸水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス但使用ノ際ハ左ノ諸件ニ注意スヘシ
一 吐瀉物其ノ他排泄物ニハ同容量ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ
二 器具室内等ヲ消毒スルニハ攪拭又ハ撒布スヘシ
三 手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗滌スヘシ
四 衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘタルモ

ノチ用ヒ十二時間以上浸漬シ其ノ後淨水ヲ以テ更ニ洗滌スヘシ
昇水水(千倍)(昇水一分、鹽酸十分、水九百八十九分)
昇水水ヲ製スルニハ昇水ヲ定量ノ水ニ溶解シ後鹽酸ヲ加フヘシ
昇水水ハ猛毒ニシテ無臭無臭ナルカ爲メ危險ヲ避キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際充分ニ注意ヲ加ヘ又其ノ危險ヲ防カシ爲メ凡十萬分一ノ「プロキシ」ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス但金屬製ノ器ニ貯藏スヘカラス
昇水水ハ陶器、硝子器又ハ木製器具ノ消毒ニ用フヘシ飲食器、玩具、敷物ノ消毒飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒及金屬製品、糞尿、吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス
三 生石灰(少量)水ヲ澆ケハ熱ヲ發シテ腐壞スルモノ)
生石灰末(生石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ)
生石灰末ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ吐瀉物其ノ他ノ排泄物、糞尿、芥溜床下等ノ消毒ニ用フヘシ吐瀉物其ノ他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ少クモ其ノ容量五十分一ヲ投シ能ク攪拌スヘシ溝渠、芥溜ニ對スル量ハ之ニ準シ床下ニ在テハ其ノ全面ニ撒布スヘシ
石灰乳(十倍)(生石灰一分、水九分)
石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ニ九分ノ水ヲ徐々ニ加ヘ能ク攪拌スヘシ其ノ用置ハ生石灰末ノ五倍トス但石灰乳ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ使用ノ際ニハ毎回攪拌スルヲ要ス
普通石灰ヲ生石灰末石灰乳ニ代用スル場合ニ

ハ倍量ヲ用フヘシ
木灰ハ生石灰石灰等ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ虎列刺病患者ノ吐瀉物赤痢病者腸壁扶私病者ノ排泄物ノ消毒ニ代用スルコトヲ得其ノ用度ハ吐瀉物排泄物ノ五分一トス灰汁トシテ使用スルニハ木灰一分ニ水四分ヲ加ヘ之ヲ煮沸シテ製スヘシ其ノ用度ハ吐瀉物排泄物ノ同容量トス但石炭灰木灰ト同一ノ效ナシトス

四 格魯兒石灰水(二十倍)(格魯兒石灰五分、水九十五分)
格魯兒石灰水ノ應用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スヘシ

第十一條 消毒方法ノ應用ハ左ノ如シ
第一 患者
傳染病患者治癒シタルトキハ全身入浴ヲ行ヒ衣服ヲ更メシムヘシ場合ニ依リテハ温濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代ユルモ妨ケナシ

第二 死體
傳染病ノ死體ヲ棺ニ敷ムルニハ其ノ被服ニ昇承水若クハ石炭酸水ヲ充分ニ撒布シ又ハ昇承水若クハ石炭酸水ニ浸漬シタル布ヲ以テ包ミ又ハ石炭酸水ヲ以テ填シヘシ

第三 看病人、病家ノ家人其ノ他病者ニ觸接シタル者
看病人、病家ノ家人其ノ他消毒方法ノ施行又ハ患者ノ死體、排泄物ノ運搬等ノ爲病者ニ觸接シタル者ハ時々若クハ其ノ都度手足及衣服ヲ消毒シ入浴スヘシ

第四 患者、死體等ノ運搬器
傳染病ノ患者、死體等ヲ運搬シタル駕籠釣臺ノ類ハ使用後毎回昇承水若クハ石炭酸水ヲ以テ拭淨スヘシ

第五 便所、茶溜、溝渠等
傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ノ入りタル便所ノ糞池、肥料溜等ニハ生石灰末、石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ澆キ能ク攪拌スヘシ但便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒シタル後直ニ使用シ難便ハ一週間ノ後肥料ニ供セシムルコトヲ得

第六 衣服器具數物等
傳染病患者ノ著用セル衣類器具其ノ病室ニ在ル諸器具又ハ看病人及患者ニ接シタル家人ノ衣服其ノ他病者汚染ノ虞アルモノハ各物件ノ種類ニ從ヒ消毒方法ヲ施行スヘシ

第七 患者ノ居室
石炭酸水若クハ昇承水ヲ以テ室内各部ヲ拭淨スヘシ消毒後ハ日光ヲ射入空氣ノ流通ヲ其クシ乾燥セシムルヲ要ス

第八 汽車
傳染病患者若クハ死體アリタル汽車内ノ消毒ハ第七條ニ準スヘシ傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ニ對シテハ消毒藥ヲ澆シ適宜處置スヘシ

第九 船舶
傳染病患者若クハ死體アリタル船室内ノ消毒ハ第七條ニ準スヘシ其ノ他ノ場所ニ對シテハ消毒藥ノ撒布拭拭等適宜處置スヘシ

○拓殖務省令明治三十年五月 傳染病預防法第六條ニ依リ清潔方法及消毒方法ハ本年(五月)內務省令第十三號ヲ適用スヘシ

排泄物ニ對シテハ消毒藥ヲ澆シ適宜處置スヘシ
車室ニ附屬スル便所ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

第九 船舶
傳染病患者若クハ死體アリタル船室内ノ消毒ハ第七條ニ準スヘシ其ノ他ノ場所ニ對シテハ消毒藥ノ撒布拭拭等適宜處置スヘシ

○拓殖務省令明治三十年五月 傳染病預防法第六條ニ依リ清潔方法及消毒方法ハ本年(五月)內務省令第十三號ヲ適用スヘシ

●傳染病預防法第二十四條
補助ニ關スル件
(明治三十年七月) 內務省令第十八號

傳染病預防法第二十四條補助ニ關スル件左ノ通定ム
府縣知事ハ傳染病預防法第二十四條ニ依リ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ對シテ補助ニ關シ左ノ各項ニ依リ規程ヲ定メ內務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

一 傳染病預防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出總額ニ對シテ府縣稅又ハ地方稅ヨリ各市町村ニ補助スル歩合ハ精算額ノ六分ノ一以上二分ノ一以下トス但シ支出ニ伴フ收入又ハ補助金等附金等アルトキハ支出總額ヨリ之ヲ控除シタル額ニ對シ本項ノ歩合ヲ定ムルコトヲ得(三十四年內務省令第七號ヲ以テ本令中改正)

二 傳染病預防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出中特ニ費途ヲ指定シテ別段ノ補助歩合ヲ定ム

定メ又ハ指定シタル費途ニ限リ補助ヲ爲シ又ハ市町村ノ負擔ニ應ジテ別段ノ補助歩合ヲ定ムルコトヲ得但本項ニ依リ算出シタル補助ノ金額前項六分ノ一ヲ下ルトキハ六分ノ一ニ増額シ二分ノ一ヲ下ルトキハ二分ノ一ニ減額スヘシ

三 市町村ノ支出額其ノ負擔二項ヘスト認ムルトキ其ノ他特別ノ事由アルトキハ二分ノ一以上全部額ヲ補助スルコトヲ得

四 補助ノ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得但金額ニ換算スヘシ

五 市町村ヨリ申請セル支出精算額過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其査定額ニ對シテ補助スルコトヲ得(三十四年內務省令第七號ヲ以テ追加)

○內務省令明治三十一年三月 傳染病預防法第二十四條ノ補助ニ關スル規程ハ北海道廳ニ在リテハ北海道廳長官沖繩縣ニ在リテハ沖繩縣知事之ヲ定メ內務大臣ノ認可ヲ受ケテ施行スヘシ

●檢疫委員設置規則 (明治三十年六月)

內務省令 第十五號

傳染病預防法第十八條ニ依リ檢疫委員設置規則左ノ通定ム

第一條 檢疫委員ハ府縣知事ノ官吏醫師藥劑師等ニ就キ府縣知事(東京府ハ警視總監以下之ニ依リ)之ヲ命ス

警視總監ハ東京府知事ニ協議シ府ノ官吏ニ檢疫委員ヲ命スルコトヲ得

第二條 檢疫委員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ傳染病預防事務ノ監督府縣ニ於テ施行スル船舶汽車ノ

檢疫其ノ他傳染病預防救治ニ關スル事務ニ從事ス

第三條 檢疫委員ノ設置及廢止ハ之ヲ告示スヘシ

第四條 檢疫委員ノ組織及職務ハ第五條以下ニ準據スヘシ但府縣ノ本廳ニ限リ檢疫委員ヲ置キ又ハ郡市島ニ限リ檢疫委員ヲ置スルモ妨ケナシ

第五條 府縣ノ本廳ニ檢疫委員長一人ヲ設ケ但必要アルトキハ副長一人又ハ數人ヲ置ク

檢疫委員長ハ警視總監(警視廳)警察廳長副長ハ委員中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第六條 府縣知事ハ郡市島ニ檢疫委員事務所ヲ置キ其ノ郡市島内ニ屬スル第二條ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第七條 檢疫委員事務所ニ所長一人及副長一人又ハ數人ヲ置ク

檢疫委員事務所長ハ郡長島司又ハ警察廳長ニ副長ハ委員中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第八條 檢疫委員ノ職務規程ハ府縣知事之ヲ定ム

●傳染病預防委員及檢疫委員設置規程 (明治三十年五月)

傳染病預防委員及檢疫委員設置規程左ノ通定ム

第一條 傳染病預防委員及檢疫委員設置規程

委員設置ノ必要アルトキハ北海道廳長官ノ定ムル所ニ從ヒ區ニ於テハ區會議員及町總代人又ハ區住民中又ハ町村ニ於テハ町村總代人又ハ町村住民中ヨリ區長戶長之ヲ選任ス

前項ノ外醫師ヨリ出ツル預防委員ノ任命モ亦本文ニ準ス

第二條 傳染病預防委員ハ區長戶長ノ指揮ヲ承ケ其區町村ニ於ケル預防救治ニ關スル事務ヲ擔任

第三條 預防委員ノ職務規程ハ區ニ於テハ區長之ヲ定メ北海道廳長官ノ認可ヲ經テ之ヲ施行シ町村ニ於テハ戶長之ヲ定メ郡長ノ認可ヲ經テ之ヲ施行ス

第四條 傳染病預防法第十八條ニ依リ檢疫委員設置ノ必要ヲ認ムルトキハ北海道廳及郡區官吏醫師等ニ就キ北海道廳長官ハ檢疫委員ノ中委員長一人ヲ置キ部下ノ職員ヲ監督シ庶務ヲ整理セシム

第五條 北海道廳長官ハ必要ト認ムルトキハ管内ニ出張所ヲ置キ檢疫委員ヲ派遣シ檢疫事務ヲ分擔セシムルコトヲ得

第六條 北海道廳長官ハ必要ト認ムルトキハ管内ニ出張所ヲ置キ檢疫委員ヲ派遣シ檢疫事務ヲ分擔セシムルコトヲ得

第七條 檢疫委員ハ北海道廳長官ノ命ヲ承ケ傳染病ニ關スル預防救治及汽車船舶ノ檢疫ヲ擔任ス

第八條 檢疫委員ノ職務規程ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第九條 本則ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ北海道廳長官之ヲ定ム

●市町村ニ設置スヘキ避病院設備標準 (明治二十八年四月) 內務省令第四號

市町村ニ設置スヘキ避病院設備標準左ノ通定ム

一 避病院ハ消毒法充分ナルトキハ病室ヲ傳播スルノ虞ナキヲ以テ其建設地ハ力メテ患者運搬ノ便利ヲ圖リ道路險惡交通不便ノ地ヲ避クヘシ

一 重症患者室 若干棟

一 輕症患者室 若干棟

一 快復期患者室 一棟

一 消毒室 若干棟

一 便所 若干棟

一 洗濯場 若干棟

一 貯水場 若干棟

一 消毒室 若干棟

一 便所 若干棟

一 洗濯場 若干棟

一 貯水場 若干棟

一 消毒室 若干棟

ハ有海船船有海汽車若クハ有海室ヲ離レタル日ヨリ起算シテ概テ六日間トス
前項期限ノ日數ハ其病性ニ應シ醫官ニ於テ伸縮スルコトヲ得

第十七條 清潔法ノ要項ハ左ノ如シ

- 一 傳染病者ヲ發シタル室及病室汚染ノ疑アル場所ニ消毒法ヲ施シタル後掃除ヲ行ヒ其塵芥ハ之ヲ燒却スヘシ
- 二 溝渠ノ流利ヲ務メ必要ト認ムルトキハ之ヲ浚渫スヘシ
- 三 疑ハシキ便所又ハ芥溜ハ消毒法ヲ施シタル後掃除セシムヘシ
- 四 右ノ汚泥塵芥類ハ穢テ撰定シアル場所ニ之ヲ棄テ散逸セサランコトヲ務ムヘシ
- 五 必要ノ場合ニハ井戸淺ク爲シ芥溜便所等ノ修理改造ヲ營ムヘシ

第十八條 消毒法ハ左ノ四種トス

- 一 燒却
- 二 蒸氣消毒
- 三 煮沸消毒
- 四 藥物消毒

第十九條 燒却ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 傳染病者若クハ屍骸ニ用ヒタル蒲團ノ裏、病衣ノ綿、布片等廉價ナルモノ又ハ燒却ニ由ルニ非レハ完全ノ消毒時期シ難キモノ
- 二 傳染病者ノ吐瀉物其他ノ排泄物
- 三 被服、寝具、窓掛、敷物等
- 四 硝子器、陶器、磁器其他金屬製品、木製品ノ類ニシテ汽熱ニ堪フルモノ

第二十條 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 被服、寝具、窓掛、敷物等
- 二 硝子器、陶器、磁器其他金屬製品、木製品ノ類ニシテ汽熱ニ堪フルモノ

第二十一條 蒸氣消毒ヲ施行スルニ當リ左ノ各項ニ注意スヘシ

- 一 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 二 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 三 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 四 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 五 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

第二十二條 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 二 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 三 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 四 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 五 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

第二十三條 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 二 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 三 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 四 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 五 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

第二十四條 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 二 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 三 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 四 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 五 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

第二十五條 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 二 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 三 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 四 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 五 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

第二十六條 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 二 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 三 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 四 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 五 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

第二十七條 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 二 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 三 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 四 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ
- 五 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

一 革製品、護脚品、糊附品、膠附品、塗物、毛皮、象牙、鼈甲、角ノ類ハ蒸氣消毒ヲ避ケシ
二 被服中ニ彈丸、火藥、燐寸等燐發又ハ發火シ易キ物品ヲ納レアルトキハ先ツ之ヲ取出シ
三 蒸氣消毒ハ流走蒸氣ヲ用ヒ消毒時間ハ攝氏百度以上ニ達シテヨリ三十分以上トス
四 蒸氣消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ但消毒時間ハ沸騰後三十分以上トス
五 飲食器、襪、敷物、包布、枕、枕皮、蒲團皮、金錢、場合ニ依リテハ外科器械類
六 其他蒸氣消毒ニ適スルモノ

第二十三條 藥物消毒ニ供スル藥劑ハ左ノ四種トス

- 一 石炭酸水(二十倍)(結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水九十四分)
- 二 昇汞水(千倍)昇汞一分、鹽酸十分、水九百八十九分之三少量ノ「フロキシ」ヲ加ヘテ着色ス
- 三 格魯兒石炭水(二十倍)(格魯兒石炭五分、水九十五分)
- 四 石灰乳(十倍)(製石灰一分、水九分)

第二十四條 前條諸藥ノ用法ハ左ノ如シ

- 一 石炭酸水若クハ昇汞水ヲ以テ室内各部ヲ拭淨スヘシ消毒後日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ宜クシ乾燥セシムヘシ
- 二 格魯兒石炭水、石灰乳及製石灰末ハ用ニ臨ミテ新ニ之ヲ製スヘシ
- 三 石灰酸水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス但使用ノ際ハ左ノ諸點ニ注意スヘシ

第二十五條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第二十六條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第二十七條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第二十八條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第二十九條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第三十條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第三十一條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第三十二條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

イ 成ルヘク加温シタルモノヲ用フヘシ
ロ 吐瀉物其他ノ排泄物ニハ同容量ヲ加ヘ蒸キ攪拌スヘシ
ハ 器具、室内等ヲ消毒スルニハ擦拭又ハ撒布スヘシ
ニ 手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ
ホ 外科器械、衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘサルモノヲ用ヒ十二時間以上浸漬シ然後淨水ヲ以テ更ニ洗フヘシ
昇汞水ハ手指、麻板、戸扉、陶器、硝子器及木製器具ノ消毒ニ適シ金屬製品、吐瀉物其他ノ排泄物ノ消毒ニハ適セズ飲食器其他飲食物或飲料水ニ混シ易キ場所及疊、敷物ノ消毒ニハ用フヘカラス

第二十五條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第二十六條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第二十七條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第二十八條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第二十九條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第三十條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第三十一條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第三十二條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第三十三條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸

第三十四條 消毒法ノ應用ハ左ノ如シ

- 一 病者
- 二 屍骸